

令和 8 年度 シラバス 鹿児島県立短期大学

全科目

(2026.4.21 版)



①左のQRコードもしくは
大学ウェブサイトの「在学
生の方へ」のシラバスより
検索サイトへ

②授業番号を入力し、[検
索]をクリック

<https://k-kentan.ac.jp/student/2026syllb/syllbr8.html>

教養（人文・社会・自然・総合）

授業番号	科目名	担当者名
1	文学の世界	小林, ガルシア, 土肥
2	日本の歴史	厩尾 達哉
3	こころの科学	安部 幸志
4	芸術論	北 一浩
5	日本国憲法	田口 康明
6	法学	藤野 博行
7	社会学	中嶋 晋平
8	生活と経済	山口 祐司
9	キャリアデザイン	担当教員
10	数学の世界	愛甲 正
11	物理の世界	藤井 伸平
12	生物の科学	塔筋 弘章
13	化学の世界	古川, 木下
14	食生活と健康	牛山, 中島, 木下, 古川
15	現代人権論	田口, 藤野, 疋田
16	鹿児島学	前田, 島津, 山下, 矢野
17	社会活動	担当教員
18	企業研修	担当教員

教養スポーツ科目

授業番号	科目名	担当者名
79	スポーツ・健康論	浜田 幸史
80	生涯スポーツ実習（A）	浜田 幸史
81	生涯スポーツ実習（B）	浜田 幸史
82	生涯スポーツ実習（C）	浜田 幸史
83	生涯スポーツ実習（D）	浜田 幸史
84	生涯スポーツ実習（E）	浜田 幸史
85	生涯スポーツ実習（E）	小松 友哉
86	生涯スポーツ実習（F）	浜田 幸史
87	生涯スポーツ実習（F）	小松 友哉

教養情報科目

授業番号	科目名	担当者名
88	情報リテラシーⅠ（A）	上野 祐子
89	情報リテラシーⅠ（B）	上野 祐子
90	情報リテラシーⅠ（C）	上野 祐子
91	情報リテラシーⅠ（D）	上野 祐子
92	情報リテラシーⅠ（E）	永仮 ゆかり
93	情報リテラシーⅠ（F）	永仮 ゆかり
94	情報リテラシーⅡ（A）	上野 祐子
95	情報リテラシーⅡ（B）	上野 祐子
96	情報リテラシーⅡ（C）	上野 祐子
97	情報リテラシーⅡ（D）	上野 祐子
98	情報リテラシーⅡ（E）	刈屋 美枝子
99	情報リテラシーⅡ（F）	刈屋 美枝子

教養外国語科目

授業番号	科目名	担当者名
19	英語Ⅰ（A）	小林 朋子
20	英語Ⅰ（A）	松元 貴子
21	英語Ⅰ（B）	新福 豊実
22	英語Ⅰ（B）	新福 豊実
23	英語Ⅰ（C）	新福 豊実
24	英語Ⅰ（C）	小林 朋子
25	英語Ⅰ（D）	金岡 正夫
26	英語Ⅰ（D）	石原 知英
27	英語Ⅰ（D）	石原 知英
28	英語Ⅰ（D）	野田ゆり子
29	英語Ⅱ（A）	バトリック・ゴース
30	英語Ⅱ（A）	ニコライ・ギュレメトフ
31	英語Ⅱ（B）	ジョン・トレマーコ
32	英語Ⅱ（B）	デビッド・マルチネズ
33	英語Ⅱ（C）	ジョン・トレマーコ
34	英語Ⅱ（C）	内尾ホープ
35	英語Ⅱ（D）	グレゴリー・ダン
36	英語Ⅱ（D）	デビッド・マルチネズ
37	英語Ⅱ（D）	グレゴリー・ダン
38	英語Ⅱ（D）	ジョン・トレマーコ
39	英語Ⅲ（A）	デビッド・マルチネズ
40	英語Ⅲ（B）	グレゴリー・ダン
41	英語Ⅲ（C）	金岡 正夫
42	英語Ⅲ（D）	グレゴリー・ダン
43	英語Ⅲ（E）	グレゴリー・ダン
44	英語Ⅲ（F）	新福 豊実
45	英語Ⅲ（G）	デビッド・マルチネズ
46	英語Ⅳ（A）	ジョン・トレマーコ
47	英語Ⅳ（B）	グレゴリー・ダン
48	英語Ⅳ（D）	金岡 正夫
49	英語Ⅳ（E）	野田 ゆり子
50	英語Ⅳ（F）	遠峯 伸一郎
51	異文化コミュニケーション（英語）	英語担当教員全員
52	異文化コミュニケーション（中国語）	中国語担当教員全員
53	スペイン語Ⅰ	ガルシア・アロヨ ホルヘ
54	スペイン語Ⅱ	ガルシア・アロヨ ホルヘ
55	ドイツ語Ⅰ	荒巻 那月
56	ドイツ語Ⅱ	荒巻 那月
57	フランス語Ⅰ（A）	梁川 英俊
58	フランス語Ⅰ（B）	梁川 英俊
59	フランス語Ⅱ（A）	梁川 英俊
60	フランス語Ⅱ（B）	梁川 英俊
61	中国語Ⅰ（A）	楊 虹
62	中国語Ⅰ（B）	中筋 健吉
63	中国語Ⅰ（C）	寺西 光輝
64	中国語Ⅰ（D）	陳 躍
65	中国語Ⅰ（E）	三木 夏華
66	中国語Ⅰ（F）	中筋 健吉
67	中国語Ⅰ（G）	土肥 克己
68	中国語Ⅰ（H）	寺西 光輝
69	中国語Ⅱ（A）	楊 虹
70	中国語Ⅱ（B）	中筋 健吉
71	中国語Ⅱ（C）	孟 卓然
72	中国語Ⅱ（D）	陳 躍
73	中国語Ⅱ（E）	三木 夏華
74	中国語Ⅱ（F）	中筋 健吉
75	中国語Ⅱ（G）	土肥 克己
76	中国語Ⅱ（H）	孟 卓然
77	中国語Ⅲ	楊 虹
78	中国語Ⅳ	土肥 克己

日文専門科目

授業番号	科目名	担当者名
100	日本文学概論	竹本 木戸
101	言語学概論	楊 虹
102	日本語学概論	小亀 拓也
103	日本語教育概論	楊 虹
104	日本語史	小亀 拓也
105	日本文法論	小亀 拓也
106	日本語学講義	小亀 拓也
107	日本語学講読Ⅰ	小亀 拓也
108	日本語学講読Ⅱ	小亀 拓也
109	日本語学演習Ⅰ	小亀 拓也
110	日本語学演習Ⅱ	小亀 拓也
111	日本語学演習Ⅲ	小亀 拓也
112	日本語学演習Ⅳ	楊 虹
113	日本語学演習Ⅴ	楊 虹
114	日本語学演習Ⅵ	楊 虹
115	日本語表現法	小亀 拓也
116	日本語表現法演習	小亀 拓也
117	対照言語学	楊 虹
118	日本文学史・古典Ⅰ	木戸 裕子
119	日本文学史・古典Ⅱ	木戸 裕子
120	日本文学講義Ⅰ	木戸 裕子
121	日本文学講読Ⅰ	木戸 裕子
122	日本文学講読Ⅱ	木戸 裕子
123	日本文学講読Ⅲ	木戸 裕子
124	日本文学演習Ⅰ	木戸 裕子
125	日本文学演習Ⅱ	木戸 裕子
126	日本文学演習Ⅲ	木戸 裕子
127	日本文学講義Ⅱ	竹本 寛秋
128	日本文学講読Ⅳ	丹羽 謙治
129	日本文学講読Ⅴ	丹羽 謙治
130	日本文学講読Ⅵ	竹本 寛秋
131	日本文学講読Ⅶ	竹本 寛秋
132	日本文学演習Ⅳ	竹本 寛秋
133	日本文学演習Ⅴ	竹本 寛秋
134	日本文学演習Ⅵ	竹本 寛秋
135	中国文学史Ⅰ	土肥 克己
136	中国文学史Ⅱ	土肥 克己
137	中国文学講読Ⅰ	土肥 克己
138	中国文学講読Ⅱ	土肥 克己
139	中国文学演習Ⅰ	土肥 克己
140	中国文学演習Ⅱ	土肥 克己
141	中国文学演習Ⅲ	土肥 克己
142	卒業研究Ⅰ	専攻教員全員
143	卒業研究Ⅱ	専攻教員全員
144	米文学史	小林 朋子
145	読書と豊かな人間性	木戸 裕子
146	情報メディアの活用	竹本 寛秋
147	書道Ⅰ	川畑 和明
148	書道Ⅱ	川畑 和明
149	書道Ⅲ	川畑 和明
150	書道Ⅳ	川畑 和明

英文専門科目

授業番号	科目名	担当者名
151	English Skills A	遠峯 伸一郎
152	English Skills B	野田 ゆり子
153	English Skills C	石井 英里子
154	オーラルコミュニケーションⅠ	ガルシア・アロヨ ホルヘ
155	オーラルコミュニケーションⅠ	ジェームズ・マレー
156	オーラルコミュニケーションⅠ	ニコライ・ギュレメトヴ
157	オーラルコミュニケーションⅡ	ガルシア・アロヨ ホルヘ
158	オーラルコミュニケーションⅡ	ジェームズ・マレー
159	オーラルコミュニケーションⅡ	ニコライ・ギュレメトヴ
160	オーラルコミュニケーションⅢ	ガルシア・アロヨ ホルヘ
161	オーラルコミュニケーションⅢ	ジェームズ・マレー
162	オーラルコミュニケーションⅢ	ジョン・トレマーコ
163	オーラルコミュニケーションⅢ	ジェームズ・マレー
164	オーラルコミュニケーションⅣ	ジェームズ・マレー
165	オーラルコミュニケーションⅣ	バトリックゴースラム
166	英語表現法Ⅰ	ジェームズ・マレー
167	英語表現法Ⅰ	バトリックゴースラム
168	英語表現法Ⅱ	ジェームズ・マレー
169	英語表現法Ⅱ	バトリックゴースラム
170	英語表現法Ⅲ	ジェームズ・マレー
171	英語表現法Ⅲ	遠峯 伸一郎
172	英語コミュニケーション演習Ⅰ	石井 英里子
173	英語コミュニケーション演習Ⅱ	野田 ゆり子
174	TOEIC Ⅰ	石井 英里子
175	TOEIC Ⅱ	石井 英里子
176	TOEIC Ⅲ	野田 ゆり子
177	英語学概論	遠峯 伸一郎
178	英文法	遠峯 伸一郎
179	英語史	遠峯 伸一郎
180	英語音声学	未定
181	英文学概論	山下 孝子
182	米文学史	小林 朋子
183	比較文学	小林 朋子
184	英語文学講読A	山下 孝子
185	英語文学講読B	小林 朋子
186	英語文学講読C	野田 ゆり子
187	異文化コミュニケーション概論	石井 英里子
188	イギリス事情	ジョン・トレマーコ
189	アメリカ事情	ガルシア・アロヨ ホルヘ
190	ヨーロッパ事情	小林 朋子
191	対照言語学	楊 虹
192	日本語学概論	小亀 拓也
193	日本文学史Ⅰ	木戸 裕子
194	日本文学史Ⅱ	木戸 裕子
195	日本語教育概論	楊 虹
196	国際経済論	専任未定
197	国際関係論	福田 忠弘
198	演習Ⅰ	遠峯 伸一郎
199	演習Ⅰ	小林 朋子
200	演習Ⅰ	石井 英里子
201	演習Ⅰ	ガルシア・アロヨ ホルヘ
202	演習Ⅰ	野田ゆり子
203	演習Ⅱ	遠峯 伸一郎
204	演習Ⅱ	小林 朋子
205	演習Ⅱ	石井 英里子
206	演習Ⅱ	ガルシア・アロヨ ホルヘ
207	卒業研究	遠峯 伸一郎
208	卒業研究	小林 朋子
209	卒業研究	石井 英里子
210	卒業研究	ガルシア・アロヨ ホルヘ

生活科学共通科目

授業番号	科目名	担当者名
211	生活科学概論	多田 浅海
212	生活経営学	坂上 ちえ子
213	人間関係論	未定
214	社会福祉論	川崎 竜太

食栄専門科目

授業番号	科目名	担当者名
215	食品学Ⅰ	中島 一喜
216	食品学Ⅱ	中島 一喜
217	食品学実験	中島 一喜
218	食品加工学	中島 一喜
219	食品衛生学	中島 一喜
220	食品衛生学実験	中島 一喜
221	調理学	有村 恵美
222	調理学実習Ⅰ	有村 恵美
223	調理学実習Ⅱ	有村 恵美
224	調理学実習Ⅲ	有村 恵美
225	栄養学総論	多田 司
226	栄養学各論	中熊 美和
227	栄養学実習	中熊 美和
228	解剖生理学	多田 司
229	解剖生理学実験	多田 司
230	生化学Ⅰ	多田 司
231	生化学Ⅱ	多田 司
232	生化学実験	多田 司
233	健康と運動	塗木 淳夫
234	公衆衛生学	指宿 りえ
235	健康管理概論	浜田 幸史
236	運動生理学	塗木 淳夫
237	給食管理	有村 恵美
238	給食管理実習Ⅰ	有村 恵美
239	給食管理実習Ⅱ	有村 恵美
240	給食管理実習Ⅲ	有村 恵美
241	栄養教育論	中西 智美
242	栄養指導論Ⅰ	中西 智美
243	栄養指導論Ⅱ	中西 智美
244	栄養指導論実習Ⅰ	中西 智美
245	栄養指導論実習Ⅱ	中西 智美
246	公衆栄養学	児玉 敬三
247	栄養情報処理	中西 智美
248	臨床栄養学Ⅰ	中熊 美和
249	臨床栄養学Ⅱ	中熊 美和
250	臨床栄養学実習	中熊 美和
251	病理学	山田 博久
252	学校栄養教育論	中西 智美
253	化学概論	古川 那由太
254	生物概論	古川 那由太

生活専門科目

授業番号	科目名	担当者名
255	生活化学	浅海 真弓
256	ビジュアルデザイン論Ⅰ	北 一浩
257	住生活学	田野 耕平
258	色彩学	坂上 ちえ子
259	衣生活学	浅海 真弓
260	ファッション造形基礎	坂上 ちえ子
261	消費生活論	坂上 ちえ子
262	被服材料学	浅海 真弓
263	生活化学実験	浅海 真弓
264	食物と栄養	古川 那由太
265	調理学	立石 百合恵
266	調理実習	立石 百合恵
267	服飾文化史	田邊 しずか
268	保育学	金 娟鏡
269	卒業研究 A	浅海 真弓
270	卒業研究 A	未定
271	ファッションデザイン論	田邊 しずか
272	ファッション造形Ⅰ	坂上 ちえ子
273	ファッション造形Ⅱ	坂上 ちえ子
274	ファッションアイテム演習	田邊 しずか
275	ファッションビジネス	坂上 ちえ子
276	卒業研究 B	坂上 ちえ子
277	ビジュアルデザイン基礎Ⅰ	北 一浩
278	ビジュアルデザイン基礎Ⅱ	上笹貫 鷹暁
279	ビジュアルデザイン論Ⅱ	上笹貫 鷹暁
280	ビジュアルデザインⅠ	北, 上笹貫
281	ビジュアルデザインⅡ	北 一浩
282	卒業研究 C	北 一浩
283	住居史	田野 耕平
284	住居・インテリア設計学	穴戸 克実
285	設計製図Ⅰ	穴戸 克実
286	設計製図Ⅱ	田野 耕平
287	住居構造学Ⅰ	田島 康弘
288	住居構造学Ⅱ	田島 康弘
289	住居環境学	曾我 和弘
290	住居環境学演習	曾我 和弘
291	建築材料学	福永 知哉
292	建築生産	福永 知哉
293	建築法規	未定
294	C A D設計	穴戸 克実
295	建築史	穴戸 克実
296	C A D設計特講	穴戸 克実
297	設計製図Ⅲ	穴戸 克実
298	設計製図Ⅳ	穴戸 克実
299	空間デザイン論	田野 耕平
300	空間デザインⅠ	田野 耕平
301	空間デザインⅡ	田野 耕平
302	卒業研究 D	田野 耕平

第一部商経共通科目

授業番号	科目名	担当者名
303	情報社会論	矢野 俊樹
304	経済学	山口 祐司
305	消費者問題	石窪 奈穂美
306	行政法	未定
307	経済政策	未定
308	金融論	未定
309	社会政策	近間 由幸
310	社会思想	渡邊 碩
311	民法	藤野 博行
312	商法	松田 忠大
313	税法	宗田, 岡村雄, 稲本, 川畑, 蜷川
314	産業心理学	岡村 俊彦
315	会計学総論	宗田 健一
316	簿記論Ⅰ	岡村 雄輝
317	経営学総論	竹中 啓之
318	情報科学概論	矢野 俊樹
319	文書作成実習	永仮 ゆかり
320	統計学	倉重 賢治
321	応用文書処理	岡村 俊彦
322	P Cデータ活用	口脇 淳子
323	P Cデータ活用実習	口脇 淳子
324	P Cアプリケーション実習	刈屋 美枝子

経済専門科目

授業番号	科目名	担当者名
325	日本経済論	船津 潤
326	財政学	船津 潤
327	農業経済論	前田 千春
328	ファイナンス論	未定
329	経済学史	カムチャイ・ライサミ
330	経済学特講Ⅰ	小野 祥子
331	経済学特講Ⅱ	山口 祐司
332	法学特講	藤野 博行
333	簿記論Ⅱ	岡村 雄輝
334	外国貿易論	大重 康雄
335	国際関係論	福田 忠弘
336	アジア事情	福田 忠弘
337	国際経済特講Ⅰ	村田 秀博
338	地域経済論	前田 千春
339	地域産業政策	前田 千春
340	地方財政論	船津 潤
341	非営利組織論	丸田 真悟
342	労働法	藤野 博行
343	地域研究特講	福田 忠弘
344	地方自治法	未定
345	第一部・基礎演習	商経学科教員
346	第一部・演習Ⅰ	商経学科教員
347	第一部・演習Ⅱ	商経学科教員
348	第一部・卒業研究	商経学科教員
349	社会活動	担当教員
350	企業研修	担当教員

経情専門科目

授業番号	科目名	担当者名
351	簿記論Ⅱ	岡村 雄輝
352	経営管理論	竹中 啓之
353	労務管理論	近間 由幸
354	管理会計論	根本 萌希
355	原価計算	劉 美玲
356	経営学特講Ⅰ	田原 武志
357	経営学特講Ⅱ	瀬口 毅士
358	情報管理論	竹中 啓之
359	会計情報論	宗田 健一
360	経営戦略論	瀬口 毅士
361	財務会計論	岡村 雄輝
362	マーケティング論	瀬口 毅士
363	流通論	近間 由幸
364	経営工学	倉重 賢治
365	応用データ活用	倉重 賢治
366	プログラミング	倉重 賢治
367	簿記論Ⅲ	成宮 広理
368	情報論特講	岡村 俊彦
369	第一部・基礎演習	商経学科教員
370	第一部・演習Ⅰ	商経学科教員
371	第一部・演習Ⅱ	商経学科教員
372	第一部・卒業研究	商経学科教員
373	社会活動	担当教員
374	企業研修	担当教員

教職科目

授業番号	科目名	担当者名
464	教職入門	田口 康明
465	教育原理	田口 康明
466	教育心理学	未定
467	特別支援教育概論	田口 康明
468	教育行政学概論	田口 康明
469	教育課程論	森田 司郎
470	国語科教育法Ⅰ	竹本 寛秋
471	国語科教育法Ⅱ	竹本 寛秋
472	英語科教育法Ⅰ	石井 英里子
473	英語科教育法Ⅱ	石井 英里子
474	家庭科教育法Ⅰ	五領 弘子
475	家庭科教育法Ⅱ	五領 弘子
476	道徳教育指導論	田口 康明
477	道徳教育の指導法	田口 康明
478	総合的な学習の時間の指導法	松崎 康弘
479	特別活動指導論	田口 康明
480	特別活動論	田口 康明
481	教育方法学概論	元井 一郎
482	学校教育におけるＩＣＴ活用	田口 康明
483	生徒指導論	未定
484	進路指導論	田口 康明
485	教育相談	未定
486	教育実習	田口 康明
487	栄養教育実習	中西 智美
488	栄養教育実習の事前事後の指導	中西 智美
489	教職実践演習（中）	田口、未定、竹本、石井、坂上
490	教職実践演習（栄養教諭）	田口、未定、中西

司書教諭科目

授業番号	科目名	担当者名
491	学校経営と学校図書館	岩下 雅子
492	学校図書館メディアの構成	岩下 雅子
493	読書と豊かな人間性	木戸 裕子
494	情報メディアの活用	竹本 寛秋



①左のQRコードもしくは
大学ウェブサイトの「在学生の方へ」のシラバスより検索サイトへ

②授業番号を入力し、[検索]をクリック

<https://k-kentan.ac.jp/student/2026syllb/syllbr8.html>

第二部教養科目

授業番号	科目名	担当者名
375	人間と文化	福田忠弘 他
376	日本の歴史	永山 修一
377	日本文学・近代	竹本 寛秋
378	こころの科学	未定
379	比較文化	陳 躍
380	アジア文化論	カムチャイ・ライサミ
381	日本国憲法	田口 康明
382	キャリアデザイン	担当教員
383	ライフプランニング	小野 祥子
384	環境問題	井村, 渡辺, 浅海, 岡村雄
385	英語Ⅰ（Ａ）	野田 ゆり子
386	英語Ⅰ（Ｂ）	ジェイムズ・マレー
387	英語Ⅱ（Ａ）	野田 ゆり子
388	英語Ⅱ（Ｂ）	ジェイムズ・マレー
389	異文化コミュニケーション(英語)	英語担当教員全員
390	異文化コミュニケーション(中国語)	中国語担当教員全員
391	中国語Ⅰ（Ａ）	陳 躍
392	中国語Ⅰ（Ｂ）	楊 虹
393	中国語Ⅱ（Ａ）	陳 躍
394	中国語Ⅱ（Ｂ）	楊 虹
395	生涯スポーツ実習（Ａ）	浜田 幸史
396	生涯スポーツ実習（Ｂ）	浜田 幸史
397	情報リテラシーⅠ（Ａ）	永仮 ゆかり
398	情報リテラシーⅠ（Ｂ）	永仮 ゆかり
399	情報リテラシーⅡ（Ａ）	上野 祐子
400	情報リテラシーⅡ（Ｂ）	上野 祐子

第二部専門科目

授業番号	科目名	担当者名
401	情報社会論	矢野 俊樹
402	現代社会論	山口 祐司
403	経済学	山口 祐司
404	社会学	中嶋 晋平
405	文化と社会	田口 康明
406	行政法	未定
407	金融論	未定
408	社会政策	近間 由幸
409	社会思想	渡邊 碩
410	民法	藤野 博行
411	商法	松田 忠大
412	税法	宗田, 岡村雄, 川畑, 蜷川, 山之内
413	産業心理学	岡村 俊彦
414	会計学総論	宗田 健一
415	簿記論Ⅰ	岡村 雄輝
416	経営学総論	竹中 啓之
417	情報科学概論	矢野 俊樹
418	文書作成実習	永仮 ゆかり
419	統計学	倉重 賢治
420	応用文書処理	岡村 俊彦
421	P Cデータ活用	口脇 淳子
422	P Cデータ活用実習	口脇 淳子
423	P Cアプリケーション実習(A)	上野 祐子
424	P Cアプリケーション実習(B)	上野 祐子
425	日本経済論	船津 潤
426	財政学	船津 潤
427	農業経済論	前田 千春
428	ファイナンス論	未定
429	経済学史	カムチャイ・ライサミ
430	経済学特講	山口 祐司
431	国際経済論	西原 誠司
432	国際立地論	未定
433	アジア経済論	山本 一哉
434	外国貿易論	大重 康雄
435	国際関係論	福田 忠弘
436	アジア事情	福田 忠弘
437	地域経済論	前田 千春
438	地域産業政策	前田 千春
439	地方財政論	船津 潤
440	非営利組織論	丸田 真悟
441	労働法	藤野 博行
442	地域研究特講	福田 忠弘
443	地方自治法	未定
444	簿記論Ⅱ	岡村 雄輝
445	経営管理論	竹中 啓之
446	労務管理論	近間 由幸
447	原価計算	劉 美玲
448	経営学特講	瀬口 毅士
449	情報管理論	竹中 啓之
450	会計情報論	宗田 健一
451	経営戦略論	瀬口 毅士
452	応用データ活用	倉重 賢治
453	プログラミング	倉重 賢治
454	財務会計論	岡村 雄輝
455	情報論特講	岡村 俊彦
456	マーケティング論	瀬口 毅士
457	流通論	近間 由幸
458	第二部・基礎演習	商経学科教員
459	第二部・演習Ⅰ	商経学科教員
460	第二部・演習Ⅱ	商経学科教員
461	第二部・卒業研究	商経学科教員
462	社会活動	担当教員
463	企業研修	担当教員

授業科目	授業番号： 1			担当者	小林朋子 ガルシア・アロヨ・ホルヘ 土肥克己
	文学の世界			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】世界の文学 【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？ この授業では、3 人の教員がアメリカ、スペイン、中国の 3 か国を中心に、時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。 【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらう。各国の文学作品について考える。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし（プリント資料配付） (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 17 世紀アメリカ文学：アメリカ先住民の文学とブラッドフォード 第 2 回 18 世紀アメリカ文学：フランクリン『自叙伝』 第 3 回 19 世紀アメリカ文学：アメリカン・ルネッサンス 第 4 回 20 世紀アメリカ文学：人種系文学 第 5 回 20 世紀アメリカ文学とその後：自己の探求 第 6 回 イタリアの影響：スペイン・ルネサンス文学（15 世紀末～16 世紀） 第 7 回 セルバンテスとバロック黄金時代の文学 第 8 回 19 世紀の前半：スペインのロマン主義（1833-1844）。19 世紀の後半：スペインの写実主義の文学 第 9 回 20 世紀の前半 I：98 年世代・スペインのモダニズム文学 第 10 回 20 世紀の前半 II：27 年世代・スペインの「Tremendismo」文学。20 世紀の後半と 21 世紀のスペイン文学 第 11 回 中国の文学：三国志の魅力（1） 第 12 回 中国の文学：三国志の魅力（2） 第 13 回 中国の文学：三国志の魅力（3） 第 14 回 中国の文学：三国志の魅力（4） 第 15 回 中国の文学：日本での三国志				
授業外学習 （予習・復習）	授業で紹介された作品を読む。（事前でも事後でも可）				
成績評価の方法	期末レポートの提出（70 点），および講義に関する毎回の意見・感想等（30 点）で評価します。レポートは 3 人の教員が出した課題から 2 つを選んで書くことになります。				
実務経験について	なし				

（注）文学科を除く。

（注）受講者が 60 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	授業番号： 2			担当者	帛尾 達哉
	日本の歴史			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本史の学説・史料を読み解く 【概要】かつて日本国家成立論に大きなインパクトを与えた騎馬民族征服説、世紀の発見と言われた稲荷山古墳出土鉄剣銘文、さらに平城宮跡出土の墨書土器、中世の絵巻、古文書など、重要な学説・史料をわかりやすく紹介し、日本史についての新しい知見を提供する。 【到達目標】歴史学の基本的な方法を習得すること。具体的には、史料を客観的に読み解いて、歴史の真実を追究してゆくことを学ぶ。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 騎馬民族征服説 第 2 回 騎馬民族征服説 2 第 3 回 騎馬民族征服説 3 第 4 回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 1 第 5 回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 2 第 6 回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文 3 第 7 回 墨書土器（古代の罪と罰） 1 第 8 回 墨書土器（古代の罪と罰） 2 第 9 回 墨書土器（古代の罪と罰） 3 第 10 回 中世の絵巻から 1 第 11 回 中世の絵巻から 2 第 12 回 中世の絵巻から 3 第 13 回 古文書を読む 1 第 14 回 古文書を読む 2 第 15 回 古文書を読む 3				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 3			担当者	安部 幸志
	こころの科学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】心理学について理解し、その方法論や知見の応用について知識を深める。思春期・青年期の心理や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。 【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。これを通じて、対人コミュニケーション能力を培うことも期待される。 【到達目標】①現代におけるこころの問題を理解するために、科学としての心理学に対する理解を深める。②身近な問題としてのこころの健康やその予防に関する知識を身につける				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回 4, 5 人程度で構成されたグループワークを実施する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 毎事プリントによる資料を配布する。 (2) ①鹿取 廣人他著『心理学 第5版補訂版』東京大学出版会, 2020 年 ②サトウ タツヤ・渡邊 芳之著『心理学・入門—心理学はこんなに面白い 改訂版』有斐閣, 2019 年				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 心理学とは：科学としての心理学 第 3 回 こころの進化：動物にもこころはあるか 第 4 回 こころの発達：赤ちゃんの心理 第 5 回 こころの発達：人間の発達、青年期の心理 第 6 回 こころの発達：中年期と女性の心理 第 7 回 こころの発達：老年期の心理 第 8 回 性格：血液型と認知バイアス 第 9 回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か 感覚・知覚 第 10 回 感覚・知覚 第 11 回 記憶の不思議 第 12 回 災害と心理 第 13 回 社会と心理 第 14 回 心理療法 第 15 回 ストレス				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業内課題 (20%)、グループワーク (20%)、試験 (60%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 4			担当者	北 一浩
	芸術論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。 【概要】芸術の中でも難解といわれる 20 世紀以降の現代アート（造形芸術）を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。 【到達目標】さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	講義毎に取り扱う作品に対する質問への回答、感想の記述を行い、講義中にフィードバックを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 現代アートとは？：西洋美術史、現代アート、ルネサンス 第 3 回 伝統と違うから興味ない？：アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像 第 4 回 美しいとは思えないのだけれど？：パブロ・ピカソ、アビニヨンの娘たち 第 5 回 何が描いてあるかわからない：ワシリー・カンディンスキー、コンポジションⅣ 第 6 回 上手だとは思えないのだけれど？：キルヒナー、ストリートシーンベルリン 第 7 回 これがアートといえるの？：マルセル・デュシャン、泉 第 8 回 そんなに値打ちがあるものなの？：ピエト・モンドリアン、コンポジションⅢ 第 9 回 わかったような、わからないような：ルネ・マグリット、光の帝国 第 10 回 何なのか、意味がわからない：マーク・ロスコ、無題 第 11 回 アートとアートでないものの違いって？：アンディー・ウォーホル、ブリロボックス 第 12 回 許せる？許せない？：リチャード・セラ、傾いた狐 第 13 回 きれいなのに汚い？：アンドレス。セラノ、ピス・クライスト 第 14 回 名作はあなたが見つけるもの 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	毎講義中のミニレポート（60%） 講義内で行うワーク（40%）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナー及びアーティストとして活動。				

授業科目	授業番号： 5			担当者	田口 康明
	日本国憲法			授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的人権を中心とした日本国憲法に理解。 【概要】 教員、公務員、会社員その他の職業に就くにせよ社会制度の多くは法によって定められている。その根本はいうまでもなく憲法である。どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、人権を主にとりあげそれらの歴史的、社会的背景をもとりあげることとする。 【到達目標】 憲法が存在する意義について理解できる。 日本国憲法の構造（人権）について理解できる。 現実の問題について自分なりの見解をまとめることができる。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特に定めない (2) 授業内で随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方 第 2 回 憲法とは何か 立憲主義を考える。 第 3 回 日本国憲法の誕生 憲法の制定過程について学ぶ。 第 4 回 国民主権と象徴天皇制 国民主権の意義や象徴天皇制を考える。 第 5 回 憲法 9 条と平和主義（その 1） 憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。 第 6 回 憲法 9 条と平和主義（その 2） 憲法 9 条をめぐる裁判等を検討する。 第 7 回 基本的人権（基本的人権とは） 憲法で基本的人権が保障されている意義を考える。 第 8 回 基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界） 自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。 第 9 回 基本的人権（包括的基本権） 憲法 13 条の幸福追求権について考える。 第 10 回 基本的人権（自由権 その 1） 内面の自由について考える。 第 11 回 基本的人権（自由権 その 2） 人身の自由と経済的自由権について考える。 第 12 回 基本的人権（社会権 その 1） 生存権について考える。 第 13 回 基本的人権（社会権 その 2） 教育を受ける権利、勤労の権利について考える。 第 14 回 基本的人権（参政権）、国民の義務 選挙権などの参政権と、国民の義務について考える。 第 15 回 これまでのまとめと補足				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	原則、最終試験（公務員試験レベルの択一問題）によって評価するが、小レポートを課した場合、それも評価に加える。評価割合は、授業内にて示す。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 6			担当者	藤野 博行
	法学			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】法の基本を学び、論理的思考力を身につけるための基礎力を涵養します。 【概要】法学は「常識と正しいバランス感覚をふまえて、論理的に物事を考えて課題解決する力」を身につけるための学問です。そこで本科目では、身の回りで起こりうる課題について、解決に必要な法的知識を学んだのち、皆さんの「常識」と「バランス感覚」を頼りにグループで考えることにより、社会に出た時に必要な「課題解決力」の基礎を身につけます。 【到達目標】①法学に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2～4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール (microsoft forms や slido) に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (資料を配付します) (2) 伊藤真『法学入門』日本評論社 (2022 年) 1760 円 ISBN-13:978-4535527157				
授業 スケジュール	第 1 回 ①ガイダンス (講義内容・受講上の注意事項等)、②アイスブレイク 第 2 回 法の特徴とその役割について。 第 3 回 ①法の種類、②法の階層構造、③ (演習) ルールを決める最良の方法は？ 第 4 回 ①裁判で用いられる証拠の種類、② (演習) 様々な証拠から事実の存在を推測する。 第 5 回 ①法解釈 (文理解釈と目的論的解釈) ② (演習) 実際に法律を解釈する。 第 6 回 ②法解釈 (演習) 日常生活での困りごとを「法解釈」で解決する 第 7 回 ①前半の復習、②中間テスト 第 8 回 中間テストの解説と講評 第 9 回 ①契約とはなにか？、②契約が成立すると発生する効果とは？ 第 10 回 (演習) 自分たちの身に起こるかもしれない課題の解決策を考える。 第 11 回 (演習) 身近に起こりうる課題の解決法について考える 第 12 回 (演習) 実践的な法解釈にチャレンジする (公園のベビーカー進入)。 第 13 回 (演習) 実践的な課題解決にチャレンジする (公園のお祭りのルールを作る) 第 14 回 (演習) 実践的な課題解決にチャレンジする 第 15 回 後半の復習とまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点)、期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 7			担当者	中嶋 晋平
	社会学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】社会学の基本的な考え方を理解するとともに、社会の視点から現代社会を理解する。 【概要】社会学は、私たちにとって当たり前の存在である「社会」を冠した学問である。複雑さを増す現代社会の解決に社会学が貢献できる余地は多い。ところが日本では、大学・短大などの高等教育機関以外で社会学を学ぶ機会がないため、どのような学問であるかを理解している者は少ない。本講義では社会学の基本的な考え方やものの見方を学ぶとともに、社会学の視点から現代社会が抱える課題をとらえ直す能力を身につけることを目的とする。 【到達目標】社会学とはどのような学問か、その基本的な考え方を理解する。社会学の視点を通して現代社会の課題を理解する力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 間淵領吾・酒井千絵・古川誠編（2022）『基礎社会学 新訂第5版』世界思想社 配布資料は web で公開 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 社会学の歴史① 第 3 回 社会学の歴史② 第 4 回 社会学の発想 第 5 回 社会調査とデータ 第 6 回 社会学の基本概念① 第 7 回 社会学の基本概念② 第 8 回 都市という空間① 第 9 回 都市という空間② 第 10 回 社会と環境① 第 11 回 社会と環境② 第 12 回 社会の病理 第 13 回 学歴と社会 第 14 回 差別と社会① 第 15 回 差別と社会②				
授業外学習 (予習・復習)	振り返り小テストに備えて、教科書・配布資料を読み返し復習すること				
成績評価の方法	毎回の振り返り小テスト（100%）				
実務経験について	なし				

資料配布、振り返り小テストは「Google classroom」で行います。大学のアカウントでのログインが必要になります。

授業科目	授業番号： 8			担当者	山口 祐司
	生活と経済			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活に関わる身近な観点（生産と消費，賃金と労働，税と社会保障）を手がかりに，経済の見方を学んでいきます。 【概要】人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか（第 2～3 回）。消費者としての視点から，モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ（第 4～6 回）。労働者としての視点から，賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ（第 7～10 回）。市民としての視点から，税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ（第 11～14 回）。 【到達目標】身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして，社会的役割，個人の権利，日本の実態について知識を身につけること。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業の最後に，その日の授業で学んだことや質問を 200 字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて，翌週解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 人間社会と経済の発展 第 3 回 戦後日本の経済発展と現在 第 4 回 生産と消費（1）ものづくりと消費の多様化 第 5 回 生産と消費（2）サービス 第 6 回 生産と消費（3）社会的存在としての企業 第 7 回 中間まとめ 第 8 回 労働と賃金（1）働くということ 第 9 回 労働と賃金（2）働きすぎの日本社会 第 10 回 労働と賃金（3）雇用と貧困の問題 第 11 回 税と社会保障（1）政府の役割 第 12 回 税と社会保障（2）財政と税の仕組み 第 13 回 税と社会保障（3）少子高齢化と財政問題の深刻化 第 14 回 税と社会保障（4）財政と税の行方 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。				
成績評価の方法	レポート（60%），毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 9			担当者	担当教員
	キャリアデザイン			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	通年	1 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】1 年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。 【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。 【到達目標】8 回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。				
学生の主体的・対話的な学び	適宜紹介				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ◆5月14日（水）（特設時間を利用） 第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは ◆6月11日（水）（特設時間を利用） 第2回 自己分析 志望動機 ◆7月9日（水）（特設時間を利用） 第3回 企業研究の必要性和そのやり方 ◆9月17日（木）3限 第4回 企業が求める人材 1 ◆9月17日（木）4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月15日（水）（特設時間を利用） 第6回 働いて「困った」への対応方法 ◆11月6日（水）（特設時間を利用） 第7回 これから働くあなたへのメッセージ (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出（100%）				
授業外学習 （予習・復習）					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 10			担当者	愛甲 正
	数学の世界			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 中学および高校数学を楽しむ 【概要】 中学校や高等学校で学習した数学に関する知識を活用して、数学がいかに活用されているかを知り、数学を楽しむことを目的とする。 【到達目標】 基礎的な数学を理解し、数学の応用を通して数学の重要性を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	授業中に、指名して適宜質問を行い、双方向の議論を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 講義中に適宜紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス（概要説明） 第 2 回 実数・有理数・無理数 第 3 回 白銀比とコピー用紙・黄金比 第 4 回 確率（くじ引きの順番） 第 5 回 指数と対数（利息計算への応用） 第 6 回 指数と対数の計算（電卓の利用） 第 7 回 データの最頻値・中央値・平均値・箱髭図 第 8 回 データの分散・標準偏差・偏差値 第 9 回 ピタゴラスの定理・ヒポクラテスの定理 第 10 回 急勾配を表す標識・三角比と三角測量 第 11 回 数列（等差数列・等比数列） 第 12 回 数列の和の極限（曲線の囲む図形の面積の例） 第 13 回 弧度法と円の面積 第 14 回 非ユークリッド幾何の紹介 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	授業中に適宜指示する				
成績評価の方法	レポート（100%）による				
実務経験について	高等学校にてσ数学教諭として6年間勤務				

授業科目	授業番号： 11			担当者	藤井 伸平
	物理の世界			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみる。 【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。 【到達目標】身近に起こる自然現象を物理という視点から眺めることができるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、数回程度簡単な実験をおこないます。また、講義中は何回もの問いかけ（質疑応答）を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布 (2) 適宜提示				
授業 スケジュール	第 1 回 講義の概要 第 2 回 地球は丸い（オンデマンド予定） 第 3 回 基本的な量について 第 4 回 大気圧について 第 5 回 地球・月・太陽の大きさと距離（オンデマンド予定） 第 6 回 釣り合いとてこの原理について 第 7 回 摩擦と慣性について 第 8 回 音の世界 その 1（オンデマンド予定） 第 9 回 ロケットについて 第 10 回 音の世界 その 2（オンデマンド予定） 第 11 回 ガリレオ温度計について 第 12 回 身のまわりの放射線 その 1（オンデマンド予定） 第 13 回 気化熱について 第 14 回 身のまわりの放射線 その 2（オンデマンド予定） 第 15 回 電気について				
授業外学習 （予習・復習）	授業で学んだ内容を振り返り、必要であれば関連した情報を調査収集し理解を深める。				
成績評価の方法	(A) 授業ごとの小レポート (30%)、(B) 課題レポート (40%)、(C) 期末試験 (30%)。(詳細については第 1 回目の講義で説明します。)				
実務経験について	なし				

(1) 受講生が 60 人を超えた場合は人数を制限します。

(2) 理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。

(3) ”オンデマンド”対応のため講義のつながりがすこし悪くなっていますがご了承ください。

授業科目	授業番号： 12			担当者	塔筋 弘章
	生物の科学			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】細胞・遺伝・進化、生態系 【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製（増殖）・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化、生態系などについて学びます。 【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する				
学生の主体的・対話的な学び	授業中に小テストを行い、後日、その内容について解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント（pdf ファイル等にて配付する） (2) 適宜指示				
授業 スケジュール	第 1 回 生命の機能単位：細胞 第 2 回 生命の歴史：単細胞から多細胞へ 第 3 回 代謝：エネルギー産生のしくみ 第 4 回 遺伝の法則：メンデルの法則 第 5 回 DNA：遺伝におけるその役割 第 6 回 遺伝子の変異、変異原 第 7 回 発生における遺伝子発現 第 8 回 分子生物学：クローン・iPS 細胞 第 9 回 進化論：ラマルクとダーウィン 第 10 回 種分化 第 11 回 生物の進化（1）：動物の進化 第 12 回 生物の進化（2）：恐竜から鳥へ 第 13 回 生物の進化（3）：猿人からヒトへ 第 14 回 環境と生物 第 15 回 生物種間の相互作用				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（60％）＋ 授業ごとに実施する小テスト（40％）				
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師				

授業科目	授業番号： 13			担当者	古川 那由太・木下 朋美
	化学の世界			授業外対応	オフィスアワーを参照
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。 【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わり方の視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。 1～6回：古川、7～15回：木下 【到達目標】化学的視点から、課題を探究し、解決していくための基本的な能力を培う。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して解説を行います。8～15回の授業では、授業内容の理解を深めるため、お茶の試飲や飲み比べなどを実施します。13回・15回目は実習室でグループに分かれて試飲などの実習を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協				
授業 スケジュール	第 1 回 気体の化学（元素と原子、大気の成分、気体の密度） 第 2 回 生活の化学（酸と塩基、洗剤と漂白剤、プラスチック、容器の素材） 第 3 回 爆発の化学（化学反応、火薬による爆発、火薬以外の爆発） 第 4 回 エネルギーの化学（化石燃料と火力発電、原子力発電と核融合炉、次世代エネルギー） 第 5 回 生物の化学（生体物質の分類、糖質、たんぱく質とアミノ酸、脂質、ビタミン、ミネラル） 第 6 回 話題の化学（ノーベル賞、ノーベル化学賞を受賞した日本人） 第 7 回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶 第 8 回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法ーカテキン等の茶成分への影響（1） 第 9 回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法ーカテキン等の茶成分への影響（2） 第 10 回 緑茶に付加価値をつける 仕上げ加工（ブレンド・火入れ）・アミノカルボニル反応 第 11 回 味をも作り出す 香りの特性と役割・香気成分と受容体 第 12 回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（急須とドリンク茶）・茶成分の品質への影響 第 13 回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（実習） 第 14 回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質・ポリフェノール、香気成分等 第 15 回 茶の品質を見極める 官能検査と化学成分（実習）				
授業外学習 （予習・復習）	復習を重視する。				
成績評価の方法	古川担当分（40%）：授業ごとのレポート 木下担当分（60%）：レポート				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 14			担当者	牛山紗稀子・中島一喜・木下朋美・古川那由太
	食生活と健康			授業外対応	担当ごとに適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】健康な食生活を送るためにはどのようにしたらよいのか 【概要】バランスの取れた食事、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報は少なくない。本講義では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたよいかについて、各種の活動を取り入れて実践的に学ぶ。 【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを学ぶ。				
学生の主体的・対話的な学び	授業の最後に小テストや感想・質問を記入してもらい、解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 健康とは何か？（牛山） 第 2 回 食品ごとの調理特性（木下） 第 3 回 鹿児島県の食文化（木下） 第 4 回 口内環境正常化（古川） 第 5 回 味覚を変える食品（古川） 第 6 回 食品加工と保蔵（中島） 第 7 回 食品の機能性（中島） 第 8 回 保健機能食品（中島） 第 9 回 食品に含まれる栄養素とその働き（牛山） 第 10 回 食生活チェック（食品の選択）（牛山） 第 11 回 ダイエット（牛山） 第 12 回 生活習慣病（牛山） 第 13 回 運動・睡眠・休養（牛山） 第 14 回 飲酒・喫煙（牛山） 第 15 回 健康な食生活とは（牛山）				
授業外学習 (予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する				
成績評価の方法	レポート及び小テスト（70%）、授業への取り組み（30%）を基準に総合的に評価する。担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。				
実務経験について	病院管理栄養士として勤務（牛山）、国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事（中島）				

授業科目	授業番号： 15			担当者	田口康明・藤野博行・疋田 京子
	現代人権論			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】人権とは何か 各種人権保障の枠組みの理解 【概要】世界人権宣言に「すべて人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とにおいて平等である」と規定されているように、人権は世界的規模で保障されるべき普遍的な権利です。しかし、それは具体的にどんな権利なのでしょう。人として生きていくために絶対に必要な権利である人権を具体的にイメージしてみましょう。 【到達目標】グローバル化する社会のなかで、私たちはどのような人権問題に直面し、それをどう乗り越えようとしているのか、その原因と背景を踏まえ、人権の普遍性とその保障・実現について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	藤野担当部分（1～5 回）はグループワークを実施。ランダムに 2～4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール（microsoft forms や slido）に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特に定めない (2) 必要に応じて提示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス・人権総論（1）人権の歴史と立憲主義（藤野） 第 2 回 人権総論（2）：人権の享有主体（外国人・子ども・女性の人権）・人権保障の限界（藤野） 第 3 回 人権の内容（1）：精神的自由権（藤野） 第 4 回 人権の内容（2）：経済的自由権（藤野） 第 5 回 人権の内容（3）：人身の自由と適正手続保障・まとめのテスト（藤野） 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容（25 点）中間試験（25 点）、期末試験（50 点）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 16			担当者	前田千春・島津義秀・山下三香子・矢野俊樹
	鹿児島学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】鹿児島県の過去と現在を多角的に解析し、未来を展望する。 【概要】歴史、食文化、観光、まちづくりの視点から鹿児島県の特徴を理解し、鹿児島県の未来を考える。 【到達目標】鹿児島県の理解を深め、地域の一員として鹿児島県のあるべき姿を考察できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	学生自身の食と郷土への再考する機会を設けます（山下）。講義内にグループで話し合う時間を設けます（前田）。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：鹿児島学講義内容の説明（島津、山下、矢野、前田） 第 2 回 歴史（1）：鹿児島県の歴史について（島津） 第 3 回 歴史（2）：鹿児島県の思想について（島津） 第 4 回 歴史（3）：鹿児島の土風文化について（島津義弘の生き様など）（島津） 第 5 回 歴史（4）：鹿児島の土風文化について（薩摩琵琶・天吹について）（島津） 第 6 回 食文化（1）：食文化の変遷（山下） 第 7 回 食文化（2）：気候風土が生んだ食文化（山下） 第 8 回 食文化（3）：地域が生んだ食文化（山下） 第 9 回 観光（1）：道の駅の置かれている現状と支援事例（矢野） 第 10 回 観光（2）：J リーグクラブと地域の関わり（矢野） 第 11 回 まちづくり（1）：鹿児島のまちづくり（前田） 第 12 回 まちづくり（2）：都市地域（前田） 第 13 回 まちづくり（3）：農山村地域（前田） 第 14 回 まちづくり（4）：離島地域（前田） 第 15 回 総括（前田）				
授業外学習 （予習・復習）	講義ノートおよび参考文献を活用して講義レポートに取り組むこと。				
成績評価の方法	担当者毎にレポートで評価をする（配点：島津 30 点、山下 20 点、矢野 15 点、前田 35 点）				
実務経験について	島津義秀（精矛神社の宮司、加治木島津家の第 13 代当主）、山下三香子（病院、高齢者施設等での管理栄養士業務）、矢野俊樹（よろず支援拠点での中小企業支援）、前田千春（なし）				

授業科目	授業番号： 17			担当者	担当教員
	社会活動			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	通年	2～4 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は、地域の非営利組織を中心とした研修先における社会的活動体験を通して、企画・運営能力を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。 【概要】地域の公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。地域の活動を主体的におこなう力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

商経学科は別途、専門科目「社会活動」として開講

授業科目	授業番号： 18			担当者	担当教員
	企業研修			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	通年	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】インターンシップである「企業研修」は、地元民間企業を中心とした研修先において、就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、地域で働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年 4 月末から 6 月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つ。				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

商経学科は別途、専門科目「企業研修」として開講 「県短独自分」は2,3年生も受講可能

授業科目	授業番号： 19			担当者	小林 朋子
	英語 I (A)			授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。 【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。 【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、理解に支障がない発音で情報や考えを適切に表現できる。				
学生の主体的・対話的な学び	角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊 (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 Please to meet you. <be 動詞> 第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) > 第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) > 第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞> 第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 > 第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文> 第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形> 第 9 回 I'll give her your message. <未来形> 第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形> 第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態> 第 12 回 We expect higher sales in China. <比較> 第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 > 第 14 回 How about going to the theater? <動名詞> 第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取り組み態度 (20%) で評価する。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 20			担当者	松元 貴子
	英語 I (A)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語を総合的に学び、スピーキングとライティングを通して、表現する力を鍛える。 【概要】スピーキング活動を通して、英語の発音・発声方法を正しく理解し、実践する。ライティング活動を通して、アイディアの出し方やパラグラフの構成力を習得する。また、語彙力・表現力を習得する。ペア活動・グループ活動を通して、相手に伝わる、そして、相手を動かす表現を習得する。 【到達目標】構成力のあるライティングができる。自分の書いた文章をもとに、正しい音でスピーキングができる。ペアワークでの会話を3分以上続けることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション自己紹介や英語の音の紹介 第 2 回 How to start a conversation & how to introduce myself 会話のコツと母音の発音 第 3 回 How to organize a paragraph & Brainstorm パラグラフの構成母音の発音 第 4 回 Conversation & paragraph 自分のことを書く、話す母音と子音の発音 第 5 回 Explain about myself & people 1 自分のことを書く、話す子音の発音と音の省略 第 6 回 Explain about myself & people 2 自分のことを書く、話す母音/子音と音の省略 第 7 回 Explain about myself & people 3 自分のことを話す母音/子音と音の連結 第 8 回 Describing about my experience 1 経験を書く、話す母音/子音と音の連結 第 9 回 Describing about my experience 2 経験を書く、話す音の強弱 第 10 回 Describing about my experience 3 経験を話す音の強弱 第 11 回 Let's talk about my interest1 味のあることを調べる。まとめる。話す 第 12 回 Let's talk about my interest2 興味のあることを調べる。まとめる。話す 第 13 回 Presentation project preparation 1 味のあることをプレゼンする 第 14 回 Presentation project preparation 2 興味のあることをプレゼンする 第 15 回 Preparation and review for final まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	スピーキング、発音、ライティングのいずれかを必ず授業外学習として課します。				
成績評価の方法	授業内スピーキング活動などの取り組み (25%) + ライティングなどの提出物 (25%) + グループ発表・プレゼンテーション発表 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 21			担当者	新福 豊実
	英語 I (B)			授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。 【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。 【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。				
授業スケジュール	第 1 回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero) 第 2 回 Asking/Giving personal information (Unit 1) 第 3 回 Following instructions (Unit 2) 第 4 回 Personal item vocabulary (Unit 3) 第 5 回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4) 第 6 回 Family relationship vocabulary (Unit 5) 第 7 回 Describing clothing / shopping (Unit 6) 第 8 回 Review I 第 9 回 Talk about your past (Unit 7) 第 10 回 Describe animals and (Unit 8) 第 11 回 Talk about things you can and can't do (Unit 9) 第 12 回 Ask about likes and dislikes (Unit 10) 第 13 回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11) 第 14 回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12) 第 15 回 Review II				
授業外学習 (予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (40%) 課題 (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 22			担当者	新福 豊実
	英語 I (B)			授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。 【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。 【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。				
授業 スケジュール	第 1 回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero) 第 2 回 Asking/Giving personal information (Unit 1) 第 3 回 Following instructions (Unit 2) 第 4 回 Personal item vocabulary (Unit 3) 第 5 回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4) 第 6 回 Family relationship vocabulary (Unit 5) 第 7 回 Describing clothing / shopping (Unit 6) 第 8 回 Review I 第 9 回 Talk about your past (Unit 7) 第 10 回 Describe animals and (Unit 8) 第 11 回 Talk about things you can and can't do (Unit 9) 第 12 回 Ask about likes and dislikes (Unit 10) 第 13 回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11) 第 14 回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12) 第 15 回 Review II				
授業外学習 (予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (40%) 課題 (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 23			担当者	新福 豊実
	英語 I (C)			授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。 【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。 【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Access』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。				
授業 スケジュール	第 1 回 Class overview: Clarification language and classroom interaction. (Unit zero) 第 2 回 Asking/Giving personal information (Unit 1) 第 3 回 Following instructions (Unit 2) 第 4 回 Personal item vocabulary (Unit 3) 第 5 回 Telling time/talking about schedules/common activities (Unit 4) 第 6 回 Family relationship vocabulary (Unit 5) 第 7 回 Describing clothing / shopping (Unit 6) 第 8 回 Review I 第 9 回 Talk about your past (Unit 7) 第 10 回 Describe animals and (Unit 8) 第 11 回 Talk about things you can and can't do (Unit 9) 第 12 回 Ask about likes and dislikes (Unit 10) 第 13 回 Talk about rules and laws in other countries (Unit 11) 第 14 回 Make up a story and tell it to your partner (Unit 12) 第 15 回 Review II				
授業外学習 (予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (40%) 課題 (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 24			担当者	小林 朋子
	英語 I (C)			授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。 【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。 【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、理解に支障がない発音で情報や考えを適切に表現できる。				
学生の主体的・対話的な学び	角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊 (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 Please to meet you. <be 動詞> 第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) > 第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) > 第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞> 第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 > 第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文> 第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形> 第 9 回 I'll give her your message. <未来形> 第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形> 第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態> 第 12 回 We expect higher sales in China. <比較> 第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 > 第 14 回 How about going to the theater? <動名詞> 第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 25			担当者	金岡 正夫
	英語 I (D)			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】音読スキルの向上に努め、発信能力を身につける。国内外の大学事情にも興味をもち、知見を深めていく。 【概要】実社会や海外に通用する大学生づくりを英語使用を通して高めていく。同時に自国の歴史、特に明治期に文明開化と国際化に出会った歴史についてもふれていく。授業では考えたり、話し合いをもとに内容を深め、それを確かな自分の姿（卒業後の進路・キャリアプランを含めて）にもつなげていく。 【到達目標】発音記号の読み方、ポーズの入れ方、安定した速度、流暢な連結発音、感情移入—こうした音読スキルを習得する。テキストで学んだことを英語で書き、プレゼンテーションできる能力を磨く。				
学生の主体的・対話的な学び	良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3 (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 音読知識・スキル（発音、アクセント） 第 3 回 音読知識・スキル（チャンキングルール） 第 4 回 音読知識・スキル（リエゾン、WPM） 第 5 回 音読知識・スキル（パラ言語） 第 6 回 読解方略（1）論理構成・展開の理解 第 7 回 読解方略（2）英文のつながりと重要語彙 第 8 回 読解方略（3）内容理解（要約） 第 9 回 読解方略（4）内容理解（Gist Making） 第 10 回 発表、聞き取り、質疑応答練習（1）（日本語） 第 11 回 発表、聞き取り、質疑応答練習（2）（日本語） 第 12 回 発表、聞き取り、質疑応答練習（1）（英語） 第 13 回 発表、聞き取り、質疑応答練習（2）（英語） 第 14 回 まとめ（1）大学生として知るべき価値観、世界観、国内の歴史 第 15 回 まとめ（2）大学生として知るべき価値観、世界観、国内の歴史				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示します				
成績評価の方法	プレゼンテーション（20%）、レポート（テキスト関連）（20%）、レポート（プレゼンテーション関連）（60%）				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 26			担当者	石原 知英
	英語 I (D)			授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解 【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。 【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる。 (2) 事前に準備した上で、英語で 3 分程度のスピーチを行うことができる。 (3) 聞き手の理解に配慮しながら英語を話すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布する				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明） 第 2 回 最初のプレゼンテーション 第 3 回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる 第 4 回 Informative Presentation 2: 話題ごとに述べる 第 5 回 Informative Presentation 3: 分類して説明する 第 6 回 Informative Presentation 4: 手順を説明する 第 7 回 Informative Presentation 5: 定義して説明する 第 8 回 中間プレゼンテーションと振り返り 第 9 回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する 第 10 回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する 第 11 回 Persuasive Presentation 3: 改善策を提案する 第 12 回 Persuasive Presentation 4: 因果関係を論じる 第 13 回 Persuasive Presentation 5: 比較して主張する 第 14 回 Persuasive Presentation 6: 反論を踏まえて主張する 第 15 回 最終プレゼンテーションと振り返り				
授業外学習 (予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句・表現および例文の確認（復習）				
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%）とクラス内での発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）による。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 27			担当者	石原 知英
	英語 I (D)			授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解 【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。 【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる。 (2) 事前に準備した上で、英語で 3 分程度のスピーチを行うことができる。 (3) 聞き手の理解に配慮しながら英語を話すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布する				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明） 第 2 回 最初のプレゼンテーション 第 3 回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる 第 4 回 Informative Presentation 2: 話題ごとに述べる 第 5 回 Informative Presentation 3: 分類して説明する 第 6 回 Informative Presentation 4: 手順を説明する 第 7 回 Informative Presentation 5: 定義して説明する 第 8 回 中間プレゼンテーションと振り返り 第 9 回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する 第 10 回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する 第 11 回 Persuasive Presentation 3: 改善策を提案する 第 12 回 Persuasive Presentation 4: 因果関係を論じる 第 13 回 Persuasive Presentation 5: 比較して主張する 第 14 回 Persuasive Presentation 6: 反論を踏まえて主張する 第 15 回 最終プレゼンテーションと振り返り				
授業外学習 (予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句・表現および例文の確認（復習）				
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%）とクラス内での発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）による。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 28			担当者	野田ゆり子
	英語 I (D)			授業外対応	授業前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語で学ぶ現代社会 【概要】本授業は、商経学科経営情報専攻 1 年生の必修科目です。身近なテーマで書かれた英文を読み、内容を理解した上で、こうしたテーマについて自分で考え、発信する力を養うことを目標としています。主としてリーディングを中心としますが、ディスカッションやプレゼンテーションなども行い、自分自身がどう思うか、なぜそう思うかを英語で説明できるようにします。 【到達目標】英文を読んで理解し、扱うテーマに基づいてグループ・プレゼンテーションを行うことで、より高度な読解力と発信力を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	Clive Langham. Developing Academic English: Intermediate. Asahi Press.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Clive Langham. Developing Academic English: Intermediate. Asahi Press. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Unit1: What Can We Do to Fight Climate Change? (前半) 第 2 回 Unit1: What Can We Do to Fight Climate Change? (後半) 第 3 回 Unit2: Some People Do Not Want to Use Emoney (前半) 第 4 回 Unit2: Some People Do Not Want to Use Emoney (後半) 第 5 回 Unit4: What Is the Best Type of Exercise? (前半) 第 6 回 Unit4: What Is the Best Type of Exercise? (後半) 第 7 回 Unit10: Are You Ready for Unmanned Convenience Stores? (前半) 第 8 回 Unit10: Are You Ready for Unmanned Convenience Stores? (後半) 第 9 回 Unit12: How Healthy Is Your Breakfast? (前半) 第 10 回 Unit12: How Healthy Is Your Breakfast? (後半) 第 11 回 Unit14: Noise Pollution Can Have a Negative Effect on Your Health (前半) 第 12 回 Unit14: Noise Pollution Can Have a Negative Effect on Your Health (後半) 第 13 回 Presentation Preparation1 第 14 回 Presentation Preparation2 第 15 回 Group Presentation				
授業外学習 (予習・復習)	予習：テキストに出てくる単語を調べておく、小テスト勉強 復習：小テストで間違った部分を見直しておく その他：プレゼンテーション準備				
成績評価の方法	授業参加（授業での発言内容）が 30%、小テストが 40%、プレゼンテーションが 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 29			担当者	パトリック・ゴーラム
	英語Ⅱ（A）			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Eigo II is a multi skills English class practicing speaking, listening and reading. 【概要】 Students will work have regular homework assignments. 【到達目標】 The aim of the course is to develop their overall English abilities.				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) Class orientation				
授業 スケジュール	第 1 回 Unit 1 How was your vacation? 第 2 回 Unit 1 How was your vacation? 第 3 回 Unit 1 How was your vacation? 第 4 回 Unit 2 I think it's exciting! 第 5 回 Unit 2 I think it's exciting! 第 6 回 Unit 2 I think it's exciting! 第 7 回 Unit 3 Do it before you're 30! 第 8 回 Unit 3 Do it before you're 30! 第 9 回 Unit 4 The best place in the world! 第 10 回 Unit 4 The best place in the world! 第 11 回 Unit 5 Where's the party? 第 12 回 Unit 5 Where's the party? 第 13 回 Unit 6 You should try it! 第 14 回 Final Exam 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	Final Exam (50%), Speaking test (30%), Quizzes (10%), Attendance (10%)				
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 30			担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	英語Ⅱ (A)			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This class will combine the 4 skills to allow students to express opinions about a variety of topics in English. 【概要】 We will use handouts and videos in our class and discussions. They will depend on the student level and interests. 【到達目標】 There will be pair work, group work and small practice presentations. Topics will vary each time.				
学生の主体的・対話的な学び	No designated textbook. Worksheets and handouts will be given at the beginning of each class.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) No designated textbook. Worksheets and handouts will be given at the beginning of each class. (2) プリントを配布する場合があります。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション・説明 Orientation class 第 2 回 Worksheet/pair work: Friendship 第 3 回 Worksheet/pair work: Happiness 第 4 回 グループワーク 1 Group work, preparation for presentation 第 5 回 グループ発表 1 First presentation (scheduled) 第 6 回 Video Watch: share your opinion 1 第 7 回 Video Watch: share your opinion 2 第 8 回 Worksheet/pair work: Food 第 9 回 Worksheet/pair work: SDGs 1 第 10 回 Worksheet/pair work: SDGs 2 第 11 回 グループワーク 2 Group work, preparation for presentation 第 12 回 グループ発表 2 Second presentation 第 13 回 Worksheet/pair work: Travel 第 14 回 クラスワーク (コース復習) Revision of all topics covered. 第 15 回 まとめ (Final worksheet/Revision)				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + グループ発表 30 + 作文 (宿題-20%) を基準に、総合的に評価する。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 31			担当者	ジョン・トレマーコ
	英語Ⅱ（B）			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Everyday Conversation. 【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations. 【到達目標】 To improve students' English communication skills.				
学生の主体的・対話的な学び	English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入－コースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: My heart will go on 第 3 回 Unit 2: Open arms 第 4 回 Unit 3: Life 第 5 回 Unit 4: Don't look back in anger 第 6 回 Unit 5: A whole new world 第 7 回 Unit 6: I don't want to miss a thing 第 8 回 Unit 7: Review 1 第 9 回 Unit 8: The stranger 第 10 回 Unit 9: Hey Now 第 11 回 Unit 10: Every time I close my eyes 第 12 回 Unit 11: Kiss of life 第 13 回 Unit 12: All I want for Christmas is you 第 14 回 Unit 13: Livin' la vida loca 第 15 回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 32			担当者	デビッド・マルチネズ
	英語Ⅱ（B）			授業外対応	After the class
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 The course will provide students with basic speaking and listening skills. 【概要】 Students will discuss selected topics and respond to opinions using clearly defined and easily reproduced conversation models. In-class activities will be supplemented with some homework assignments. 【到達目標】 The course will emphasize reducing unnatural silence, confirming information and responding to questions concisely and accurately.				
学生の主体的・対話的な学び	All materials will be prepared by the instructor.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be prepared by the instructor. (2) N/A				
授業 スケジュール	第 1 回 Course overview and survey 第 2 回 The 5 Ws for making/understanding questions 第 3 回 Describing a person 第 4 回 Clothing and fashion 第 5 回 Cooking and eating 第 6 回 Going and coming back, traveling 第 7 回 Complaining, recommending and commanding 第 8 回 Review Test 1 第 9 回 Hobbies and Weekend Activities 第 10 回 How to keep conversation going 第 11 回 Memories of childhood 第 12 回 Memories of other places 第 13 回 Talking about problems 第 14 回 Giving advice 第 15 回 Review Test 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 33			担当者	ジョン・トレマーコ
	英語Ⅱ（C）			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Everyday Conversation. 【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations. 【到達目標】 To improve students' English communication skills.				
学生の主体的・対話的な学び	English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入－コースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: My heart will go on 第 3 回 Unit 2: Open arms 第 4 回 Unit 3: Life 第 5 回 Unit 4: Don't look back in anger 第 6 回 Unit 5: A whole new world 第 7 回 Unit 6: I don't want to miss a thing 第 8 回 Unit 7: Review 1 第 9 回 Unit 8: The stranger 第 10 回 Unit 9: Hey Now 第 11 回 Unit 10: Every time I close my eyes 第 12 回 Unit 11: Kiss of life 第 13 回 Unit 12: All I want for Christmas is you 第 14 回 Unit 13: Livin' la vida loca 第 15 回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 34			担当者	内尾ホープ
	英語Ⅱ（C）			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 The main objective is to improve reading, listening and speaking skills. 【概要】 Students will mainly practice, reading, listening and speaking skills. 【到達目標】 The emphasis will be on improving, reading, speaking and listening skills.				
学生の主体的・対話的な学び	Global Issues: An Introduction to Discussion Skills				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Global Issues: An Introduction to Discussion Skills (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction 第 2 回 Unit 1: warm-up conversation, textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 3 回 Warm-up conversation; Unit 1 oral quiz; Unit 2: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 4 回 Warm-up conversation Unit 2 oral quiz; Unit 3: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 5 回 Warm-up conversation; Unit 3 oral quiz; Unit 4: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 6 回 Unit 4 oral quiz; UNIT 3 SHORT TEST; Unit 5: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 7 回 Warm-up conversation; Unit 5 oral quiz; Unit 6: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 8 回 Warm-up conversation; Unit 6 oral quiz; Unit 7: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 9 回 Unit 7 oral quiz; UNIT 6 SHORT TEST; Unit 8: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 10 回 Warm-up conversation; Unit 8 oral quiz; Unit 9: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 11 回 Warm-up conversation; Unit 9 oral quiz; Unit 10: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 12 回 Unit 10 oral quiz; UNIT 9 SHORT TEST; Unit 11: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 13 回 Warm-up conversation; Unit 11 oral quiz; Unit 12: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 14 回 Warm-up conversation; Unit 12 oral quiz; Unit 13: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations 第 15 回 Unit 13 oral quiz; UNIT 12 SHORT TEST; Unit 14: textbook exercises; writing opinions; practicing discussion conversations				
授業外学習 (予習・復習)	なし				
成績評価の方法	Oral Quizzes: 15% Worksheets: 15% Short Tests: 30% Final Exam: 40%				
実務経験について	A written final exam will be given on the 16th day.				

授業科目	授業番号： 35			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅱ（D）			授業外対応	After Class, and as needed
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This course develops listening and speaking proficiency. 【概要】 Each unit includes a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to improve their ability to use English in short conversations and brief presentations. 【到達目標】 Students will develop their ability to speak and comprehend English. Their confidence in the use of English will be strengthened.				
学生の主体的・対話的な学び	Listen Up, Talk Back, Book1.Gillian Flaherty (Seibido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book1.Gillian Flaherty (Seibido Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction to the course, key concepts 第 2 回 Meeting New People 第 3 回 Family 第 4 回 Transportation in the City 第 5 回 Shopping 第 6 回 Celebrations 第 7 回 Review Quiz 第 8 回 Volunteering 第 9 回 Staying Well 第 10 回 Pets 第 11 回 Free Time Activities 第 12 回 Music 第 13 回 Volunteering 第 14 回 Review of Key Units in Class Groups 第 15 回 Final Oral Review Practice				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 36			担当者	デビッド・マルチネズ
	英語Ⅱ（D）			授業外対応	After the class
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 The course will provide students with basic speaking and listening skills. 【概要】 Students will discuss selected topics and respond to opinions using clearly defined and easily reproduced conversation models. In-class activities will be supplemented with some homework assignments. 【到達目標】 The course will emphasize reducing unnatural silence, confirming information and responding to questions concisely and accurately.				
学生の主体的・対話的な学び	All materials will be prepared by the instructor.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be prepared by the instructor. (2) N/A				
授業 スケジュール	第 1 回 Course overview and survey 第 2 回 The 5 Ws for making/understanding questions 第 3 回 Describing a person 第 4 回 Clothing and fashion 第 5 回 Cooking and eating 第 6 回 Going and coming back, traveling 第 7 回 Complaining, recommending and commanding 第 8 回 Review Test 1 第 9 回 Hobbies and Weekend Activities 第 10 回 How to keep conversation going 第 11 回 Memories of childhood 第 12 回 Memories of other places 第 13 回 Talking about problems 第 14 回 Giving advice 第 15 回 Review Test 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 37			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅱ（D）			授業外対応	After Class, and as needed
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This course develops listening and speaking proficiency. 【概要】 Each unit includes a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to improve their ability to use English in short conversations and brief presentations. 【到達目標】 Students will develop their ability to speak and comprehend English. Their confidence in the use of English will be strengthened.				
学生の主体的・対話的な学び	Listen Up, Talk Back, Book1.Gillian Flaherty (Seibido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book1.Gillian Flaherty (Seibido Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction to the course, key concepts 第 2 回 Meeting New People 第 3 回 Family 第 4 回 Transportation in the City 第 5 回 Shopping 第 6 回 Celebrations 第 7 回 Review All Previous Chapters 第 8 回 Volunteering 第 9 回 Staying Well 第 10 回 Pets 第 11 回 Free Time Activities 第 12 回 Music 第 13 回 Volunteering 第 14 回 Review of Key Units in Class Groups 第 15 回 Final Oral Review Practice				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 38			担当者	ジョン・トレマーコ
	英語Ⅱ（D）			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Everyday Conversation. 【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations. 【到達目標】 To improve students' English communication skills.				
学生の主体的・対話的な学び	English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入－コースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: My heart will go on 第 3 回 Unit 2: Open arms 第 4 回 Unit 3: Life 第 5 回 Unit 4: Don't look back in anger 第 6 回 Unit 5: A whole new world 第 7 回 Unit 6: I don't want to miss a thing 第 8 回 Unit 7: Review 1 第 9 回 Unit 8: The stranger 第 10 回 Unit 9: Hey Now 第 11 回 Unit 10: Every time I close my eyes 第 12 回 Unit 11: Kiss of life 第 13 回 Unit 12: All I want for Christmas is you 第 14 回 Unit 13: Livin' la vida loca 第 15 回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 39			担当者	デビッド・マルチネズ
	英語Ⅲ（A）			授業外対応	After the class
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 The class further develops skills to help English ability. 【概要】 Students will learn to identify topics for discussion and utilize rhetorical strategies in order to initiate or participate in basic debate. Using clear conversation models, students should be able to identify a topic, give their opinions and support thei 【到達目標】 This course will help students organize ideas, form opinions and provide reasons in order to have more meaningful English conversations.				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) N/A				
授業 スケジュール	第 1 回 Course overview and survey 第 2 回 Music and Movies 第 3 回 Polite English & negative expressions 第 4 回 Inviting and declining 第 5 回 Reporting what someone else said 第 6 回 Talking about feelings 第 7 回 Stress and intonation 第 8 回 Review Test 1 第 9 回 Finding issues and giving opinions 第 10 回 Giving reasons 第 11 回 Supporting your reasons 第 12 回 Debate practice 第 13 回 Confirming and summarizing a thought 第 14 回 Refuting someone's argument 第 15 回 Review Test 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 40			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅲ（B）			授業外対応	After Class, and as needed
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This course develops proficiency in English and content knowledge. 【概要】 This course focuses on developing the students' proficiency in English (reading, writing, speaking and listening) through the study of content materials related to the subjects of health, science, and nutrition. Other subject areas may be introduced. Topic 【到達目標】 This course improves reading comprehension, develops vocabulary knowledge, and fosters the ability to express opinions in spoken English.				
学生の主体的・対話的な学び	Health Habits for a Better Life. Joan McConnell, Kiyoshi Yamauchi. (Seibido. Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Health Habits for a Better Life. Joan McConnell, Kiyoshi Yamauchi. (Seibido. Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction to the course, key concepts 第 2 回 Sleep is Important 第 3 回 Is Salt Bad for Us? 第 4 回 Water is Wonderful 第 5 回 Hot Springs: A Miracle of Nature 第 6 回 Healthy Lessons from the Blue Zones 第 7 回 Unhealthy Habits 第 8 回 Let's Dance 第 9 回 The Story of Sugar 第 10 回 Companion Animals 第 11 回 Music and Medicine 第 12 回 Please Listen to Me! 第 13 回 Let's Eat Together! 第 14 回 Believe in Yourself! 第 15 回 The Interview & Reivew				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 41			担当者	金岡 正夫
	英語Ⅲ（C）			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】大学生の視点から幅広く社会観や世界観を身につける。自国の歴史、開国と英語の到来の明治期、英語学習の動機づけなどを扱う。 【概要】テキストを使いながら人生進路を含め、自身のアイデンティティ構築に取り組む。積極的に日本語（母語）と英語（外国語）を活用していく。予習課題をもとに音読とライティングの学習強化をはかる。 【到達目標】スムーズに音読ができ、自分の考えや意見を英語で述べる。論理的な内容を日本語と英語で作れるよう、ライティング知識も習得していく。				
学生の主体的・対話的な学び	良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3 (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 音読知識とテクニック (1) 発音、アクセント 第 3 回 音読知識とテクニック (2) チャンキングルールとフレーズリーディング 第 4 回 音読知識とテクニック (3) 連結発音（リエゾン）に関するルールの理解と実践 第 5 回 音読知識とテクニック (4) Words Per Minute (WPM) を使った安定した速読練習 第 6 回 音読知識とテクニック (5) パラ言語の理解と応用実践 第 7 回 音読知識とテクニック (6) 学習したすべての項目を統合したスピーキング練習 (1) 第 8 回 音読知識とテクニック (6) 学習したすべての項目を統合したスピーキング練習 (2) 第 9 回 英文読解に向けた方略 (1) テキストの論理の流れの理解（タテのつながり） 第 10 回 英文読解に向けた方略 (2) テキストの論理の流れの理解（ヨコのつながり） 第 11 回 自身の考えを述べる—論理的な内容構築の練習 第 12 回 自身の考えを述べる—英文読解をふまえた要約づくりの練習 第 13 回 自身の考えを述べる—英文読解をふまえたポイント中心の要約づくりの練習 第 14 回 まとめ—自分自身にとって英語とは？その学習の存在意義とは？ 第 15 回 まとめ—大学生としてもつべき価値観、信念、生き方とは？				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示します				
成績評価の方法	プレゼンテーション（20%）、レポート（テキスト関連）（20%）、レポート（プレゼンテーション関連）（60%）				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 42			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅲ（D）			授業外対応	After Class, and as needed
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This course focuses on the use of conversational English in daily life. 【概要】 The course provides students with opportunities to develop their listening skills, conversational skills, and vocabulary knowledge. Students listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create role plays and perform them before 【到達目標】 Proficiency in conversational English is developed. By providing many opportunities for speaking practice, the students' confidence is enhanced.				
学生の主体的・対話的な学び	Listen to this! Inter. James Bean with Gillian Flaherty (Seibido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen to this! Inter. James Bean with Gillian Flaherty (Seibido Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction to the course, key concepts & "Please Leave a Message". 第 2 回 You Need a Break! 第 3 回 I Think We're Lost 第 4 回 Where did You Grow Up? 第 5 回 It's a goal! 第 6 回 Sightseeing 第 7 回 TV Violence 第 8 回 I'd Like to Return This 第 9 回 What a Great Vacation! 第 10 回 Can You Help Me with My Essay? 第 11 回 What Happens to Our Trash? 第 12 回 I Feel Terrible 第 13 回 Future Plans 第 14 回 I Disagree! 第 15 回 Review and Consolidation				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 43			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅲ（E）			授業外対応	After Class, and as needed
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This course develops English proficiency; the ability to express opinions. 【概要】 Student listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create their own conversations. They learn how to express their own opinions and engage in short discussions related to the topics encountered in the text. 【到達目標】 The course develops the student's proficiency in everyday conversational English and their ability to confidently express their opinions on many topics.				
学生の主体的・対話的な学び	Complete Communication Intermediate James Bury et.al. (Sebido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Complete Communication Intermediate James Bury et.al. (Sebido Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction to the Course 第 2 回 What are You Into? Talking about Hobbies and Interests 第 3 回 Who are They? Talking about friends and family 第 4 回 What Shall we Watch? Talking about Movies and TV 第 5 回 What are you Listening to? Talking about Music 第 6 回 What are you reading? Talking about books 第 7 回 I'm Hungry – Talking about Food 第 8 回 Review 1 第 9 回 How do you stay fit? Talking about Health 第 10 回 I Don't Feel so Good – Talking about Illness 第 11 回 Why Do You Do That? Talking about Culture 第 12 回 It's a Special Day – Talking about Holidays and Festivals 第 13 回 I've Never Done That Before – Talking about Experiences 第 14 回 Let's Meet in Paris! Talking about the Future 第 15 回 Review and Consolidation				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

授業科目	授業番号： 44			担当者	新福 豊実
	英語Ⅲ（F）			授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。 【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。前期開講の英語 I(B)(C)から発展させた内容を学習します（ただし前期開講の英語 I(B)(C)の履修が必須ではありません）。 【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman (2) 授業時に適宜指示する。				
授業 スケジュール	第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero) 第 2 回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1) 第 3 回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2) 第 4 回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3) 第 5 回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4) 第 6 回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5) 第 7 回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6) 第 8 回 Review I 第 9 回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7) 第 10 回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8) 第 11 回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9) 第 12 回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10) 第 13 回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11) 第 14 回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12) 第 15 回 Review II				
授業外学習 (予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。				
成績評価の方法	期末試験（40％）復習テスト（40％）課題（20％）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 45			担当者	デビッド・マルチネズ
	英語Ⅲ（G）			授業外対応	After the class
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 The class further develops skills to help English ability. 【概要】 Students will learn to identify topics for discussion and utilize rhetorical strategies in order to initiate or participate in basic debate. Using clear conversation models, students should be able to identify a topic, give their opinions and support thei 【到達目標】 This course will help students organize ideas, form opinions and provide reasons in order to have more meaningful English conversations.				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) N/A				
授業 スケジュール	第 1 回 Course overview and survey 第 2 回 Music and Movies 第 3 回 Polite English & negative expressions 第 4 回 Inviting and declining 第 5 回 Reporting what someone else said 第 6 回 Talking about feelings 第 7 回 Stress and intonation 第 8 回 Review Test 1 第 9 回 Finding issues and giving opinions 第 10 回 Giving reasons 第 11 回 Supporting your reasons 第 12 回 Debate practice 第 13 回 Confirming and summarizing a thought 第 14 回 Refuting someone's argument 第 15 回 Review Test 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In class activities/participation: 30% Homework: 30% Review Test 1: 20% Review Test 2: 20%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 46			担当者	ジョン・トレマーコ
	英語Ⅳ（A）			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Everyday Conversation. 【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations. 【到達目標】 To improve students' communication skills.				
学生の主体的・対話的な学び	English with Pop Hits; Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Pop Hits; Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入－コースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: Complicated 第 3 回 Unit 2: SOS 第 4 回 Unit 3: You are not alone 第 5 回 Unit 4: Don't want to lose you 第 6 回 Unit 5: How crazy are you 第 7 回 Unit 6: Sunday Morning 第 8 回 Unit 7: Review 1 第 9 回 Unit 8: I want it that way 第 10 回 Unit 9: Suddenly I see 第 11 回 Unit 10: How am I supposed to live without you 第 12 回 Unit 11: Save the best for Last 第 13 回 Unit 12: Torn 第 14 回 Unit 13: La La means I love you 第 15 回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 47			担当者	グレゴリー・ダン
	英語Ⅳ（B）			授業外対応	After Class, and as needed
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This course develops listening and speaking proficiency. 【概要】 This course develops the listening and speaking proficiency of students through the study and practice of English in everyday situations. It encourages creativity by allowing students to create their own conversations. 【到達目標】 Students will gain the ability to communicate in English naturally with confidence and become more capable of conversing creatively.				
学生の主体的・対話的な学び	Listen Up, Talk Back, Book 2. Gillian Flaherty (Seibido Press)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book 2. Gillian Flaherty (Seibido Press) (2) None				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction to the course, key concepts 第 2 回 Campus Life 第 3 回 Health Care 第 4 回 My Favorite Things 第 5 回 International Travel 第 6 回 Weather 第 7 回 Education 第 8 回 Review All Previous Chapters 第 9 回 Exploring a New City 第 10 回 Learning English 第 11 回 Money 第 12 回 The Environment 第 13 回 News 第 14 回 Review of Key Units in Class Groups 第 15 回 Final Oral Review Practice				
授業外学習 (予習・復習)	Listening activities as well as reading and writing activities will be required.				
成績評価の方法	Oral Activities (Presentations and Role Plays): 30%; Homework: 20%; Quizzes: 20%; Exams 30%				
実務経験について	None				

None

授業科目	授業番号： 48			担当者	金岡 正夫
	英語Ⅳ（D）			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】自己成長と英語学習の成熟に向け、卒業までに重要となる考え方、人生観、世界観を学んでいく。 【概要】実社会や海外に通用する大学生づくりとは何か—どうすればそれが構築していけるのか、英文読解を介して進めていく。担当教員の個人体験（米国大学院留学生活）も紹介する。授業では考えたり話し合いをもとに内容理解を深め、予習課題を通して確かな自分づくりにつなげていく。同時に英語の本質（存在意義）についても理解を広めていく。 【到達目標】世界トップレベルの大学が考えている「大学生力」や「人生の成功の意味」を理解する。関連した格言（座右の銘）も理解する。自分が持つべき信念や価値観も明らかにし、英語で述べていく。				
学生の主体的・対話的な学び	良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 良質なテキストで自己成熟&英語成熟をめざして（英宝社）ISBN 978-4-269-13017-3 (2) 特になし				
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 米国の大学入試問題（エッセイ）が重視すること 第 3 回 米国の大学教育で伝統的に重視する点とその理由 第 4 回 英国の大学入試問題で試されること 第 5 回 英国の大学がもっているこだわりと信念 第 6 回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景（1） 第 7 回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景（2） 第 8 回 まとめ 第 9 回 グローバル時代の英語学習者と英語学習動機づけ 第 10 回 グローバル社会の功罪について大学で議論すべきこと 第 11 回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念（1） 第 12 回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念（2） 第 13 回 英語の達人とされる日本人—その歴史的偉業と大切にした価値観・信念（3） 第 14 回 自分自身にとって英語とは？その学習の存在意義とは？ 第 15 回 まとめ				
授業外学習（予習・復習）	適宜指示します				
成績評価の方法	プレゼンテーション（20%）、レポート（テキスト関連）（20%）、レポート（プレゼンテーション関連）（60%）				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 49			担当者	野田 ゆり子
	英語Ⅳ（E）			授業外対応	授業前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英検 2 級対策 【概要】本授業は、英検対策を目的としたクラスです。Listening と Reading の問題を解いていくだけでなく、単語テストを行ったり、Writing を学生同士で添削し合ったり、面接の対策を行ったりすることで、英語の四技能（Listening, Reading, Writing, Speaking）をバランス良く向上させます。自分の弱点を発見し、個々の課題に向かって取り組むことで、英検 2 級合格レベルの英語力に到達することを最終的な目標としています。 【到達目標】英語の四技能（Listening, Reading, Speaking, Writing）をバランスよく向上させ、英検 2 級レベルに到達する。				
学生の主体的・対話的な学び	Hiromi Imamura et al. Path to Success（英検 2 級 サクセスパス）. Kinseido. Judith Nadell et al. Vocabulary Basics. Seibido.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Hiromi Imamura et al. Path to Success（英検 2 級 サクセスパス）. Kinseido. Judith Nadell et al. Vocabulary Basics. Seibido. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction: 英検 2 級ミニテスト（弱点の確認） 第 2 回 Lesson1: Reading and Listening 第 3 回 Lesson2: Reading and Listening 第 4 回 Lesson3: Reading and Listening 第 5 回 Lesson4: Reading and Listening 第 6 回 Vocabulary Quiz1、Writing 第 7 回 Lesson5: Reading and Listening 第 8 回 Lesson6: Reading and Listening 第 9 回 Lesson7: Reading and Listening 第 10 回 Lesson8: Reading and Listening 第 11 回 Vocabulary Quiz2、Writing 第 12 回 英検 2 級模擬テスト（Reading and Listening） 第 13 回 英検 2 級模擬テスト（Reading and Listening 答え合わせ、Writing） 第 14 回 二次試験面接対策 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	予習：単語の勉強 復習：授業で間違えた問題を見直しておく				
成績評価の方法	授業参加（授業での発言内容）が 20%、Vocabulary Quiz が 40%、復習テストが 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 50			担当者	遠峯 伸一郎
	英語Ⅳ（F）			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1, 2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】基礎的な英文法と英作文。 【概要】単語とフレーズの関係を整理し、文がフレーズでできていることを学ぶ。その後に、一つの文を正しく完成させる力を養成し、最終的にはまとまりのある一定の長さの文章を完成できることを目標とする。 【到達目標】日本語と英語の表現様式の違いを理解し、英語として適切な英作文ができる。				
学生の主体的・対話的な学び	石井洋佑 (2023) 『ゼロから覚醒 はじめよう英作文』かんき出版, 東京。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 石井洋佑 (2023) 『ゼロから覚醒 はじめよう英作文』かんき出版, 東京。 (2) 三森ゆりか (2003) 『外国語を身につけるための日本語レッスン』大修館書店, 東京。／池上嘉彦 (2006) 『英語の感覚・日本語の感覚 <ことばの意味>の仕組み』NHK 出版, 東京。／四軒家忍 (2019) 『TOEFL テスト集中攻略ライティング』テイエス企画, 東京。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 Stage 1 (1) 第 3 回 Stage 1 (2) 第 4 回 Stage 2 (1) 第 5 回 Stage 2 (2) 第 6 回 Stage 3 (1) 第 7 回 Stage 3 (2) 第 8 回 Stage 4 (1) 第 9 回 Stage 4 (2) 第 10 回 Stage 4 (3) 第 11 回 Stage 5 (1) 第 12 回 Stage 5 (2) 第 13 回 Stage 6 (1) 第 14 回 Stage 6 (2) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 1 時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 51			担当者	英語担当教員全員
	異文化コミュニケーション (英語)			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
		通年	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。 【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2025 年度の実績 日程：9 月 1 日～9 月 13 日 参加者：30 名 研修費用：約 47 万円※1 ドルが 145 円～160 円の場合（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の朝・昼食費等） 【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく，ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)				
授業 スケジュール	事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に 3～4 回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。 海外研修： 9 月を予定（約 2 週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC 学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。 事後指導：帰国後に総括。				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 52			担当者	中国語担当教員全員
	異文化コミュニケーション (中国語)			授業外対応	ガイダンスで指示
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	通年	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。 【概要】県立短大と交流協定を結んでいる南京農業大学国際教育学院で研修を行います。この科目は中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を学びながら南京農業大学の学生とも交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。 ※2019 年度中国研修の実績 ・日程：9 月 7 日（土）～21 日（土）[15 日間] ・参加者：11 名（日文 3，英文 4，経済 1，経情 2，二部 1） ・費用：約 19 万円（ビザ，往復航空券，授業料，宿泊費，南京市内・市外の見学費用など） 【到達目標】中国語運用能力を高めるだけでなく、中国の文化を学び、「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。				
学生の主体的 ・対話的な学び	南京農業大学の担当教員が指示				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学の担当教員が指示 (2) なし				
授業 スケジュール	事前指導：受講希望者に 3～5 回行います。[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明，[2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明，[3] 課題（レポート作成）の指示などです。 海外研修：9 月の夏期休業期間に約 2 週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。 事後指導：帰国後に総括します。				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%），および中国での学習成果（50%）をもとに成績を算出します。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 53			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	スペイン語 I			授業外対応	オフィスアワー及びメール
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】本コースでは、スペイン語の基本的な文法、語彙とスキルを学ぶ。 【概要】スペインおよびヒスパニック文化に関連する様々なテーマを通じて、スペイン語の基礎を学習する 【到達目標】本コースでは、生徒が日常会話に適したスペイン語の基本的な語彙や表現を習得し、使用できるようになります。同時に、会話やその他の活動における文法の学習を通じて、聴解力を深め、スペイン語の基礎知識を強化します。				
学生の主体的・対話的な学び	Juan Felipe García Santos, Gloria García Catalán, Alba M. Hernández Martín y Antonio Re. ELElab A1-A2. Asahi y universidad de Salamanca				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Juan Felipe García Santos, Gloria García Catalán, Alba M. Hernández Martín y Antonio Re. ELElab A1-A2. Asahi y universidad de Salamanca (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 ユニット 1：挨拶と別れの言葉。文法：「ser」と「llamarse」動詞。会話練習。 第 2 回 ユニット 1：自己紹介。文法：「tener」動詞；疑問代名詞；指示詞。会話練習 第 3 回 ユニット 1：誰かを紹介・個人情報を求めたり提供したりする。文法：性別と数；アルファベットと数字；定冠詞。会話練習 第 4 回 スペインとラテンアメリカの文化 第 5 回 ユニット 2: 習慣や日常的な行動について話す。文法：現在形の動詞を使って、個人情報を適用したり習慣になしたりする。会話練習。 第 6 回 ユニット 2: スケジュールと頻度について話す。文法：頻度を表す副詞と表現。会話練習。 第 7 回 ユニット 2: 個人データ及び他者のデータに関する情報の要求と提供・時間と日付を尋ねて伝える。文法：疑問代名詞。会話練習。 第 8 回 小テスト 第 9 回 ユニット 3: 個人的な関係や家族関係について話す。文法：所有格。会話練習。 第 10 回 ユニット 3: 外見と性格について話す。文法：「estar」動詞。会話練習。 第 11 回 ユニット 3: 比較する・家を説明する。文法：比較級。会話練習。 第 12 回 スペインとラテンアメリカの文化 第 13 回 ユニット 4: 場所の存在と位置について報告する・住所を尋ねて教える。文法：不定冠詞・存在と位置を表す動詞。会話練習。 第 14 回 ユニット 4: 場所の行き方を指示する・注目を集める。文法：市時代名詞と場所を表す副詞・指示を表す動詞。会話練習。 第 15 回 ユニット 4: 電話で話す。文法：「ir」, 「venir」, 「llevar」, 「traer」動詞・序数。会話練習。まとめ				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	小テストと期末試験の点数の平均				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 54			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	スペイン語Ⅱ			授業外対応	オフィスアワー及びメール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】本コースでは、スペイン語の基本的な文法、語彙とスキルを学ぶ。 【概要】スペインおよびヒスパニック文化に関連する様々なテーマを通じて、スペイン語の基礎を学習する 【到達目標】本コースでは、生徒が日常会話に適したスペイン語の基本的な語彙や表現を習得し、使用できるようになります。同時に、会話やその他の活動における文法の学習を通じて、聴解力を深め、スペイン語の基礎知識を強化します。				
学生の主体的・対話的な学び	Juan Felipe García Santos, Gloria García Catalán, Alba M. Hernández Martín y Antonio Re. ELElab A1-A2. Asahi y universidad de Salamanca				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Juan Felipe García Santos, Gloria García Catalán, Alba M. Hernández Martín y Antonio Re. ELElab A1-A2. Asahi y universidad de Salamanca (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 ユニット 1: 好みや嗜好を表現する・賛成と反対を表明する。文法：「gustar」, 「encantar」, 「querer」, 「preferir」。会話練習 第 2 回 ユニット 1: 趣味について話す・原因を述べる。文法：「porque」。会話練習 第 3 回 ユニット 1: 言うことを強化する・スキルについて話す。文法：相対的・絶対的最上級「saber」と「poder」動詞。会話練習。 第 4 回 スペインとラテンアメリカ文化 第 5 回 ユニット 2: プランを提案する。文法：プランを提案、承諾、拒否するためのリソース。会話練習。 第 6 回 ユニット 2: 進行中の取り組みについて話す。文法：「estar」＋ 現在分詞。 第 7 回 ユニット 2: バーやレストランで振る舞う。文法：「poner」動詞。会話練習 第 8 回 小テスト 第 9 回 ユニット 3: スーパーやお店で買い物する・値段を尋ねる。文法：不定詞・数量詞。会話練習 第 10 回 ユニット 3: 数量について話す・衣類、素材、モニについて説明する。文法：数字 (100 から 1000 まで)・三人称の目的語。会話練習 第 11 回 ユニット 3: 目的を表明する。文法：前置詞「para」・関係名詞「que」のいくつかの用法。会話練習 第 12 回 スペインとラテンアメリカの文化。 第 13 回 ユニット 4: 気分や体調を表現し、痛みについて話す。文法：「doler」, 「encontrarse」, 「sentirse」動詞。会話練習 第 14 回 ユニット 4: 必要性を表明する。文法：「tener que」＋ 不定詞；「necesitar」＋ 不定詞；「deber」＋ 不定詞。会話練習。 第 15 回 ユニット 4: アドバイスを求めたり与えたりする・命令を下し、禁止事項を述べる 文法：「es」＋形容詞＋不定詞。会話練習。まとめ				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	小テストと期末試験の点数の平均				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 55			担当者	荒巻 那月
	ドイツ語 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】音読を中心にドイツ語の基礎を学び、文法構造を修得する。 【概要】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスと共にこの動きの中核をなす国の一つです。またドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながらドイツ語を学習します。ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、授業は元々よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。 【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。				
学生の主体的・対話的な学び	荻野蔵平・Tobias Bauer 著、大学生のドイツ語教本『青春はうるわし』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 荻野蔵平・Tobias Bauer 著、大学生のドイツ語教本『青春はうるわし』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞書』三修社				
授業 スケジュール	第 1 回 ドイツ語及びドイツ語圏について、文字、アルファベット 第 2 回 綴り字と発音の規則、発音練習 第 3 回 第1課 人称と動詞の現在人称変化、定動詞の位置、動詞 sein 第 4 回 第1課 第 5 回 第1課 第 6 回 第2課 名詞の性、定冠詞と不定冠詞、名詞の格変化、動詞 haben 第 7 回 第2課 第 8 回 第2課 第 9 回 第3課 名詞の複数形、複数名詞の格変化、男性弱変化名詞 第10回 第3課 第11回 第4課 不規則動詞、命令形、人称代名詞、動詞 werden 第12回 第4課 第13回 第4課 第14回 これまでの復習 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要。				
成績評価の方法	筆記試験 80%、授業への参加状況 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 56			担当者	荒巻 那月
	ドイツ語Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】音読を中心にドイツ語の基礎を学び、文法構造を修得する。 【概要】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスと共にこの動きの中核をなす国の一つです。またドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながらドイツ語を学習します。ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが、授業は元々よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。 【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。				
学生の主体的・対話的な学び	荻野蔵平・Tobias Bauer 著、大学生のドイツ語教本『青春はうるわし』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 荻野蔵平・Tobias Bauer 著、大学生のドイツ語教本『青春はうるわし』朝日出版社 (2) 在間進 他『アクセス独和辞書』三修社				
授業 スケジュール	第 1 回 前期の復習 第 2 回 第 5 課 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形 第 3 回 第 5 課 第 4 回 第 5 課 第 5 回 第 6 課 定冠詞類、不定冠詞類、否定の nicht、否定冠詞 kein 第 6 回 第 6 課 第 7 回 第 7 課 分離動詞、非分離動詞、副文、従属接続詞 第 8 回 第 7 課 第 9 回 第 7 課 第 10 回 第 8 課 話法の助動詞、未来形 第 11 回 第 8 課 第 12 回 第 9 課と 10 課 動詞の三基本形、過去人称変化、現在完了、非人称の es 第 13 回 第 9 課と 10 課 第 14 回 これまでの復習 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要。				
成績評価の方法	筆記試験 80%、授業への参加状況 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 57			担当者	梁川 英俊
	フランス語Ⅰ (A)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】フランス語の基礎を学びます。 【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 ヶ国に及び、国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとも共通点が多く、歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の 3 分の 2 はフランス語に由来すると言われています。フランス語はまた、お洒落や美食を語る上でも欠かせない言葉です。 【到達目標】まずはフランス語をしっかりと発音できるようにし、そのうえで簡単な日常会話のフレーズも覚えましょう。授業中に集中すれば大丈夫です。				
学生の主体的・対話的な学び	『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社） (2) 適宜指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 授業全体の説明，アルファベットの発音など 第 2 回 Leçon 1 第 3 回 Leçon 1 第 4 回 Leçon 2 第 5 回 Leçon 2 第 6 回 Leçon 3 第 7 回 Leçon 3 第 8 回 Leçon 4 第 9 回 Leçon 4 第 10 回 Leçon 5 第 11 回 Leçon 5 第 12 回 Leçon 6 第 13 回 Leçon 6 第 14 回 Leçon 7 第 15 回 Leçon 7				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 58			担当者	梁川 英俊
	フランス語 I (B)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】フランス語の基礎を学びます。 【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 ヶ国に及び、国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとも共通点が多く、歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の 3 分の 2 はフランス語に由来すると言われています。フランス語はまた、お洒落や美食を語る上でも欠かせない言葉です。 【到達目標】まずはフランス語をしっかりと発音できるようにし、そのうえで簡単な日常会話のフレーズも覚えましょう。授業中に集中すれば大丈夫です。				
学生の主体的・対話的な学び	『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社） (2) 適宜指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 授業全体の説明，アルファベットの発音など 第 2 回 Leçon 1 第 3 回 Leçon 1 第 4 回 Leçon 2 第 5 回 Leçon 2 第 6 回 Leçon 3 第 7 回 Leçon 3 第 8 回 Leçon 4 第 9 回 Leçon 4 第 10 回 Leçon 5 第 11 回 Leçon 5 第 12 回 Leçon 6 第 13 回 Leçon 6 第 14 回 Leçon 7 第 15 回 Leçon 7				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 59			担当者	梁川 英俊
	フランス語Ⅱ (A)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】フランス語の基礎を学びます。 【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 ヶ国に及び、国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとも共通点が多く、歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の 3 分の 2 はフランス語に由来すると言われています。フランス語はまた、お洒落や美食を語る上でも欠かせない言葉です。 【到達目標】まずはフランス語をしっかりと発音できるようにし、そのうえで簡単な日常会話のフレーズも覚えましょう。授業中に集中すれば大丈夫です。				
学生の主体的・対話的な学び	『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社） (2) 適宜指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 授業全体の説明，アルファベットの発音など 第 2 回 Leçon 7 第 3 回 Leçon 7 第 4 回 Leçon 8 第 5 回 Leçon 8 第 6 回 Leçon 9 第 7 回 Leçon 9 第 8 回 Leçon 10 第 9 回 Leçon 10 第 10 回 Leçon 11 第 11 回 Leçon 11 第 12 回 Leçon 12 第 13 回 Leçon 12 第 14 回 Leçon 13 第 15 回 Leçon 13				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 60			担当者	梁川 英俊
	フランス語Ⅱ (B)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】フランス語の基礎を学びます。 【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語です。フランス語を公用語とする国は 28 ヶ国に及び、国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。スペイン語、イタリア語、ポルトガル語などとも共通点が多く、歴史的に英語にも多くの語彙を提供し、英語の語彙の 3 分の 2 はフランス語に由来すると言われています。フランス語はまた、お洒落や美食を語る上でも欠かせない言葉です。 【到達目標】まずはフランス語をしっかりと発音できるようにし、そのうえで簡単な日常会話のフレーズも覚えましょう。授業中に集中すれば大丈夫です。				
学生の主体的・対話的な学び	『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『私だけのフランス語ノート』（朝日出版社） (2) 適宜指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 授業全体の説明，アルファベットの発音など 第 2 回 Leçon 7 第 3 回 Leçon 7 第 4 回 Leçon 8 第 5 回 Leçon 8 第 6 回 Leçon 9 第 7 回 Leçon 9 第 8 回 Leçon 10 第 9 回 Leçon 10 第 10 回 Leçon 11 第 11 回 Leçon 11 第 12 回 Leçon 12 第 13 回 Leçon 12 第 14 回 Leçon 13 第 15 回 Leçon 13				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 61			担当者	楊 虹
	中国語 I (A)			授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語に親しむ。 【概要】この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。				
学生の主体的・対話的な学び	陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語 12 課』同学社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語 12 課』同学社 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習 第 2 回 発音（1）：単母音と声調の導入，練習 第 3 回 発音（2）：複母音の導入，練習 第 4 回 発音（3）：子音の導入，練習 第 5 回 発音（4）：子音の練習，発音のまとめ 第 6 回 動詞是の使い方 第 7 回 姓の言い方，尋ね方。フルネームの言い方，尋ね方 第 8 回 これまでの復習 第 9 回 動詞文の導入と練習 第 10 回 動詞文の練習，疑問文の練習 第 11 回 二つ以上の動詞からなる連動文 第 12 回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入，練習 第 13 回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回 全体の復習 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	小テスト（40%）と中国に関する発表またはレポート（10%），口頭試験（50%）で評価する				
実務経験について	なし				

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 62			担当者	中筋 健吉
	中国語 I (B)			授業外対応	メールで対応します。 k9553471@kadai.jp
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします（中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度）				
学生の主体的・対話的な学び	李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂） (2) 授業中に適宜紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨN 中国語について 教科書の使い方 第 2 回 発音篇 (1) 中国語ローマ字 (ピンイン) の習得 第 3 回 発音篇 (2) 中国語ローマ字 (ピンイン) の習得 第 4 回 発音篇復習 第 5 回 第1課 (1) 自己紹介：1.人称代詞 2.“是 shì”構文 第 6 回 第1課 (2) 身分や出身について話す 第 7 回 第2課 (1) 身の回りの物や人について話す 第 8 回 第2課 (2) 身の回りの物や人について話す 第 9 回 第3課 (1) 年齢や学年、所有について話す 第10回 第3課 (2) 年齢や学年、所有について話す 第11回 第4課 (1) 時間や一日の行動について話す 第12回 第4課 (2) 時間や一日の行動について話す 第13回 第5課 (1) 性質や状態、天候について話す 第14回 第5課 (2) 性質や状態、天候について話す 第15回 前期のまとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。				
授業外学習 (予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%) 但し状況により変更の可能性もあります。				
実務経験について	不要				

(注) 日本語日本文学専攻・英語英米文学専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 63			担当者	寺西 光輝
	中国語 I (C)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語の基礎知識を学び、現代中国の文化事情について触れる。 【概要】この授業では、中国語のピンインと声調の読み方をマスターし、簡単な挨拶と自己紹介ができることを目的とします。 授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。 【到達目標】・ごく簡単な挨拶表現を人や場面に応じて使える。 ・自分や他人を簡単に紹介することができる。日常生活でよく使われる簡単な表現を理解し、用いることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFRA1 レベル』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFRA1 レベル』朝日出版社 (2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、発音導入 第 2 回 発音編 1：単母音と声調について学ぶ 第 3 回 発音編 2：複合母音について学ぶ 第 4 回 発音編 3：鼻母音、子音について学ぶ 第 5 回 発音編 4：発音編まとめ 第 6 回 第 1 課：「是」の文型と疑問詞「哪里」について学ぶ 第 7 回 第 1 課：自己紹介と簡単な挨拶について学ぶ 第 8 回 第 2 課：指示代名詞、疑問文について学ぶ 第 9 回 第 2 課：指示代名詞、疑問文について復習する 第 10 回 第 3 課：数字の表現について学ぶ 第 11 回 第 3 課：「有/没有」の文型について学ぶ 第 12 回 第 4 課：時間と曜日の表現について学ぶ 第 13 回 第 4 課：時刻の表現について学ぶ 第 14 回 中国ドラマ鑑賞＋リスニング課題 第 15 回 前期授業内容のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の単語と文法事項を予習する。授業後にはチェックシートとクイズレットを使い単語と会話表現を復習する。				
成績評価の方法	授業への取り組み(50%)＋定期試験(50%)				
実務経験について	なし				

(注) 経済専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 64			担当者	陳 躍
	中国語Ⅰ（D）			授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは講義中に告知）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最適な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記 1 級程度。前期はその前半部分の学習に当てる				
学生の主体的・対話的な学び	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社				
授業 スケジュール	第 1 回 我是上海人 第 2 回 我叫王平 第 3 回 这里是南京路 第 4 回 现在几点了？ 第 5 回 今天是星期几？ 第 6 回 你家有几口人？ 第 7 回 没关系（映画） 第 8 回 香港的夏天热吗？（映画） 第 9 回 四川菜很好吃 （中間テスト） 第 10 回 我经常散步 第 11 回 牌价是多少？ 第 12 回 汉语难不难？ 第 13 回 我没吃蒜 第 14 回 我想去超市 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	評価割合を定期試験 50％にする。残り 50％の評価は小テストとレポートにする				
実務経験について					

（注）英語英文学専攻、経済専攻、経営情報専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 65			担当者	三木 夏華
	中国語 I (E)			授業外対応	授業終了時に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース。 【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする 【到達目標】2 ピンイン、声調記号が読めるようになる。1 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著 (2) 授業で紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 発音、声調 第 2 回 発音、声調 第 3 回 発音、声調 第 4 回 発音、声調 第 5 回 人称代名詞、名前の言い方 第 6 回 会話練習、ヒアリング 第 7 回 “的”、“是”について 第 8 回 会話練習、ヒアリング 第 9 回 動詞述語文、連動文 第 10 回 会話練習、ヒアリング 第 11 回 指示代名詞、“有”構文 第 12 回 会話練習、ヒアリング 第 13 回 “在”構文、方位詞 第 14 回 会話練習、ヒアリング 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	前回学習した課を CD を聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。				
成績評価の方法	期末試験 50%＋授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況 50%				
実務経験について	あり。鹿児島大学法文学部教授。				

(注) 経営情報専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 66			担当者	中筋 健吉
	中国語Ⅰ（F）			授業外対応	メールで対応します。 k9553471@kadai.jp
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします（中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度）				
学生の主体的・対話的な学び	李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂） (2) 授業中に適宜紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨN 中国語について 教科書の使い方 第 2 回 発音篇（1） 中国語ローマ字（ピンイン）の習得 第 3 回 発音篇（2） 中国語ローマ字（ピンイン）の習得 第 4 回 発音篇復習 第 5 回 第1課（1） 自己紹介：1.人称代詞 2.“是 shì”構文 第 6 回 第1課（2） 身分や出身について話す 第 7 回 第2課（1） 身の回りの物や人について話す 第 8 回 第2課（2） 身の回りの物や人について話す 第 9 回 第3課（1） 年齢や学年、所有について話す 第10回 第3課（2） 年齢や学年、所有について話す 第11回 第4課（1） 時間や一日の行動について話す 第12回 第4課（2） 時間や一日の行動について話す 第13回 第5課（1） 性質や状態、天候について話す 第14回 第5課（2） 性質や状態、天候について話す 第15回 前期のまとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。				
授業外学習 （予習・復習）	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）但し状況により変更の可能性もあります。				
実務経験について	不要				

（注）経済専攻，経営情報専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 67			担当者	土肥 克己
	中国語 I (G)			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文 I 【概要】1 回に 25 個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。 【到達目標】中国語検定準 4 級、漢語水平考試 HSK 筆記 1 級程度に 1 年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準 4 級』アルク				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方について 第 2 回 声調と母音 第 3 回 子音 第 4 回 発音のまとめ 第 5 回 表記の規則 第 6 回 クラス名簿, あいさつ (1) 第 7 回 クラス名簿, あいさつ (2) 第 8 回 数字, お金, 時刻 (1) 第 9 回 数字, お金, 時刻 (2) 第 10 回 数字, お金, 時刻 (3) 第 11 回 簡単な動詞の文 (1) 第 12 回 簡単な動詞の文 (2) 第 13 回 意思表示, 誘いかけ (1) 第 14 回 意思表示, 誘いかけ (2) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	作文と小テスト 50%, 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 食物栄養専攻, 生活科学専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 68			担当者	寺西 光輝
	中国語 I (H)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語の基礎知識を学び、現代中国の文化事情について触れる。 【概要】この授業では、中国語のピンインと声調の読み方をマスターし、簡単な挨拶と自己紹介ができることを目的とします。 授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。 【到達目標】・ごく簡単な挨拶表現を人や場面に応じて使える。 ・自分や他人を簡単に紹介することができる。日常生活でよく使われる簡単な表現を理解し、用いることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFRA1 レベル』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFRA1 レベル』朝日出版社 (2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、発音導入 第 2 回 発音編 1：単母音と声調について学ぶ 第 3 回 発音編 2：複合母音について学ぶ 第 4 回 発音編 3：鼻母音、子音について学ぶ 第 5 回 発音編 4：発音編まとめ 第 6 回 第 1 課：「是」の文型と疑問詞「哪里」について学ぶ 第 7 回 第 1 課：自己紹介と簡単な挨拶について学ぶ 第 8 回 第 2 課：指示代名詞、疑問文について学ぶ 第 9 回 第 2 課：指示代名詞、疑問文について復習する 第 10 回 第 3 課：数字の表現について学ぶ 第 11 回 第 3 課：「有/没有」の文型について学ぶ 第 12 回 第 4 課：時間と曜日の表現について学ぶ 第 13 回 第 4 課：時刻の表現について学ぶ 第 14 回 中国ドラマ鑑賞＋リスニング課題 第 15 回 前期授業内容のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の単語と文法事項を予習する。授業後にはチェックシートとクイズレットを使い単語と会話表現を復習する。				
成績評価の方法	授業への取り組み(50%)＋定期試験(50%)				
実務経験について	なし				

(注) 食物栄養専攻、生活科学専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 69			担当者	楊 虹
	中国語Ⅱ（A）			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語によるコミュニケーションに慣れる。 【概要】この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。				
学生の主体的・対話的な学び	陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語 13 課』同学社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語 13 課』同学社 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習 第 2 回 動詞「有」の導入，練習 第 3 回 動詞「在」の導入，練習 第 4 回 「有」と「在」の応用練習 第 5 回 年月日，曜日の言い方の練習 第 6 回 助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習 第 7 回 助動詞を使った文の応用練習 第 8 回 復習（1）これまでの内容の復習 第 9 回 形容詞述語文の導入，練習 第 10 回 時刻の言い方の導入，練習 第 11 回 形容詞述語文の応用練習 第 12 回 お金の言い方の導入，練習 第 13 回 量詞の導入，練習 第 14 回 復習（2）：全体の復習 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	小テスト（40%）と中国に関するレポート（10%），口頭試験（50%）で評価する				
実務経験について	なし				

（注）日本語日本文学専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 70			担当者	中筋 健吉
	中国語Ⅱ（B）			授業外対応	メールで対応します。 k9553471@kadai.jp
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします（中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度）				
学生の主体的・対話的な学び	李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂） (2) 授業中に適宜紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 第6課（1） 趣味や好み、できることについて話す 第 2 回 第6課（2） 趣味や好み、できることについて話す 第 3 回 第7課（1） 住んでいる場所や家族について話す 第 4 回 第7課（2） 住んでいる場所や家族について話す 第 5 回 第8課（1） 場所や存在について話す 第 6 回 第8課（2） 場所や存在について話す 第 7 回 第9課（1） 交通手段や希望について話す 第 8 回 第9課（2） 交通手段や希望について話す 第 9 回 第10課（1） 動作の発生や進行について話す 第10回 第10課（2） 動作の発生や進行について話す 第11回 第11課（1） 過去の出来事や値段について話す 第12回 第11課（2） 過去の出来事や値段について話す 第13回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第14回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第15回 授業まとめ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。				
授業外学習 (予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）但し状況により変更の可能性もあります。				
実務経験について	不要				

（注）日本語日本文学専攻・英語英米文学専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 71			担当者	孟 卓然
	中国語Ⅱ（C）			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語の簡単な日常会話を学び、現代中国の文化事情について触れる 【概要】この授業では、中国語のピンインを正確に読み、また、趣味や経験などについて日常会話ができることを目的とします。授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。そのうえ、現代中国の文化事情について触れ、適宜中国映画を鑑賞し、日本文化との違いを考えて、学びます。 【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度（後期終了時の目標）				
学生の主体的・対話的な学び	寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社 (2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、前期の復習 第 2 回 第 5 課：形容詞について学ぶ 第 3 回 第 5 課：程度副詞について学ぶ 第 4 回 第 6 課：趣味や好みについての表現を学ぶ 第 5 回 第 6 課：「会」、「能」の文型について学ぶ 第 6 回 第 7 課：家族、人間関係、職業についての表現を学ぶ 第 7 回 第 7 課：量詞について学ぶ 第 8 回 第 8 課：場所、方向についての表現を学ぶ 第 9 回 第 8 課：「在」の文型について学ぶ 第 10 回 第 9 課：交通手段についての表現を学ぶ 第 11 回 第 9 課：交通手段についての表現を復習する 第 12 回 第 10 課：動作の発生と進行についての表現を学ぶ 第 13 回 第 10 課：動作の発生と進行についての表現を復習する 第 14 回 中国映画鑑賞＋リスニング課題 第 15 回 後期授業内容のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業前単語を予習することと、授業後発音と文法を復習することが望ましいです。				
成績評価の方法	授業への取り組み（50％）＋定期試験（50％）				
実務経験について	なし				

（注）英語英文学専攻、経済専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 72			担当者	陳 躍
	中国語Ⅱ（D）			授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは講義中に告知）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試 H S K 筆記 1 級程度。前期はその前半部分の学習に当てる				
学生の主体的・対話的な学び	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳—日中往来』陳躍著 南日本新聞社				
授業 スケジュール	第 1 回 来我家玩吧 第 2 回 我打算去旅行 第 3 回 没看过，听过 第 4 回 我能参加 第 5 回 我记一下 第 6 回 我们边走边谈 第 7 回 好像借给小李了（中間テスト） 第 8 回 我不会打日文（映画） 第 9 回 你知道号码吗？（映画） 第 10 回 什么都可以 第 11 回 被谁偷走了呢？ 第 12 回 让你久等了 第 13 回 有没有单间？ 第 14 回 我说得不好 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	評価割合を定期試験 5 0 %にする。残り 5 0 %の評価は小テストとレポートにする				
実務経験について					

（注）英語英文学専攻、経済専攻、経営情報専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 73			担当者	三木 夏華
	中国語Ⅱ（E）			授業外対応	授業終了時に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース。 【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。道の尋ね方、買い物の仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。 【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『しゃべっていいとも 中国語』朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著 (2) 授業で紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方 第 2 回 会話練習、ヒアリング 第 3 回 値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方 第 4 回 会話練習、ヒアリング 第 5 回 年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型 第 6 回 会話練習、ヒアリング 第 7 回 時刻の言い方、語気助詞の“了” 第 8 回 会話練習、ヒアリング 第 9 回 時間の長さの言い方、完了の“了” 第10回 会話練習、ヒアリング 第11回 前置詞、助動詞1 第12回 会話練習、ヒアリング 第13回 動詞の進行を表す表現、助動詞2 第14回 会話練習、ヒアリング 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	前回学習した課を CD を聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。				
成績評価の方法	期末試験50%＋授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%				
実務経験について	あり。鹿児島大学法文学部教授。				

(注) 経営情報専攻

(注) 20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 74			担当者	中筋 健吉
	中国語Ⅱ（F）			授業外対応	メールで対応します。 k9553472@kadai.jp
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします（中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級程度）				
学生の主体的・対話的な学び	李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂）				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 李軼倫 著『中国語スタートアップ』（総合編）（金星堂） (2) 授業中に適宜紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 第 6 課（1） 趣味や好み、できることについて話す 第 2 回 第 6 課（2） 趣味や好み、できることについて話す 第 3 回 第 7 課（1） 住んでいる場所や家族について話す 第 4 回 第 7 課（2） 住んでいる場所や家族について話す 第 5 回 第 8 課（1） 場所や存在について話す 第 6 回 第 8 課（2） 場所や存在について話す 第 7 回 第 9 課（1） 交通手段や希望について話す 第 8 回 第 9 課（2） 交通手段や希望について話す 第 9 回 第 10 課（1） 動作の発生や進行について話す 第 10 回 第 10 課（2） 動作の発生や進行について話す 第 11 回 第 11 課（1） 過去の出来事や値段について話す 第 12 回 第 11 課（2） 過去の出来事や値段について話す 第 13 回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第 14 回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第 15 回 授業まとめ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。				
授業外学習 (予習・復習)	予習、復習ともに、教科書が指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験（50％）＋授業中に実施する小テスト（10％）＋授業での発言内容（41％）但し状況により変更の可能性もあります。				
実務経験について	不要				

（注）経済専攻，経営情報専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 75			担当者	土肥 克己
	中国語Ⅱ（G）			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文Ⅱ 【概要】1 回に 25 個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かずに口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違いやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。 【到達目標】中国語検定準 4 級、漢語水平考試 HSK 筆記 1 級程度に 1 年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準 4 級』アルク				
授業 スケジュール	第 1 回 連続動作，意向確認（1） 第 2 回 連続動作，意向確認（2） 第 3 回 なに？ どこ？ だれ？（1） 第 4 回 なに？ どこ？ だれ？（2） 第 5 回 モノ（1） 第 6 回 モノ（2） 第 7 回 場所（1） 第 8 回 場所（2） 第 9 回 状態（1） 第 10 回 状態（2） 第 11 回 態度，ある瞬間（1） 第 12 回 態度，ある瞬間（2） 第 13 回 1 年間の復習（1） 第 14 回 1 年間の復習（2） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	作文と小テスト 50%，定期試験 50%				
実務経験について	なし				

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 76			担当者	孟 卓然
	中国語Ⅱ（H）			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語の簡単な日常会話を学び、現代中国の文化事情について触れる 【概要】この授業では、中国語のピンインを正確に読み、また、趣味や経験などについて日常会話ができることを目的とします。授業は主に発音指導、リスニングトレーニング、ペアでの会話練習などの活動を中心に行います。そのうえ、現代中国の文化事情について触れ、適宜中国映画を鑑賞し、日本文化との違いを考えて、学びます。 【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度（後期終了時の目標）				
学生の主体的・対話的な学び	寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション CEFR A1 レベル』朝日出版社 (2) 授業の進度に合わせて適宜紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、前期の復習 第 2 回 第 5 課：形容詞について学ぶ 第 3 回 第 5 課：程度副詞について学ぶ 第 4 回 第 6 課：趣味や好みについての表現を学ぶ 第 5 回 第 6 課：「会」、「能」の文型について学ぶ 第 6 回 第 7 課：家族、人間関係、職業についての表現を学ぶ 第 7 回 第 7 課：量詞について学ぶ 第 8 回 第 8 課：場所、方向についての表現を学ぶ 第 9 回 第 8 課：「在」の文型について学ぶ 第 10 回 第 9 課：交通手段についての表現を学ぶ 第 11 回 第 9 課：交通手段についての表現を復習する 第 12 回 第 10 課：動作の発生と進行についての表現を学ぶ 第 13 回 第 10 課：動作の発生と進行についての表現を復習する 第 14 回 中国映画鑑賞＋リスニング課題 第 15 回 後期授業内容のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業前単語を予習することと、授業後発音と文法を復習することが望ましいです。				
成績評価の方法	授業への取り組み（50％）＋定期試験（50％）				
実務経験について	なし				

（注）食物栄養専攻、生活科学専攻

（注）20～25 人を目安に受講者数を調整します。

授業科目	授業番号： 77			担当者	楊 虹
	中国語Ⅲ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語の体系を把握する。 【概要】この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。 【到達目標】中国語検定試験4級を取得することを目指すと同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習 第 2 回 年齢の言い方と尋ね方 第 3 回 前置詞「在」（～で～をする）の導入，練習 第 4 回 完了の「了」の導入，練習 第 5 回 時間量の言い方の導入，練習 第 6 回 文末詞「了」の導入，練習 第 7 回 場所の言い方の導入，練習 第 8 回 必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入，練習 第 9 回 これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。 第10回 中国語で寸劇①：シナリオの作成 第11回 中国語で寸劇②：シナリオの修正 第12回 中国語で寸劇③：シナリオの決定，台本を読む練習 第13回 中国語で寸劇④：台本を読む練習，通し稽古 第14回 中国語で寸劇⑤：発表 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	小テスト（50%），口頭試験（50%）で評価する				
実務経験について	なし				

（注）生活科学科を除く

授業科目	授業番号： 78			担当者	土肥 克己
	中国語Ⅳ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語で本を読む 【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので、十分に予習・復習してから受講してください。 【到達目標】中国語検定 4 級レベル，漢語水平考試 HSK 筆記 2 級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。				
学生の主体的・対話的な学び	プリントを配布します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方について 第 2 回 発音の復習 (1) 第 3 回 発音の復習 (2) 第 4 回 発音の復習 (3) 第 5 回 発音の復習 (4) 第 6 回 講読 (1) 第 7 回 講読 (2) 第 8 回 講読 (3) 第 9 回 講読 (4) 第 10 回 講読 (5) 第 11 回 講読 (6) 第 12 回 講読 (7) 第 13 回 講読 (8) 第 14 回 講読 (9) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習・復習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

(注) 生活科学科を除く

授業科目	授業番号： 79			担当者	浜田 幸史
	スポーツ・健康論			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯を通じて自他のスポーツライフや健康を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。 【概要】生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康的な生活を主体的に実践できるようにするため、運動やスポーツが健康に与える効果、運動やスポーツの行い方、健康課題への対応、社会生活における健康の保持増進等について理解したり、考察したりする。 【到達目標】個人・社会生活におけるスポーツと健康について理解し、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとする態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 毎回、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、スポーツとは 第 2 回 健康とは 第 3 回 スポーツ・健康の現状 第 4 回 レポート①発表・提出、運動・スポーツの実践計画 第 5 回 ストレスと健康 第 6 回 飲酒・喫煙・薬物乱用と健康 第 7 回 スポーツ・健康とビジネス 第 8 回 レポート②発表・提出、振り返り・まとめ 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び提出課題、筆記試験（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修

食物栄養専攻を除く全専攻対象 7.5 回

授業科目	授業番号： 80			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（A）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修,日本語日本文学専攻

授業科目	授業番号： 81			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（B）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修，英語英文学専攻

授業科目	授業番号： 82			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（C）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修，食物栄養専攻

授業科目	授業番号： 83			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（D）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修，生活科学専攻

授業科目	授業番号： 84			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（E）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)経済専攻

授業科目	授業番号： 85			担当者	小松 友哉
	生涯スポーツ実習（E）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)経済専攻

授業科目	授業番号： 86			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（F）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)経営情報専攻

授業科目	授業番号： 87			担当者	小松 友哉
	生涯スポーツ実習（F）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)経営情報専攻

授業科目	授業番号： 88			担当者	上野 祐子
	情報リテラシー I (A)			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。数値・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。 【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、電子メール 第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成）、USB メモリの使い方 第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう（文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存） 第 4 回 第 3 章 Word 表現力のある文書を作成しよう（ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線） 第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう（表の作成と編集、段落罫線）、課題 1 第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能（配布プリント使用） 第 7 回 Web による情報検索（配布プリント使用）、情報セキュリティ 10 大脅威 第 8 回 Web による情報検索(2)、検索練習問題 第 9 回 ファイルの整理（ファイルの概念、フォルダの概念）及びファイルの検索（配布プリント使用）、課題 2 第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成） 第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう（データの入力、オートフィル） 第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう（表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照）、ピボットテーブル 第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう（グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ）、課題 3 第 14 回 Excel 練習問題 第 15 回 まとめ（Word・Excel・情報検索）				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	授業番号： 89			担当者	上野 祐子
	情報リテラシー I (B)			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。数値・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。 【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、電子メール 第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成）、USB メモリの使い方 第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう（文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存） 第 4 回 第 3 章 Word 表現力のある文書を作成しよう（ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線） 第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう（表の作成と編集、段落罫線）、課題 1 第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能（配布プリント使用） 第 7 回 Web による情報検索（配布プリント使用）、情報セキュリティ 10 大脅威 第 8 回 Web による情報検索(2)、検索練習問題 第 9 回 ファイルの整理（ファイルの概念、フォルダの概念）及びファイルの検索（配布プリント使用）、課題 2 第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成） 第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう（データの入力、オートフィル） 第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう（表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照）、ピボットテーブル 第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう（グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ）、課題 3 第 14 回 Excel 練習問題 第 15 回 まとめ（Word・Excel・情報検索）				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	授業番号： 90			担当者	上野 祐子
	情報リテラシー I (C)			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。 【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、電子メール 第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成）、USB メモリの使い方 第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう（文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存） 第 4 回 第 3 章 Word 表現力のある文書を作成しよう（ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線） 第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう（表の作成と編集、段落罫線）、課題 1 第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能（配布プリント使用） 第 7 回 Web による情報検索（配布プリント使用）、情報セキュリティ 10 大脅威 第 8 回 Web による情報検索(2)、検索練習問題 第 9 回 ファイルの整理（ファイルの概念、フォルダの概念）及びファイルの検索（配布プリント使用）、課題 2 第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成） 第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう（データの入力、オートフィル） 第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう（表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照）、ピボットテーブル 第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう（グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ）、課題 3 第 14 回 Excel 練習問題 第 15 回 まとめ（Word・Excel・情報検索）				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

(注) 食物栄養専攻

授業科目	授業番号： 91			担当者	上野 祐子
	情報リテラシー I (D)			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。 【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、電子メール 第 2 回 電子メール、第 1 章 Word さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成）、USB メモリの使い方 第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう（文字の入力、文章の入力、コピー、移動、印刷、保存） 第 4 回 第 3 章 Word 表現力のある文書を作成しよう（ワードアート、画像、文字の効果、ページ罫線） 第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう（表の作成と編集、段落罫線）、課題 1 第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能（配布プリント使用） 第 7 回 Web による情報検索（配布プリント使用）、情報セキュリティ 10 大脅威 第 8 回 Web による情報検索(2)、検索練習問題 第 9 回 ファイルの整理（ファイルの概念、フォルダの概念）及びファイルの検索（配布プリント使用）、課題 2 第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成） 第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう（データの入力、オートフィル） 第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう（表の作成と編集、関数、絶対参照と相対参照）、ピボットテーブル 第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう（グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフ）、課題 3 第 14 回 Excel 練習問題 第 15 回 まとめ（Word・Excel・情報検索）				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

(注) 教職必修、生活科学専攻

授業科目	授業番号： 92			担当者	永仮 ゆかり
	情報リテラシー I (E)			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。 【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) プリント				
授業 スケジュール	第 1 回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作 第 2 回 文字の入力：キータッチ練習、Word の画面構成、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3 回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力、IME パッドの利用 第 4 回 文書の作成 1：ページ設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存 第 5 回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷 第 6 回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について 第 7 回 表の作成：表の作成、選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について 第 8 回 表の編集：セルの結合・分割、配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル 第 9 回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成 第 10 回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ 第 11 回 表現力をアップする機能：ワードアート・画像の挿入、図形の作成、図解について 第 12 回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について 第 13 回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存 第 14 回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

(注) 経済専攻

授業科目	授業番号： 93			担当者	永仮 ゆかり
	情報リテラシー I (F)			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。 【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) プリント				
授業 スケジュール	第 1 回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作 第 2 回 文字の入力：キータッチ練習、Word の画面構成、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3 回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力、IME パッドの利用 第 4 回 文書の作成 1：ページ設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存 第 5 回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷 第 6 回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について 第 7 回 表の作成：表の作成、選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について 第 8 回 表の編集：セルの結合・分割、配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル 第 9 回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成 第 10 回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ 第 11 回 表現力をアップする機能：ワードアート・画像の挿入、図形の作成、図解について 第 12 回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について 第 13 回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存 第 14 回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

(注) 経営情報専攻

授業科目	授業番号： 94			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ (A)			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3 つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。 【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習 第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成） 第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう（テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック） 第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう（画面切り替え効果、アニメーション、印刷）、課題 1 第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータ連携をしよう（Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用） 第 6 回 Word 練習問題（主にグラフィック機能）（配布プリント使用） 第 7 回 Word 練習問題（主に表中心）（配布プリント使用） 第 8 回 Word 練習問題（配布プリント使用）、課題 2 第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう（データベース機能） 第 10 回 Excel 練習問題（主に関数中心）（配布プリント使用） 第 11 回 Excel 練習問題（主にグラフ中心）（配布プリント使用）、課題 3 第 12 回 Excel 練習問題（配布プリント使用） 第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習（配布プリント使用） 第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2（配布プリント使用） 第 15 回 まとめ（PowerPoint・Word・Excel）				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

（注）教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	授業番号： 95			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ (B)			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3 つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。 【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習 第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成） 第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう（テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック） 第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう（画面切り替え効果、アニメーション、印刷）、課題 1 第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータ連携をしよう（Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用） 第 6 回 Word 練習問題（主にグラフィック機能）（配布プリント使用） 第 7 回 Word 練習問題（主に表中心）（配布プリント使用） 第 8 回 Word 練習問題（配布プリント使用）、課題 2 第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう（データベース機能） 第 10 回 Excel 練習問題（主に関数中心）（配布プリント使用） 第 11 回 Excel 練習問題（主にグラフ中心）（配布プリント使用）、課題 3 第 12 回 Excel 練習問題（配布プリント使用） 第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習（配布プリント使用） 第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2（配布プリント使用） 第 15 回 まとめ（PowerPoint・Word・Excel）				
授業外学習 （予習・復習）	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

（注）教職必修、英語英文学専攻

授業科目	授業番号： 96			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ (C)			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3 つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。 【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習 第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成） 第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう（テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック） 第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう（画面切り替え効果、アニメーション、印刷）、課題 1 第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータ連携をしよう（Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用） 第 6 回 Word 練習問題（主にグラフィック機能）（配布プリント使用） 第 7 回 Word 練習問題（主に表中心）（配布プリント使用） 第 8 回 Word 練習問題（配布プリント使用）、課題 2 第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう（データベース機能） 第 10 回 Excel 練習問題（主に関数中心）（配布プリント使用） 第 11 回 Excel 練習問題（主にグラフ中心）（配布プリント使用）、課題 3 第 12 回 Excel 練習問題（配布プリント使用） 第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習（配布プリント使用） 第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2（配布プリント使用） 第 15 回 まとめ（PowerPoint・Word・Excel）				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

（注）食物栄養専攻

授業科目	授業番号： 97			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ (D)			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3 つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。 【到達目標】Microsoft Word 及び Excel, Web による情報検索を用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習 第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう（概要、起動と終了、画面構成） 第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう（テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック） 第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう（画面切り替え効果、アニメーション、印刷）、課題 1 第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータ連携をしよう（Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用） 第 6 回 Word 練習問題（主にグラフィック機能）（配布プリント使用） 第 7 回 Word 練習問題（主に表中心）（配布プリント使用） 第 8 回 Word 練習問題（配布プリント使用）、課題 2 第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう（データベース機能） 第 10 回 Excel 練習問題（主に関数中心）（配布プリント使用） 第 11 回 Excel 練習問題（主にグラフ中心）（配布プリント使用）、課題 3 第 12 回 Excel 練習問題（配布プリント使用） 第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習（配布プリント使用） 第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2（配布プリント使用） 第 15 回 まとめ（PowerPoint・Word・Excel）				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。				
成績評価の方法	3 回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	授業番号： 98			担当者	刈屋 美枝子
	情報リテラシーⅡ (E)			授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学習における Windows パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。 【概要】情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、開講前に、パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の 2 専攻を合わせて中級（経験者：E）と初級（初心者：F）に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、さらに応用レベルまで使いこなせるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信				
授業 スケジュール	第 1 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習アプリの紹介 第 2 回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携 第 3 回 Windows パソコンでのファイルの基本操作 第 4 回 電子メールの応用 授業アンケート（パソコン使用歴、授業への要望など） 第 5 回 パソコンによる効率的な検索と AI の活用 第 6 回 インターネット検索の基本 第 1 回課題 第 7 回 画像ファイルの扱い方 (1) さまざまなアプリの選択 第 8 回 画像ファイルの扱い方 (2) 画像の加工・編集 第 9 回 WORD での画像の活用 (1) 第 10 回 WORD での画像の活用 (2) 第 2 回課題 第 11 回 ファイルの応用的処理 圧縮・展開 第 12 回 ファイルの応用的処理 その他のユーティリティソフト 第 13 回 クラウドを利用したデータのやり取り パソコンとスマートフォンの連携 第 14 回 インターネットの活用 クラウドの応用 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	2 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。				
成績評価の方法	2 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価				
実務経験について	本学パソコン講師 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上、鹿児島商工会議所会員、第二種情報処理技術者				

授業科目	授業番号： 99			担当者	刈屋 美枝子
	情報リテラシーⅡ (F)			授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学習における Windows パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。 【概要】情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、開講前に、パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の 3 専攻を合わせて中級（経験者：E）と初級（初心者：F）に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、応用レベルまで使いこなせるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信				
授業 スケジュール	第 1 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習アプリの紹介 第 2 回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携 第 3 回 Windows パソコンでのファイルの基本操作 第 4 回 電子メールの応用 授業アンケート（パソコン使用歴、授業への要望など） 第 5 回 パソコンによる効率的な検索と AI の活用 第 6 回 インターネット検索の基本 第 2 回課題 第 7 回 画像ファイルの扱い方（1） さまざまなアプリの選択 第 8 回 画像ファイルの扱い方（2） 画像の加工・編集 第 9 回 WORD での画像の活用（1） 第 10 回 WORD での画像の活用（2） 第 2 回課題 第 11 回 ファイルの応用的処理 圧縮・展開 第 12 回 ファイルの応用的処理 その他のユーティリティソフト 第 13 回 クラウドを利用したデータのやり取り パソコンとスマートフォンの連携 第 14 回 インターネットの活用 クラウドの応用 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	2 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。				
成績評価の方法	2 回の課題（70%）と実技試験（30%）の総合評価				
実務経験について	本学パソコン講師 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上、鹿児島商工会議所会員、第二種情報処理技術者				

授業科目	授業番号： 100			担当者	竹本 寛秋 木戸裕子
	日本文学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに移行するためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなる基礎的能力の育成を目的とする。 【概要】大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では，1．古典文学研究に必要な文献学，書誌学の初歩とくずし字の読み方，2．主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩，3．大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で，日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。 【到達目標】日本文学に関する基礎的な知識，変体仮名の読み方を習得する。 演習や卒業研究に必要なディスカッションの仕方，論理的なレポートの書き方を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	第1回から第6回まで、5名前後のグループでグループワークを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社（担当者：木戸） (2) プリント（担当者：竹本）				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い，ノートを取り方。 第 2 回 近代文学を学ぶとは：文学理論について 第 3 回 「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて 第 4 回 「作者」とは何か：作者／作品／テキストについて 第 5 回 「語り」とは何か：ナラトロジーについて 第 6 回 「物語」とは何か：物語の構造について 第 7 回 論文の書き方 第 8 回 総括1：前半のまとめ 第 9 回 古典文学を学ぶとは，仮名史について：くずし字の読み方1 第10回 文献学（写本と板本），書誌学について：くずし字の読み方2 第11回 古典の季節観と暦：くずし字の読み方3 第12回 古典文学研究の方法1：くずし字小テスト 第13回 古典文学研究の方法2：くずし字の読み方4 第14回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり：くずし字の読み方5 第15回 総括2：後半のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	授業で指示する課題など。				
成績評価の方法	授業で指示する課題など。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 101			担当者	楊 虹
	言語学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】言語と社会や文化とのかかわりを考えながら言語学を学ぶ。 【概要】この授業では、言語学を社会や文化とのかかわりについて考えながら学ぶ。主に語用論を中心に言葉がどのように使われているかについて、関連する理論と実践を学ぶ。さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。 【到達目標】言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる発表を行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 言葉を使って何かをする 第 3 回 発話行為論 第 4 回 発話機能と語学教育 第 5 回 協調の原理と 4 つの公理（1） 第 6 回 協調の原理と 4 つの公理（2） 第 7 回 ポライトネスとフェイス（1） 第 8 回 ポライトネスとフェイス（2） 第 9 回 日常会話の仕組み（1）話者交替 第 10 回 日常会話の仕組み（2）対になる発話 第 11 回 日常会話の仕組み（3）電話と SNS 第 12 回 言語コミュニケーションと社会：対人関係 第 13 回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第 14 回 グループワーク 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	言葉の使い方や会話の仕組みを分析する課題を出す。				
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び課題：50%，期末発表とレポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 102			担当者	小亀 拓也
	日本語学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。 【概要】日本語の各研究分野（音声・音韻，文字・表記，語彙・意味）について概観する。 【到達目標】日本語学の基本的な考え方を身につけ，身の回りの言語現象をについて，分析・考察を通して思考を深め，的確に表現できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 沖森卓也ほか『図解日本語』（第2版）三省堂 (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。 第 2 回 現代日本語の音声と音韻 1：音声器官，音声記号 第 3 回 現代日本語の音声と音韻 2：日本語の母音，母音の無声化，促音化 第 4 回 現代日本語の音声と音韻 3：日本語の子音，調音点・調音法・声帯振動 第 5 回 現代日本語の音声と音韻 4：音声と音韻，音素と異音 第 6 回 現代日本語の音声と音韻 5：相補分布，条件異音と自由異音，特殊音素 第 7 回 現代日本語の音声と音韻 6：拍（モーラ）と音節（シラブル） 第 8 回 現代日本語の音声と音韻 7：アクセント，イントネーション，プロミネンス 第 9 回 中間試験，前半のまとめ 第 10 回 現代日本語の文字・表記 1：日本語の表記の特色 第 11 回 現代日本語の文字・表記 2：漢字表，字音と字訓，漢字の成り立ち 第 12 回 現代日本語の文字・表記 3：平仮名，片仮名，ローマ字 第 13 回 現代日本語の語彙 1：語と語彙，語構成 第 14 回 現代日本語の語彙 2：語種（和語，漢語，外来語，混種語） 第 15 回 現代日本語の文法 3：語彙と語彙量（語彙の系統性，理解語彙と使用語彙）				
授業外学習 （予習・復習）	各自事前にテキストを読んでもらうこと。また，毎授業冒頭に復習小テストを行うため，復習が必要である。				
成績評価の方法	小テストの成績（20%），中間試験の成績（40%），定期試験の成績（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 103			担当者	楊 虹
	日本語教育概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語教育学の基礎を学ぶ 【概要】この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。 【到達目標】日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる模擬授業を10分程度行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第 2 回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室 第 3 回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第 4 回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析 第 5 回 教師の役割②シラバス・デザイン 第 6 回 教材分析 第 7 回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ 第 8 回 教授法②：授業見学 第 9 回 教授法③：授業見学の振り返り 第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方 第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習 第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク 第13回 フォリナートークとやさしい日本語 第14回 模擬授業の準備 第15回 模擬授業の実施、全体のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜予習復習の課題を出すので、調べたり考えたりして積極的に取り組む必要である。				
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 104			担当者	小亀 拓也
	日本語史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。 【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。 【到達目標】上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴について、資料を根拠に分析・整理し、現代日本語の成立に至る過程を説明できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 沖森卓也『日本語全史』（ちくま新書）				
授業 スケジュール	第 1 回 時代区分と資料：日本語の範囲，日本語の資料，日本語史の時代区分 第 2 回 奈良時代までの日本語 1：漢字の伝来，万葉仮名，上代特殊仮名遣い，頭音法則 第 3 回 奈良時代までの日本語 2：動詞の活用成立，形容詞・代名詞の整備，和語と漢語 第 4 回 平安時代の日本語 1：和文と漢文訓読文，平仮名・片仮名の誕生 第 5 回 平安時代の日本語 2：音韻の混同（ハ行転呼音），声調の表示，下一段活用の成立，ナリ活用とタリ活用 第 6 回 平安時代の日本語 3：音便と表記，代名詞，助動詞と助詞，漢語の日本語化 第 7 回 鎌倉時代の日本語 1：和漢混淆文，直音と拗音，開合，連声 第 8 回 鎌倉時代の日本語 2：終止形と連体形の合一化，ラ変と形容詞の活用変化，係り結びの崩壊 第 9 回 鎌倉時代の日本語 3：二段活用の一段化，コソアド体系の整備，助動詞類の変化，漢語の普及と意味変化 第 10 回 室町時代の日本語 1：天草本『伊曾保物語』，アクセントの変化，外来語の発達 第 11 回 室町時代の日本語 2：近代語法への変容，尊敬語・丁寧語の発達 第 12 回 江戸時代の日本語 1：上方語と江戸語，四つ仮名の区別の消滅，合拗音の直音化，漢語の多用，当て字 第 13 回 江戸時代の日本語 2：近代語法の確立，複合辞の増加，敬語表現の細分化 第 14 回 明治以降の日本語：言文一致，現代表記の確立，漢語の急増，外来語の使用 第 15 回 日本語学史				
授業外学習 (予習・復習)	予習：各自事前に予習資料に目を通してこること。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（60%），小テストの成績（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 105			担当者	小亀 拓也
	日本文法論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代日本語の文法について学ぶ。 【概要】現代日本語の文法に関する基礎的な知識を身につける。 【到達目標】現代日本語文法の基礎的な知識を、既有的知識との関係の中で整理・統合し、身の回りの言語現象を文法的に分析できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 1 年次に「日本語学概論」で使用した教科書を持参すること。 (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：文とは、文法とは 第 2 回 品詞論 1：名詞（普通名詞・固有名詞，代名詞，形式名詞） 第 3 回 品詞論 2：動詞（活用，自動詞・他動詞，意志動詞・無意志動詞，本動詞・補助動詞） 第 4 回 品詞論 3：形容詞，副詞，連体詞，接続詞，感動詞 第 5 回 品詞論 4：助詞（格助詞，副助詞，係助詞，接続助詞，終助詞） 第 6 回 品詞論 5：復習とまとめ 第 7 回 構文論 1：文の種類 第 8 回 構文論 2：ヴォイス（受身，使役） 第 9 回 構文論 3：アスペクト 第 10 回 構文論 4：テンス 第 11 回 構文論 5：モダリティ 第 12 回 構文論 6：連体修飾 第 13 回 構文論 7：条件節 第 14 回 構文論 8：「は」と「が」 第 15 回 まとめ 以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。				
授業外学習 （予習・復習）	予習・復習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 106			担当者	小亀 拓也
	日本語学講義			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】1 年次に「日本語学概論」で扱った諸問題についてより専門的な見地から分析・考察する。 【概要】日本語学の諸分野（音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論など）の基礎的な概念を踏まえ、具体的な言語現象を分析する。 【到達目標】日本語学の基本的な考え方を習得し、身の回りの言語現象について、自力で分析・考察・表現できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 世界の言語における「日本語」の位置づけ 第 2 回 音の作り方 1：母音と子音，アクセント，リズム，イントネーション 第 3 回 音の作り方 2：単音と音素，弁別的素性，音素配列論 第 4 回 単語の仕組み：形態素，語根と接辞，複合と派生，逆成，縮約，異分析 第 5 回 意味の世界 1：同音語と多義語，メタファー，メトニミー，シネクドキー 第 6 回 意味の世界 2：同義語と類義語，対義語，レトロニム，カテゴリーとプロトタイプ 第 7 回 文の構造：構成素，樹形図，人称・性・数・格，冠詞 第 8 回 文の意味：文法カテゴリー（態，時，相，法） 第 9 回 談話の仕組み：文脈，直示，一貫性，結束性 第 10 回 会話の仕組み：発話行為，協調の原理，格率，会話分析 第 11 回 言語と変異：変異，地域方言，社会方言，多言語使用 第 12 回 言語と変化：言語接触，言語政策，言語計画 第 13 回 文の理解：構文解析，あいまい文，袋小路文，眼球運動 第 14 回 文の産出：言い間違い，語彙化，レンマ，舌先現象，プライミング 第 15 回 まとめ 以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習：次回授業までに配布された文献を読んてくること。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（70%），小テストの成績（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 107			担当者	小亀 拓也
	日本語学講読 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語学の基本的な研究方法について学ぶ。 【概要】「日本語学」という学問分野がどのような問題意識に基づくものであるのか、具体的にはどのような現象を対象とするのか、観察や分析の方法にはどのような観点があり得るのか、といったことについて学ぶ。 【到達目標】普段何気なく使用している「日本語」という言語について、既有的理解を相対化し、観点を立てて問いを設定しながら分析的に捉え、その特徴を客観的に説明できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 導入：辞書，単語，普通名詞，固有名詞 第 2 回 意味 1：2つのカテゴリー観について 第 3 回 意味 2：意味の拡張，同音異義と多義 第 4 回 意味 3：比喻（直喩・隠喩・換喩・提喩） 第 5 回 意味 4：「意義・言葉・経験」（渡辺実） 第 6 回 意味 5：日本語の助詞・助動詞の多義 第 7 回 日本語と他言語との比較（言語類型論） 第 8 回 音声と文字：文字と標記の不一致，長音 第 9 回 音声と書記：音の変化，語順，繰り返し 第 10 回 あいまい文：意味理解，係り受け，省略 第 11 回 話し言葉と書き言葉 1：話し言葉の特徴 第 12 回 話し言葉と書き言葉 2：書き言葉の特徴 第 13 回 コミュニケーションの失敗：会話の意図 第 14 回 スタイルの違い：普通体と丁寧体，混淆 第 15 回 まとめ 以上の予定ですが，進行状況次第で変更の可能性があります。				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習：次回授業までに配布されたプリントを読んてくること。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（50%），授業内課題（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 108			担当者	小亀 拓也
	日本語学講読Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語の方言（学）に関する基礎的な知識を学び、そこで得た知見をもとに自身の方言について分析・考察し、発表する。 【概要】日本語の方言について、方言研究の各分野を概観する。学生諸氏にも調査・分析を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告してもらう。 【到達目標】方言を多角的な視点から捉え、観点を立てて整理・考察することで、自身の方言を学問的観点から分析できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方の説明 第 2 回 方言区画 第 3 回 東西対立分布，周囲論的分布 第 4 回 逆周囲論的分布 第 5 回 言語変化の要因 第 6 回 方言タイプの分布，母音の地域差 第 7 回 東京弁アクセント，京都弁アクセント 第 8 回 「-3 の規則」，鹿児島弁アクセント① 第 9 回 鹿児島弁アクセント② 第 10 回 鹿児島弁イントネーション 第 11 回 鹿児島弁の終助詞 第 12 回 方言と漫才 第 13 回 共通語化の進行，方言と共通語の使い分け 第 14 回 研究発表準備 第 15 回 研究発表				
授業外学習 (予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読むこと。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）（50%），小テストの成績（40%），研究発表の成績（10%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 109			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する文献を読み、それをもとに議論する。 【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。 【到達目標】演習を通して、日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する諸現象を分析的に検討し、複数の捉え方の中から適切な説明を選択・構成する思考力・判断力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業、質疑応答やディスカッションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 導入：授業の概要を説明，担当者を決める。 第 2 回 導入：教師による発表 第 3 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 4 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 5 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 6 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 7 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 8 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 9 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 10 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 11 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 12 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 13 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 14 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15 時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%），質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 110			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する研究の方法、および論文作成の方法を身につける。 【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。 【到達目標】演習を通して、日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する諸現象を分析的に検討し、複数の捉え方の中から適切な説明を選択・構成する思考力・判断力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業、質疑応答やディスカッションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 導入：授業の概要を確認、担当者を決める。 第 2 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 3 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 4 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 5 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 6 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 7 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 8 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 9 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 10 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 11 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 12 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 13 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 14 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第 15 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15 時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%）、質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 111			担当者	小亀 拓也
	日本語学演習Ⅲ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する文献を読み、それをもとに議論する。 【概要】授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。 【到達目標】演習を通して、日本語学（特に音声・音韻・文法）に関する諸現象を分析的に検討し、複数の捉え方の中から適切な説明を選択・構成する思考力・判断力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業、質疑応答やディスカッションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 導入：授業の概要を説明，担当者を決める。 第 2 回 導入：教師による発表 第 3 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 4 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 5 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 6 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 7 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 8 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 9 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 10 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 11 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 12 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 13 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 14 回 発表：担当者が日本語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には（追加の補充調査を含め）15 時間程度充てるものとする。				
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績（70%），質疑応答等の授業中の発言（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 112			担当者	楊 虹
	日本語学演習Ⅳ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1 年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2 年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める。 【到達目標】演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。				
学生の主体的・対話的な学び	課題文を読んで、質問やコメントを考え、クラスで共有する活動を行います。ペアやグループでの話し合いを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第 2 回 語用論、社会言語学の分野の研究について 第 3 回 配慮を考えるときの視点①（2 年生担当） 第 4 回 配慮を考えるときの視点②（2 年生担当） 第 5 回 配慮を考えるときの視点③（2 年生担当） 第 6 回 日本語の配慮の多面性①（1 年生担当） 第 7 回 日本語の配慮の多面性②（1 年生担当） 第 8 回 卒論中間報告（2 年生） 第 9 回 役割語①（2 年生担当） 第 10 回 役割語②（2 年生担当） 第 11 回 談話分析（1 年生） 第 12 回 会話分析（1 年生） 第 13 回 卒論計画発表（1 年生） 第 14 回 卒論発表練習（2 年生） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 113			担当者	楊 虹
	日本語学演習Ⅴ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。 【概要】毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。 【到達目標】演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める，簡単な学術的レポートが作成できる。				
学生の主体的・対話的な学び	課題文を読んで、質問やコメントを考え、クラスで共有する活動を行います。ペアやグループでの話し合いを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。 第 2 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 3 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 4 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 5 回 レポート作成指導① 第 6 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 7 回 レポート作成指導② 第 8 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 9 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 10 回 レポート作成指導③ 第 11 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 12 回 レポート作成指導④ 第 13 回 担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 14 回 レポートに基づく口頭発表 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	期末レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 114			担当者	楊 虹
	日本語学演習Ⅵ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1 年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2 年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める。 【到達目標】演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。				
学生の主体的・対話的な学び	課題文を読んで、質問やコメントを考え、クラスで共有する活動を行います。ペアやグループでの話し合いを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第 2 回 語用論、社会言語学の分野の研究について 第 3 回 配慮を考えるときの視点①（2 年生担当） 第 4 回 配慮を考えるときの視点②（2 年生担当） 第 5 回 配慮を考えるときの視点③（2 年生担当） 第 6 回 日本語の配慮の多面性①（1 年生担当） 第 7 回 日本語の配慮の多面性②（1 年生担当） 第 8 回 卒論中間報告（2 年生） 第 9 回 役割語①（2 年生担当） 第 10 回 役割語②（2 年生担当） 第 11 回 談話分析（1 年生） 第 12 回 会話分析（1 年生） 第 13 回 卒論計画発表（1 年生） 第 14 回 卒論発表練習（2 年生） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 115			担当者	小亀 拓也
	日本語表現法			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ことば（特に文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。 【概要】ことば（特に文章表現）によって事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を身につける。 【到達目標】口頭発表やレポート作成、ディスカッション等を通して、他者の意見を踏まえつつ、自らの考えを整理・判断し、適切に表現できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	授業中にウェブフォームで回答してもらった内容をもとに、授業を進める。数回、ペアワークやグループワークがある。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 導入：自己紹介 第 2 回 メールの書き方（講義編） 第 3 回 メールの書き方（添削編） 第 4 回 敬語①（敬語の 5 分類） 第 5 回 敬語②（基本的な運用） 第 6 回 敬語③（二重敬語と敬語連結） 第 7 回 適切な日本語の運用（ラ抜き言葉など） 第 8 回 中間試験，前半のまとめ 第 9 回 ディスカッションの作法と実践 第 10 回 ディベートの作法と実践 第 11 回 レポートの書き方① 第 12 回 レポートの書き方② 第 13 回 レポートの書き方③ 第 14 回 レポートの執筆 第 15 回 レポートの提出・まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	毎授業冒頭に小テストを行う。				
成績評価の方法	レポート（25%），小テスト（30%），中間試験（30%），授業内課題（15%）				
実務経験について	なし				

（注）教職必修

授業科目	授業番号： 116			担当者	小亀 拓也
	日本語表現法演習			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。 【概要】前期の日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポート作成、および口頭発表を行ってもらう。この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体のものとして進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。 【到達目標】口頭発表やレポート作成、ディスカッション等を通して、他者の意見を踏まえつつ、自らの考えを整理・判断し、適切に表現できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	授業中にウェブフォームで回答してもらった内容をもとに、授業を進める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 文章の構造（「論」と「例」①） 第 2 回 文章の構造（「論」と「例」②） 第 3 回 文章の構造（対比） 第 4 回 文章の構造（類比） 第 5 回 文章の構造（因果） 第 6 回 パラグラフライティングの基礎①（雑メモとパラグラフメモ） 第 7 回 パラグラフライティングの基礎②（雑メモ→パラグラフメモの実践） 第 8 回 パラグラフライティングの基礎③（中心文について） 第 9 回 パラグラフライティングの基礎④（中心文トレーニング） 第 10 回 パラグラフライティングの基礎⑤（支持文について） 第 11 回 パラグラフライティングの基礎⑥（支持文トレーニング） 第 12 回 課題レポートの作成 第 13 回 課題レポートの提出 第 14 回 プレゼンテーションの基本①（目的と態度） 第 15 回 プレゼンテーションの基本②（スライドのデザインと制作）				
授業外学習 （予習・復習）	毎授業冒頭に小テストを行う。				
成績評価の方法	成果資料の出来（50%）、小テスト（30%）、授業内課題（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 117			担当者	楊 虹
	対照言語学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】対照言語学の基礎を学ぶ。 【概要】この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。 【到達目標】日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる模擬授業を10分程度行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3 回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4 回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5 回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6 回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7 回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8 回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9 回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第 10 回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第 11 回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第 12 回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第 13 回 発表準備 第 14 回 学生による発表 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%，レポート：40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 118			担当者	木戸 裕子
	日本文学史・古典Ⅰ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。 【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。 【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院 (2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：オリエンテーション、文学の発生、文学史の区分 第 2 回 古代その 1：上代の説話文学（1） 第 3 回 古代その 2：上代の説話文学（2） 第 4 回 古代その 3：上代の説話文学（3） 第 5 回 古代その 4：祝詞・宣命 第 6 回 古代その 5：漢詩文 第 7 回 古代その 6：上代の和歌・歌謡（1） 第 8 回 古代その 7：上代の和歌・歌謡（2） 第 9 回 古代その 8：上代の和歌・歌謡（3） 第 10 回 古代その 9：中古の漢詩文（1） 第 11 回 古代その 10：中古の漢詩文（2） 第 12 回 古代その 11：中古の和歌（1） 第 13 回 古代その 12：中古の和歌（2） 第 14 回 古代その 13：中古の物語（1） 第 15 回 古代その 14：中古の物語（2）				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30%、筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

（注）隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 119			担当者	木戸 裕子
	日本文学史・古典Ⅱ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。 【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。 【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院 (2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書				
授業 スケジュール	第 1 回 古代その 15：中古の物語（3）源氏物語 第 2 回 古代その 16：中古の物語（4）源氏物語 第 3 回 古代その 17：中古の日記 第 4 回 古代その 18：中古の随筆 第 5 回 古代その 19：中古の歴史物語 第 6 回 古代その 20：中古の説話 第 7 回 中世その 1：中世の和歌（1） 第 8 回 中世その 2：中世の和歌（2） 第 9 回 中世その 3：中世の和歌（3） 第 10 回 中世その 4：連歌・歌謡 第 11 回 中世その 5：中世の漢詩文 第 12 回 中世その 6：物語・日記・紀行・随筆 第 13 回 中世その 7：歴史物語・説話文学 第 14 回 中世その 8：戦記物語・謡曲 第 15 回 中世その 9：謡曲・狂言				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30%、筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

（注）隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 120			担当者	木戸 裕子
	日本文学講義 I			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】紫式部と一条朝の女房達 【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを辛辣に批判している。また、その他の同僚女房についても赤染衛門や和泉式部について長所や短所を交えて批評している。自分自身については漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。『紫式部日記』の記述と、それ以外の史料から見て取れる彼女たちの実態はどのように違うのか、又は同じなのか。紫式部と周囲の女房達について検討し、平安中期の女性の生き方について考える。 【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。 平安時代の女性の生き方を考える。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシック『紫式部日記』角川ソフィア文庫 上村悦子『王朝の秀歌人 赤染衛門』新典社 久保木寿子『和泉式部 実存を見つめる』新典社				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：『紫式部日記』に見る女房評 第 2 回 紫式部（1）：紫式部の系図と女房出仕の経緯 第 3 回 紫式部（2）：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」 第 4 回 紫式部（3）：源氏物語 第 5 回 清少納言（1）：清少納言の系図と女房出仕の経緯 第 6 回 清少納言（2）：『枕草子』随想的章段に見る清少納言の仕事観 第 7 回 清少納言（3）：『枕草子』日記的章段に見る清少納言と定子 第 8 回 和泉式部（1）：和泉式部の系図と説話に見る評判 第 9 回 和泉式部（2）：『和泉式部日記』和泉式部は恋多き女か 第 10 回 和泉式部（3）：『和泉式部集』歌人和泉式部 第 11 回 赤染衛門（1）：赤染衛門の系図と赤染衛門良妻賢母説 第 12 回 赤染衛門（2）：『赤染衛門集』夫大江匡衡との関係 第 13 回 赤染衛門（3）：『赤染衛門集』代作する赤染衛門 第 14 回 赤染衛門（4）：『赤染衛門集』赤染衛門と清少納言、和泉式部 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に指示する				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）20%，レポート 80%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 121			担当者	木戸 裕子
	日本文学講読Ⅰ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】『万葉集』 巻五の講読を通して上代文学に親しむ 【概要】『万葉集』は現存する日本最古の歌集だが、その中でも巻五は大伴家持の父大伴旅人が大宰帥であった時の大宰府・筑紫で読まれた歌を中心とする巻である。令和の元号の出典となった梅花の宴の序と歌群もこの巻二収められている。旅人や山上憶良たちの和歌を詠むことで上代人にとっての歌とは何かを考えたい。本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。 【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『万葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。				
学生の主体的・対話的な学び	受講生が担当して発表した内容について、教員がコメントする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 佐竹昭広・山田英雄・工藤力男・大谷雅夫・山崎福之校注『万葉集』(2) 岩波文庫 (2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院 大谷雅夫『万葉集に会う』岩波新書				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 『万葉集』について（編者、諸本、万葉仮名など） 第 2 回 巻五について 1：大伴旅人と山上憶良について。教員による模範演習 第 3 回 『万葉集』巻五輪読その 1：雑歌 1 第 4 回 その 2：雑歌 2 第 5 回 その 3：雑歌 3 第 6 回 その 4：雑歌 4 第 7 回 その 5：雑歌 5 第 8 回 その 6：雑歌 6 第 9 回 巻五について 2：筑紫歌壇とは 第 10 回 『万葉集』巻五輪読その 7：雑歌 7 第 11 回 その 8：雑歌 8 第 12 回 その 9：雑歌 9 第 13 回 その 10：雑歌 10 第 14 回 その 11：雑歌 11 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	輪読担当の準備。『万葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当 60%，レポート 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 122			担当者	木戸 裕子
	日本文学講読Ⅱ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。 【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。 【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。 基本的な変体仮名が読めるようにする。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『字典かな』笠間書院 (2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など） 第 2 回 初段 1：昔男の登場 変体仮名の読み方 1 第 3 回 初段 2：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方 2 第 4 回 三段：二条後の物語その 1 変体仮名の読み方 3 第 5 回 四段：二条後の物語その 2 変体仮名の読み方 4 第 6 回 五段：二条後の物語その 3 変体仮名の読み方小テスト 1 第 7 回 六段 1：二条後の物語その 4 第 8 回 六段 2：二条の後の物語その 5 第 9 回 七・八段：東下りその 1 浅間の山 第 10 回 九段 1：東下りその 2 八橋・宇津の山 第 11 回 九段 2：東下りその 3 富士の山・隅田川 第 12 回 六九段 1：伊勢の斎宮その 1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト 2 第 13 回 六九段 2：伊勢の斎宮その 2 漢文学との関わり 第 14 回 一六段：男の友情 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。				
成績評価の方法	小テスト 20%，筆記試験 80%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 123			担当者	木戸 裕子
	日本文学講読Ⅲ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読む 【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一卷を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「明石」を読む。「明石」は源氏物語五十四帖の一三番目の巻だが、光源氏の前半生で最も大きな危機が訪れると同時に源氏の後半生の栄華の基盤となる明石の君との出会いも描かれる巻である。光源氏の人生の転機となる明石巻を丁寧に読んでいく。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。 【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成について考える。				
学生の主体的・対話的な学び	受講生が担当して発表した内容について、教員がコメントする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 坂本信道 編『首書 源氏物語 明石』和泉書院 (2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 桐壺』至文堂				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について 第 2 回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について 第 3 回 「明石」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。 第 4 回 「明石」輪読：その 1 担当の役割説明 第 5 回 「明石」輪読：その 2 第 6 回 「明石」輪読：その 4 第 7 回 「明石」輪読：その 5 第 8 回 補足説明：『源氏物語』の構想と明石の君の役割 第 9 回 「明石」輪読：その 6 第 10 回 「明石」輪読：その 7 第 11 回 「明石」輪読：その 8 第 12 回 「明石」輪読：その 9 第 13 回 「明石」輪読：その 10 第 14 回 「明石」輪読：その 11 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。				
成績評価の方法	輪読担当 50%，筆記試験 50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 124			担当者	木戸 裕子
	日本文学演習 I			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し，歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。 【概要】本演習は，新たに1年生が加わり，1年生の日本文学演習 I と2年生の日本文学演習 III を合同で行なうことにより，2年生には1年生に説明することで，いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また，1年生には，2年生の発表を聴くことを通して，調査，発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習 II と同じく『嵯峨本伊勢物語』である。 【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。 調査・発表の方法を学ぶ。平安時代の文学状況を理解する				
学生の主体的・対話的な学び	1, 2 年生混合でグループワークを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント、『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』 (2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院				
授業 スケジュール	第 1 回 2 年生によるオリエンテーション：作品概要の説明 第 2 回 グループワーク 1：演習の進め方について。辞書索引の引き方，資料の探し方 第 3 回 グループワーク 2：翻字と解釈の実習 第 4 回 グループワーク 3：翻字と解釈の実習その 2 第 5 回 嵯峨本伊勢物語を読む：1 第 6 回 嵯峨本伊勢物語を読む：2 第 7 回 嵯峨本伊勢物語を読む：3 第 8 回 嵯峨本伊勢物語を読む：4 第 9 回 嵯峨本伊勢物語を読む：5 第 10 回 嵯峨本伊勢物語を読む：6 第 11 回 嵯峨本伊勢物語を読む：7 第 12 回 嵯峨本伊勢物語を読む：8 第 13 回 嵯峨本伊勢物語を読む：9 第 14 回 嵯峨本伊勢物語を読む：10 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	日本文学演習 I 担当時外発言 20%，レポート 80% 日本文学演習 III 担当時外発言 20%，担当発表 80%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 125			担当者	木戸 裕子
	日本文学演習Ⅱ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。 【概要】昨年度に引き続き、『嵯峨本伊勢物語』を読む。嵯峨本伊勢物語は、1 年前期の講読Ⅱで扱った作品だが、講読Ⅱでは読み切れなかった章段を学生の担当で読む。平安時代における、物語と和歌の関係を考えるとともに、平安時代の貴族の生活と文化について知見を深めたい。 【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。				
学生の主体的・対話的な学び	担当者が発表した内容について、全員で討議する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント、『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』 (2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：前年度の内容の確認 第 2 回 嵯峨本伊勢物語について： 第 3 回 嵯峨本伊勢物語を読む：1 第 4 回 嵯峨本伊勢物語を読む：2 第 5 回 嵯峨本伊勢物語を読む：3 第 6 回 嵯峨本伊勢物語を読む：4 第 7 回 嵯峨本伊勢物語を読む：5 第 8 回 嵯峨本伊勢物語を読む：6 第 9 回 嵯峨本伊勢物語を読む：7 第 10 回 嵯峨本伊勢物語を読む：8 第 11 回 嵯峨本伊勢物語を読む：9 第 12 回 嵯峨本伊勢物語を読む：10 第 13 回 嵯峨本伊勢物語を読む：11 第 14 回 嵯峨本伊勢物語を読む：12 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	担当発表 80%，担当時以外の発言（質問，意見など）20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 126			担当者	木戸 裕子
	日本文学演習Ⅲ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】平安時代の歌物語的を輪読し，歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。 【概要】本演習は，新たに1年生が加わり，1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより，2年生には1年生に説明することで，いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また，1年生には，2年生の発表を聴くことを通して，調査，発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『嵯峨本伊勢物語』である。 【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。 調査・発表の方法を学ぶ。平安時代の文学状況を理解する				
学生の主体的・対話的な学び	1, 2 年生混合でグループワークを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント、『字典かな』『嵯峨本伊勢物語』 (2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院				
授業 スケジュール	第 1 回 2 年生によるオリエンテーション：作品概要の説明 第 2 回 グループワーク 1：演習の進め方について。辞書索引の引き方，資料の探し方 第 3 回 グループワーク 2：翻字と解釈の実習 第 4 回 グループワーク 3：翻字と解釈の実習その 2 第 5 回 嵯峨本伊勢物語を読む：1 第 6 回 嵯峨本伊勢物語を読む：2 第 7 回 嵯峨本伊勢物語を読む：3 第 8 回 嵯峨本伊勢物語を読む：4 第 9 回 嵯峨本伊勢物語を読む：5 第 10 回 嵯峨本伊勢物語を読む：6 第 11 回 嵯峨本伊勢物語を読む：7 第 12 回 嵯峨本伊勢物語を読む：8 第 13 回 嵯峨本伊勢物語を読む：9 第 14 回 嵯峨本伊勢物語を読む：10 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	演習担当の準備				
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ 担当時外発言 20%，レポート 80% 日本文学演習Ⅲ 担当時外発言 20%，担当発表 80%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 127			担当者	竹本 寛秋
	日本文学講義Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】テーマで読み解く詩 【概要】明治より現在に至る近現代詩を，様々なテーマを切り口にして読解する。実際の作品を読み解きながら，表現と時代に深いつながりがあることを理解し，多様な日本の「詩」について，考察できる能力を身に付ける。 【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。現代の社会や文化について，相対的に考え，自己の考えを形成する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回リアクションペーパーに記入してもらい、その内容に毎回教員がコメントをつけて応答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 大岡信『蕩児の家系—日本現代詩の歩み』（思潮社），他授業中に紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：日本の詩を読むために 第 2 回 恋愛 第 3 回 結婚 第 4 回 音楽 第 5 回 戦争 第 6 回 韻律 第 7 回 仕事 第 8 回 前半のまとめ 第 9 回 イメージ・言語実験 第 10 回 こども 第 11 回 世界認識 第 12 回 都市・機会 第 13 回 労働問題 第 14 回 動物 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	対象テキストの精読。				
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード（40%），レポート（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 128			担当者	丹羽 謙治
	日本文学講読Ⅳ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】西鶴作品鑑賞 【概要】江戸時代前期の散文作品のうち、井原西鶴の浮世草子作品を鑑賞する。浮世草子という娯楽的な作品を多数世に送り出した井原西鶴が、どのような視点から当代の社会を描いたのかを考察しながら読み進める。作品としては『好色一代男』『西鶴諸国はなし』『新可笑記』『世間胸算用』『西鶴置土産』『武家義理物語』をとりあげる。 【到達目標】江戸時代前期の風俗や習慣を正しく理解し、才學の人間を描く手法、文章表現の方法を説明することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 新日本古典文学全集『井原西鶴集①～④』（小学館）				
授業 スケジュール	第 1 回 近世という時代 第 2 回 出版の歴史 第 3 回 仮名草子の世界（『因果物語』鑑賞） 第 4 回 仮名草子の世界（『伽倻子』鑑賞） 第 5 回 好色一代男の成立と浮世草子 第 6 回 『好色一代男』巻 1 の 1 第 7 回 『好色一代男』巻 5 の 1 第 8 回 『西鶴諸国はなし』巻 1 の 4 第 9 回 『西鶴諸国はなし』巻 3 の 2 第 10 回 『懷硯』巻 4 の 4 第 11 回 『世間胸算用』巻 1 の 4 第 12 回 『世間胸算用』巻 4 の 1 第 13 回 『新可笑記』巻 1 の 4 第 14 回 『西鶴置土産』巻 2 の 2 第 15 回 『武家義理物語』巻 1 の 5				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示。				
成績評価の方法	期末試験（100%）。				
実務経験について	なし				

特になし。

授業科目	授業番号： 129			担当者	丹羽 謙治
	日本文学講読Ⅴ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 仮名手本忠臣蔵を読む 【概要】 元禄 14 年（1701）から 16 年にかけて江戸で発生した赤穂事件に取材した浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』を読み解きながら、脚本に込められた意図や演劇手法について解説を加える。併せてビデオで作品の鑑賞を行い、歌舞伎と浄瑠璃の演劇的な特徴について解説する。 【到達目標】 江戸時代の演劇の本質とその手法について正しく説明することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 新潮日本古典集成『仮名手本忠臣蔵』（新潮社）				
授業 スケジュール	第 1 回 赤穂事件の概要：元禄 14 年（1701） 第 2 回 赤穂事件の概要：元禄 15 年以降 第 3 回 江戸時代の演劇：浄瑠璃と歌舞伎 第 4 回 『仮名手本忠臣蔵』 第一 第 5 回 『仮名手本忠臣蔵』 第二 第 6 回 『仮名手本忠臣蔵』 第三（刃傷） 第 7 回 『仮名手本忠臣蔵』 第四 第 8 回 『仮名手本忠臣蔵』 第五 第 9 回 歌舞伎の趣向 第 10 回 『仮名手本忠臣蔵』 第六（前半） 第 11 回 『仮名手本忠臣蔵』 第六（後半） 第 12 回 『仮名手本忠臣蔵』 第七 第 13 回 『仮名手本忠臣蔵』 第八 第 14 回 絵画と忠臣蔵 第 15 回 『仮名手本忠臣蔵』 第十一（討入）				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示。				
成績評価の方法	期末試験（100%）。				
実務経験について	なし				

特になし。

授業科目	授業番号： 130			担当者	竹本 寛秋
	日本文学講読Ⅵ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本近代の文学テキストを、様々な角度から検討する方法を学び、小冊子の編集を通して他者に伝達する方法を学ぶ。 【概要】日本近代の小説を題材として、様々な方法論を使って読み解く。物語構造、小説の語り（ナラティブ）、時代背景の調査、都市空間論、間テキスト性などについて学び、具体的な小説に即して読みを広げる。その上で、その学びの成果を編集して小冊子を作成する。 【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。 具体的な小説テキストについて、その方法論を適用できる。学びの成果を、わかりやすくまとめて伝えることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	5名程度でグループを作り、調査をして、プレイステーションを行います。授業の内容を踏まえた小冊子を作成します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 注釈作業について 第 3 回 注釈作業について 芥川龍之介「舞踏会」を例に 第 4 回 時代背景の調査 中島敦「マリアン」を例に 第 5 回 物語構造 宮澤賢治「猫の事務所」を例に 第 6 回 語り（ナラティブ） 太宰治「トカトントン」を例に 第 7 回 間テキスト性 芥川龍之介「羅生門」を例に 第 8 回 グループ発表1 注釈作業 芥川龍之介「羅生門」 第 9 回 グループ発表2 時代背景の調査 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 第10回 グループ発表3 物語構造 宮澤賢治「よだかの星」 第11回 グループ発表4 語り（ナラティブ） 太宰治「誰も知らぬ」 第12回 グループ発表5 間テキスト性 太宰治「御伽草子 瘤取り」 第13回 小冊子作成の準備作業（1） 第14回 小冊子作成の準備作業（2） 第15回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	対象テキストの精読と検討。小冊子作成の準備。				
成績評価の方法	授業での活動（40%），最終成果物の作成（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 131			担当者	竹本 寛秋
	日本文学講読Ⅶ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】唱歌・校歌・童謡について，その歴史と表現を学び，調査をもとに検討する。 【概要】唱歌・校歌・童謡は，日本近代において生み出された文学表現であり，多くは現代まで歌い継がれている。一方で，これらの成り立ちは多様であるにもかかわらず，大きく「日本の昔のうた」とくくられ，ジャンル相互の差異や，個別のテキストの表現の違いについて，細かく考えられていないように思える。この授業では，これらジャンルの成立背景について学ぶとともに，受講者が自らの出身校の校歌などを調査することを通して，「日本の歌」の多様性について考え，文学や文化の出現と継承について考える力を身に付ける。 【到達目標】唱歌・校歌・童謡について，歴史的背景，それらの表現を分析する方法を理解する。 受講者の興味に従って校歌について調査し，テキストについて分析を行い，それをわかりやすくまとめて伝え，ディスカッションすることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者のそれぞれが，自分の出身校の校歌などを題材として調査を行い，プレイステーションを行います。発表の内容をもとにディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 渡辺裕『歌う国民』（中公新書），周東美材『童謡の近代』（岩波書店），他適宜，授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 唱歌について 第 3 回 唱歌について 2 第 4 回 童謡について 1 第 5 回 童謡について 2 第 6 回 校歌について 第 7 回 調査と発表について 第 8 回 発表準備 第 9 回 発表準備 2 第 10 回 学生による発表 1 第 11 回 学生による発表 2 第 12 回 学生による発表 3 第 13 回 学生による発表 4 第 14 回 学生による発表 5 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	校歌についての調査。発表の準備。				
成績評価の方法	授業での発表・活動（50%），レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 132			担当者	竹本 寛秋
	日本文学演習Ⅳ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。 【概要】明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1 年生はテキストの中から対象を選び発表する。2 年生は関心のある作家について発表する。 【到達目標】文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	担当するテキストについて、調査、検討を行い、発表資料を作成して発表を行います。発表をもとにディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社 (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定 第 2 回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第 3 回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について 第 4 回 口頭発表（1） 第 5 回 口頭発表（2） 第 6 回 口頭発表（3） 第 7 回 口頭発表（4） 第 8 回 口頭発表（5） 第 9 回 前半のまとめ 第 10 回 口頭発表（6） 第 11 回 口頭発表（7） 第 12 回 口頭発表（8） 第 13 回 口頭発表（9） 第 14 回 口頭発表（10） 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	論文収集、資料作成、発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表等（70%）、討議での発言・参加（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 133			担当者	竹本 寛秋
	日本文学演習 V			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本近現代における文学作品を対象として，論文作成の方法を身につける 【概要】明治以降の日本近代文学作品について，論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し，論点を発見して論理的な考察を行い，他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために，さまざまな文学理論について解説を行う。 【到達目標】日本近代文学の作品について，選択したテキストから論点を発見し，論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し，自己の発表に生かすことができる。発表をもとに，ディスカッションすることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	担当するテキストについて，調査，検討を行い，発表資料を作成して発表を行います。発表をもとにディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 斎藤理生他編『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房 (2) 授業中に適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：授業の進め方，研究論文を作成する意義 第 2 回 対象となる作品の決定，文学理論について 第 3 回 発表資料の作成，発表の方法，ディスカッションの方法について 第 4 回 口頭発表（1） 第 5 回 口頭発表（2） 第 6 回 口頭発表（3） 第 7 回 口頭発表（4） 第 8 回 口頭発表（5） 第 9 回 前半のまとめ 第 10 回 口頭発表（6） 第 11 回 口頭発表（7） 第 12 回 口頭発表（8） 第 13 回 口頭発表（9） 第 14 回 論文作成の方法について 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	論文収集，資料作成，発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表，ディスカッションでの発言（40%），レポート（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 134			担当者	竹本 寛秋
	日本文学演習Ⅵ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。 【概要】明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1 年生はテキストの中から対象を選び発表する。2 年生は関心のある作家について発表する。 【到達目標】文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	担当するテキストについて、調査、検討を行い、発表資料を作成して発表を行います。発表をもとにディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社 (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：授業の進め方、担当者の決定 第 2 回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第 3 回 資料の扱い方：資料の収集方法、資料の検討方法について 第 4 回 口頭発表（1） 第 5 回 口頭発表（2） 第 6 回 口頭発表（3） 第 7 回 口頭発表（4） 第 8 回 口頭発表（5） 第 9 回 前半のまとめ 第 10 回 口頭発表（6） 第 11 回 口頭発表（7） 第 12 回 口頭発表（8） 第 13 回 口頭発表（9） 第 14 回 口頭発表（10） 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	論文収集、資料作成、発表準備など。				
成績評価の方法	口頭発表等（70%）、討議での発言・参加（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 135			担当者	土肥 克己
	中国文学史 I			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学史 【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。 【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間の対話を促します。				
(1)テキスト	(1) プリントを配布します。				
(2)参考文献	(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方について 第 2 回 詩経 (1) 第 3 回 詩経 (2) 第 4 回 詩経 (3) 第 5 回 楚辞 (1) 第 6 回 楚辞 (2) 第 7 回 楚辞 (3) 第 8 回 諸子 (1) 第 9 回 諸子 (2) 第 10 回 諸子 (3) 第 11 回 辞賦 (1) 第 12 回 辞賦 (2) 第 13 回 辞賦 (3) 第 14 回 辞賦 (4) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	定期試験 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 136			担当者	土肥 克己
	中国文学史Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学史 【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。 【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間の対話を促します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会				
授業 スケジュール	第 1 回 楽府 (1) 第 2 回 楽府 (2) 第 3 回 楽府 (3) 第 4 回 五言詩 (1) 第 5 回 五言詩 (2) 第 6 回 五言詩 (3) 第 7 回 志怪小説 (1) 第 8 回 志怪小説 (2) 第 9 回 志怪小説 (3) 第 10 回 近体詩 (1) 第 11 回 近体詩 (2) 第 12 回 近体詩 (3) 第 13 回 伝奇 (1) 第 14 回 伝奇 (2) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	定期試験 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 137			担当者	土肥 克己
	中国文学講読 I			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】漢文の文法 【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文（白文）を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。 【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方について 第 2 回 基本文型 (1) 第 3 回 基本文型 (2) 第 4 回 基本文型 (3) 第 5 回 基本文型 (4) 第 6 回 基本文型 (5) 第 7 回 基本文型 (6) 第 8 回 副詞 第 9 回 基本文型の連続 第 10 回 フレーズ (1) 第 11 回 フレーズ (2) 第 12 回 フレーズ (3) 第 13 回 フレーズ (4) 第 14 回 フレーズ (5) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 138			担当者	土肥 克己
	中国文学講読Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】漢文学の基礎 【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っているのと役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。 【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方について 第 2 回 漢字 (1) 第 3 回 漢字 (2) 第 4 回 漢字 (3) 第 5 回 漢字 (4) 第 6 回 漢字 (5) 第 7 回 漢文 (1) 第 8 回 漢文 (2) 第 9 回 漢文 (3) 第 10 回 漢文学 (1) 第 11 回 漢文学 (2) 第 12 回 中国文学 (1) 第 13 回 中国文学 (2) 第 14 回 中国文学 (3) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。				
成績評価の方法	小テスト 50%, 定期試験 50%				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 139			担当者	土肥 克己
	中国文学演習 I			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】白居易の作品を読む 【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。 【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方について 第 2 回 講読 (1) 第 3 回 講読 (2) 第 4 回 講読 (3) 第 5 回 講読 (4) 第 6 回 講読 (5) 第 7 回 講読 (6) 第 8 回 講読 (7) 第 9 回 講読 (8) 第 10 回 講読 (9) 第 11 回 講読 (10) 第 12 回 講読 (11) 第 13 回 講読 (12) 第 14 回 講読 (13) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 140			担当者	土肥 克己
	中国文学演習Ⅱ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文 【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり，素材選択から調査，分析，構想，発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島県の漢文石碑を調査し，漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。 【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回，質疑応答をくり返し，学生間で議論します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方について 第 2 回 文献調査の基礎 (1) 第 3 回 文献調査の基礎 (2) 第 4 回 論文の読み方 第 5 回 石碑調査 (1) 第 6 回 石碑調査 (2) 第 7 回 石碑調査 (3) 第 8 回 石碑調査 (4) 第 9 回 石碑調査 (5) 第 10 回 プレゼン練習 (1) 第 11 回 プレゼン練習 (2) 第 12 回 プレゼン練習 (3) 第 13 回 プレゼン練習 (4) 第 14 回 プレゼン練習 (5) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。				
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 141			担当者	土肥 克己
	中国文学演習Ⅲ			授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する 【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。 【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間で議論します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 授業の進め方について 第 2 回 論文整理と発表 (1) 第 3 回 論文整理と発表 (2) 第 4 回 論文整理と発表 (3) 第 5 回 論文整理と発表 (4) 第 6 回 論文整理と発表 (5) 第 7 回 論文整理と発表 (6) 第 8 回 論文整理と発表 (7) 第 9 回 論文整理と発表 (8) 第 10 回 論文整理と発表 (9) 第 11 回 論文整理と発表 (10) 第 12 回 論文整理と発表 (11) 第 13 回 論文整理と発表 (12) 第 14 回 論文整理と発表 (13) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。				
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 142			担当者	専攻教員全員
	卒業研究 I			授業外対応	各教員から適宜指示
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】卒業論文の作成 【概要】卒業論文は 2 年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。 1 年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2 年次前期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめます。教員は演習と連動させながら卒業研究課題のしぼり込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。 【到達目標】卒業論文の準備と中間報告				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間で議論します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：卒業論文の進め方 第 2 回 論文作成：その 1 第 3 回 論文作成：その 2 第 4 回 論文作成：その 3 第 5 回 論文作成：その 4 第 6 回 論文作成：その 5 第 7 回 論文作成：その 6 第 8 回 論文作成：その 7 第 9 回 論文作成：その 8 第 10 回 論文作成：その 9 第 11 回 論文作成：その 10 第 12 回 論文作成：その 11 第 13 回 論文作成：その 12 第 14 回 論文作成：その 13 第 15 回 論文作成：まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	中間報告 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 143			担当者	専攻教員全員
	卒業研究Ⅱ			授業外対応	各教員から適宜指示
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】卒業論文の作成 【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。 2 年次後期は卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。教員は演習と連動させながら卒業研究課題のしぼり込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。 【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、質疑応答をくり返し、学生間で議論します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 論文作成：その 1 第 2 回 論文作成：その 2 第 3 回 論文作成：その 3 第 4 回 論文作成：その 4 第 5 回 論文作成：その 5 第 6 回 論文作成：その 6 第 7 回 論文作成：その 7 第 8 回 論文作成：その 8 第 9 回 論文作成：その 9 第 10 回 論文作成：その 10 第 11 回 論文作成：その 11 第 12 回 論文作成：その 12 第 13 回 論文作成：その 13 第 14 回 論文作成：その 14 第 15 回 論文作成：まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	卒業論文 75%，口頭発表 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 144			担当者	小林 朋子
	米文学史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期,後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流 【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。作品に使用されて 【到達目標】アメリカ文学史上、代表的な作品についてその内容を理解している。アメリカ文学が描いてきたアメリカ社会・文化について理解を深め、その知見に基づいて多角的に現代のアメリカ文化を理解できる。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、作品内容や自分の訳文について、グループもしくはペアで議論する時間を設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、2004年） (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 イントロダクションーネイティブ・アメリカンの詩 第 2 回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（1） 第 3 回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（2） 第 4 回 「驚異」の世界ーロマン主義の勃興 第 5 回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（1） 第 6 回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（2） 第 7 回 「金めつき時代」ーリアリズムの勃興 第 8 回 危機と革新ーリアリズムの展開 第 9 回 繁栄と解放の文学ーロスト・ジェネレーション 第 10 回 世界へ向けてーモダニズムの文学 第 11 回 戦後文学の出発ー第 2 次世界大戦と冷戦 第 12 回 自我をつくろうー人種系文学（1） 第 13 回 自我をつくろうー人種系文学（2） 第 14 回 自己の探求ーポスト・モダニズムの文学 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 145			担当者	木戸 裕子
	読書と豊かな人間性			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。 【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。 【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考える。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。 様々な読書活動の方法を知る。大勢の前でプレゼンテーションを行う。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回の講義の中で、グループディスカッションと発表の時間が 1 回、ブックトークの準備のグループワークが 2, 3 回ある。最後の回でプレゼンテーションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社 (2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院, 小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会, 渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会,				
授業 スケジュール	第 1 回 読書教育とは何か：発達に応じた読書 第 2 回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々 第 3 回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館 第 4 回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携 第 5 回 読書教育の方法 1：就学前・学校全体 第 6 回 読書教育の方法 2：教科と読書教育 第 7 回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ 第 8 回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合 第 9 回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション 第 10 回 発達を支える読書：特別支援教育との関係 第 11 回 読書活動 1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト 第 12 回 読書活動 2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング 第 13 回 読書活動 3：パネルシアター、紙芝居 第 14 回 実演 1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど 第 15 回 実演 2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど				
授業外学習 (予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。				
成績評価の方法	課題提出 (50%) と、授業第 14 回、15 回での実演 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 146			担当者	竹本 寛秋
	情報メディアの活用			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。 【概要】テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。 【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回リアクションペーパーに記入してもらい、その内容に毎回教員がコメントをつけて応答します。新聞報道などをグループでまとめ、発表してディスカッションを行う機会が1回あります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 情報社会の系譜 第 2 回 情報検索の手法 第 3 回 インターネットの系譜 第 4 回 情報社会の進展と学習観の変遷 第 5 回 学校情報化の変遷と現状 第 6 回 情報社会と著作権 1：著作権の理解 第 7 回 情報社会と著作権 2：著作権の制限 第 8 回 情報社会と著作権 3：デジタル化の進行と著作権 第 9 回 情報セキュリティ 第 10 回 インターネットと情報検索、情報探索の技法 第 11 回 情報探索の実践 第 12 回 ICT を活用した授業 第 13 回 ネットワーク運用 第 14 回 演習 1：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション 第 15 回 演習 2：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。				
成績評価の方法	授業での課題（60%）、期末試験（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 147			担当者	川畑 和明
	書道 I			授業外対応	授業終了後に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の学習 【概要】書道は、文字を素材とする芸術である。本講座では、まず書体の変遷について概要を学ぶとともに、中学校の書写教育の概観を捉える。そして、中学校書写の楷書・行書の教材を練習し、その執筆法を習得することにより、書写学習の基礎を学習する。 【到達目標】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の書き方を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊・中学国語科書写教科書 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 書について（書体の特徴とその変遷）、中学校における書写教育 第 2 回 楷書の特徴とその書法（基本点画 1） 第 3 回 楷書の特徴とその書法（基本点画 2） 第 4 回 楷書作品制作 第 5 回 楷書に調和する仮名 第 6 回 楷書と仮名の調和 第 7 回 楷書（硬筆） 第 8 回 行書の特徴とその書法 第 9 回 行書の特徴とその書法 第 10 回 行書作品制作 第 11 回 行書に調和する仮名 第 12 回 行書と仮名の調和 第 13 回 行書（硬筆） 第 14 回 作品制作 第 15 回 作品制作，学習のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

（注）教職必修

授業科目	授業番号： 148			担当者	川畑 和明
	書道Ⅱ			授業外対応	授業終了後に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書・仮名の古典学習 【概要】中学校書写の楷書・行書の教材と関連しながら、楷書・行書・仮名の古典学習を通して、それぞれの筆法を学習する。 【到達目標】中学校における書写教育の楷書・行書の書き方を、古典学習を通し深める。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 中学校における書写教育 第 2 回 楷書の古典（基本点画） 第 3 回 楷書の古典（九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑） 第 4 回 楷書の古典（雁塔聖教序・顔氏家廟碑） 第 5 回 楷書の古典（造像記） 第 6 回 行書の古典（基本点画） 第 7 回 行書の古典（蘭亭序） 第 8 回 行書の古典（争坐位文稿他） 第 9 回 行書の古典（蜀素帖他） 第 10 回 仮名の書（いろは単体） 第 11 回 仮名の書（連綿） 第 12 回 仮名の書（高野切） 第 13 回 仮名の書（三色紙） 第 14 回 作品制作 第 15 回 作品制作，学習のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

（注）教職必修

授業科目	授業番号： 149			担当者	川畑 和明
	書道Ⅲ			授業外対応	授業終了後に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】草書・隸書・篆書の古典学習 【概要】漢字の書には、楷書・行書・草書・隸書・篆書の5つの書体がある。書道Ⅰ・Ⅱで日常生活において多用される楷書と行書を学習した。書道Ⅲでは、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、書の幅広い技法を学ぶ。 【到達目標】書道Ⅰ・Ⅱの楷書・行書学習の発展として、草書・隸書・篆書の古典学習を通して、それぞれの筆法を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 草書の特徴とその書法 第 2 回 草書の古典（書譜） 第 3 回 草書の古典（十七帖） 第 4 回 草書の古典（王鐸・傅山等） 第 5 回 作品制作 第 6 回 篆書の特徴とその書法 第 7 回 篆書の古典（泰山刻石） 第 8 回 篆書の古典（甲骨文・金文） 第 9 回 篆書の古典（帛書・木簡） 第 10 回 隸書の特徴とその書法 第 11 回 隸書の古典（曹全碑・礼器碑） 第 12 回 隸書の古典（古隸） 第 13 回 隸書の古典（木簡） 第 14 回 作品制作 第 15 回 作品制作，学習のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

授業科目	授業番号： 150			担当者	川畑 和明
	書道Ⅳ			授業外対応	授業終了後に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】書作品制作 【概要】書道学習の集大成として、書作品制作にチャレンジする。漢字作品、仮名作品、漢字仮名交じり作品の制作を通して書の楽しさと魅力を味わうことを目的とする。また、自分の名を刻した印を制作し、作品に押印する。 【到達目標】書作品の制作を通して、書への興味・関心を高め、その技法を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨「改訂 書道の古典Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」二玄社刊 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 作品制作の計画 第 2 回 篆刻（自用印の制作） 第 3 回 篆刻（自用印の制作） 第 4 回 篆刻（自用印の制作） 第 5 回 漢字作品制作 第 6 回 漢字作品制作 第 7 回 漢字作品制作 第 8 回 漢字作品制作 第 9 回 仮名作品制作 第 10 回 仮名作品制作 第 11 回 仮名作品制作 第 12 回 仮名作品制作 第 13 回 漢字仮名交じり作品制作 第 14 回 漢字仮名交じり作品制作 第 15 回 漢字仮名交じり作品制作、学習のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	学習への取り組みおよび作品				
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務				

授業科目	授業番号： 151			担当者	遠峯 伸一郎
	English Skills A			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】平易な英語のリーディングを通して、英語学を概観する。 【概要】英語の文章を文法的に正しく読み取ることによって、英語学がどのような目標を持って、何を調査するものであるかを学ぶ。 【到達目標】英文の正しい読解に必要な基礎的文法を確認し、英語学が何であるのかを理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	予習成果について受講者間で情報交換と討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Naoyuki, Akaso et al. (2013) Twenty-Six Short Essays on English, Eihosha. (2) 随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 Chapter 1 第 3 回 Chapter 2 第 4 回 Chapter 3 第 5 回 Chapter 4 第 6 回 Chapter 5 第 7 回 Chapter 6 第 8 回 Chapter 7 第 9 回 Chapter 8 第 10 回 Chapter 10 第 11 回 Chapter 11 第 12 回 Chapter 12 第 13 回 Chapter 13 第 14 回 Chapter 14 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 1 時間二条必要である。				
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 152			担当者	野田 ゆり子
	English Skills B			授業外対応	授業前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】原書で物語を楽しむ 【概要】本授業では、J. K. ローリングによるファンタジー『ハリー・ポッターと賢者の石 (Harry Potter and the Philosopher's Stone)』を英語で読解していきます。要約・和訳などの読解問題を随時配布し、学校小説やファンタジーというジャンル、イギリスの階級などについて適宜紹介し、原文で物語を理解する力と、読解を深めるための知識を養います。(学生の達成度に合わせて、シラバスの進行度を調整する可能性があります。) また、自分で英語の本を選んで読み、紹介するためのプレゼンテーションも行う予定です。 【到達目標】洋書を読破できる英語力を身につける。海外の作品に親しむための背景知識を獲得する。				
学生の主体的・対話的な学び	予習内容(要約問題)を踏まえた上で、授業内ではグループで問題に取り組んでももらいます。また、自分で一冊本を読んで紹介するプレゼンテーションも行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Rowling, J. K. Harry Potter and the Philosopher's Stone. Bloomsbury, 2000. 望月正道監修『Database 4800』桐原書店 (2) ローリング、J. K. 『ハリー・ポッターと賢者の石』静山社、2019 年。 板倉徹一郎『大学で読むハリー・ポッター』松柏社、2012 年。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス (J. K. ローリングと『ハリー・ポッター』シリーズの紹介、図書館で多読本探し) 第 2 回 映画鑑賞『ハリー・ポッターと賢者の石』(前半) 第 3 回 映画鑑賞『ハリー・ポッターと賢者の石』(後半) 第 4 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 1,2 第 5 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 3,4 第 6 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 5,6 第 7 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 7,8 第 8 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 9,10 第 9 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 11,12 第 10 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 13,14 第 11 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 15,16 第 12 回 Harry Potter and the Philosopher's Stone Chapter 17, Discussion 第 13 回 Discussion 第 14 回 Presentation Preparation 第 15 回 Final Presentation				
授業外学習 (予習・復習)	予習：毎回の授業までにテキストを読み、予習プリント(要約問題)に取り組む。小テスト対策。自分で選んだ本を読む。 復習：授業内で分からなかった和訳については、適宜復習しておく。				
成績評価の方法	毎授業の提出課題が 40%、プレゼンテーションが 30%、小テストが 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 153			担当者	石井 英里子
	English Skills C			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語で学ぶ日米文化比較 【概要】この授業では、大学生活、家族、食文化、多文化社会など、様々なトピックについて日米文化を比較しながら、論理的で明晰な英語の説明文を丁寧に読み解き、英語の読解力を向上させます。文法や語彙、文の構造を詳しく学び、正確な日本語訳ができるようになることを目指します。 【到達目標】英文の構造を理解し、正確に日本語訳ができる。日米文化の比較を通じて異文化理解を深める。文脈に応じた適切な語彙や表現を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	2～3名のグループで各章のトピックについてディスカッションを行い、日米文化の違いに関する気づきを共有します。Google フォームで質問を募集し、次回授業で解説することで双方向的な学びを促進します。最終回では、学んだ文化比較の視点を活かして、グループでディスカッションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Charlebois, J. & Sakuma, S. (2015). Cultural Portraits: Japan and the US. Kinseido. (2) Delk, L.C. (2008). Discovering American Culture. 2nd Edition. University of Michigan Press.				
授業 スケジュール	第 1 回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート) 第 2 回 College Life : 日米の学生生活の違いを読む 第 3 回 Family : 文化による家族観の違いを理解する 第 4 回 Food Culture : 食習慣から見る文化の違い 第 5 回 Holidays : なぜ祝日が異なるのか? 第 6 回 Individualism : 文化的価値観を読み解く 第 7 回 Socializing at Parties : 日本とアメリカの違い 第 8 回 Dating and Romance : デート文化を比較する 第 9 回 Pluralistic Society : 異なる価値観の共存を考える 第 10 回 Degree of Formality : 場面に応じた言葉遣い 第 11 回 Volunteerism : 社会貢献への考え方の違い 第 12 回 Context and Communication : 言葉の背景を知る 第 13 回 Non-Verbal Communication : ジェスチャーの違いを理解する 第 14 回 Religion : 信仰の違いが生活に与える影響 第 15 回 まとめとディスカッション : 学んだことを振り返る				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	小テスト 30% , リーディング課題 30%, 授業内ディスカッション・発表 20%, レポート課題 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 154			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	オーラルコミュニケーション I			授業外対応	Office Hours.
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 In this course you will improve your English Communication Skills. 【概要】 In this class, various topics will be presented for students to discuss and express their ideas and opinions about them, always in pairs. In addition, each topic will include specific vocabulary, expressions and communication techniques that the students will learn. There will also be communicative activities using multimedia materials such as videos and music. Also through short presentations/conversations with the teacher they will be able to improve their communicative skills in English. 【到達目標】 The aim of this course is for students to acquire the necessary communication skills to improve their ability to express their ideas in English as naturally, confidently and logically as possible.				
学生の主体的・対話的な学び	Antonia Clare, JJ Wilson 『Speakout. A2 3rd Edition』, Pearson.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Antonia Clare, JJ Wilson 『Speakout. A2 3rd Edition』, Pearson. (2) なし				
授業 スケジュール	第1回 Course explanation. Introduction activity: Why do you want to Speak in English? 第2回 Unit 1: Speaking. Talking about the people around you. Grammar review: past simple. 第3回 Unit 1: Communication Skills. Stressed verbs and pronunciation of (-ed) verbs. 第4回 Unit 1: Short Conversation. Tell a funny anecdote experienced with a friend or a family member. 第5回 Unit 2: Speaking: It's a world full of jobs. Grammar review: present simple and continuous. 第6回 Unit 2: Communication Skills. Intonation; express likes and dislikes. 第7回 Unit 2: Short Conversation. Your dreamed job. 第8回 Unit 3: Speaking. Food and recipes (vocabulary and expressions) 第9回 Unit 3: Communication Skills. How to present a recipe. 第10回 Unit 3. Short Conversation. Present your recipe. 第11回 Unit 4. Speaking. What do we do in our free time? Grammar review: present continuous and "be going to" future. 第12回 Unit 4. Short Conversation. Explain what you do on a Holiday. 第13回 Unit 5. Speaking. Our Story. Amazing or curious experiences. Grammar review: past simple and past continuous. 第14回 Unit 5. Communication Skills. Intonation of questions; stressed syllables. 第15回 Unit 5. Short Conversation. The best day of your life. 第16回 Unit 6. Speaking. What do you prefer, city or countryside? 第17回 Unit 6. Communication Skills: agreement and disagreement; intonation to express certainty and uncertainty. 第18回 Unit 6. Short Conversation. Explain the good points and bad points of living in Kagoshima. 第19回 Unit 7: Speaking. Music. Additional learning: Collocations and prepositions related to this topic. 第20回 Unit 7: Communication Skills: Pronunciation and rhythm in complex words and sentences. 第21回 Unit 7: Short conversation. Your favorite musical artist. 第22回 Unit 8: Speaking. Talking about Popular culture characters and books, comics, movies, TV shows and video-games. 第23回 Unit 8: Communication Skills. Intonation for polite expressions and contrastive stress. 第24回 Unit 8. Short Conversation. Your favorite book/comic/Movie/TV Show/video-game. 第25回 Unit 9. Speaking. A global world with cultural differences. 第26回 Unit 9. Grammar review. The conditionals. Communication Skills. Intonation when making requests. 第27回 Unit 9. Short Conversation. Try to explain a foreigner some important aspects of Japanese culture. 第28回 Special Activity. Viewing of the animated short film The Wonderful Summer of Mickey Mouse. Comments on the film. 第29回 Review of the Course and preparation for the final short Conversation. 第30回 Final Short Conversation. Free topic.				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class short conversations 60%; Final short conversation 40%				
実務経験について	I've been teaching this class since 2019.				

授業科目	授業番号： 155			担当者	ジェイムズ・マレー
	オーラルコミュニケーション I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。 【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。 【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 2 (2nd Edition) (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2 回 Unit 1: Video Translation 通訳練習 第 3 回 Unit 1: New Vocabulary 新しい単語 第 4 回 Unit 1: Listening Challenge 聞き取る練習 第 5 回 Unit 1: Interview インタビュー 第 6 回 Debate #1 Preparation 討論の準備 第 7 回 Debate #1 討論 第 8 回 Unit 2: Video Translation 通訳練習 第 9 回 Unit 2: New Vocabulary 新しい単語 第 10 回 Unit 2: Listening Challenge 聞き取る練習 第 11 回 Unit 2: Roleplay Activity ロールプレイ 第 12 回 Debate #2 Preparation 討論の準備 第 13 回 Debate #2 討論 第 14 回 Unit 3: Video Translation 通訳練習 第 15 回 Unit 3: New Vocabulary 新しい単語 第 16 回 Unit 3: Listening Challenge 聞き取る練習 第 17 回 Unit 3: Interview インタビュー 第 18 回 Presentation #1 Preparation プレゼンテーションの準備 第 19 回 Presentation #1 プレゼンテーション 第 20 回 Unit 4: Video Translation 通訳練習 第 21 回 Unit 4: New Vocabulary 新しい単語 第 22 回 Unit 4: Listening Challenge 聞き取る練習 第 23 回 Unit 4: Roleplay Activity ロールプレイ 第 24 回 Presentation #2 Preparation プレゼンテーションの準備 第 25 回 Presentation #2 プレゼンテーション 第 26 回 Unit 5: Video Translation 通訳練習 第 27 回 Unit 5: New Vocabulary 新しい単語 第 28 回 Unit 5: Listening Challenge 聞き取る練習 第 29 回 Unit 5: Interview インタビュー 第 30 回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 156			担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	オーラルコミュニケーション I			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English. 【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。 We will do short speeches, group and pair discussions and speaking practice. 【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence. テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman (2) プリントを配布する場合があります。				
授業スケジュール	第 1 回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule) 第 2 回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small? 第 3 回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion 第 4 回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead 第 5 回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for? 第 6 回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion 第 7 回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father 第 8 回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships 第 9 回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs 第 10 回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion 第 11 回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie 第 12 回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets 第 13 回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One 第 14 回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion 第 15 回 Unit 20 A Mother's Story / Final revision				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 157			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	オーラルコミュニケーションⅡ			授業外対応	Office Hours.
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 In this course you will further improve your English Communication Skills. 【概要】 In this class, various topics will be presented for students to discuss and express their ideas and opinions about them, always in pairs. In addition, each topic will include specific vocabulary, expressions and communication techniques that the students will learn. There will also be communicative activities using multimedia materials such as videos and music. Also through short presentations/conversations with the teacher they will be able to improve their communicative skills in English. 【到達目標】 The aim of this course is for students to acquire the necessary communication skills to improve their ability to express their ideas in English as naturally, confidently and logically as possible.				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Antonia Clare, JJ Wilson 『Speakout. B1 3rd Edition』 Pearson. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Course explanation. Introduction activity: Why do you want to be able to communicate in English? 第 2 回 Unit 1: Speaking. Discussing about recent news. Grammar review. Past simple and present perfect. 第 3 回 Unit 1: Communication Skills. Differences between verbs tell and say; pronunciation of have, had and was; intonation to sound interesting. 第 4 回 Unit 1: Short Conversation. Interesting news. 第 5 回 Unit 2: Speaking: It's a technological and scientific world . Grammar review. simple future. 第 6 回 Unit 2: Communication Skills. Time idioms; fast speech (gonna); linking in connected speech. 第 7 回 Unit 2: Short Conversation. Advantages and disadvantages of technological devices. 第 8 回 Unit 3: Speaking. Amazing jobs. Grammar review. Obligation modal verbs, simple conditional and used to. 第 9 回 Unit 3: Communication Skills. Intonation to show emphasis; fast speech (have to); sentence stress. 第10回 Unit 3. Short Conversation. An amazing job. 第11回 Unit 4. Speaking. Emotions and feelings. Grammar review. Real and hypothetical conditionals. 第12回 Unit 4. Communication Skills. Weak forms (pronouns); connected speech (would); intonation for giving bad news. 第13回 Unit 4. Short Conversation. Talk about an important event in your life and how you feel about it. 第14回 Unit 5. Speaking. What is necessary to achieve success? Grammar review. Present perfect vs present continuous. 第15回 Unit 5. Communication Skills. Talking about present and past abilities; clarifying opinions; word stress; contractions. 第16回 Unit 5. Short Conversation. Talk about the greatest achievement you did so far. 第17回 Unit 6. Speaking. When was life better, now or in the past? Grammar review. Passive voice. 第18回 Communications skills. Vocabulary to talk about historical events; collocations for periods of time; pausing for effect. 第19回 Unit 6. Short Conversation. Explain your favorite historical event. 第20回 Unit 7: Speaking. Discussion about the problems the world us facing today. Grammar review. Reported speech. 第21回 Unit 7: Communication Skills: vocabulary related to the environment; prefixes. 第22回 Unit 7: Short conversation. Solutions to the world problems 第23回 Unit 8: Speaking. Pop Culture. Grammar review. Relative clauses and quantifiers. 第24回 Unit 8: Communication Skills. Verb phrases; stress pattern in short phrases. 第25回 Unit 8. Short Conversation. Your favorite pop culture character. 第26回 Unit 9. Speaking. Discussion about fame. Grammar review. Comparatives and superlatives. 第27回 Unit 9. Communication Skills. Syllable stress; intonation for questions tags and polite requests. 第28回 Unit 9. Short Conversation. The cost of fame. 第29回 Special Activity. Viewing of the animated short film The Wonderful Winter of Mickey Mouse. Comments on the film. 第30回 Final Short Conversation. Free Topic.				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class short conversations 60%; Final short conversation 40%				
実務経験について	I've been teaching this class since 2019.				

授業科目	授業番号： 158			担当者	ジェイムズ・マレー
	オーラルコミュニケーションⅡ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。 【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。 【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ることを。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 2 (2nd Edition) (2) なし				
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2 回 Unit 7: Video Translation 通訳練習 第 3 回 Unit 7: New Vocabulary 新しい単語 第 4 回 Unit 7: Listening Challenge 聞き取る練習 第 5 回 Unit 7: Interview インタビュー 第 6 回 Debate #1 Preparation 討論の準備 第 7 回 Debate #1 討論 第 8 回 Unit 8: Video Translation 通訳練習 第 9 回 Unit 8: New Vocabulary 新しい単語 第 10 回 Unit 8: Listening Challenge 聞き取る練習 第 11 回 Unit 8: Roleplay Activity ロールプレイ 第 12 回 Debate #2 Preparation 討論の準備 第 13 回 Debate #2 討論 第 14 回 Unit 9: Video Translation 通訳練習 第 15 回 Unit 9: New Vocabulary 新しい単語 第 16 回 Unit 9: Listening Challenge 聞き取る練習 第 17 回 Unit 9: Interview インタビュー 第 18 回 Presentation #1 Preparation プレゼンテーションの準備 第 19 回 Presentation #1 プレゼンテーション 第 20 回 Unit 10: Video Translation 通訳練習 第 21 回 Unit 10: New Vocabulary 新しい単語 第 22 回 Unit 10: Listening Challenge 聞き取る練習 第 23 回 Unit 10: Roleplay Activity ロールプレイ 第 24 回 Presentation #2 Preparation プレゼンテーションの準備 第 25 回 Presentation #2 プレゼンテーション 第 26 回 Unit 11: Video Translation 通訳練習 第 27 回 Unit 11: New Vocabulary 新しい単語 第 28 回 Unit 11: Listening Challenge 聞き取る練習 第 29 回 Unit 11: Interview インタビュー 第 30 回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 159			担当者	ニコライ・ギュレメトヴ
	オーラルコミュニケーションⅡ			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English. 【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。 We will do short speeches, group and pair discussions and speaking practice. 【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence. テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman (2) プリントを配布する場合があります。				
授業スケジュール	第 1 回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule) 第 2 回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small? 第 3 回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion 第 4 回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead 第 5 回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for? 第 6 回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion 第 7 回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father 第 8 回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships 第 9 回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs 第 10 回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion 第 11 回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie 第 12 回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets 第 13 回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One 第 14 回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion 第 15 回 Unit 20 A Mother's Story / Final revision				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス（60％）＋発表・スピーチ（期末ショートスピーチを含む）（40％）による評価します。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 160			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	オーラルコミュニケーションⅢ			授業外対応	Office Hours.
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 In this course you will even further improve your English Communication Skills. 【概要】 Through questions raised in class related to each topic of the course, students will acquire the ability to identify how American cultural values are represented in different forms of popular culture 【到達目標】 The aim of this course is for students to acquire the necessary communication skills to improve their ability to express their ideas in English as naturally, confidently and logically as possible.				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions and other activities such as games for learning vocabulary and expressions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Antonia Clare, JJ Wilson 『Speakout. B2 3rd Edition』 Pearson. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Course explanation. Self-introductions. 第 2 回 Unit 1: Speaking. Discussing about fears and phobias. Grammar review. Making suggestions. 第 3 回 Unit 1: Communication Skills. Stress patterns when responding; verb + preposition constructions. 第 4 回 Unit 1: Short Conversation. Scary stories. 第 5 回 Unit 2: Speaking: Your life style. Grammar review. Passive and causative have. 第 6 回 Unit 2: Communication Skills. Everyday object vocabulary; stress for causative have; linking in connected speech. 第 7 回 Unit 2: Short Conversation. Your good and bad habits. 第 8 回 Unit 3: Speaking. Discussing about health. Grammar review. Passive reporting structures 第 9 回 Unit 3: Communication Skills. Health vocabulary; disagreeing politely. 第 10 回 Unit 3. Short Conversation. Healthy advices. 第 11 回 Unit 4. Speaking. Discussing about the necessity or not of having a smart phone Grammar review. Indirect questions; present perfect simple and continuous. 第 12 回 Unit 4. Communication Skills. Intonation for stamen questions; intonation when sounding enthusiastic. 第 13 回 Unit 4. Short Conversation. Anecdote about using your smartphone. 第 14 回 Special activity. Viewing of a movie. Commenting on the movie. 第 15 回 Final Short presentation.				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	In-class short conversations 60%; Final short conversation 40%				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 161			担当者	ジェイムズ・マレー
	オーラルコミュニケーションⅢ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。 【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。 【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。				
学生の主体的・対話的な学び	Group discussions, pair work, debates, presentations, and activities to promote free dialogue. グループディスカッション、ペアワーク、討論、プレゼンテーション、自由な対話を促進する活動などが行われます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 3 (2nd Edition) (2) なし				
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2 回 Speaking: Talking about People, Places, and Things 世間話 第 3 回 Pronunciation: Intonation. / Listening: Listen for Details. 詳細に耳を傾ける 第 4 回 Debate (1) Preparation 討論の準備 第 5 回 Debate (1) / Conversation Practice 討論 第 6 回 Speaking: Talking about Experiences 経験について話す 第 7 回 Pronunciation: Expressing Emotion 感情を表現する. Listening: News Reports ニュース報道 第 8 回 Conversation Practice 会話の練習 第 9 回 Presentation (1) Preparation プレゼンテーションの準備 第 10 回 Presentation (1) / Conversation Practice プレゼンテーション 第 11 回 Speaking: Talking about Opinions 意見について話す 第 12 回 Pronunciation: -ed endings. / Listening: Identifying the Topic 話題を特定する 第 13 回 Presentation (2) Preparation プレゼンテーションの準備 第 14 回 Presentation (2) / Conversation Practice プレゼンテーション 第 15 回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 162			担当者	ジョン・トレマーコ
	オーラルコミュニケーションⅢ			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Everyday Conversation. 【概要】 This course will build upon the students' previous studies. Initially, they will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation. In addition to this, they will be given guidance that will encourage and allow them to take part in debates and presentations. 【到達目標】 To improve students' communication skills.				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Bridging Communication Skills: Author(s): S. Suzuki, M. Miller & P. McClue Publisher: Kinseido (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations (導入ーコースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: Getting to know your classmates 第 3 回 Unit 2: Memories and Experiences 第 4 回 Unit 3: Food and Cooking 第 5 回 Unit 4: Health 第 6 回 Unit 5: Humans and Animals 第 7 回 Unit 6: Telling Stories 第 8 回 Unit 7: Review 第 9 回 Unit 8: Emotions? 第 10 回 Unit 9: Talking About the Summer Holidays 第 11 回 Unit 10: Intelligence 第 12 回 Unit 11: Superstitions 第 13 回 Unit 12: Comparing Cultures 第 14 回 Unit 13: Apologies! 第 15 回 Unit 14: Communication & Future Plans 第 16 回 Test & Review The pace and range of progress will very much depend on the characteristics of the class.				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 163			担当者	ジェイムズ・マレー
	オーラルコミュニケーションⅢ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。 【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。 【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。				
学生の主体的・対話的な学び	Group discussions, pair work, debates, presentations, and activities to promote free dialogue. グループディスカッション、ペアワーク、討論、プレゼンテーション、自由な対話を促進する活動などが行われます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 3 (2nd Edition) (2) なし				
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2 回 Speaking: Talking about People, Places, and Things 世間話 第 3 回 Pronunciation: Intonation. / Listening: Listen for Details. 詳細に耳を傾ける 第 4 回 Debate (1) Preparation 討論の準備 第 5 回 Debate (1) / Conversation Practice 討論 第 6 回 Speaking: Talking about Experiences 経験について話す 第 7 回 Pronunciation: Expressing Emotion 感情を表現する. Listening: News Reports ニュース報道 第 8 回 Conversation Practice 会話の練習 第 9 回 Presentation (1) Preparation プレゼンテーションの準備 第 10 回 Presentation (1) / Conversation Practice プレゼンテーション 第 11 回 Speaking: Talking about Opinions 意見について話す 第 12 回 Pronunciation: -ed endings. / Listening: Identifying the Topic 話題を特定する 第 13 回 Presentation (2) Preparation プレゼンテーションの準備 第 14 回 Presentation (2) / Conversation Practice プレゼンテーション 第 15 回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 164			担当者	ジェイムズ・マレー
	オーラルコミュニケーションⅣ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Practice to improve English listening and speaking. 英リスニング・スピーキング力を向上させる練習。 【概要】 Students will learn important expressions, join in group discussions, and develop listening skills. They will also do pair work and presentations. 学生たちは重要な表現を学び、グループの会話に参加し、リスニングスキルを伸ばします。またペアワークやプレゼンテーションも行います。 【到達目標】 To comprehend and communicate in English with confidence. 英語を理解し、自信を持ってコミュニケーションを取ること。				
学生の主体的・対話的な学び	Group discussions, pair work, debates, presentations, and activities to promote free dialogue. グループディスカッション、ペアワーク、討論、プレゼンテーション、自由な対話を促進する活動などが行われます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Breakthrough Plus 3 (2nd Edition) (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Practice 概要説明・会話の練習 第 2 回 Speaking: Talking about Possibilities 可能かどうか 第 3 回 Pronunciation: Linking "Would you" / Listening: Listen for Opinion 意見 第 4 回 Debate (1) Preparation 討論の準備 第 5 回 Debate (1) 討論 第 6 回 Wish Vs Hope 願い事の使い分け 第 7 回 Pronunciation: Reduced Forms 略語 / Listening: Inferring Meaning 曖昧な意味 第 8 回 Speaking: Talking about Key Events from the Past 歴史についての話 第 9 回 Presentation (1) Preparation プレゼンテーションの準備 第 10 回 Presentation (1) プレゼンテーション 第 11 回 Pronunciation: Stress and Rhythm イントネーション 第 12 回 Listening: Listen for Specific Information 特定の情報に注意して聞く 第 13 回 Presentation (2) Preparation プレゼンテーションの準備 第 14 回 Presentation (2) プレゼンテーション 第 15 回 Review まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Effort and Participation 25%, Homework 25%, Presentations 25%, Self-Evaluation 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 165			担当者	パトリックゴースラム
	オーラルコミュニケーションⅣ			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 The goal is to familiarize students with cultural and news events in the world, but with a focus mainly on the United States. 【概要】 Class time will be spent watching and listening to news stories. Students will then complete information gap exercises, cloze exercises and information exchange on topics presented in the textbook and current events in Japan and the world. 【到達目標】 The goal of the course is for students to improve their overall listening and speaking fluency while becoming more aware of the world outside of Japan.				
学生の主体的・対話的な学び	ABC NEWSROOM 2, Shigeru & Kathleen Yamane, Kinseido, ISBN978-4-7647-4190-4				
(1)テキスト	(1)				
(2)参考文献	(2) Honoring Earth Day				
授業スケジュール	第 1 回 Student Loan Showdown 第 2 回 Celebrating as American Citizens 第 3 回 New Zealand Warning on Climate 第 4 回 Students Help 80-Year-Old Janitor 第 5 回 Biden Signs Marriage Law 第 6 回 David's Toy Project 第 7 回 Safe Drinking Water 第 8 回 Students Create Prothesis for Dog 第 9 回 Inside ChatGPT Technology 第 10 回 Sister Jean, the Beloved Chaplin 第 11 回 Paralyzed Man Walks Again 第 12 回 Drilling Project in Alaska 第 13 回 Fury in France 第 14 回 Increased Outreach in East Palestine 第 15 回 Review previous week's material and complete any given homework assignments.				
授業外学習 (予習・復習)	Participation 10%, Vocabulary notebook 20%, Speech/Presentation 20%, Final exam 50%				
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 166			担当者	ジェイムズ・マレー
	英語表現法 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Practice sentence and paragraph structure. 適切な文と段落の構成を書く練習をします。 【概要】 Students will learn grammar and writing styles to express their ideas. There is group work, followed by writing compositions by on their own. 学生たちは自分の考えを表現するための文法と文章スタイルを学びます。グループワークを行った後、各自で作文を書きます。 【到達目標】 Organize and express ideas, and learn through correction. 考えを整理し、考えを表現し、修正を通じて学ぶ。				
学生の主体的・対話的な学び	Students will do group activities, do weekly homework, and rewrite mistaken sentences. 学生たちはグループ活動を行い、毎週の宿題を提出し、間違った文を書き直します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Writing From Within 1 (2) なじ				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction and Writing Practice 第 2 回 Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information 第 3 回 Unit 1: Topic Sentences 第 4 回 Unit 2: Organizing Ideas 第 5 回 Unit 2: Inference Sentences 第 6 回 Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs 第 7 回 Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech 第 8 回 Unit 4: Descriptive Paragraphs 第 9 回 Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition 第 10 回 Unit 5: Topic Sentences 第 11 回 Unit 5: Organizing Information 第 12 回 Unit 6: Plans and Instructions 第 13 回 Unit 6: Using "so", "that", and "to" 第 14 回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Submission of Final Writing Assignment				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Weekly Homework, 毎週の宿題 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 167			担当者	パトリックゴースム
	英語表現法 I			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Eigo Hyogen Ho I is a writing course in which students will write paragraph essays. 【概要】Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook. 【到達目標】The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.				
学生の主体的・対話的な学び	Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express				
(1)テキスト	(1)				
(2)参考文献	(2) Class Orientation				
授業 スケジュール	第 1 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 2 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 5 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7 回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 8 回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 9 回 Unit 3, Example paragraph 第 10 回 Unit 3, Example paragraph 第 11 回 Unit 3, Example paragraph 第 12 回 Unit 3, Example paragraph 第 13 回 Example paragraph in-class assignment 1st draft 第 14 回 Example paragraph in-class assignment 2nd draft 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	Student essays 80%, freewriting 10%, attendance 10%				
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 168			担当者	ジェイムズ・マレー
	英語表現法Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Practice sentence and paragraph structure. 適切な文と段落の構成を書く練習をします。 【概要】 Students will learn grammar and writing styles to express their ideas. There is group work, followed by writing compositions by on their own. 学生たちは自分の考えを表現するための文法と文章スタイルを学びます。グループワークを行った後、各自で作文を書きます。 【到達目標】 Organize and express ideas, and learn through correction. 考えを整理し、考えを表現し、修正を通じて学ぶ。				
学生の主体的・対話的な学び	Students will do group activities, do weekly homework, and rewrite mistaken sentences. 学生たちはグループ活動を行い、毎週の宿題を提出し、間違った文を書き直します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Writing From Within 1 (2) なじ				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction and Writing Practice 第 2 回 Unit 7: Time Markers: "before", "while" and "after" / Giving Reasons 第 3 回 Unit 7: Thank You Notes / Concluding Paragraphs / Use of Commas 第 4 回 Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs 第 5 回 Unit 8: Using Pronouns 第 6 回 Unit 9: Persuasive Paragraphs / Sentence Transitions 第 7 回 Unit 9: Supporting Sentences 第 8 回 Unit 10: Using Examples 第 9 回 Unit 10: Writing About Wishes / "If I could __ , I would __ ." 第 10 回 Unit 11: Attention-Getters 第 11 回 Unit 11: Using Persuasive Language 第 12 回 Unit 12: Writing Explanations / Conclusions 第 13 回 Unit 12: Writing Cards / Word Choice 第 14 回 Unit 7-12 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Submission of Final Writing Assignment				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Weekly Homework, 毎週の宿題 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 169			担当者	パトリックゴース
	英語表現法Ⅱ			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Eigo Hyogen Ho II students will write process, narrative and opinion paragraphs. 【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook. 【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.				
学生の主体的・対話的な学び	Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express				
(1)テキスト	(1)				
(2)参考文献	(2) Unit 4, Process paragraph				
授業 スケジュール	第 1 回 Unit 4, Process paragraph 第 2 回 Unit 4, Process paragraph 第 3 回 Process paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 4 回 Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 5 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 6 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 7 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 8 回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 9 回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 10 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 11 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 12 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 13 回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 14 回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	Student essays 75%, freewriting 10% and attendance 10%				
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 170			担当者	ジェイムズ・マレー
	英語表現法Ⅲ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Practice sentence and paragraph structure. 適切な文と段落の構成を書く練習をします。 【概要】 Students will learn grammar and writing styles to express their ideas. There is group work, followed by writing compositions by on their own. 学生たちは自分の考えを表現するための文法と文章スタイルを学びます。グループワークを行った後、各自で作文を書きます。 【到達目標】 Organize and express ideas, and learn through correction. 考えを整理し、考えを表現し、修正を通じて学ぶ。				
学生の主体的・対話的な学び	Students will do group activities, do weekly homework, and rewrite mistaken sentences. 学生たちはグループ活動を行い、毎週の宿題を提出し、間違った文を書き直します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Writing From Within 2 (2) なじ				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction and Writing Practice 第 2 回 Unit 1: “About Me” Expository Paragraphs 第 3 回 Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format 第 4 回 Unit 2: “Career Consultant” Supporting Logical Conclusions 第 5 回 Unit 2: Conjunctions / Email requesting information 第 6 回 Unit 3: “Dream Come True” Supporting Sentences 第 7 回 Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs 第 8 回 Unit 4: “Invent” Definition Paragraphs 第 9 回 Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product 第 10 回 Unit 5: “Changed My Life” Cause and Effect Paragraphs 第 11 回 Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards 第 12 回 Unit 6: Process Paragraphs 第 13 回 Unit 6: Using Modifiers / Organizing Lists 第 14 回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Submission of Final Writing Assignment				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Weekly Homework, 毎週の宿題 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 171			担当者	遠峯 伸一郎
	英語表現法Ⅲ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】文法・語法的に適切であり、まとまりのある英文を書く訓練。 【概要】英語における句や文の組み立て規則を整理してから、段落の構築方法とテキストタイプに注意しながら英文を書く訓練を行う。 【到達目標】一つ一つの文を積み上げて、まとまりのある文章を完成できる。				
学生の主体的・対話的な学び	教科書、参考書等を用いて受講者の主導で問題演習を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 石井洋佑 (2023)『ゼロから覚醒 はじめよう英作文』かんき出版, 東京。 (2) 三森ゆりか (2003)『外国語を身につけるための日本語レッスン』大修館書店, 東京。／池上嘉彦 (2006)『英語の感覚・日本語の感覚 <ことばの意味>の仕組み』NHK 出版, 東京。／四軒家忍 (2019)『TOEFL テスト集中攻略ライティング』テイエス企画, 東京。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス, Stage 1 第 2 回 Stage 2 第 3 回 Stage 3 第 4 回 Stage 4 第 5 回 Stage 5(1) 第 6 回 Stage 5(2) 第 7 回 Stage 6(1) 第 8 回 Stage 6(2) 第 9 回 Stage 6(3) 第 10 回 Stage 6(4) 第 11 回 Stage 6(5) 第 12 回 総合演習(1) 第 13 回 総合演習(2) 第 14 回 総合演習(3) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 1 時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (20%) + 試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 172			担当者	石井 英里子
	英語コミュニケーション演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】言語活動に必要な文法の定着を図る。 【概要】この授業では、基礎英文法を体系的に学びます。解説と演習を通して文法理解と定着を図る。英検 2 級取得のためのリーディング・リスニング・ライティング・ボキャビルトレーニングも行います。 【到達目標】英文法の基礎を身につけ、滞りなく言語活動ができるようになる。英検 2 級合格レベルの英語力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	文法項目について、ペアで例文を作成し合い、相互添削を行います。英検対策では、グループで模擬面接を実施し、フィードバックを交換します。小テスト後は、間違えた問題について説明し合うことで、文法理解を深めます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁ほか (訳) (2021)『マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) 第 4 版』, ケンブリッジ大学出版局 旺文社 (編) (2026)『英検 2 級 過去 6 回全問題集』旺文社 (2) 適宜紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート) 第 2 回 現在形 第 3 回 過去形 第 4 回 現在完了形 第 5 回 受動態 第 6 回 動詞の形 第 7 回 未来表現 第 8 回 法助動詞と命令文 第 9 回 There と it 第 10 回 助動詞 第 11 回 疑問文 第 12 回 間接話法 第 13 回 「-ing」と「to + 動詞の原形」 第 14 回 Go, get, do, make, have (基本的な動詞を用いた表現) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業の取り組み 30%, 課題 20%, 小テスト 50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 173			担当者	野田 ゆり子
	英語コミュニケーション演習Ⅱ			授業外対応	授業前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英検 2 級対策 【概要】本授業は、英検 2 級取得を目的としています。Listening と Reading 問題に繰り返し取り組み、単語テストで単語力を底上げし、Writing や Speaking 対策なども包括的に行うことで、英語の四技能（Listening, Reading, Writing, Speaking）をバランスよく向上させていきます。個々の課題を発見し、その課題に向かって自発的に取り組む姿勢が求められます。 【到達目標】英語の四技能（Listening, Reading, Speaking, Writing）をバランスよく向上させ、英検 2 級レベルに到達する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、グループワークを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Hiromi Imamura et al. Path to Success (英検 2 級 サクセスパス) . Kinseido. Judith Nadell et al. Vocabulary Basics. Seibido. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction: 英検 2 級ミニテスト (弱点の確認) 第 2 回 Lesson1: Reading and Listening 第 3 回 Lesson2: Reading and Listening 第 4 回 Lesson3: Reading and Listening 第 5 回 Lesson4: Reading and Listening 第 6 回 Vocabulary Quiz1、Writing 第 7 回 Lesson5: Reading and Listening 第 8 回 Lesson6: Reading and Listening 第 9 回 Lesson7: Reading and Listening 第 10 回 Lesson8: Reading and Listening 第 11 回 Vocabulary Quiz2、Writing 第 12 回 英検 2 級模擬テスト (Reading and Listening) 第 13 回 英検 2 級模擬テスト (Reading and Listening 答え合わせ、Writing) 第 14 回 二次試験面接対策 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習：単語の勉強 復習：授業で間違えた問題を見直しておく				
成績評価の方法	授業参加（授業での発言内容）が 20%、Vocabulary Quiz が 40%、復習テストが 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 174			担当者	石井 英里子
	TOEIC I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 TOEIC Part 5（短文穴埋め問題）と Part 6（文章穴埋め問題）の文法理解 【概要】 この授業では、TOEIC テストの Part 5 と Part 6 の問題に焦点を当て、頻出する文法を順番に学習します。TOEIC の前提知識は不要です。 【到達目標】 TOEIC テストの文法問題（Part 5, Part 6）を 8 割以上正解することを目指し、TOEIC 600 点以上を達成する基礎力を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	各文法項目について、ペアで問題を解き合い、解答根拠を説明し合います。Part 5・6 の演習では、グループで誤答パターンを分析し、共通の弱点を特定します。スコア向上の経験をプレゼンテーション形式で共有することで、効果的な学習方法を学び合います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ETS (Educational Testing Service) (2020). 『公式 TOEIC Listening & Reading プラクティス リーディング編』 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 TOEIC IP TEST を実施し、受講者の現状のスコアを把握。講義内容の重要性と目的を説明する。 第 2 回 TOEIC IP TEST を実施し、受講者の現状のスコアを把握。講義内容の重要性と目的を説明する。 第 3 回 TOEIC 全体構成を学び、Part 5 の基本形式を説明。品詞の役割と文法基礎を復習する。 第 4 回 名詞の単数・複数形、冠詞（a, an, the）の基本的な用法を解説。頻出問題を解き、スキルを定着させる。 第 5 回 現在・過去・未来の基本時制に加え、進行形・完了形を学ぶ。主語と動詞の一致を中心に問題演習を行う。 第 6 回 形容詞と副詞の違いや修飾のルールを解説。TOEIC で頻出の修飾表現に注目して問題を解く。 第 7 回 接続詞（and, but, because など）と前置詞（in, at, on など）の基本的な用法を学習し、演習問題を解く。 第 8 回 助動詞（can, may, must など）の使い方を学び、仮定法の基礎ルールを説明。TOEIC 頻出パターンの問題を解く。 第 9 回 Part 6 の基礎と問題形式：Part 6 の文章穴埋め問題の基礎を学び、問題演習を行う。 第 10 回 文脈を正確に読み取り、文全体の流れに沿った語句を選ぶ練習を行う。 第 11 回 TOEIC 頻出語彙を中心に単語力を強化する。関連表現や派生語も学習し、語彙問題の正答率を向上させる。 第 12 回 Part 6 の難易度の高い問題に挑戦し、解答スピードを上げる練習を行う。 第 13 回 実践問題演習 1：模擬試験形式の演習で、時間配分と解答テクニックを確認する。 第 14 回 実践問題演習 2：苦手分野を集中的に復習し、テスト本番に向けた準備を整える。 第 15 回 TOEIC IP TEST を再実施し、事前テストとの比較分析を行う。個々の成果と課題を明確にし、今後の目標を設定する。				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	TOEIC IP TEST スコア (50%) 演習問題・課題の提出状況 (30%) プレゼンテーション (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 175			担当者	石井 英里子
	TOEIC II			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 TOEIC Part 1, 2, 7 のリスニングとリーディングの実践力を身につける 【概要】 この授業では、TOEIC の Part 1, Part 2, Part 7 の問題に焦点を当て、8 割以上正解できるようになるためのストラテジー学習を中心に進めます。受講者は TOEIC I で学んだ文法知識を基礎に、リスニングとリーディングのスキルを高め、TOEIC テストに必要な戦略とテクニックを学びます。 【到達目標】 Part 1 (写真描写問題)、Part 2 (応答問題)、Part 7 (読解問題) を中心に、実践的なスキルとストラテジーを習得する。TOEIC TEST で 600 点以上を目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	ペアワークで弱点分析を行い、相互にフィードバックします。Part 別の演習では、解答プロセスを説明し合うことで理解を深めます。IP TEST 前後のスコア比較を基に、個別の学習計画を立て、クラスでシェアすることで、多様な学習ストラテジーを学び合います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ETS (Educational Testing Service) (2023). 『公式 TOEIC® Listening & Reading 650 +』 国際ビジネスコミュニケーション協会 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 前期の成果を確認するため、TOEIC IP TEST を実施。特に Part 1, 2, 7 の得点分布を分析し、個々の課題を特定する。 第 2 回 TOEIC リスニングセクション全体を概観し、Part 1 における写真描写問題の形式や頻出語彙を学ぶ。 第 3 回 人物や物の位置関係を正確に描写する練習を行い、正答率を上げるためのテクニックを学習する。 第 4 回 Part 2 の問題形式を紹介し、よく使われる応答パターンやフレーズを学習。リスニング力向上を図る。 第 5 回 聞き取りのスピードに慣れるための演習を行い、答えを選ぶ際の効率的な判断基準を身に付ける。 第 6 回 TOEIC リーディングの全体像を把握し、Part 7 (読解問題) の形式や時間配分について学ぶ。 第 7 回 読解問題に頻出するビジネス関連の単語や表現を学び、語彙力を強化する。 第 8 回 短文と長文読解の特徴を分析し、それぞれに適した解答方法を学ぶ。練習問題を通じてスキルを向上させる。 第 9 回 Part 1, 2 の過去問題を使用し、テスト形式で実践演習を行う。弱点を分析し、復習を行う。 第 10 回 Part 7 の過去問題を使用し、時間を計りながら解く練習を行う。時間配分の重要性を学ぶ。 第 11 回 各パートでの時間配分の目安と効率的な解答順序を学び、模擬試験を通して実践する。 第 12 回 Part 7 で求められる推測力を養う演習を行い、難解な問題に対応できる力を付ける。 第 13 回 実践問題演習 1 (総合演習) : 模擬試験を実施し、弱点を確認する。 第 14 回 実践問題演習 2 (弱点克服) : 個々の弱点に焦点を当てた復習と補強を行う。 第 15 回 TOEIC IP TEST を再度実施し、前期のスコアと比較分析。成果を実感し、さらなる目標設定を行う。				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	TOEIC IP TEST スコア (50%) 演習問題・課題の提出状況 (30%) プレゼンテーション (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 176			担当者	野田 ゆり子
	TOEIC Ⅲ			授業外対応	授業前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】TOEIC 対策 【概要】本授業は、TOEIC の Part3 と Part7 の対策を中心に行います。学生が苦手とする問題形式を中心とした対策を行うことで、TOEIC スコア 600 点以上の取得を目指します。また、毎回単語テストを行うことによって、英語学習を習慣化できるようにします。学生一人一人が自分の課題を見つけ、主体的に取り組むことが求められます。 【到達目標】TOEIC Part3 と Part7 を中心とした対策を行い、TOEIC スコア 600 点以上を獲得する。				
学生の主体的・対話的な学び	実力テストの後に自分の苦手意識に向き合う時間を設け、個々の対策を考えてもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Emiko Matsumoto et al. Strategic Practice for the TOEIC L&R Test (600 点を目指す TOEIC L&R TEST 演習) . SANSHUSHA. 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会『公式 TOEIC Listening and Reading 650 Plus』2023 年。 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction、Unit15 Mini Test 第 2 回 Unit1 Restaurant, Unit2 Sightseeing 第 3 回 Unit3 Business / Technology, Unit4 Hotel 第 4 回 Unit5 Shopping / Purchase, Unit6 Transportation 第 5 回 Unit7 Travel, Unit8 Housing 第 6 回 Unit9 Entertainment, Unit10 Hobby 第 7 回 Unit11 Education, Unit12 Sports 第 8 回 Unit13 Hospital, Unit14 Employment 第 9 回 Part3 (47-64) and Part7 (213-222) 第 10 回 Part3 (65-82) and Part 7 (223-232) 第 11 回 Part3 (83-91) and Part7 (233-247) 第 12 回 Part7 (248-262) 第 13 回 本番形式テスト (Reading) 第 14 回 本番形式テスト (Listening) + 答え合わせ 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習：単語の勉強 復習：授業で間違えた問題を見直しておく				
成績評価の方法	授業参加 (授業での発言内容) が 20%、Vocabulary Quiz が 40%、復習テストが 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 177			担当者	遠峯 伸一郎
	英語学概論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語学諸分野の概説 【概要】音声学・音韻論、形態論、意味論、統語論の各分野を概観する。英語の実例分析も併せて行う。 【到達目標】音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して、英語の例を分析できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	問題演習において、受講者間の情報交換や討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 稲木昭子・沖田知子・堀田知子 (2002) 『新えいご エイゴ 英語学』松柏社、東京。 (2) 白畑知彦 (2021) 『英語教師がおさえておきたい ことばの基礎的知識』大修館書店、東京。／大名力 (2023) 『英語の発音と綴り-なぜ walk がウォークで、work がワークなのか』中央公論新社、東京。その他随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、英語学とは何か 第 2 回 音声学・音韻論(1) 言語音の作られ方、英語の母音 第 3 回 音声学・音韻論(2) 英語の子音 第 4 回 音声学・音韻論(3) 音素と異音、綴りと発音の対応 第 5 回 音声学・音韻論(4) 英語のアクセントとイントネーション 第 6 回 音声学・音韻論(5) 英語の音変化と音脱落 第 7 回 形態論(1) 派生、屈折 第 8 回 形態論(2) 複合 第 9 回 形態論(3) 転換、その他の語形成過程 第 10 回 統語論(1) 句や文の組み立てに見る規則性 統合的關係と範列的關係 第 11 回 統語論(2) 句構造規則 第 12 回 統語論(3) 品詞、コロケーション、文法と意味の接点 第 13 回 意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義 第 14 回 意味論(2) 比喻 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 178			担当者	遠峯 伸一郎
	英文法			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】英文法（文法化されている意味とその形態的・統語的具現） 【概要】本授業は、動詞（時制、相）、名詞・冠詞、前置詞、助動詞、準動詞などについて学ぶ。 【到達目標】英語の文法について理解している。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。加えて、英文法と日本語文法と対比させて、基本的な異同を的確に把握できる。				
学生の主体的・対話的な学び	問題演習時に情報交換と討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁・田島祐規子 (訳) (2021)『マーフィーのケンブリッジ英文法中級編 第4版』, ケンブリッジ大学出版局、シンガポール。 (2) 久野暲・高見健一, 『謎解きの英文法』シリーズ, くろしお出版、東京。その他の参考文献は随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 時制と相 (1) 現在形と現在進行形 第 3 回 時制と相 (2) 過去形と現在完了形 第 4 回 時制と相 (3) 現在完了進行形, 過去完了形 第 5 回 時制と相 (4) 未来の表現 第 6 回 時制と相の単元試験, 名詞における可算・不可算の区別 第 7 回 不定冠詞, 数量詞の用法 第 8 回 定冠詞の用法 (1) 第 9 回 定冠詞の用法 (2) 第 10 回 名詞の総称表現 第 11 回 名詞と冠詞の単元試験, 動名詞と to 不定詞 (1) 第 12 回 動名詞と to 不定詞 (2) 第 13 回 動名詞と不定詞の単元試験, 総合練習問題 (1) 第 14 回 総合練習問題 (2) 第 15 回 全体のまとめ, 全体試験				
授業外学習 (予習・復習)	予習 2 時間以上、復習 2 時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。				
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 179			担当者	遠峯 伸一郎
	英語史			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史（英語が使われる社会の歴史）と内面史（英語という言葉の通時的変化）の観点から学ぶ。 【概要】現代英語には英語の歩んできた歴史が反映している。例えば、英語は文字としてローマンアルファベットを使うが、その理由を知るには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、英語という言葉の歴史的側面からアプローチする。加えて、現代において世界各地で使われている様々な英語変種の特徴についても触れる。 【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史的変遷について基礎的な知識を持っている。				
学生の主体的・対話的な学び	問題演習において、受講者間の情報交換や討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 稲木昭子・沖田知子・堀田知子 (2002) 『新えいご エイゴ 英語学』松柏社、東京。 (2) 寺澤盾 (2013) 『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店、東京。堀田隆一 (2014) 『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部、東京。井口篤、寺澤盾 (2013) 『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会、東京。ブラッグ、メルヴィン (2008) 『英語の冒険』講談社、東京。柳朋宏 (2019) 『英語の歴史をたどる旅』中部大学出版局、春日井。その他随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、世界のなかの英語 第 2 回 インド・ヨーロッパ祖語 第 3 回 英語の始まり 第 4 回 古英語 英語のアルファベットの起源と豊富な語尾 第 5 回 古英語 古英語の文法 第 6 回 ヴァイキングの侵攻と英語 第 7 回 ノルマン征服と中英語 第 8 回 中英語とフランス語借用語 第 9 回 キリスト教と英語 第 10 回 初期近代英語 第 11 回 後期近代英語 第 12 回 英語の変種 イギリス英語・アメリカ英語・オーストラリア英語・ニュージーランド英語 第 13 回 英語の変種 アジアの英語・ピジンとクレオール 第 14 回 現代イギリス英語と現代アメリカ英語 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 180			担当者	未定
	英語音声学			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト	(1)				
(2)参考文献	(2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 181			担当者	山下 孝子
	英文学概論			授業外対応	質問には講義終了時に対応する。メールでの問い合わせも可。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 入門！イギリス文学 【概要】 イギリス文学をその歴史とジャンル、特色を辿りながら概観し、いくつかの代表的な作品を読んでグループ・ディスカッションをし、作品世界ないしはイギリス文学全体像へのアプローチを試みます。作品読解はあらすじやテーマ紹介をグループ・プレゼンテーションによって共有した上で、その一部分の英語原文を速読と精読で読み解いていきます。精読部分はあらかじめ全員に次回分の和訳を提出してもらい、英文読解スキル向上を図ります。最終的に作品分析を含むレポートを作成し、理解を深めます。 【到達目標】 イギリス文学の歴史／ジャンル／特色を理解する。英文の内容を正しく理解できる。作品世界を説明できる。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、7、8 回程度、その時間に対象とする作品について作者紹介／あらすじ要約／テーマ紹介にかかわる 2、3 名のグループ・プレゼンテーションを行ない、情報を共有します。また、作品を読んだ後に作品をどう理解するかグループ・ディスカッションを試みます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 授業時に適宜指示				
授業 スケジュール	第 1 回 イギリス文学への扉：イントロダクション 第 2 回 ルネサンス以前のイギリス文学／ジェフリー・チョーサー作品やアーサー王伝説 第 3 回 演劇時代の到来、シェイクスピア登場 第 4 回 ウィリアム・シェイクスピアの悲劇『ロミオとジュリエット』を探る 第 5 回 ウィリアム・シェイクスピアの喜劇『十二夜』を探る 第 6 回 イギリスの詩／シェイクスピアのソネット～ミルトンの『失樂園』～ロマン派詩人たち 第 7 回 風刺文学／スウィフト作品を読む 第 8 回 ゴシック／『フランケンシュタイン』を読む 第 9 回 小説時代の到来／ジェーン・オースティン作品を読む 第 10 回 ディケンズ作品を読む 第 11 回 シャーロット・ブロンテ作品を読む 第 12 回 エミリー・ブロンテ作『嵐が丘』を読む 第 13 回 トマス・ハーディ作『ダーバヴィル家のテス』を読む 第 14 回 カズオ・イシグロ作『私を離さないで』を読む 第 15 回 イギリス文学とは？：まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に指示された場合、その部分の英語和訳を提出する				
成績評価の方法	レポート (20%)，小テスト (30%)，和訳課題提出を含む授業への取り組み (30%)，グループ・プレゼンテーション (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 182			担当者	小林 朋子
	米文学史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期,後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流 【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。作品に使用されている様々な英語表現について学ぶため、必ず英和辞典を持参すること。 【到達目標】アメリカ文学史上、代表的な作品についてその内容を理解している。アメリカ文学が描いてきたアメリカ社会・文化について理解を深め、その知見に基づいて多角的に現代のアメリカ文化を理解できる。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、作品内容や自分の訳文について、グループもしくはペアで議論する時間を設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、2004年） (2) 授業で随時紹介します				
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクションーネイティブ・アメリカンの詩 第 2 回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（1） 第 3 回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（2） 第 4 回 「驚異」の世界ーロマン主義の勃興 第 5 回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（1） 第 6 回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（2） 第 7 回 「金めつき時代」ーリアリズムの勃興 第 8 回 危機と革新ーリアリズムの展開 第 9 回 繁栄と解放の文学ーロスト・ジェネレーション 第 10 回 世界へ向けてーモダニズムの文学 第 11 回 戦後文学の出発ー第 2 次世界大戦と冷戦 第 12 回 自我をつくろうー人種系文学（1） 第 13 回 自我をつくろうー人種系文学（2） 第 14 回 自己の探求ーポスト・モダニズムの文学 第 15 回 まとめ				
授業外学習（予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 183			担当者	小林 朋子
	比較文学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学 【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ベラヴド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。 【到達目標】比較文学の研究方法を習得する。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、授業内容に基づき、グループもしくはペアで英語から日本語への翻訳を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) Toni Morrison Beloved Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外も授業で随時紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 インTRODクション：対話的文学論とは 第 2 回 Beloved と神話批評 第 3 回 Beloved とウィネバゴ・インディアン神話（1） 第 4 回 Beloved とウィネバゴ・インディアン神話（2） 第 5 回 Beloved とヨルバ族神話 第 6 回 大衆文化の中のトリックスター 第 7 回 名称付与とは何か 第 8 回 Beloved と「千と千尋の神隠し」（1） 第 9 回 Beloved と「千と千尋の神隠し」（2） 第 10 回 Beloved と「千と千尋の神隠し」（3） 第 11 回 言語の表象不可能性 第 12 回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』（1） 第 13 回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』（2） 第 14 回 Beloved と井上ひさし『父と暮せば』（3） 第 15 回 レポートのテーマ報告会とまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業への参加態度（10%）、テーマごとに提出する小レポート（30%）、最終レポート（60%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 184			担当者	山下 孝子
	英語文学講読 A			授業外対応	質問には講義終了時に対応する。メールでの問い合わせも可。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ギリス名作小説を楽しもう——『フランケンシュタイン』を読む 【概要】 超自然的小説ジャンルであるゴシック・ロマンスの傑作、メアリ・シェリー作『フランケンシュタイン』を英語で読み解きます。怪物の固定的イメージが突出しながらも、実際の物語は知られていない作品ですが、原作を丁寧に読み、有名小説を原文で味わう楽しみを分かち合いましょう。授業の展開としては、毎回分のテキスト範囲について速読と精読を行なっていきます。精読部分はあらかじめ和訳を提出してもらい、英文読解スキル向上を図ります。最終的に作品分析を含むレポートを作成し、理解を深めます。 【到達目標】 英文の内容を正しく理解できる。英語のパラグラフを簡潔に英語で要約できる。英語小説の作品世界を説明できる。物語を支える小説ジャンルを理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、数回程度、その都度テーマを与え、2、3 名のグループで作品を分析する話し合いをして発表を行ない、理解の共有を図ります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 授業時に適宜指示				
授業 スケジュール	第 1 回 文学におけるゴシック・ロマンスの系譜と作品『フランケンシュタイン』の概説 第 2 回 『フランケンシュタイン』前書きの書簡、および第 1 巻第 1 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 3 回 『フランケンシュタイン』第 1 巻第 2 章～4 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 4 回 『フランケンシュタイン』第 1 巻第 5 章～6 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 5 回 『フランケンシュタイン』第 1 巻第 7 章～第 2 巻第 1 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 6 回 『フランケンシュタイン』第 2 巻第 2 章～第 3 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 7 回 『フランケンシュタイン』第 2 巻第 4 章～第 5 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 8 回 『フランケンシュタイン』第 2 巻第 6 章～第 7 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 9 回 『フランケンシュタイン』第 2 巻第 8 章～第 9 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 10 回 『フランケンシュタイン』第 3 巻第 1 章～第 2 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 11 回 『フランケンシュタイン』第 3 巻第 3 章～第 4 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 12 回 『フランケンシュタイン』第 3 巻第 5 章～6 章のパラグラフ要約、英文和訳 第 13 回 『フランケンシュタイン』第 3 巻第 7 章、および結びの書簡のパラグラフ要約、英文和訳 第 14 回 『フランケンシュタイン』におけるゴシック・ロマンス的表現 第 15 回 理解度チェックとまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に指示された部分の英語和訳を提出する。授業後に配布される課題で復習しておくこと				
成績評価の方法	レポート (20%)、毎回の和訳課題提出を含む授業への取り組み (50%)、小テスト (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 185			担当者	小林 朋子
	英語文学講読 B			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】英語文学を翻訳することを通して、英語表現の豊かさを学ぶ。 【概要】トニ・モリスンの『青い眼がほしい』（The Bluest Eye, 1970 年）を英語で読解する。この作品は、9 歳の少女を基本の語り手としているが、全知の視点からの語り、書簡や日記の挿入など、多様な語りの形式を学ぶことができるテキストとなっている。受講者には訳読を担当する箇所が割り当てられるので、講義内で学ぶ文法事項や提供する資料、また受講者同士のグループ・ディスカッションで得た見解に基づいて、文学テキストを「翻訳する」作業に挑戦してもらう。また本作には 20 世紀中葉のアメリカ大衆文化が様々に描かれている。それらの文化に着目することで、その文化を生み出した社会やそこに生きる人々の価値観についても学ぶ。 【到達目標】文学作品を辞書を使用して正確に読解することができる。翻訳の意味を理解することで、文化の翻訳も含めた広い意味での英文解釈ができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、翻訳をテーマにペアワークやグループディスカッションを行い、内容の理解を深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 The Bluest Eye パート 1 を読む：翻訳とは何か 1 第 3 回 The Bluest Eye パート 1 を読む：翻訳とは何か 2 第 4 回 The Bluest Eye パート 1 を読む：翻訳とは何か 3 第 5 回 The Bluest Eye パート 2 を読む：20 世紀中葉の映画文化 1 第 6 回 The Bluest Eye パート 2 を読む：20 世紀中葉の映画文化 2 第 7 回 The Bluest Eye パート 2 を読む：20 世紀中葉の映画文化 3 第 8 回 The Bluest Eye パート 3 を読む：20 世紀中葉の大衆文化 1 第 9 回 The Bluest Eye パート 3 を読む：20 世紀中葉の大衆文化 2 第 10 回 The Bluest Eye パート 3 を読む：20 世紀中葉の大衆文化 3 第 11 回 The Bluest Eye パート 4 を読む：アフリカ系アメリカ人の音楽文化 1 第 12 回 The Bluest Eye パート 4 を読む：アフリカ系アメリカ人の音楽文化 2 第 13 回 The Bluest Eye パート 5 を読む：アフリカ系アメリカ人の音楽文化 3 第 14 回 The Bluest Eye パート 5 を読むアフリカ系アメリカ人の音楽文化 4 第 15 回 まとめとレポート提出における留意点				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出物（40%）、最終レポート（30%）、授業への取り組み態度（30%）で評価する。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 186			担当者	野田 ゆり子
	英語文学講読 C			授業外対応	授業前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 イギリスのファンタジーに親しむ 【概要】 本授業では、二十世紀の作家 C. S. ルイスによるファンタジー『ナルニア国物語』の一作『魔術師のおい (The Magician's Nephew)』を英語で読み解いていきます。要約・和訳などの読解問題の取り組みに加え、歴史的背景や宗教的象徴性を紹介することで、原文で物語を理解する力と、読解を深めるための知識を養います。あわせて、本作の影響を受けた現代の幻想譚『ピラネージ (Piranesi)』も分析します。 【到達目標】 洋書を一冊読破できる英語力を身につける。様々な背景を鑑みた上で、英文を読みこむ力をつける。				
学生の主体的・対話的な学び	予習内容（要約問題）を踏まえた上で、授業内ではグループで和訳に取り組んでももらいます。毎回コメントペーパーを配布し、学生から出た質問に対して、教員から適宜解答を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Lewis, C. S. The Magician's Nephew. Harper Collins, 2023. (2) Clarke, Susanna. Piranesi. Bloomsbury Publishing PLC, 2021.				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス (C. S. ルイス、および『ナルニア国物語』について解説) 第 2 回 映画鑑賞 第 3 回 The Magician's Nephew Chapter 1,2 第 4 回 The Magician's Nephew Chapter 3,4 第 5 回 The Magician's Nephew Chapter 5,6 第 6 回 The Magician's Nephew Chapter 7,8 第 7 回 The Magician's Nephew Chapter 9,10 第 8 回 The Magician's Nephew Chapter 11,12 第 9 回 The Magician's Nephew Chapter 13,14 第 10 回 The Magician's Nephew Chapter 15 第 11 回 Piranesi Part1,2 第 12 回 Piranesi Part3,4 第 13 回 Piranesi Part5,6 第 14 回 Piranesi Part7 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習：毎回の授業までにテキストを読み、予習プリント（要約問題）に取り組む。 復習：授業内で分からなかった和訳については、適宜復習しておく。				
成績評価の方法	毎授業の提出課題が 40%、学期内レポートが 30%、期末試験が 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 187			担当者	石井 英里子
	異文化コミュニケーション 概論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Introduction to Intercultural Communication 【概要】 In this course students will learn about culture and the factors that influence communication. Students will read the textbook and prepare a poster presentation before class. Students will be expected to participate actively in group work and active discussion in English. 【到達目標】 By the end of the course, students will understand the diversity of world cultures, the current status and challenges of intercultural communication, and be prepared to actively participate in intercultural exchange.				
学生の主体的・対話的な学び	各章についてポスター発表を準備し、グループディスカッションを英語で行います。異文化体験を共有し、多様な視点から文化を考察します。最終プレゼンテーションでは、学んだ理論を自分の経験に結びつけて発表し、相互評価を通じて学びを深めます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Vincent, P. (2017). Speaking of intercultural communication. Nan'un-do. (2) Stringer M. D. & Cassiday, A. P. (2009). 52 activities for improving cross-cultural communication. Intercultural Press.				
授業 スケジュール	第 1 回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート) 第 2 回 Communication 第 3 回 Culture 第 4 回 Nonverbal Communication 第 5 回 Communicating Clearly 第 6 回 Culture and Values 第 7 回 Culture and Perception 第 8 回 Diversity 第 9 回 Stereotypes 第 10 回 Culture Shock 第 11 回 Culture and Change 第 12 回 Talking about Japan 第 13 回 Becoming a Global Person 第 14 回 Reflection 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In Class Presentation30% Final Presentation 30% Final Report40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 188			担当者	ジョン・トレマーコ
	イギリス事情			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional 【概要】 This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. The aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues. Any chosen project will include a comparative cultural component. 【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.				
学生の主体的・対話的な学び	Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials provided by the professor (2) Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース、授業についての説明 第 2 回 Choosing the Project theme 第 3 回 Planning and implementation of Project 第 4 回 Planning and implementation of Project 第 5 回 Planning and implementation of Project 第 6 回 Planning and implementation of Project 第 7 回 Planning and implementation of Project 第 8 回 Planning and implementation of Project 第 9 回 Planning and implementation of Project 第 10 回 Planning and implementation of Project 第 11 回 Planning and implementation of Project 第 12 回 Planning and implementation of Project 第 13 回 Planning and implementation of Project 第 14 回 Final Presentation 第 15 回 Course Review				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	グループワークの点数と課題 40 %＋最終テスト 60 %の合計				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 189			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	アメリカ事情			授業外対応	Office Hours
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 American Cultural History 【概要】 In this course, we will study the most significant events in American history, politics and culture. Students will discuss issues related to them, developing a critical thinking that will lead them to deepen the understanding of the main issue proposed in this course. 【到達目標】 The objective of this course is for students to acquire a broad knowledge of the most important historical and cultural events in the United States so that they are able to understand how those events have influenced the configuration of the country today				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Course explanation. Unit 1 : The colonial times 第 2 回 Unit 1: building a new nation. The Road to independence 第 3 回 Unit 1: building a new nation. The American Revolution. 第 4 回 Unit 1: building a new nation. The Articles of Confederation and the US Constitution (analysis). 第 5 回 Unit 2: The Expansionism Era. Louisiana Purchase and Manifest Destiny. 第 6 回 Unit 2: The Expansionism Era. Mexican-American War. The Gold Rush. 第 7 回 Unit 2: The Expansionism Era. Transcendentalism. 第 8 回 Unit 3: The Civil War. 第 9 回 Unit 4: The Reconstruction Era. General View. 第 10 回 Unit 4. The Reconstruction Era. The Civil Rights Act of 1866 and the 13th, 14th and 15th Amendments (Analysis and Discussion). 第 11 回 Unit 4. Reconstruction era. Discrimination and hatred: The Black Codes and the Ku Klux Klan. 第 12 回 Unit 4. The End of the Reconstruction Era. The Jim Crow Laws. Viewing of videos about discrimination in popular culture. Comments on them 第 13 回 Unit 5. Going to the West. The Cowboy culture. An American story: Levi's and the cowboy spirit. 第 14 回 Unit 6: Going to the West: The struggle of native Americans. 第 15 回 Review of the course.				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	Report (70%); participation in class (30%)				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 190			担当者	小林 朋子
	ヨーロッパ事情			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ 【概要】15 世紀後半から 19 世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステイタスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。 【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。				
学生の主体的・対話的な学び	ヨーロッパの思想をテーマに、学生による発表を行う。受講者は、15 回のうち 1 回発表を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 明石和康著『ヨーロッパがわかる—起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書（岩波書店、2013 年） (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか（1） 第 3 回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか（2） 第 4 回 近代世界と大西洋システム（1） 第 5 回 近代世界と大西洋システム（2） 第 6 回 近代世界と大西洋システム（3） 第 7 回 大西洋奴隷貿易（1）：ルネサンスと地理上の発見 第 8 回 大西洋奴隷貿易（2）：海洋国家オランダ 第 9 回 大西洋奴隷貿易（3）：奴隷と砂糖をめぐる政治 第 10 回 コーヒー・ハウスが育んだ近代文化 第 11 回 イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」 第 12 回 大西洋システムとしての「イギリス帝国」 第 13 回 資本主義世界と奴隷制：地中海から大西洋へ—砂糖の西漸運動 第 14 回 資本主義世界と奴隷制：ヨーロッパの闘技場—カリブ海領有をめぐる角逐 第 15 回 まとめ：砂糖と紅茶—ティータイム儀礼化に内包された歴史				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、発表（30%）、最終レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 191			担当者	楊 虹
	対照言語学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】対照言語学の基礎を学ぶ。 【概要】この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。 【到達目標】日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる模擬授業を10分程度行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3 回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4 回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5 回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6 回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7 回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8 回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9 回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第 10 回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第 11 回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第 12 回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第 13 回 発表準備 第 14 回 学生による発表 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%，レポート：40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 192			担当者	小亀 拓也
	日本語学概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。 【概要】日本語の各研究分野（音声・音韻，文字・表記，語彙・意味）について概観する。 【到達目標】日本語学の基本的な考え方を身につけ，身の回りの言語現象をについて，分析・考察を通して思考を深め，的確に表現できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 沖森卓也ほか『図解日本語』（第2版）三省堂 (2) 授業中に紹介します。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。 第 2 回 現代日本語の音声と音韻 1：音声器官，音声記号 第 3 回 現代日本語の音声と音韻 2：日本語の母音，母音の無声化，促音化 第 4 回 現代日本語の音声と音韻 3：日本語の子音，調音点・調音法・声帯振動 第 5 回 現代日本語の音声と音韻 4：音声と音韻，音素と異音 第 6 回 現代日本語の音声と音韻 5：相補分布，条件異音と自由異音，特殊音素 第 7 回 現代日本語の音声と音韻 6：拍（モーラ）と音節（シラブル） 第 8 回 現代日本語の音声と音韻 7：アクセント，イントネーション，プロミネンス 第 9 回 中間試験，前半のまとめ 第 10 回 現代日本語の文字・表記 1：日本語の表記の特色 第 11 回 現代日本語の文字・表記 2：漢字表，字音と字訓，漢字の成り立ち 第 12 回 現代日本語の文字・表記 3：平仮名，片仮名，ローマ字 第 13 回 現代日本語の語彙 1：語と語彙，語構成 第 14 回 現代日本語の語彙 2：語種（和語，漢語，外来語，混種語） 第 15 回 現代日本語の文法 3：語彙と語彙量（語彙の系統性，理解語彙と使用語彙）				
授業外学習 （予習・復習）	各自事前にテキストを読んでくること。また，毎授業冒頭に復習小テストを行うため，復習が必要である。				
成績評価の方法	小テストの成績（20%），中間試験の成績（40%），定期試験の成績（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 193			担当者	木戸 裕子
	日本文学史 I			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。 【概要】 日本文学史・古典 I は上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。 【到達目標】 上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院 (2) 吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：オリエンテーション、文学の発生、文学史の区分 第 2 回 古代その 1：上代の説話文学（1） 第 3 回 古代その 2：上代の説話文学（2） 第 4 回 古代その 3：上代の説話文学（3） 第 5 回 古代その 4：祝詞・宣命 第 6 回 古代その 5：漢詩文 第 7 回 古代その 6：上代の和歌・歌謡（1） 第 8 回 古代その 7：上代の和歌・歌謡（2） 第 9 回 古代その 8：上代の和歌・歌謡（3） 第 10 回 古代その 9：中古の漢詩文（1） 第 11 回 古代その 10：中古の漢詩文（2） 第 12 回 古代その 11：中古の和歌（1） 第 13 回 古代その 12：中古の和歌（2） 第 14 回 古代その 13：中古の物語（1） 第 15 回 古代その 14：中古の物語（2）				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30%，筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

（注）隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 194			担当者	木戸 裕子
	日本文学史Ⅱ			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。 【概要】日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。 【到達目標】中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の授業の最後に受講生にコメントカードの提出を義務付け、それに対する返答の時間を次の時間の冒頭に設ける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高木市之助『日本文学の歴史』 武蔵野書院 (2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書				
授業 スケジュール	第 1 回 古代その 15：中古の物語（3）源氏物語 第 2 回 古代その 16：中古の物語（4）源氏物語 第 3 回 古代その 17：中古の日記 第 4 回 古代その 18：中古の随筆 第 5 回 古代その 19：中古の歴史物語 第 6 回 古代その 20：中古の説話 第 7 回 中世その 1：中世の和歌（1） 第 8 回 中世その 2：中世の和歌（2） 第 9 回 中世その 3：中世の和歌（3） 第 10 回 中世その 4：連歌・歌謡 第 11 回 中世その 5：中世の漢詩文 第 12 回 中世その 6：物語・日記・紀行・随筆 第 13 回 中世その 7：歴史物語・説話文学 第 14 回 中世その 8：戦記物語・謡曲 第 15 回 中世その 9：謡曲・狂言				
授業外学習 (予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。その他授業中に指示する。				
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30%，筆記試験 70%				
実務経験について	なし				

（注）隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 195			担当者	楊 虹
	日本語教育概論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語教育学の基礎を学ぶ 【概要】この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。 【到達目標】日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して開設を行います。ほぼ毎回、ペアやグループでの話し合いを行います。最終回にグループによる模擬授業を10分程度行ってもらいます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第 2 回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室 第 3 回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第 4 回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析 第 5 回 教師の役割②シラバス・デザイン 第 6 回 教材分析 第 7 回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ 第 8 回 教授法②：授業見学 第 9 回 教授法③：授業見学の振り返り 第 10 回 授業の計画と実施①授業の組み立て方 第 11 回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習 第 12 回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク 第 13 回 フォリナートークとやさしい日本語 第 14 回 模擬授業の準備 第 15 回 模擬授業の実施、全体のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜予習復習の課題を出すので、調べたり考えたりして積極的に取り組む必要である。				
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%，期末レポート：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 196			担当者	専任未定
	国際経済論			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的 ・対話的な学び					
(1)テキスト	(1)				
(2)参考文献	(2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 197			担当者	福田 忠弘
	国際関係論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに与えられた質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 適宜、紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7 回 国際関係のなりたち 4：核兵器について 第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12 回 国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題 第 13 回 国際社会における諸問題 4：保守化する世界 第 14 回 国際社会における諸問題 5：コロナ、ウクライナ後の社会 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 198			担当者	遠峯 伸一郎
	演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本語と英語の意味について比較・対照する。 【概要】日本語の英語は様々な点で異なる。そのような相違点のうち、意味に関する違いを取り上げて、認知言語学の観点から理解を深める。 【到達目標】人間の認知と言語の接点についてより深い理解を得る。				
学生の主体的・対話的な学び	問題演習時に情報交換と討議を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 野村益寛 (2014)『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房、東京。 (2) 随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 第 1 章 世界の立ち現われ方 1 第 3 回 第 2 章 世界の立ち現われ方 2 第 4 回 第 3 章 意味とは何か？ 第 5 回 第 4 章 比喩 1 第 6 回 第 5 章 比喩 2 第 7 回 第 6 章 意味変化 第 8 回 第 7 章 多義語 第 9 回 第 1 4 章 日英対照研究 第 10 回 第 8 章 語から文へ 第 11 回 第 9 章 文法とは何か？ 第 12 回 第 1 0 章 文法マーカ－・品詞・文法関係 第 13 回 第 1 1 章 他動性 第 14 回 総合問題演習 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習 2 時間以上、復習 2 時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポート (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 199			担当者	小林 朋子
	演習 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】比較文化・比較文学（基礎） 【概要】比較文化・比較文学に関する基礎的な論文を精読する。受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをし議論を深める。まずは「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りをテーマにした論文を読み、日英両言語に対する感度を高める。また世界的な視野をもって考えるために必要な構造的読解力と知識を得るため、文学・歴史・ジェンダーをテーマとした論文を読解する。 【到達目標】比較文化・比較文学の基礎的な考え方を習得している。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者は 15 回のうち数回、担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 言葉というシンボル 1 第 3 回 言葉というシンボル 2 第 4 回 ジェンダーと敬語 第 5 回 言葉づかいとアイデンティティ 第 6 回 小説の翻訳 1 第 7 回 小説の翻訳 2 第 8 回 世界文学への招待 1 第 9 回 世界文学への招待 2 第 10 回 世界文学への招待 3 第 11 回 人種と民族とジェンダー 1 第 12 回 人種と民族とジェンダー 2 第 13 回 人種と民族とジェンダー 3 第 14 回 人種と民族とジェンダー 4 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、演習全体への積極的な参加態度（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 200			担当者	石井 英里子
	演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】異文化コミュニケーション、英語教育学、ワークショップのデザインと実践 【概要】グループごとに異文化コミュニケーション、英語教育学に関する文献を読み、内容に関するワークショップをデザインする。ワークショップは英語で行う。 【到達目標】他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	グループで文献を読み、ワークショップをデザインし、英語で実施します。他グループのワークショップに参加し、建設的なフィードバックを行います。研究テーマについてゼミ生同士で議論し、多様な視点から研究構想を練り上げていきます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス 第 2 回 グループ発表 1 の準備 1 第 3 回 グループ発表 1 の準備 2 第 4 回 グループ発表 1 第 5 回 グループ発表 2 の準備 1 第 6 回 グループ発表 2 の準備 2 第 7 回 グループ発表 2 第 8 回 グループ発表 3 の準備 1 第 9 回 グループ発表 3 の準備 2 第 10 回 グループ発表 3 第 11 回 グループ発表 4 の準備 1 第 12 回 グループ発表 4 の準備 2 第 13 回 グループ発表 4 第 14 回 研究テーマと研究構想についての報告 1 第 15 回 研究テーマと研究構想についての報告 2				
授業外学習 (予習・復習)	予習が 3 時間以上、復習が 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	グループ発表 30% グループ調査報告 30% レポート 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 201			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	演習 I			授業外対応	Office Hours.
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Analysis of American Cultural values through pop culture. Comparison of American Pop culture with that of Japan. 【概要】 In this course we will learn and discuss how traditional American cultural values are expressed in its own popular culture (music, characters etc.). we will also compare American popular culture to that of Japan. Through discussions on the various topics proposed in this course program, students will develop critical thinking skills to be used in the creation of their graduation paper. 【到達目標】 Through questions raised in class related to each topic of the course, students will acquire the ability to identify how American cultural values are represented in different forms of popular culture.				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Course explanation. 第 2 回 Introduction to traditional American values. 第 3 回 American values through music. 19th and first decades of the 20th century. 第 4 回 American values through music. 1940s-1950s 第 5 回 American values through music. 1960s-1970s 第 6 回 American values through music. 1980s-2000/2010s 第 7 回 Comparative: K-pop vs J-pop vs American boy-bands and girl-bands. 第 8 回 The values of American pop culture characters. Introduction. 1930s 第 9 回 The values of American pop culture characters. 1940s 第 10 回 The values of American pop culture characters 1950s-1960s 第 11 回 The values of American pop culture characters. 1970s-1990s 第 12 回 Special activity: Viewing of Marvel Studios' Captain America. The First Avenger 第 13 回 Discussion about the movie 第 14 回 Special activity II: viewing of Zack Snyder's Watchmen 第 15 回 Comments on the movie				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	Report (70%); participation in class (30%)				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 202			担当者	野田ゆり子
	演習Ⅰ			授業外対応	授業前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 英文学へのアプローチ：『ライオンと魔女』を手がかりとして 【概要】 本授業では、C.S. ルイスによるファンタジー『ライオンと魔女 (The Lion, the Witch and the Wardrobe)』を手がかりとして、歴史、ジャンル、オリエンタリズム、宗教をはじめとする複数のテーマ別に作品を分析し、本作品の複層性について理解を深めます。主としてディスカッション、グループ・ワーク、プレゼンテーションを中心としますが、適宜分析の方法を教員から示すことで、どのような角度からのアプローチが可能なのか自ら考え、応用する力を養います。 【到達目標】 洋書を読破できる英語力を身に着ける。文学作品を批判的に読むための知識を獲得する。自ら疑問を持ち作品を分析する。				
学生の主体的・対話的な学び	予習内容を踏まえた上で、授業内ではグループで和訳に取り組んでももらいます。毎回コメントペーパーを配布し、学生から出た質問に対して、教員から適宜解答を行います。授業後半においては、個人プレゼンテーションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Lewis, C. S. The Lion, the Witch and the Wardrobe. Harper Collins, 2023 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 第 1 回 ガイダンス (C.S. ルイス、および『ナルニア国物語』シリーズの紹介) 第 2 回 映画鑑賞『ナルニア国物語：第 1 章 ライオンと魔女』(前半) 第 3 回 映画鑑賞『ナルニア国物語：第 1 章 ライオンと魔女』(後半) 第 4 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 1,2：歴史的背景と妖精物語 第 5 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 3,4：オリエンタリズム 第 6 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 5,6：ファンタジーについて 第 7 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 7,8：旧約聖書とナルニア 第 8 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 9,10：「憧れ」とは何か 第 9 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 11,12：騎士道精神 第 10 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 13,14：新約聖書とナルニア 第 11 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 15,16：善と悪 第 12 回 The Lion, the Witch and the Wardrobe Chapter 17：まとめ 第 13 回 Presentation Preparation 第 14 回 Presentation1 第 15 回 Presentation2				
授業外学習 (予習・復習)	予習：毎回の授業までにテキストを読み、予習プリント（要約問題）に取り組む。 復習：授業内で分からなかった和訳については、適宜復習しておく。				
成績評価の方法	毎授業の提出課題が 40%、学期内レポートが 30%、プレゼンテーションが 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 203			担当者	遠峯 伸一郎
	演習Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】言語表現に見られる人間の認知モード、日本語と英語の対照。英語研究の手法。 【概要】「演習Ⅰ」に続いて、事態把握の方法について学習を深める。併せて、卒業研究執筆に向けて、論文執筆のためのルールを学ぶ。 【到達目標】日本語と英語の違いについて、認知と言語の関係から、より深い理解に到達する。				
学生の主体的・対話的な学び	論文の内容を正確に理解するための討議を行う。また、受講者は自ら例文を収集し、論文の主張を検討する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業で紹介する。 (2) 随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 レポートや論文のルール 第 3 回 プレゼンテーションからレポートへ 第 4 回 論文講読 1 (尾野 (2008) (1)) 第 5 回 論文講読 1 (尾野 (2008) (2)) 第 6 回 論文講読 1 (尾野 (2008) (3)) 第 7 回 論文講読 1 (尾野 (2008) (4)) 第 8 回 論文講読 1 (尾野 (2008) (5)) 第 9 回 論文講読 2 (尾野 (2014) (1)) 第 10 回 論文講読 2 (尾野 (2014) (2)) 第 11 回 論文講読 2 (尾野 (2014) (3)) 第 12 回 論文講読 2 (尾野 (2014) (4)) 第 13 回 論文講読 2 (尾野 (2014) (5)) 第 14 回 受講者による発表 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習 2 時間、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポート (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 204			担当者	小林 朋子
	演習Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】比較文化・比較文学（応用） 【概要】本演習では、演習Ⅰで学んだ比較文化・比較文学に関連する基礎的な知識を応用しながら、発展的な内容の論文を読解し、卒業研究につながる思考力と知識を養う。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取るので、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えてくることが求められる。 【到達目標】比較文化・比較文学の研究方法を理解し、卒業研究に応用できる。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者は 15 回のうち数回、担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 多文化主義的家族像 1 第 3 回 多文化主義的家族像 2 第 4 回 母なるものの幻想 1 第 5 回 母なるものの幻想 2 第 6 回 歴史の再構築と再記憶 1 第 7 回 歴史の再構築と再記憶 2 第 8 回 エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖 1 第 9 回 エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖 2 第 10 回 奴隷貿易・奴隷制というトラウマ 1 第 11 回 奴隷貿易・奴隷制というトラウマ 2 第 12 回 語りとは革新的創造行為である 1 第 13 回 語りとは革新的創造行為である 2 第 14 回 語りとは革新的創造行為である 3 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、討論への積極的な参加態度（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 205			担当者	石井 英里子
	演習Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】異文化コミュニケーション，英語教育学に関する研究の課題と方法 【概要】異文化コミュニケーション，英語教育学に関するテーマについて研究する。 【到達目標】先行研究や他者の研究を批判的に理解したり，建設的な意見を述べたりすることができるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	各自の研究テーマについて定期的に報告し、ゼミ生から批判的・建設的なフィードバックを受けます。アクション・リサーチの進捗を共有し、方法論について議論します。中間発表では、質疑応答を通じて研究の妥当性を検証し、研究計画を改善します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 浦野研・亘陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹（2016）『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』研究社 佐野正之（2000）『アクション・リサーチのすすめ ― 新しい英語授業研究』大修館書店				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス，研究テーマと研究構想についての報告 第 2 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 1 第 3 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 2 第 4 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 3 第 5 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 4 第 6 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 5 第 7 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 6 第 8 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 7 第 9 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 8 第 10 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 9 第 11 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 10 第 12 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 11 第 13 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 12 第 14 回 中間発表 1 第 15 回 中間発表 2				
授業外学習 (予習・復習)	予習が 3 時間以上，復習が 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	報告とディスカッション 30% 中間発表 30% レポート 40%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 206			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	演習Ⅱ			授業外対応	Office Hours
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 Analysis of American Cultural values through pop culture. Comparison of American Pop culture with that of Japan. 【概要】 This course is a continuation of Enshuu I, focusing on fast food culture and the Hollywood film industry. Finally, we will analyze Ernest Hemingway and his most significant works in relation to American values. Through discussions on the various topics proposed in this course program, students will develop critical thinking skills to be used in the creation of their graduation paper. 【到達目標】 Through questions raised in class related to each topic of the course, students will acquire the ability to identify how American cultural values are represented in different forms of popular culture.				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Course explanation. 第 2 回 Unit 1: the hamburger paradise. Fast food and the American way I. Introduction. 第 3 回 Unit 1: the hamburger paradise. Fast food and the American way II. The birth of the fast-food. 第 4 回 Unit 1: the hamburger paradise. Fast food and the American way III. The success of fast-food. The real American dreamers. 第 5 回 Unit 1: the hamburger paradise. Fast food and the American way IV. Fast-food as part of American life. 第 6 回 Special Activity: viewing of the film The Founder. Discussion on the film. 第 7 回 Special discussion: Japanese “American” fast-food. 第 8 回 Unit 2: Hollywood, where your dreams will come true I. Introduction. 第 9 回 Unit 2: Hollywood, where your dreams will come true II. The Golden Era: gangsters and cowboys. 第 10 回 Unit 2: Hollywood, where your dreams will come true III. The end of the Golden Era and the emergence of the New Hollywood 第 11 回 Unit 2: Hollywood, where your dreams will come true IV. The heyday of New Hollywood and Blockbuster Hollywood. 第 12 回 Unit 3: Ernest Hemingway I. Life facts 第 13 回 Unit 3: Ernest Hemingway II. His style and topics in his works 第 14 回 Unit 3: Ernest Hemingway II. Reading of “Hills Like White Elephants” 第 15 回 Special discussion: Hemingway and American values. Course review.				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	Report (70%); participation in class (30%)				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 207			担当者	遠峯 伸一郎
	卒業研究			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 演習Ⅰ、演習Ⅱでの学習成果を卒業研究にまとめる。 【概要】 基礎演習Ⅰと英語学演習Ⅰを通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。 【到達目標】 卒業研究を完成させる。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者は自ら設定した課題について、先行研究を援用しながら基本的に自力で解決を図る。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし。 (2) 随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 個別指導(1) 第 3 回 個別指導(2) 第 4 回 卒業研究テーマについての中間発表 第 5 回 個別指導(3) 第 6 回 個別指導(4) 第 7 回 先行研究と資料についての中間発表(1) 第 8 回 先行研究と資料についての中間発表(2) 第 9 回 個別指導(5) 第 10 回 個別指導(6) 第 11 回 考察についての中間発表 第 12 回 個別指導(7) 第 13 回 個別指導(8) 第 14 回 サマリーの作成 第 15 回 プレゼンテーション資料の作成				
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	卒業研究 (80%) + プレゼンテーション (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 208			担当者	小林 朋子
	卒業研究			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習Ⅰ、演習Ⅱで学んだことを活用し、卒業論文を執筆する。 【概要】演習Ⅰ、演習Ⅱの内容に基づき、自ら選んだテーマで卒業研究を行う。卒業研究発表会では卒業論文についてのプレゼンテーションを行い、会の参加者全員とその成果を共有する。 【到達目標】卒業論文を完成し、その成果を共有する。				
学生の主体的・対話的な学び	卒業研究発表会では、卒業研究に基づきプレゼンテーションを行い、フロアからの質問に回答する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業で随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 テーマの確認と指導 第 3 回 研究論文執筆の指導：文献収集など 第 4 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 1 第 5 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 2 第 6 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 3 第 7 回 中間発表 第 8 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 1 第 9 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 2 第 10 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 3 第 11 回 研究論文執筆の指導：論文の推敲 1 第 12 回 研究論文執筆の指導：論文の推敲 2 第 13 回 研究論文執筆の指導：論文の推敲 3 第 14 回 卒業研究発表について 第 15 回 まとめ及び卒業研究発表の練習				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業への取り組み態度（30%）、卒業研究論文（70%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 209			担当者	石井 英里子
	卒業研究			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】異文化コミュニケーション，英語教育学に関する研究の課題と方法 【概要】異文化コミュニケーション，英語教育学に関するテーマについて研究し，卒業研究を完成させる。 【到達目標】英語で卒業研究を完成させる。				
学生の主体的・対話的な学び	研究報告では、ゼミ生からの質問に答えることで研究を深化させます。発表原稿や資料について相互評価を行い、改善点を議論します。卒業研究発表の練習では、模擬質疑応答を繰り返し、プレゼンテーション能力を高めます。全体討論では、研究成果を振り返り、学びを共有します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス，夏休みの報告，卒業研究 first draft 提出 第 2 回 研究報告 1 第 3 回 研究報告 2 第 4 回 研究報告 3 第 5 回 研究報告 4 第 6 回 研究報告 5 第 7 回 研究報告 6 第 8 回 研究報告 7 第 9 回 研究報告 8，卒業研究発表原稿 first draft 提出 第 10 回 卒業研究発表会の資料作成 1， 第 11 回 卒業研究発表会の資料作成 2 第 12 回 卒業研究発表の練習 1 第 13 回 卒業研究発表の練習 2 第 14 回 卒業研究発表の練習 3 第 15 回 まとめと全体討論				
授業外学習 (予習・復習)	予習が 3 時間以上，復習が 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	卒業研究 40% 卒業研究発表 60%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 210			担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ
	卒業研究			授業外対応	Office Hours
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 In this course, you will acquire the knowledge necessary to carry an academic research and aimed at writing your graduation paper. 【概要】 First, students will receive advice to help them find a research topic. They will then receive guidelines and tips for undertaking the research and writing the thesis. Finally, each week, the professor will assess the progress of the papers, and based on this, the professor will recommend changes or additions. Practice sessions for the final thesis presentation will also be held at the end of the course. 【到達目標】 Enable the students to write and present their graduation paper (in English)				
学生の主体的・対話的な学び	Discussions in class are always done in pairs or groups.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Course explanation 第 2 回 The basics of an academic research. 第 3 回 Research topic guidance (I) 第 4 回 Research topic guidance (II) 第 5 回 Progress assess (I) 第 6 回 Progress assess (II) 第 7 回 Progress assess (III) 第 8 回 Progress assess (IV) 第 9 回 Progress assess (V) 第 10 回 Progress assess (VI) 第 11 回 Progress assess (VII) 第 12 回 Progress assess (VIII) 第 13 回 Progress assess (IX) 第 14 回 Presentation practice 第 15 回 Presentation practice				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法	Graduation paper (80%) Graduation paper presentation (20%)				
実務経験について	I've been teaching this class since 2018.				

授業科目	授業番号： 211			担当者	多田 司・浅海 真弓
	生活科学概論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活を科学的視点で把握し、生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。 【概要】衣服・食・住まいの機能や将来の生活費、消費者問題など、毎回提示された課題について各自考えながら、生活全般についての理解を深める。また、現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し、その課題解決のために生活者としてできることは何か？についても考えていく。(第1回～第7回：多田担当，第8回～第15回：浅海担当) 【到達目標】様々な生活課題について科学的に考える力を身につけ、課題の解決に向けて主体的に行動することができる。講義を通して実生活での思考力や判断力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	一部の回はワークシートを用いて講義を進める。毎回講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、そこで出た質問に対しては次の回で解説を行う。(多田) 毎回ワークシートを用いて講義を進め、自分の考えや意見をまとめてもらう。シートに書かれた意見について、次の授業で紹介することが数回ある。(浅海)				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 山本直成, 浦上智子, 中根芳一共著『生活科学 (第6版)』オーム社 「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス ― 生活を科学する？ 第 2 回 食生活の科学 1 ― 自分の食生活を見直してみよう 第 3 回 食生活の科学 2 ― 栄養の面から健康的な食生活を考える 第 4 回 食生活の科学 3 ― 安全な食生活のあり方について 第 5 回 食生活の科学 4 ― 食品添加物について考える 第 6 回 生活環境の科学 1 ― 生活における科学技術の役割と弊害について 第 7 回 生活環境の科学 2 ― 生活に及ぼす化学物質の影響について 第 8 回 生活の中の衣服 ― 衣服の機能について考える 第 9 回 衣生活の現状 1 ― 衣服の原産国と輸入状況について考える 第 10 回 衣生活の現状 2 ― 衣服を作る人々の労働環境について考える 第 11 回 住まいの機能 ― 住む家がなくなったら困ることについて考える 第 12 回 将来の生活を設計する 1 ― 25 歳一人暮らしの生活費について考える (理想の生活) 第 13 回 将来の生活を設計する 2 ― 25 歳一人暮らしの生活費について考える (生活費の改善) 第 14 回 自立した消費者になるために ― 消費者の権利と責任について考える 第 15 回 持続可能な社会に向けて ― SDGs やエシカル消費について考える				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)				
成績評価の方法	多田担当分 (50%) : レポート (40%) + 講義への取り組み状況 (10%) 浅海担当分 (50%) : ワークシート・課題 (25%) + レポート (25%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 212			担当者	坂上 ちえ子
	生活経営学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	生活1年，食 栄2年	後期	2単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活経営とは何かを含め，生活を経営する上での諸問題を理解し，自立のための生活経営力の獲得を目指す。 【概要】自分と他者の関わりを捉えなおし，個人と家庭，社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。 【到達目標】真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回テーマについて，授業前に知っていた事柄や予想できる内容を振り返りペーパーに記入してもらう。授業後は，テーマについて初めて理解したことや考察を記入してもらう。次の週は，前回の振り返りペーパーの記入内容を共有して，前週の復習を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 随時紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 基礎事項 1：生活経営学と生活を考える 第 3 回 基礎事項 2：家族と家庭を考える 第 4 回 基礎事項 3：男女の役割を考える 第 5 回 基礎事項 4：労働を考える 第 6 回 基礎事項 5：経済と消費を考える① 第 7 回 基礎事項 6：経済と消費を考える② 第 8 回 基礎事項 7：家計を考える 第 9 回 基礎事項 8：子どもと教育を考える 第 10 回 基礎事項 9：高齢社会を考える 第 11 回 応用事項 1：地域を考える 第 12 回 応用事項 2：環境を考える 第 13 回 応用事項 3：政治と社会を考える 第 14 回 応用事項 4：自立を考える 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

（注）生活科学専攻は教職必修

授業科目	授業番号： 213			担当者	金子 信一
	人間関係論			授業外対応	リアクションペーパーで受け付け、 次回の授業で対応する
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	食物栄養 2 年，生活科学 1 年	前期	2 単位	食物栄養選択，生 活科学必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】心理的安全性が育まれる方法をグループ・ワークから理解していく。 【概要】本講義の目的は，グループ・ワークを通して，自己理解や他者理解，自己主張，自己受容，信頼体験，感受性の促進を体験することによって，心理的安全性が育まれることを認識していくことである。 【到達目標】自己理解ならびに他者理解が心理的安全性を醸成していくことを理解すること				
学生の主体的・対話的な学び	人間関係について，興味・関心があることを調べること。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜，資料を提示する。 (2) 1) 福島 脩美 (2005)．自己理解ワークブック 金子書房 2) 星野 欣生 (2012)．人間関係づくりトレーニング 金子書房				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 認知的枠組み 第 3 回 価値観 第 4 回 思い込み 第 5 回 コミュニケーションⅠ 第 6 回 コミュニケーションⅡ 第 7 回 サインとしてのからだ 第 8 回 感情表出 第 9 回 共感的理解 第 10 回 葛藤 第 11 回 自己開示とフィードバック 第 12 回 原因帰属 第 13 回 お守り 第 14 回 コーチング 第 15 回 アサーション				
授業外学習 (予習・復習)	人間関係について，興味・関心があることを調べること。				
成績評価の方法	期末試験（60%）ならびに受講態度（40%）で評価する。				
実務経験について	精神科医療やスクールカウンセラー，重症心身障害児施設，児童発達支援事業所に携わってきた実務経験は，本講義の内容と深い関わりを持つ。				

授業科目	授業番号： 214			担当者	川崎 竜太
	社会福祉論			授業外対応	講義前後に適宜対応する
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】社会福祉について総合的に理解するために、社会福祉の理念や展開、関連する法制度、ソーシャルワークなどについて実践的に学ぶ。 【概要】1. 社会福祉の基本構造や理念について概観し、社会福祉の歴史的変遷について理解する。 2. 社会福祉の対象とニーズを理解し、法体系や法制度について学ぶ。 3. 社会福祉政策の構成と組織、専門職について学び、ソーシャルワークの実際について理解する。 4. 社会福祉の課題について学び、現代社会が抱える社会問題の解決策について考察する。 【到達目標】社会福祉の歴史や制度・政策を理解し、今後の社会福祉の展望について説明することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の講義内容に関する問題演習を行っている。授業の中で解説を行い、講義終了時には解答を配布している。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 田畑洋一・岩崎房子・大山朝子・山下利恵子編著『社会保障・社会福祉―生活を支えるしくみ第2版』 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 現代社会と社会保障の概要について学ぶ。 第 2 回 社会福祉・社会保障の発展、社会保障の体系について学ぶ。 第 3 回 生活保護の概要、運営、動向について学ぶ。 第 4 回 障害（児）者福祉の概要、運営について学ぶ。 第 5 回 子ども家庭福祉の概要、運営について学ぶ。 第 6 回 高齢者福祉の概要、運営について学ぶ。 第 7 回 医療保険制度の仕組みについて学ぶ。 第 8 回 介護保険制度の仕組みについて学ぶ。 第 9 回 公的年金制度の仕組みについて学ぶ。 第 10 回 労働保険の仕組みについて学ぶ。 第 11 回 社会福祉行政の従事者と地域の役割について学ぶ。 第 12 回 ソーシャルワークの展開と実際について学ぶ。 第 13 回 地域包括ケアシステムの沿革と制度設計について学ぶ。 第 14 回 主要国の社会保障（イギリス、ドイツ）の概要について学ぶ。 第 15 回 主要国の社会保障（フランス、アメリカ、スウェーデン）の概要、総括				
授業外学習 (予習・復習)	予習：講義範囲をテキストで確認する。 復習：講義課題の振り返りを行う。				
成績評価の方法	授業ごとに課題を実施する（30%）、学期末試験を実施する（70%）				
実務経験について	大学教員（准教授）、医療ソーシャルワーカー				

(注)食物栄養専攻は栄養士必修、教職必修

授業科目	授業番号： 215			担当者	中島 一喜
	食品学 I			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品に含まれる成分の概要と，その働きについて学習する。 【概要】食品の三つの機能「栄養面での一次機能(栄養機能)」「嗜好面での二次機能(感覚機能)」「病気予防面での三次機能(生体調節機能)」を中心に，食品の構成成分や役割について解説する。 【到達目標】食品に含まれる成分とその機能について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了質問に対して解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 太田英明・白土英樹・古庄律編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第 3 版』南江堂 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 人間と食品 第 2 回 食品の一次機能:水分 第 3 回 食品の一次機能:たんぱく質 1 (アミノ酸) 第 4 回 食品の一次機能:たんぱく質 2 (タンパク質の構造・性質) 第 5 回 食品の一次機能:たんぱく質 3 (酵素) 第 6 回 食品の一次機能:炭水化物 1 (糖質) 第 7 回 食品の一次機能:炭水化物 2 (食物繊維) 第 8 回 食品の一次機能:脂質 第 9 回 食品の一次機能:ビタミン・ミネラル 第 10 回 食品の二次機能:色素成分 第 11 回 食品の二次機能:呈味成分 第 12 回 食品の二次機能:におい成分 第 13 回 食品の三次機能:食品の機能性 第 14 回 食品の三次機能:保健機能食品 第 15 回 食品の表示				
授業外学習 (予習・復習)	教科書による予習とともに，授業後のノート整理など復習を確実にすること。				
成績評価の方法	筆記試験 70%，授業への取り組みや授業中の課題 30%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

(注)栄養士必修・教職必修

授業科目	授業番号： 216			担当者	中島 一喜
	食品学Ⅱ			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品の種類と成分について学ぶとともに、食品の加工利用に対する考え方を理解する。 【概要】植物性食品，動物性食品，調味料，油脂，香辛料，嗜好性飲料について，その成分や特性および機能性について 解説する。 【到達目標】食品の分類と特徴，および含有する主要な成分について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了質問に対して解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 太田英明・白土英樹・古庄律編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第 3 版』南江堂 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 植物性食品:穀類 第 2 回 植物性食品:穀類の利用 第 3 回 植物性食品:いも類 第 4 回 植物性食品:豆類 第 5 回 植物性食品:種実類 第 6 回 植物性食品:野菜類 第 7 回 植物性食品:野菜類の利用 第 8 回 植物性食品:果実類 第 9 回 植物性食品:果実類の利用 第 10 回 動物性食品:きのこ類，藻類 第 11 回 動物性食品:食肉類 第 12 回 動物性食品:魚介類 第 13 回 動物性食品:乳類 第 14 回 動物性食品:卵類 第 15 回 油脂，調味料，香辛料，嗜好性飲料				
授業外学習 (予習・復習)	教科書による予習とともに，授業後のノート整理など復習を確実にすること。				
成績評価の方法	筆記試験 70%，授業への取り組みや授業中の課題 30%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

(注)栄養士必修・教職必修

授業科目	授業番号： 217			担当者	中島 一喜
	食品学実験			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択(注)	実験方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品に含まれる成分などを分析するための各種実験器具の取り扱いや基礎的な分析方法について学ぶ。 【概要】実験器具の取り扱い方や基礎的な化学実験の方法と食品学的実験への応用法について解説する。 【到達目標】各種実験器具の取り扱いや食品成分の基礎的な分析方法について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回, 3, 4 名のグループで食品学実験を行う。また, 前週までに出了質問に対して解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 青柳康夫・有田政信編『食品学実験』建帛社のほか, 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 食品学実験の基礎(実験器具や試薬類の取り扱い方法) 第 2 回 溶液の濃度計算 1(溶液の調製法) 第 3 回 溶液の濃度計算 2(溶液の希釈法) 第 4 回 溶液の濃度計算 3(微濃度溶液の調製法) 第 5 回 酸性水溶液の調整(酸の濃度と pH の関連) 第 6 回 アルカリ性水溶液の調製(アルカリの濃度と pH の関連) 第 7 回 アミノ酸の検出(ニンヒドリン法による検出) 第 8 回 アミノ酸の同定(薄層クロマトグラフィーによる同定) 第 9 回 食品に含まれる色素の分析(カロテノイド) 第 10 回 たんぱく質の定量 1(検量線の作成) 第 11 回 たんぱく質の定量 2(試料中のたんぱく質定量) 第 12 回 食品に含まれる糖類の分析(還元糖) 第 13 回 食品の酵素的褐変(りんごの酵素的褐変とその防止法) 第 14 回 糖酸度の測定(ポケット糖酸度計による測定法) 第 15 回 食品学実験の総括(実験器具類の整理と保管)				
授業外学習 (予習・復習)	レポート課題を中心に, 復習を確実にすること。				
成績評価の方法	実験レポート 70%, 実験への取り組み 30%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

(注)栄養士必修・教職必修

授業科目	授業番号： 218			担当者	中島 一喜
	食品加工学			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品加工の目的や原理を理解すると共に、食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。 【概要】食品の貯蔵法や加工法の基礎的な技術，それらの技術を利用して生産される農畜産ならびに水産加工製品，発酵食品，調味料，嗜好食品，インスタント食品，油脂食品について解説する。 【到達目標】食品加工の目的や原理を理解すると共に，食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中，7 回程度 3，4 名のグループで食品加工学実験を行う。また，前週までに出了質問に対して解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布 (2) 太田英明ら著『イラスト 食品加工・食品機能実験 第 4 版』東京教学社のほか，適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 食品保蔵技術(水分と水分活性 他) 第 2 回 食品保蔵技術(pH 他) 第 3 回 食品保蔵技術(低温，殺菌 他) 第 4 回 食品加工と原理 第 5 回 食品加工と成分変化(成分間反応，褐変，酸化 他) 第 6 回 食品加工と新技術 第 7 回 食品加工の実際（ソース，ケチャップ，マヨネーズ 他） 第 8 回 加工食品の実習(ケチャップの試作) 第 9 回 加工食品の実習(ケチャップの分析評価) 第 10 回 食品加工の実際（バター，・チーズ，ヨーグルト 他） 第 11 回 加工食品の実習(ヨーグルトの試作) 第 12 回 加工食品の実習(ヨーグルトの分析評価) 第 13 回 食品加工の実際（パン） 第 14 回 加工食品の実習(パンの試作) 第 15 回 加工食品の実習(パンの分析評価)				
授業外学習 (予習・復習)	授業後のノート整理やレポート課題など，復習を確実に行うこと。				
成績評価の方法	筆記試験 50%，実習レポート 30%，授業および実習への取り組みや授業中の課題 20%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

授業科目	授業番号： 219			担当者	中島 一喜
	食品衛生学			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品の安全性を確保するために不可欠な食品衛生に関する知識を習得する。 【概要】食中毒や食品汚染と流通の発達に伴う加工食品や多種多様な食品添加物の実態に目を向け、安心・安全な食生活を 送るための方策を考える。 【到達目標】食品の安全性と衛生管理、食品の安全確保の手段と手法について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了質問に対して解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西瀬弘・桧垣俊介・和島孝浩著『食品衛生学』化学同人 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 食品衛生と法規 第 2 回 食品の変質(発酵と腐敗) 第 3 回 食品の変質(微生物による成分変化) 第 4 回 食品の変質(変質の防止) 第 5 回 食中毒 1(細菌性食中毒 サルモネラ菌 他) 第 6 回 食中毒 2(細菌性食中毒 ボツリヌス菌 他) 第 7 回 食中毒 3(ウイルス性食中毒 他) 第 8 回 食中毒 4(自然毒 食中毒の予防 他) 第 9 回 経口感染症・寄生虫症 第 10 回 食品中の汚染・有害物質(カビ毒 他) 第 11 回 食品中の汚染・有害物質(化学物質 内分泌かく乱物質 他) 第 12 回 食品中の汚染・有害物質(食物アレルギー 他) 第 13 回 食品添加物 第 14 回 食品の衛生管理(HACCP 他) 第 15 回 食品の安全性(遺伝子組み換え 放射線 農薬 他)				
授業外学習 (予習・復習)	教科書による予習とともに、授業後のノート整理など復習を確実にすること。				
成績評価の方法	筆記試験 70%, 授業への取り組みや授業中の課題 30%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

(注)栄養士必修・教職必修

授業科目	授業番号： 220			担当者	中島 一喜
	食品衛生学実験			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	実験方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品衛生化学実験や食品衛生微生物実験に関する実験器具の取り扱いや基礎的な方法について学ぶ。 【概要】食品衛生検査の技術的な手法として、検査器具類の適切な使用法、化学試験および微生物試験について実習する。 【到達目標】食品衛生化学および食品生成微生物学実験の実施に必要な知識と技術を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、3、4名のグループで食品衛生学実験を行う。また、前週までに出了質問に対して解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 一戸正勝ら編著『図解 食品衛生学実験 第3版』講談社のほか、適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第1回 食品衛生化学実験(中性洗剤の検出) 第2回 食品衛生化学実験(食器洗浄:残留でんぷんの検査) 第3回 食品衛生化学実験(食器洗浄:残留脂質の検査) 第4回 食品衛生化学実験(食器洗浄:残留たんぱく質の検査) 第5回 食品衛生化学実験(容器のホルムアルデヒドの溶出試験) 第6回 食品衛生化学実験(食品添加物:着色料の検査) 第7回 食品衛生微生物学実験(微生物観察:細菌のグラム染色) 第8回 食品衛生微生物学実験(微生物観察:培地の調製) 第9回 食品衛生微生物学実験(微生物観察:画線培養) 第10回 食品衛生微生物学実験(微生物観察:段階希釈) 第11回 食品衛生微生物学実験(手指の衛生検査) 第12回 食品衛生微生物学実験(環境の落下菌検査) 第13回 食品衛生微生物学実験(食品の細菌検査) 第14回 食品衛生微生物学実験(環境のふき取り検査) 第15回 食品衛生微生物学実験(微生物の簡易検査方法、実験器具の整理と保管)				
授業外学習 (予習・復習)	レポート課題を中心に、復習を確実にすること。				
成績評価の方法	実験レポート 70%, 実験への取り組み 30%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

(注)栄養士必修・教職必修

授業科目	授業番号： 221			担当者	有村 恵美
	調理学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品の調理操作と調理過程における科学的現象 【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶとともに、ヒトの生理学やライフステージにおける食嗜好、食形態の変化とも絡めながら、実践的な知識を理解する。 【到達目標】調理操作による食品素材の変化（組織・物性・栄養成分・嗜好性）を学び、調理の役割や食事設計について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、小テストを実施する。事前・後学習としてノート作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 山崎英恵編『調理学 食品の調理と食事設計』中山書店・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂 (2) 山崎清子ほか『NEW 調理と理論』同文書院・『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部				
授業 スケジュール	第 1 回 調理学の目的と意義：栄養効果・安全性・嗜好性 第 2 回 調理操作：非加熱調理操作（計量・洗浄・切断・混合・攪拌・成形など） 第 3 回 調理操作：加熱調理操作（湿式加熱・乾式加熱など） 第 4 回 調理操作：調味料による操作と特徴、化学的な調理 第 5 回 調味と味：旨味成分・香り成分 第 6 回 調理と栄養：植物性食品①（米・小麦・いも類） 第 7 回 調理と栄養：植物性食品②（野菜類・果物・種実類） 第 8 回 調理と栄養：動物性食品①（卵類・乳類） 第 9 回 調理と栄養 動物性食品②（食肉類） 第 10 回 調理と栄養：動物性食品③（魚介類） 第 11 回 調理と栄養：油脂類・ゲル化材料・調味料類 第 12 回 調理と栄養：調理による栄養学的・機能的利点 第 13 回 食事設計の意義と内容：食生活指針・食事摂取基準・食事バランスガイド 第 14 回 献立作成：献立作成手順 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（60%）、課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況（40%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 222			担当者	有村 恵美
	調理学実習 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術 【概要】調理理論と関連づけた様々な食品の調理方法・基礎的な料理について実践しながら基本的な調理技術を習得する。 【到達目標】調理器具の正しい使用方法と調理技術の基本、日本料理の基本調理・技術を身につけて実践できる力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回,5 名前後のグループで調理学実習を行う。事前・後学習として,実習レポートの作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西堀すき江編『調理学実習』建帛社・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部 (2) 山崎清子ほか『NEW 調理と理論』同文書院・宮下朋子ほか『新調理学実習』同文書院・高橋敦子ほか『調理学実習基礎から応用』女子栄養大学出版部				
授業 スケジュール	第 1 回 調理学実習概要：実習実施のための諸注意・レポート作成 第 2 回 調理技術：調理機器の使い方・包丁の使い方・切り方の基本・炊飯条件 第 3 回 汁物・焼き物：鰹節と昆布だしの取り方と利用法、焼き物の要点（種類・調理方法と温度・前盛り） 第 4 回 ご飯物・汁物：塩味飯と調味料の割合・煮干しだしの取り方と利用方法 第 5 回 煮物：煮物の要点（種類・適する食品・調理方法・調味料の割合） 第 6 回 蒸し物：蒸し物の要点（種類・加熱温度による蒸し方の分類・卵液の蒸し物希釈割合） 第 7 回 揚げ物：揚げ物の要点（種類・調理方法・吸油量・揚げ温度と時間） 第 8 回 ご飯物・和え物：味つけの具と調味料の割合・和え物の種類と和え衣の配合 第 9 回 電子レンジ活用：スピード調理（操作手順・出力ワット数・加熱時間） 第 10 回 焼き物・浸し物：焼き物・浸し物の要点（調理方法・調味液の割合） 第 11 回 ご飯物・酢の物：井用の鍋の扱い・酢の物（適する食品・調味料の割合） 第 12 回 麺類：麺類の要点（種類・茹で方・茹で麺の重量に対する割合・調味料の割合） 第 13 回 大量調理：スチームコンベクション料理（操作手順・炊飯・蒸し物） 第 14 回 郷土料理：郷土料理の分類・行事食・お盆料理（にがごりの扱い） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。				
成績評価の方法	実技試験（40%）、実習ノート（30%）、実習への取り組み・参加状況（30%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

（注）栄養士必修、教職必修

授業科目	授業番号： 223			担当者	有村 恵美
	調理学実習Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用 【概要】日本料理・西洋料理・中国料理の3分野を中心に個人の食事から給食施設における大量調理への応用を習得する。 【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、少人数の家庭料理から大量調理への応用ができる力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、5名前後のグループで調理学実習を行う。事前・後学習として、実習レポートの作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西堀すき江編『調理学実習』建帛社・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部 (2) 山崎清子ほか『NEW 調理と理論』同文書院・宮下朋子ほか『新調理学実習』同文書院・高橋敦子ほか『調理学実習基礎から応用』女子栄養大学出版部				
授業 スケジュール	第 1 回 調理学実習概要：課題の報告 第 2 回 日本料理の特徴と調理：もち米の扱い・三色おはぎ・魚のすり流し汁 第 3 回 西洋料理の特徴と調理：ブイヨンの分類と取り方・挽肉の扱い・ヴィネグレットソース 第 4 回 中国料理の特徴と調理：軍湯の分類と取り方・中華素材と器具の扱い 第 5 回 日本料理の特徴と調理：炊き込みご飯・きのこのホイル焼き・茶碗蒸し 第 6 回 西洋料理の特徴と調理：チキンピラフ・クラムチャウダー・マセドワースサラダ（マヨネーズ作成） 第 7 回 中国料理の特徴と理解：炸春捲・奶湯龍鬚・凉拌蕃茄 第 8 回 西洋料理の特徴と調理：チキンカレー・バターライス・シーフードサラダ・ピクルス 第 9 回 日本料理の特徴と調理：魚講習会（霜降りの方法と役目・刺身・三枚下ろし・魚のだし） 第 10 回 真空調理の特徴と調理：正月料理（仕込み） 第 11 回 真空調理の特徴と調理：正月料理（本料理） 第 12 回 西洋料理の特徴と調理：えびグラタン（ベシャメルソース）・コンソメスープ・コールスローサラダ 第 13 回 給食のための献立作成と調理（大量調理への応用） 第 14 回 給食のための献立作成と調理（大量調理への応用） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。				
成績評価の方法	実技試験（40%）、実習ノート（30%）、実習への取り組み・参加状況（30%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

（注）栄養士必修、教職必修

授業科目	授業番号： 224			担当者	有村 恵美
	調理学実習Ⅲ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用 【概要】給食施設における大量調理への応用を考慮し、食品の持つ特徴（糊化作用・凝固作用・膨張作用など）を十分活かした調理法について習得する。 【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回,5 名前後のグループで調理学実習を行う。事前・後学習として,実習レポートの作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西堀すき江編『調理学実習』建帛社・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部 (2) 山崎清子ほか『NEW 調理と理論』同文書院・宮下朋子ほか『新調理学実習』同文書院・高橋敦子ほか『調理学実習基礎から応用』女子栄養大学出版部				
授業 スケジュール	第 1 回 調理学実習概要：課題の報告 第 2 回 スチームコンベクション料理：(蒸し物・焼き物・揚げ物) 第 3 回 日本料理の特徴と調理：郷土料理（芋ご飯・さつま汁・さつまあげ） 第 4 回 西洋料理の特徴と調理：パン・ミネストローネ・サラダ 第 5 回 中国料理の特徴と調理：蛋花湯・酢豚・凉拌海蜇 第 6 回 日本料理の特徴と調理：郷土料理（鶏飯・豚骨・ぬた） 第 7 回 中国料理の特徴と理解：海老の扱い・乾焼蝦仁・玉米湯・棒棒鶏 第 8 回 実施献立（献立作成・調理方法） 第 9 回 実施献立（献立作成・調理方法） 第 10 回 日本料理の特徴と調理：正月料理（重箱の詰め方・雑煮、飾り切り） 第 11 回 西洋料理の特徴と調理：ビーフシチュー（ブラウンルー）・トマトファルシー・サラダ 第 12 回 西洋料理の特徴と調理：クリスマスケーキ 第 13 回 災害食・おいしいお茶の入れ方 第 14 回 まとめ 第 15 回 テーブルマナー（西洋料理）				
授業外学習 (予習・復習)	実習予習のためプリント配布，実習内容を実習ノートにまとめ，実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。				
成績評価の方法	実技試験（40%），実習ノート（30%），実習への取り組み・参加状況（30%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，病態栄養専門管理栄養士，糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 225			担当者	多田 司
	栄養学総論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】栄養とは何か？その意義について理解する 【概要】栄養の概念についての理解から始まり、日本における食の変遷や食生活の実態を学習する。次に摂食行動や消化・吸収の概念を理解し、その上で栄養素であるタンパク質・糖質・脂質・ビタミン・ミネラルや水・電解質などの栄養学的機能や消化・吸収・代謝について学習し、理解を深める。 【到達目標】さまざまな栄養素の摂取、消化、吸収、代謝に関する幅広い分野について学習し、理解することを目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、ワークシートを用いて行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 木戸康博・桑波田雅士・中坊幸弘編、『栄養科学シリーズ NEXT 基礎栄養学』、講談社 (2) 講義の際に適宜紹介する				
授業スケジュール	第 1 回 栄養の概念：栄養の意義と栄養学の目的 第 2 回 食物の摂取：わが国の栄養と健康状態の推移、食事摂取基準について 第 3 回 消化・吸収と栄養 1：消化器系の構造と機能や消化酵素について 第 4 回 消化・吸収と栄養 2：栄養素の体内動態について 第 5 回 糖質の栄養 1：糖質の概要・分類について 第 6 回 糖質の栄養 2：体内代謝や血糖調節について 第 7 回 脂質の栄養 1：脂質の種類と働き、臓器間輸送について 第 8 回 脂質の栄養 2：貯蔵エネルギーとしての作用やコレステロール代謝、生理活性物質について 第 9 回 タンパク質の栄養 1：タンパク質・アミノ酸の構造・機能と体内動態について 第 10 回 タンパク質の栄養 2：摂取する量と質の評価や他の栄養素との関係について 第 11 回 エネルギー代謝：エネルギー代謝の概念について 第 12 回 ミネラルの栄養：ミネラルの分類と栄養学的機能について 第 13 回 ビタミンの栄養 1：脂溶性ビタミンについて 第 14 回 ビタミンの栄養 2：水溶性ビタミンについて 第 15 回 水・電解質の栄養的意義：水の出納や電解質の代謝について				
授業外学習 (予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。				
成績評価の方法	期末試験（70%）＋講義への取り組み（30%）により評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 226			担当者	中熊 美和
	栄養学各論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本人の食事摂取基準策定の基本理論を理解し、ライフステージに応じた特性と栄養管理の基本的な考えを学ぶ。 【概要】日本人の食事摂取基準策定の基本理論を理解する。そのうえで、ライフステージ（妊娠期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期・更年期・高齢期）別に各時期における身体及び精神的な特徴について理解し、栄養管理の方法を学ぶ。 【到達目標】日本人の食事摂取基準策定の基本理論を理解し、ライフステージ別の個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実践について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、小テストを実施する。 事前・事後学習としてノート作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 山下絵美ほか『応用栄養学』（化学同人） 伊藤貞嘉, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020 年版』（第一出版） 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部） (2) 城田知子ほか『ライフステージ実習栄養学』（医歯薬出版株式会社）				
授業 スケジュール	第 1 回 食事摂取基準：基本的な考え方と概要 第 2 回 食事摂取基準：活用方法 第 3 回 新生児・乳幼児の栄養管理：特性・疾患 第 4 回 新生児・乳幼児の栄養管理：栄養管理・栄養補給方法・食事摂取基準 第 5 回 幼児期の栄養管理：特性・疾患 第 6 回 幼児期の栄養管理：栄養管理・食事摂取基準 第 7 回 学童期の栄養管理：特性・疾患・食事摂取基準 第 8 回 思春期の栄養管理：特性・疾患・食事摂取基準 第 9 回 高齢期の栄養管理：特性・疾患・栄養管理・食事摂取基準 第 10 回 献立作成演習：ライフステージにあった調理方法や食事摂取基準 第 11 回 妊娠期の栄養管理：特性・栄養管理・食事摂取基準 第 12 回 授乳期の栄養管理：特性・栄養管理・食事摂取基準・乳汁栄養 第 13 回 成人・更年期の栄養管理：特性・疾患 第 14 回 成人・更年期の栄養管理：栄養管理・食事摂取基準 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	筆記試験の成績(60%)、課題・小テスト・授業への取り組み (40%) により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，NST 専門療法士				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 227			担当者	中熊 美和
	栄養学実習			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防、臨床を対象とした栄養学の実践から応用までを学ぶ。 【概要】各ライフステージ（妊娠期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・成人期・更年期・高齢期）の健康保持・疾病予防のための食事、各治療食（形態別治療食・エネルギー調整食・食塩制限食・脂質調整食・たんぱく質調整食）を学ぶ。 【到達目標】各ライフステージ別の食形態、疾患別の栄養、食事療法を具体的に食品・献立レベルで把握し、実践できる力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回 5 名程度で調理実習を行う。 事前・事後学習としてノートを作成する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 城田知子ほか『ライフステージ実習栄養学』（医歯薬出版株式会社） 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版株式会社） (2) 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部） 伊藤 貞嘉、佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2020 年版』（第一出版）				
授業 スケジュール	第 1 回 乳児期 第 2 回 離乳期 第 3 回 幼児期・学童期 第 4 回 実施献立 第 5 回 幼児期・学童期 第 6 回 高齢期 第 7 回 一般治療食（形態別治療食） 第 8 回 特別治療食（エネルギーコントロール食） 第 9 回 特別治療食（脂質調整食） 第 10 回 特別治療食（食塩制限食） 第 11 回 特別治療食（たんぱく質調整食） 第 12 回 特別治療食（糖尿病食） 第 13 回 特別治療食（腎臓病・透析食） 第 14 回 実施献立 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算を行う。				
成績評価の方法	実技試験（40%）、実習ノート（30%）、実習への取り組み・参加状況（30%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，NST 専門療法士				

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 228			担当者	多田 司
	解剖生理学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】人体の構造と機能を理解する 【概要】人体の構造と機能、および疾病の成り立ちを理解する上で必要となる解剖生理学について学ぶ。 【到達目標】人体を細胞、組織、器官などのレベルでとらえ、形状と仕組みや働きについて理解し、恒常性維持の仕組みについて説明できるようになることを目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、ワークシートを用いて行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 河田光博・三木健寿/編、『栄養科学シリーズ NEXT 解剖生理学』、講談社 佐藤達夫/監修、『からだの地図帳』、講談社 (2) 矢崎義雄/監修、『病気の地図帳』増補改訂版、講談社				
授業 スケジュール	第 1 回 人体の構造 1：細胞・組織・器官 第 2 回 人体の構造 2：消化器系 (1) 第 3 回 人体の構造 3：消化器系 (2) 第 4 回 人体の構造 4：心臓・血管系 第 5 回 人体の構造 5：呼吸器系 第 6 回 人体の機能 1：内分泌系 (1) 第 7 回 人体の機能 2：内分泌系 (2) 第 8 回 人体の機能 3：代謝系 第 9 回 人体の機能 4：血液系 第 10 回 人体の機能 5：免疫系 (1) 第 11 回 人体の機能 6：免疫系 (2) 第 12 回 人体の機能 7：脳・神経系 第 13 回 人体の機能 8：骨格・筋肉系 第 14 回 人体の機能 9：感覚器官 第 15 回 人体の機能 10：腎臓系				
授業外学習 (予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。				
成績評価の方法	期末試験 (70%) + レポート (30%) により評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	授業番号： 229			担当者	多田 司
	解剖生理学実験			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択(注)	実験方式
テーマ及び概要	【テーマ】人体の構造と機能を理解する 【概要】講義で学んだ人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての理解を観察や実験を通して理解をさらに深める。 【到達目標】観察や実験を通して、人体の構造と機能を理解することを目指す。また、実験で得られた結果を考察することにより思考力や判断力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	1 組 2 名以上のグループで実験を行います。結果についてはグループで検討し、まとめについては個人でレポートを提出します。				
(1)テキスト	(1) オリジナルの実験書を配付				
(2)参考文献	(2) 青峰正裕、藤田守/編著、『N ブックス実験シリーズ 解剖生理学実験』、建帛社				
授業 スケジュール	第 1 回 実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄 第 2 回 骨格観察 1：頭・体躯 第 3 回 骨格観察 2：手・足 第 4 回 人体モデル観察 1：各種臓器 第 5 回 人体モデル観察 2：各種臓器 第 6 回 組織標本観察 1：胃・肝臓 第 7 回 組織標本観察 2：脾臓・腎臓 第 8 回 血液に関する実験 1：血球数の測定（赤血球・白血球） 第 9 回 血液に関する実験 2：ヘモグロビンの定量 第 10 回 血液に関する実験 3：ヘマトクリットの測定 第 11 回 血液に関する実験 4：タンパク質の定量（アルブミン・グロブリン比） 第 12 回 血液に関する実験 5：血糖値の定量 第 13 回 血液に関する実験 6：総コレステロール値の定量 第 14 回 血液に関する実験 7：HDL-コレステロール値の定量 第 15 回 まとめ：器具洗浄、片付け				
授業外学習 (予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。				
成績評価の方法	レポート（70%）+実験への取り組み状況（30%）				
実務経験について	なし				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 230			担当者	多田 司
	生化学 I			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する 【概要】糖質、脂質、タンパク質といった栄養機能を持つ生体成分の構造や性質について学習し、生命現象を発現させるうえで重要な核酸についても学習する。さらに、物質の代謝に欠かすことのできない酵素についての分類や機能の調節について理解を深める。また、生体の代謝調節と密接に関わるホルモンの働きについても理解を深める。 【到達目標】生体を構成している成分としての糖質・脂質・タンパク質さらにはビタミン・ミネラル・核酸や酵素などについて構造と機能を学習し理解することを目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、小テストを行います。結果については学生同士で答案を交換し相互チェックします。講義についてはほぼ毎回ワークシートを用いて行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 菌田勝/編、『栄養科学イラストレイテッド生化学』、羊土社 (2) 講義の際に適宜紹介する				
授業スケジュール	第 1 回 人体の構成：人体を構成する成分や細胞の構造と仕組みについて 第 2 回 タンパク質・アミノ酸 1：アミノ酸・ペプチドについて 第 3 回 タンパク質・アミノ酸 2：タンパク質の種類と機能について 第 4 回 糖質 1：単糖類・二糖類・多糖類について 第 5 回 糖質 2：糖質の機能について 第 6 回 脂質 1：脂質の種類と分類について 第 7 回 脂質 2：脂質の機能について 第 8 回 ビタミン：各種ビタミン類の体内での役割について 第 9 回 ミネラル：各種ミネラルの体内での役割について 第 10 回 核酸：ヌクレオチドの構造について 第 11 回 酵素 1：酵素の分類と性質について 第 12 回 酵素 2：酵素反応速度について 第 13 回 酵素 3：酵素活性の調節について 第 14 回 ホルモン 1：ホルモンの分類について 第 15 回 ホルモン 2：個体の調節機構とホメオスタシスについて				
授業外学習 (予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。				
成績評価の方法	期末試験（70%）＋講義への取り組み（30%）により評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 231			担当者	多田 司
	生化学Ⅱ			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する 【概要】はじめに生体内での糖質の代謝、脂質の代謝、タンパク質の代謝について学習する。次に遺伝子発現に関わるヌクレオチドの代謝や遺伝子の発現調節機構について学び、最後に個体の生体防御機構について学習する。 【到達目標】生体内での物質代謝について理解することを目標とする。また、遺伝子発現の調節機構や生体防御機構についての理解を深めることも目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、小テストを行います。結果については学生同士で答案を交換し相互チェックします。講義についてはほぼ毎回ワークシートを用いて行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 菌田勝/編、『栄養科学イラストレイテッド生化学』、羊土社 (2) 講義の際に適宜紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 代謝とは？：生体エネルギーと代謝について 第 2 回 タンパク質・アミノ酸の代謝 1：タンパク質の分解とアミノ酸プール、窒素出納について 第 3 回 タンパク質・アミノ酸の代謝 2：アミノ酸の代謝とその代謝異常について 第 4 回 糖質の代謝 1：解糖系・クエン酸回路・電子伝達系について 第 5 回 糖質の代謝 2：グリコーゲンの合成と分解について 第 6 回 糖質の代謝 3：糖新生、ペントースリン酸経路、グルクロン酸経路について 第 7 回 脂質の代謝 1：脂質の体内輸送と貯蔵、脂肪酸の代謝について 第 8 回 脂質の代謝 2：トリグリセリドとリン脂質の代謝について 第 9 回 脂質の代謝 3：コレステロールの代謝、ケトン体の生成、脂質の代謝異常について 第 10 回 ヌクレオチドの代謝：塩基の合成と分解について 第 11 回 遺伝子発現とその制御 1：遺伝情報の複製、転写、翻訳について 第 12 回 遺伝子発現とその制御 2：RNA の合成（転写）について 第 13 回 遺伝子発現とその制御 3：タンパク質合成（翻訳）について 第 14 回 生体防御機構 1：非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構について 第 15 回 生体防御機構 2：免疫系の成り立ちについて				
授業外学習 (予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。				
成績評価の方法	期末試験（70%）＋講義への取り組み（30%）により評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 232			担当者	多田 司
	生化学実験			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択(注)	実験方式
テーマ及び概要	【テーマ】生体成分や栄養成分の定性・定量分析 【概要】講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について、食品中に含まれる栄養成分の分析やビタミンやミネラル、ホルモンといった生体内成分の分析を通して、さらに理解を深める。 【到達目標】実験を通して、栄養成分や生体成分の分析法を習得し、生化学の理解をさらに深めることを目標とする。また、実験で得られた結果を考察することにより、思考力や判断力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	1 組 2 名以上のグループで実験を行います。結果についてはグループで検討し、まとめについては個人でレポートを提出します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) オリジナルの実験書を配付 (2) 林淳三、『新訂生化学実験』、建帛社				
授業 スケジュール	第 1 回 実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄 第 2 回 尿に関する実験 (1)：尿タンパク質の定量 第 3 回 尿に関する実験 (2)：尿糖の検出 第 4 回 尿に関する実験 (3)：ケトン体の検出 第 5 回 尿に関する実験 (4)：クレアチニンの定量 第 6 回 酵素に関する実験：唾液アミラーゼ活性 第 7 回 ホルモンに関する実験：ステロイドホルモンの分離定性 第 8 回 ビタミンに関する実験 (1)：ビタミン B1 の定量 第 9 回 ビタミンに関する実験 (2)：ビタミン B2 の定性 第 10 回 栄養成分に関する実験 (1)：タンパク質の定量 (1) 第 11 回 栄養成分に関する実験 (2)：タンパク質の定量 (2) 第 12 回 ミネラルに関する実験 (1)：カルシウムの定量 (1) 第 13 回 ミネラルに関する実験 (2)：カルシウムの定量 (2) 第 14 回 ミネラルに関する実験 (3)：カルシウムの定量 (3) 第 15 回 まとめ：器具洗浄、器具整理、片付け				
授業外学習 (予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。				
成績評価の方法	レポート (70%) + 実験への取り組み状況 (30%)				
実務経験について	なし				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 233			担当者	塗木 淳夫
	健康と運動			授業外対応	講 義 終 了 時 nuruki@km.Kagoshima-u.ac.jp
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会において健康問題が取り上げられ、「健康ブーム」現象が起きている。その背景やその原因について言及することによって、本講義で取り扱う「健康」概念を明確にする。特に運動不足がもたらす現代人の健康問題に対して、運動の必要性を理解することはもちろんのこと、日常生活の中で実施しうる具体的な「運動処方」について理解することを目的とする 【概要】健康にかかわる職業である、栄養士に必要な基本的な運動処方の知識を具体的なデータと自分のからだの感覚との対比を促すワークを取り入れ、データの意味をより深く理解することから、健康のための運動の必要性とその効果について他者へ伝える能力を身につける。講義内容に即して具体的な運動を実施する内容も予定しているため、事前にお知らせする。 【到達目標】自分自身の測定データから導き出される運動課題を導き出すことができ、さらにその課題克服のための具体的かつ適切な運動処方を組み立てることができることを到達目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時、講義資料を配付する (2) 適時、参考文献を紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 これまでの自分の健康と運動について考える(からだに刷り込まれた自分の体のクセを知る、健康観の変遷を探る) 第 3 回 ランニングにおける自己の身体作業能力の測定とスロージョグの学び 第 4 回 50M 走の測定 (自分の走りを科学する) 第 5 回 週、月単位で運動計画を立案 第 6 回 週、月単位で運動計画の発表 第 7 回 適切な運動処方について考える 1 (基本的な運動とリラクゼーションの方法について) 第 8 回 適切な運動処方について考える 2 (自己の身体データ考える) 第 9 回 効果的な筋力トレーニングについて 第 10 回 運動計画の途中経過についてグループ発表 第 11 回 体力概念について考える、発表データのまとめ方 第 12 回 適切な運動処方について考える 3 (ランニング以外で継続する運動を考える) 第 13 回 ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定 第 14 回 グループ別の運動計画に基づく結果発表① 第 15 回 今後の健康と運動計画立案、まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	これまで履修した講義 (特に運動生理学など) で使用したテキスト等、復習すること				
成績評価の方法	毎回、小レポートを提出と講義への参加状況 (60%) + 筆記試験 (40%)				
実務経験について	特になし				

(注) 教職必修 (注) 卒業必修

授業科目	授業番号： 234			担当者	指宿 りえ
	公衆衛生学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】健康増進・疾病予防を図る予防医学の理論、実践について理解する。 【概要】私たちを取り巻く社会的環境および自然環境は常に変化し、それとともに国際・地域社会における健康課題も変わってくる。その中で、健康増進をいかに図り、集団の健康を守っていくにはどうすべきかを理解することを目標とする。演習も取り入れ、具体的な病気の原因や予防法を明らかにするための科学的根拠を提供する手法も学ぶ。 【到達目標】次の項目を理解し、説明できる。 I) 社会と健康・疾病との関係 II) 保健統計の意義と現状 III) 疫学と評価方法及び応用 IV) 生活習慣病とその予防対策 V) 日本の保健、医療、福祉および介護制度				
学生の主体的・対話的な学び	・ 毎回、講義の中で質疑応答を行い、双方向性のかたちで思考力を深める。 ・ 演習を取り入れ、実践力を身につける。 ・ 問題を提示して解答してもらうことで、間違いの場合は解説することで理解力を深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 社会・環境と健康 公衆衛生学 2026 年版 配布プリント (2) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)				
授業 スケジュール	第 1 回 公衆衛生学総論 第 2 回 環境と健康 第 3 回 保健統計 1 第 4 回 保健統計 2 第 5 回 保健統計 3 第 6 回 疫学 1 第 7 回 疫学 2 第 8 回 主要疾患の疫学 1 第 9 回 主要疾患の疫学 2 第 10 回 感染症、精神疾患 第 11 回 保健、医療、福祉のしくみ 第 12 回 地域保健、食品衛生 第 13 回 母子保健、成人保健、高齢者保健・介護 第 14 回 学校保健、産業保健 第 15 回 国際保健、総括				
授業外学習 (予習・復習)	テキスト・配布資料を復習として活用すること。				
成績評価の方法	筆記試験 (80%)、授業への取り組み・参加状況 (20%)				
実務経験について					

(注)栄養士必修、教職必修

授業科目	授業番号： 235			担当者	浜田 幸史
	健康管理概論			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 自他の健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。 【概要】 生涯にわたる健康的な生活を主体的に実践できるようにするため、健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用及び社会生活における健康の保持増進等について理解したり、考察したりする。 【到達目標】 個人・社会生活における健康について総合的に理解し、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにしようとする態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 毎回、授業資料を配付する。 (2) 香川靖雄『栄養・スポーツ・保健分野のための健康管理概論』建帛社、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体育・スポーツ・健康とは 第 2 回 健康とは、社会と健康 第 3 回 スポーツ・健康の現状 第 4 回 レポート①発表・提出、運動・スポーツの実践計画 第 5 回 ライフパフォーマンス向上のための運動・スポーツ① 第 6 回 ストレス・休養・睡眠と健康 第 7 回 生活習慣と健康 第 8 回 レポート②発表・提出、食と健康 第 9 回 歯科保健行動と健康 第 10 回 ライフパフォーマンス向上のための運動・スポーツ② 第 11 回 感染症と健康 第 12 回 健康と施策 第 13 回 健康管理の進め方 第 14 回 国際保健 第 15 回 ライフパフォーマンス向上のための運動・スポーツ③、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び提出課題、筆記試験（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

(注)教職必修，栄養士選択必修

授業科目	授業番号： 236			担当者	塗木 淳夫
	運動生理学			授業外対応	講 義 終 了 時 nuruki@km.Kagoshima-u.ac.jp
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 身体運動時の身体機能のメカニズムについて理解し、栄養学との関係を学ぶ。 【概要】 健康の維持・増進に必要な運動と食事との関係など、運動生理学の視点から考察する。さらに、管理栄養士として運動・栄養指導を行う際に必要となる知識を学ぶ。 【到達目標】運動に関する体の仕組みについて理解する。運動遂行時に伴う生理学的な現象について理解する。運動・健康・スポーツの関係を意識した栄養についての視点を養う。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし、必要に応じて資料を配布する。 (2) 「運動生理学」羊土社、「運動生理学」化学同人、「運動生理・栄養学」建帛社				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション～運動生理学と栄養学のかかわり～ 第 2 回 骨格筋の構造 第 3 回 骨格筋の筋収縮 第 4 回 神経系の構造 第 5 回 神経系の役割 第 6 回 運動と循環 第 7 回 運動と呼吸 第 8 回 運動パフォーマンスと呼吸循環系の関係 第 9 回 運動とエネルギー源 第 10 回 エネルギー消費量 第 11 回 運動強度と栄養素の関係 第 12 回 運動と身体組成・体格 第 13 回 筋肉づくりとタンパク質 第 14 回 骨づくりと栄養素・身体活動 第 15 回 スポーツ選手の食事管理				
授業外学習 (予習・復習)	予習復習は、筆記したノートおよび資料に目を通して今回及び次回の授業内容を確認すること。				
成績評価の方法	筆記試験（60％）＋ 授業ごとに実施する小論文（40％）				
実務経験について	特になし				

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	授業番号： 237			担当者	有村 恵美
	給食管理			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について 【概要】 食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ。 【到達目標】 給食の運営管理できる力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、小テストを実施する。事前・後学習としてノート作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 田中寛ほか『実力養成のための給食管理論』学建書院・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病協会『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂・石田裕美ほか『給食の運営管理実習テキスト』第一出版 (2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』学建書院				
授業 スケジュール	第 1 回 給食の概念：給食の定義と目的 第 2 回 給食の栄養・食事管理：献立計画・献立作成・評価 第 3 回 給食の調理管理：食材管理 第 4 回 給食の調理管理：調理作業管理 第 5 回 給食の調理管理：安全・衛生管理 第 6 回 給食の施設・設備管理：施設・設備管理の目的と調理能力 第 7 回 給食の組織・人事管理：給食の組織・人事労務管理 第 8 回 給食の原価管理：原価管理・収入と支出のバランス 第 9 回 給食の事務管理：帳票と帳票管理・事務管理の実際 第 10 回 施設種別の給食の運営：学校給食 第 11 回 施設種別の給食の運営：入院時食事療養（病院給食） 第 12 回 施設種別の給食の運営：児童福祉施設給食・高齢者福祉施設給食 第 13 回 施設種別の給食の運営：栄養管理・献立作成 第 14 回 施設種別の給食の運営：栄養管理・献立作成 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（60%）、課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況（40%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 238			担当者	有村 恵美
	給食管理実習 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス 【概要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。 帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。 【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	7,8 名のグループで給食管理実習を行う。事前・後学習として、実習レポートの作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 田中寛ほか『実力養成のための給食管理論』学建書院・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病協会『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂・石田裕美ほか『給食の運営管理実習テキスト』第一出版 (2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』学建書院				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション（実習の概要） 第 2 回 献立計画：食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。 第 3 回 食材購入計画：市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。 第 4 回 運営計画：大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。 第 5 回 試作・試食：献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする 第 6 回 衛生管理計画：給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。 第 7 回 実験調査計画：評価のための調査計画を立案する。 第 8 回 栄養教育計画：対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。 第 9 回 供食サービス：計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。 第 10 回 評価：実習後のデータ整理・総合評価・まとめ（実習結果報告と反省会） 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	実習準備として各グループで分担して授業時間以外にも取り組み、実習前日、反省会、帳票整理までとする。				
成績評価の方法	実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習への取り組み状況（70%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

（注）栄養士必修、教職必修

授業科目	授業番号： 239			担当者	有村 恵美
	給食管理実習Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習 給食施設（事業所、福祉施設など）での栄養士の給食業務 【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学ぶ。 【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	事前・後学習としてノート作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 田中寛ほか『実力養成のための給食管理論』学建書院・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病協会『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂・石田裕美ほか『給食の運営管理実習テキスト』第一出版 (2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』学建書院				
授業 スケジュール	第 1 回 各施設による特徴 第 2 回 1. 給食施設の概要 第 3 回 2. 給食業務の流れ 第 4 回 3. 給食組織と業務分担および栄養士業務 第 5 回 4. 栄養教育 第 6 回 5. 献立内容 第 7 回 6. 大量調理の技術 第 8 回 7. 食材管理 第 9 回 8. 衛生管理 第10回 9. 各調査と評価 第11回 10. 報告会（実習終了後、学内にて実施） 第12回 第13回 第14回 第15回				
授業外学習 （予習・復習）	実習課題の取り組み、実習ノート作成、報告会準備				
成績評価の方法	実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習への取り組み状況（70%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

（注）栄養士必修

※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる

授業科目	授業番号： 240			担当者	有村 恵美
	給食管理実習Ⅲ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習 給食施設（学校給食）での栄養士の給食業務 【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件，それに伴う献立やサービス，栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学ぶ。 【到達目標】給食運営の実態を体得し，給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	事前・後学習としてノート作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 田中寛ほか『実力養成のための給食管理論』学建書院・香川明夫監修『八訂食品成分表』女子栄養大学出版部・日本糖尿病協会『糖尿病食事療法のための食品交換表』文光堂・石田裕美ほか『給食の運営管理実習テキスト』第一出版 (2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課『調理場における衛生管理&調理技術マニュアル』学建書院				
授業 スケジュール	第 1 回 各施設による特徴 第 2 回 1. 給食施設の概要 第 3 回 2. 給食業務の流れ 第 4 回 3. 給食組織と業務分担および栄養士業務 第 5 回 4. 栄養教育 第 6 回 5. 献立内容 第 7 回 6. 大量調理の技術 第 8 回 7. 食材管理 第 9 回 8. 衛生管理 第 10 回 9. 各調査と評価 第 11 回 10. 報告会（実習終了後，学内にて実施） 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 （予習・復習）	実習課題の取り組み，実習ノート作成，報告会準備				
成績評価の方法	実習ノート（20%），報告発表（10%），実習への取り組み状況（70%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，病態栄養専門管理栄養士，糖尿病病態栄養専門管理栄養士				

（注）栄養士必修，教職必修

※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる

授業科目	授業番号： 241			担当者	中西 智美
	栄養教育論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概要】対象とする個人や集団が QOL を高めるための適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、教育的手段を用いて好ましい食行動を実践・習慣化させることや、生活習慣病に対応するため栄養・食生活上問題のある人々を対象として、その栄養状態を改善することなどを目的とした教育的働きかけについて学ぶ。 【到達目標】対象のニーズと実態に沿って、QOL の向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得し、対象者に応じた教育方法についての思考力を高める。				
学生の主体的・対話的な学び	食行動を変容させるための行動科学について、7.5 回中、6 回ほどは講義の内容を 2，3 名のグループで演習を行う。各自が体験した内容を、授業で解説する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Visual 栄養学テキスト『栄養教育論』中山書店 (2) 芦川修貳，田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論第 9 版』学健書院				
授業 スケジュール	第 1 回 栄養教育の概念，行動科学理論と栄養教育 第 2 回 行動科学理論とモデル 第 3 回 行動変容技法と概念 第 4 回 栄養教育におけるカウンセリング 第 5 回 組織づくり・地域づくり，栄養教育の展開 第 6 回 食環境づくり，栄養教育の展開 第 7 回 栄養教育マネジメント，栄養教育の展開 第 8 回 まとめ 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験の成績（60%）＋授業への取組状況（40%）により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に勤務。栄養教諭，管理栄養士。				

（注）栄養士必修，教職必修 ※ 7.5 回

授業科目	授業番号： 242			担当者	中西 智美
	栄養指導論Ⅰ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学的基础理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握 【概要】栄養指導に必要な基礎知識と、対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割や、その食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。 【到達目標】栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解し、対象者の行動について、理由や根拠をつけて考察する力を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	授業冒頭に、10 回程度は、食品の重量確認体験を行う。身近な栄養課題について、様々な各種調査等を活用し自身の実態把握を行い、15 回中 5 回程度は、2~4 人の小グループで、互いの演習結果についてディスカッションをする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論第 9 版』学健書院 (2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』第一出版 日本栄養士会編『2025 年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版				
授業 スケジュール	第 1 回 栄養指導の概念 , 栄養指導の歴史と現状 第 2 回 栄養指導に関連する主な法令, 指標, 栄養指導関連の諸施策 第 3 回 食事摂取基準 (身体活動指数, エネルギー) 第 4 回 食事摂取基準 (各栄養素) 第 5 回 食品構成 (各栄養素の基準値) 第 6 回 食品構成 (栄養比率の考え方) 第 7 回 食品構成作成 栄養価の算定 (1) 第 8 回 食品構成作成 栄養価の算定 (2) 第 9 回 各種調査による実態把握 (身体状況 生活時間) 第 10 回 各種調査による実態把握 (栄養調査) 第 11 回 各種調査による実態把握 (食生活調査) 第 12 回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導) 第 13 回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価) 第 14 回 栄養指導の基本的な進め方 (運動, 休養) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験の成績 (60%) + 課題・小テスト・授業への取組状況 (40%) により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に勤務。栄養教諭, 管理栄養士。				

注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	授業番号： 243			担当者	中西 智美
	栄養指導論Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学的基础理論に基づいた対象者自らの行動変容に導く栄養指導 【概要】ライフステージごとの個人や集団の食生活の問題点や環境に対して、その食習慣を形成した背景を正しく理解し、対象者が自らの意思で食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。 【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し、栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。課題解決のため根拠に基づく指導法や判断力を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	各ライフステージごとの栄養特性や、栄養指導のポイントを、実際のデータや教材を活用し、15 回中 5 回程度、2~4 人の小グループで模擬体験や演習を行い、対象者の心理面についてディスカッションをする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論第 9 版』学健書院 (2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』第一出版 日本栄養士会編『2025 年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版				
授業 スケジュール	第 1 回 ライフステージ (妊婦・授乳婦の栄養指導) 第 2 回 ライフステージ (乳幼児の栄養指導) 第 3 回 ライフステージ (幼児期 3 歳未満児の栄養指導) 第 4 回 ライフステージ (幼児期 3 歳以上児の栄養指導) 第 5 回 ライフステージ (保育所給食と栄養指導) 第 6 回 ライフステージ (学童期・思春期の栄養指導) 第 7 回 ライフステージ (学校給食と栄養指導) 第 8 回 ライフステージ (成人期の栄養指導) 第 9 回 ライフステージ (高齢期の栄養指導) 第 10 回 各ライフステージ栄養特性, 食生活上の課題, 栄養指導 (まとめ①) 第 11 回 各ライフステージ栄養特性, 食生活上の課題, 栄養指導 (まとめ②) 第 12 回 健康障害と栄養指導 第 13 回 病院などの医療機関における栄養食事指導 第 14 回 アスリートと栄養教育 (栄養指導) 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験の成績 (60%) + 課題・小テスト・授業への取組状況 (40%) により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に勤務。栄養教諭, 管理栄養士。				

注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	授業番号： 244			担当者	中西 智美
	栄養指導論実習 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて、生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法並びに具体的な技術を統合し、個人や集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のための栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成。 【到達目標】栄養指導の技術の習得を目的として、対象者への的確な栄養アセスメント、指導案・媒体作成、プレゼンテーションスキルを習得し、主体力、協働力等を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中 5 回程度、2~4 人の小グループで栄養アセスメントを行い授業で解説する。5 回程度は 3 人グループで対象者に応じた栄養プログラムを作成し、媒体の選択・作成、模擬授業を行う。振り返りや相互評価で互いの価値を認め合い、グループ間の意見交換の後、解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』第一出版 日本栄養士会編『2025 年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版				
授業 スケジュール	第 1 回 栄養指導実習の意義と目的, 栄養指導の基礎知識（食事摂取基準） 第 2 回 栄養指導の基礎知識（食品構成表の作成） 第 3 回 栄養指導の基礎知識（献立作成） 第 4 回 実態把握の方法 食品構成の算定実習 第 5 回 実態把握の方法 各種調査方法（食事摂取状況調査など） 第 6 回 実態把握の方法 各種調査方法（生活習慣調査など） 第 7 回 実態把握の方法 各種調査方法（身体状況調査, 体力測定など） 第 8 回 指導案の作成（基本） 第 9 回 指導案の作成（実践用 グループ） 第 10 回 プレゼンテーションの資料・媒体作成（グループ） 第 11 回 プレゼンテーション（グループ） 第 12 回 プレゼンテーション（グループ）, 指導案の作成（実践用 個人） 第 13 回 プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導 個人 その 1） 第 14 回 プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導 個人 その 2） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	発表（20%）＋課題（30%）＋実習への取組状況（50%）により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に勤務。栄養教諭, 管理栄養士。				

注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	授業番号： 245			担当者	中西 智美
	栄養指導論実習Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて、生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法並びに具体的な技術を統合する。集団・個別を対象とし、学校・福祉施設・病院での栄養指導のシミュレーションを展開し、演習により栄養指導に対する理解を深め、栄養指導・教育技能の向上を図る。 【到達目標】対象者に対する的確な栄養アセスメントや指導案の作成、媒体の選択及び対象に応じたプレゼンテーションのスキルを修得し、想像力、解決力等を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中 10 回程度は個人で、5 回は 4～6 人のグループで、対象者に応じた栄養プログラムを作成し、媒体の選択・作成、模擬授業を行う。振り返りや相互評価で互いの価値を認め合い、グループ間の意見交換の後、解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』第一出版 日本栄養士会編『2025 年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版				
授業 スケジュール	第 1 回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成 (1) 第 2 回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成 (2) 第 3 回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その 1 第 4 回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その 2 第 5 回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その 3 第 6 回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その 4 第 7 回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その 5 第 8 回 個別対症の栄養指導の基本的な考え方 第 9 回 個別対症の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成 第 10 回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その 1 第 11 回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その 2 第 12 回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その 3 第 13 回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その 4 第 14 回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その 5 第 15 回 個別対症の栄養指導の方法 (病院) プレゼンテーション その 6, まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	発表 (20%) + 課題 (30%) + 実習への取組状況 (50%) により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に勤務。栄養教諭, 管理栄養士。				

注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	授業番号： 246			担当者	児玉 敬三
	公衆栄養学			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	2 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】地域で生活している様々な人々の QOL 向上のために、集団を対象とした「栄養学」をどのように実践するかを学ぶ 【概要】公衆栄養の概念。健康・栄養問題の現状と課題。栄養政策。栄養疫学。公衆栄養マネジメント。公衆栄養プログラムの展開 【到達目標】少子高齢社会における QOL の向上と健康寿命の延伸を達成するための様々な施策を理解し、栄養士としての社会的なはたらきを模索し、具体的な行動目標を立てられる。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト	(1) ウエルネス 公衆栄養学 2024 年度版 医歯薬出版株式会社				
(2)参考文献	(2) 日本人の食事摂取基準 に関連する図書				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス「公衆栄養学」とは 第 2 回 第 1 章 公衆栄養学の概念 (1) 第 3 回 第 1 章 公衆栄養学の概念 (2) 第 4 回 第 2 章 健康・栄養問題の現状と課題 (1) 第 5 回 第 2 章 健康・栄養問題の現状と課題 (2) 第 6 回 第 3 章 栄養政策 (1) 第 7 回 第 3 章 栄養政策 (2) 第 8 回 第 6 章 公衆栄養学プログラムの展開 (1) 第 9 回 第 6 章 公衆栄養学プログラムの展開 (2) 第 10 回 第 4 章 栄養疫学 (1) 第 11 回 第 4 章 栄養疫学 (2) 第 12 回 第 5 章 公衆栄養マネジメント (1) 第 13 回 第 5 章 公衆栄養マネジメント (2) 第 14 回 第 5 章 公衆栄養マネジメント (3) 第 15 回 まとめ、総括				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 2 回分のレポート (20%)				
実務経験について	病院に勤務、災害支援栄養士、公衆栄養プログラム作成委員				

注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 247			担当者	中西 智美
	栄養情報処理			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】健康・栄養状態，食行動，食環境等に関する情報の収集・分析，総合的な活用方法の習得 【概要】栄養士には，集めた情報を統計学的に処理し，客観的に評価することが求められている。科学的根拠を創出するため，コンピュータを使用し，実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法を学ぶ。 【到達目標】栄養士業務に関わる情報処理の基礎並びにアンケート集計の基礎を学び，栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を習得する。課題解決のための分析力を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中 10 回程度は個人で統計処理、5 回は 5～6 人のグループでアンケート作成から、集計、分析、報告書作成を行い、グループでのプレゼンテーションを行う。調査の振り返りや相互評価で分析方法の共有、グループ間の協議の後、解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 石村友二郎，廣田直子著『よくわかる統計学』介護福祉・栄養管理データ編（第3版）東京図書 (2) 菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2025 年版』第一出版 日本栄養士会編『2025 年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版				
授業 スケジュール	第 1 回 コンピュータの役割，機能，実際 第 2 回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方（1） 第 3 回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方（2） 第 4 回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方（3） 第 5 回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方（4） 第 6 回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方（5） 第 7 回 データ変換によるデータ集計のまとめ方（単純集計） 第 8 回 データ変換によるデータ集計のまとめ方（クロス集計） 第 9 回 データ変換によるデータ集計のまとめ方（クロス集計 オッズ比） 第 10 回 データ変換によるデータ集計のまとめ方（区間推定，検定方法） 第 11 回 調査報告書作成及び報告会 第 12 回 コンピュータによる献立作成 第 13 回 コンピュータによる栄養価計算 第 14 回 コンピュータによる月報作成 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題（50%）＋実習への取組状況（50%）により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に勤務。栄養教諭，管理栄養士。				

注）栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 248			担当者	中熊 美和
	臨床栄養学 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 主要な疾患の病態の特徴や栄養・食事療法を理解する。 【概要】 臨床現場における栄養士がチーム医療の一員として必要な基本的な知識（発症機序・病態・症状・診断基準・治療法及び疾病の再発予防法など）を学習し、基本的な病態別栄養管理の考え方を理解する。 【到達目標】 臨床現場における基本的な専門用語を理解できる。病態別の栄養管理を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、小テストを実施する。 事前・事後学習としてノート作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 位田忍ほか『臨床栄養学概論』（化学同人） 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病協会・文光堂） 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部） (2) 佐藤和人ほか『エッセンシャル臨床栄養学第9版』（医歯薬出版）				
授業 スケジュール	第 1 回 臨床栄養学とは：概要・目的・意義 第 2 回 栄養療法・食事療法：経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養 第 3 回 代謝・内分泌疾患の病態と栄養管理：肥満・メタボリックシンドローム・やせ 第 4 回 代謝・内分泌疾患の病態と栄養管理：糖尿病 1 第 5 回 代謝・内分泌疾患の病態と栄養管理：食品交換表 第 6 回 代謝・内分泌疾患の病態と栄養管理：糖尿病 2 第 7 回 代謝・内分泌疾患の病態と栄養管理：脂質異常症 2 第 8 回 代謝・内分泌疾患の病態と栄養管理：先天性代謝異常症 第 9 回 代謝・内分泌疾患の病態と栄養管理：高尿酸血症 第 10 回 消化器疾患の病態と栄養管理：胃腸の疾患 1 第 11 回 消化器疾患の病態と栄養管理：胃腸の疾患 2 第 12 回 消化器疾患の病態と栄養管理：肝臓の疾患 第 13 回 循環器疾患の病態と栄養管理：高血圧 第 14 回 腎疾患の病態と栄養管理：慢性腎臓病 第 15 回 腎疾患の病態と栄養管理：血液透析・腹膜透析				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	筆記試験の成績(60%)、課題・小テスト・授業への取り組み (40%) により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，NST 専門療法士				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 249			担当者	中熊 美和
	臨床栄養学Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 主要な疾患の病態における栄養・食事療法を实践する。 【概要】 基本的な病態別栄養管理の考え方を理解する。治療のための具体的な栄養管理・食事基準・食事及び調理の要点を理解する。 【到達目標】 病態別の栄養管理を理解し、医療・福祉・介護等の施設での具体的な治療食を考える力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、小テストを実施する。 事前・事後学習としてノート作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 位田忍ほか『臨床栄養学概論』（化学同人） 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病協会・文光堂） 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部） (2) 佐藤和人ほか『エッセンシャル臨床栄養学第 10 版』（医歯薬出版）				
授業 スケジュール	第 1 回 循環器疾患の病態と栄養管理：動脈硬化症・脳血管障害 第 2 回 循環器疾患の病態と栄養管理：心疾患 第 3 回 その他の疾患の病態と栄養管理 第 4 回 その他の疾患の病態と栄養管理 第 5 回 栄養評価方法（栄養アセスメント・スクリーニング・臨床検査） 第 6 回 一般治療食：常食 第 7 回 一般治療食：形態別治療食・嚥下食 第 8 回 特別治療食：エネルギーコントロール食 第 9 回 特別治療食：糖尿病食品交換表 第 10 回 特別治療食：脂質調整食 第 11 回 特別治療食：食塩制限食 第 12 回 特別治療食：腎臓病食品交換表 第 13 回 特別治療食：たんぱく質調整食 第 14 回 特別治療食：カリウム制限食・水分制限食 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	筆記試験の成績(60%)、課題・小テスト・授業への取り組み (40%) により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，NST 専門療法士				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 250			担当者	中熊 美和
	臨床栄養学実習			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	夏期集中	2 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習 病院での栄養士業務全般（給食管理・栄養管理・栄養食事指導など）における実習 【概要】県内外の医療機関において 2 週間の実習で給食管理業務と下記のような内容を学習する。 1.医療に携わる多職種と連携を図ったチーム医療の中で、専門職として栄養士の業務を学ぶ。 2.対象者の臨床結果を把握し、的確な食事計画や栄養管理、栄養食事療法の実施の実際を学ぶ。 3.対象者の心理を理解し、信頼を得る栄養士の業務を学ぶ。 【到達目標】医療機関で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士業務全般（給食管理・栄養管理・栄養食事指導など）の習得。				
学生の主体的・対話的な学び	事前・事後学習としてノート作成をする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 位田忍ほか『臨床栄養学概論』（化学同人） 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版株式会社） 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病協会・文光堂） 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部） (2) 伊藤 貞嘉、佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2020 年版』（第一出版） 黒川清監修『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版株式会社）				
授業 スケジュール	第 1 回 各施設により異なる。 第 2 回 指導管理栄養士もしくは栄養士等からの説明（院内における栄養部門の位置づけと役割 等） 第 3 回 病院給食管理業務の実際（施設概要・給食組織・業務分担及び栄養士業務 等） 第 4 回 供食状況の実際（一般治療食・特別治療食 等） 第 5 回 病態栄養管理業務の実際（栄養アセスメント・栄養計画・栄養評価 等） 第 6 回 栄養食事指導業務の実際（個人指導・集団指導・栄養教育用媒体作成及び栄養食事指導評価の方法 等） 第 7 回 多職種連携の実際（チーム医療・各種委員会活動見学 等） 第 8 回 報告会（実習内容・反省・課題 等） 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	実習課題の取り組み、実習ノート作成、報告会準備				
成績評価の方法	実習ノート（20%），報告発表（10%），実習への取り組み状況（70%）により評価する。				
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，NST 専門療法士				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	授業番号： 251			担当者	山田 博久
	病理学			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2 年	後期	1 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】人体等における病気の成り立ち。 【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため、以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。 【到達目標】単に管理栄養士試験合格目標の授業ではなく、基本的知識を押さえ本当の問題解決能力つけることを目標とし、要点を絞った授業：医学部3・5年相当を行います。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学 (2) 特に定めないが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。 管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。				
授業 スケジュール	第 1 回 病理学で学ぶこと 第 2 回 炎症, 免疫, 感染症 呼吸器系の疾患 第 3 回 循環障害, 循環器, の疾患 代謝障害 第 4 回 先天異常, 遺伝子異常, 神経系の疾患 第 5 回 補足 第 6 回 消化器系, 腎泌尿器系, 内分泌系の疾患 第 7 回 腫瘍, 血液の疾患, 老化と死 第 8 回 補足 第 9 回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 252			担当者	中西 智美
	学校栄養教育論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概要】学校における食に関する指導の全体計画の下、学級担任や関係職員と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。学校給食を生きた教材として活用し、効果的な指導を行うために、教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する栄養教諭の役割や職務内容、食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開について学ぶ。 【到達目標】児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導、学内外関係者等との連携・調整など、実践演習を含め、教育活動全体を通じた食育を行うための知識や方法を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中 3 回程度は、3 人グループで学習指導案、媒体の作成及び模擬授業を行い、グループ間の質疑応答について解説する。2 回は個人の授業計画及び媒体作成、2 回は食育指導学外演習を行い、全体で児童生徒への対応についてディスカッションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 金田雅代 編著『四訂 栄養教諭論—理論と実際—第2版』建帛社 (2) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』平成 31 年 3 月 東山書房 文部科学省 『栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チームで取り組む食育推進の PDCA～』平成 29 年 文部科学省 ：小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』平成 28 年 2 月 部科学省 ：中学生用食育教材『食の探究と社会への広がり』令和 3 年 3 月				
授業 スケジュール	第 1 回 栄養教諭制度、現状と課題、職務内容、関係法令、学校給食の教育的意義と役割等 第 2 回 学校給食の歴史と食文化の変遷、子どもの発達と食生活等 第 3 回 学校給食における栄養管理の現状と課題 第 4 回 学校給食における衛生管理の現状と課題 第 5 回 食に関する指導の全体計画（実態把握・計画・実施・評価） 第 6 回 食に関する指導の展開、まとめ 第 7 回 教科等における食に関する指導①、発達段階に応じた指導 第 8 回 教科等における食に関する指導②（演習） 第 9 回 教科等における食に関する指導③（演習） 第 10 回 給食の時間における食に関する指導① 第 11 回 学習指導案作成（演習） 第 12 回 学習指導案及び指導媒体作成（演習） 第 13 回 給食の時間における食に関する指導②（演習） 第 14 回 個別栄養相談指導（食物アレルギー・肥満・やせ・貧血等） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験の成績（60%）＋課題・小テスト・授業への取組状況（60%）により評価する。				
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に勤務。栄養教諭，管理栄養士。				

注）教職必修

授業科目	授業番号： 253			担当者	古川 那由太
	化学概論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食物栄養専攻で学習する専門科目の基礎となる化学について系統的に理解する。 【概要】タンパク質、糖質、脂質など、生命体を構成している物は全て化学物質である。またエネルギー代謝、自己増殖、恒常性など、生命現象は膨大な数の化学反応で成り立っている。したがって食事により摂取した栄養素の作用機序を理解するためには、化学についての理解が必要不可欠である。本教科では無機物質と有機物質の構成や反応に関する学習を通じて化学について理解を深める。 【到達目標】物質の構成、物質量、化学反応、有機化合物の種類と基本的な官能基を説明できる。分子模型を用いて空間認識能力や立体的思考力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了た質問のすべてに対して解説を行います。分子模型を用いたグループワークを数回実施します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、原子の構造 第 2 回 化学結合（イオンの成り立ちとイオン結合） 第 3 回 化学結合（共有結合、極性、金属結合） 第 4 回 質量と濃度（原子量、物質量、モル濃度） 第 5 回 化学反応式（化学反応式の作り方、化学反応の量的関係） 第 6 回 酸と塩基（酸・塩基の性質、水素イオン濃度、中和反応と塩の性質） 第 7 回 酸化と還元（酸化・還元の定義、酸化数、酸化還元反応） 第 8 回 有機化学の基礎（表記法、分類、共鳴） 第 9 回 アルカンとシクロアルカン（基本的な構造、命名法） 第 10 回 異性体（立体配座異性体、立体配置異性体） 第 11 回 アルケンとアルキン（命名法、アルケンの異性体、共役） 第 12 回 芳香族化合物（命名法、共鳴、スタッキング相互作用） 第 13 回 酸素を含む化合物（アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン） 第 14 回 カルボン酸とアミン（命名法、誘導体） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	プリントの熟読、関連動画の閲覧				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、小テスト（25%）、レポート（25%）				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 254			担当者	古川 那由太
	生物概論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食物栄養専攻で学習する専門科目の基礎となる生物学について系統的に理解する。 【概要】そこに存在するものが生命体かどうか直感的に理解することは簡単だが、生命体を正確に定義することは難しい。生命体は地球にありふれた物質で構成されているのにもかかわらず、その本質を理解しにくくしている要因の1つとして、巧妙精緻に組織化された生命現象が挙げられる。本教科では生命体を構成する物質と、生命体の基本的な機能であるエネルギー代謝、自己増殖、恒常性維持に関する学習を通じて生命体について理解を深める。 【到達目標】生物を構成する基本的な物質の特徴、酵素、エネルギー代謝、遺伝、情報伝達システム、生体防御機構、動物個体の成り立ちを系統的に説明できる。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了質問のすべてに対して解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 堀田久子ら著「食と栄養を学ぶための生物学」化学同人 2022 (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、生物の基本的な性質（生物の定義、物質と栄養） 第 2 回 細胞の構造と機能（細胞膜、細胞の内部構造、細胞骨格とモータータンパク質） 第 3 回 細胞を構成する化学成分（アミノ酸とタンパク質、炭水化物、脂質、核酸） 第 4 回 酵素（酵素の役割、分類、構造、特性、調節） 第 5 回 代謝のしくみ（三大栄養素からのエネルギーの取り出し） 第 6 回 遺伝情報の発現のしくみ1（遺伝情報、DNA 複製、転写） 第 7 回 遺伝情報の発現のしくみ2（翻訳、突然変異、遺伝子発現調節） 第 8 回 遺伝（遺伝の基本的なしくみ） 第 9 回 遺伝（性と遺伝、連鎖と独立） 第10回 人体の器官1（消化器） 第11回 人体の器官2（循環器、呼吸器、泌尿器、骨と筋肉） 第12回 人体と器官3（神経、感覚器） 第13回 恒常性の維持（血液の働きと構成成分） 第14回 恒常性の維持（ホルモンの働き） 第15回 個体を守る免疫システム（自然免疫、獲得免疫、自己免疫疾患、アレルギー）				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の熟読、関連動画の閲覧				
成績評価の方法	筆記試験 (50%)、小テスト (25%)、レポート(25%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 255			担当者	浅海 真弓
	生活化学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活の中にある化学物質や現象について学び、化学の役割について考える。 【概要】私たちの生活には、様々な化学物質や化学的な現象が関わっている。この授業では、衣生活に関わる物質や現象を取り上げ、化学の力やしくみを学ぶ。主に被服の洗浄（被服整理学分野）と染色のメカニズム（染色加工学分野）について解説する。 【到達目標】化学的な視点から洗浄や染色の現象について理解し、被服の適切な管理に活かすための思考力や判断力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回講義の最後に、ワークシート（主にその日の講義内容について要約するもの）を提出してもらう。シートの文章を添削して返却するとともに、間違いの多かった部分を中心に、次回の授業で補足説明を行う。シートに質問の記入がある場合も、同様に対応する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本衣料管理協会刊行委員会編『改訂 被服整理学』日本衣料管理協会 日本衣料管理協会出版部会編『染色加工学』日本衣料管理協会 和歌山県工業技術センター編『現場で役立つプラスチック・繊維材料のきほん』コロナ社				
授業 スケジュール	第 1 回 生活の中の化学 — 洗濯の化学、染色の化学 第 2 回 被服整理 1 — 被服の汚れ（汚れの分類） 第 3 回 被服整理 2 — 被服の洗浄（洗濯用水と洗剤） 第 4 回 被服整理 3 — 被服の洗浄（界面活性剤の種類と働き） 第 5 回 被服整理 4 — 被服の洗浄（配合剤の種類と働き） 第 6 回 被服整理 5 — 被服の洗浄（洗濯条件と洗浄力の関係） 第 7 回 被服整理 6 — 被服の洗浄（商業洗濯） 第 8 回 被服整理 7 — しみ抜き 第 9 回 被服整理 8 — 漂白と増白 第 10 回 被服整理 9 — 柔軟仕上げ、被服の保管（防虫・防カビ） 第 11 回 染色加工 1 — 染色の方法（浸染と捺染） 第 12 回 染色加工 2 — 染料の種類（天然染料） 第 13 回 染色加工 3 — 染料の種類（合成染料）、染料と繊維の結合 第 14 回 染色加工 4 — 染色堅ろう度（変退色と汚染） 第 15 回 染色加工 5 — 繊維加工（外観・風合いを変える加工と機能加工）				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）				
成績評価の方法	レポート（45%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 256			担当者	北 一浩
	ビジュアルデザイン論 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】デザインを学ぶ上で前提となる、アイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。 【概要】ビジュアルデザインのみならず様々な分野で求められるアイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。アイデアの生み出し方を段階的に講義していく。 【到達目標】アイデアとは何かを理解し、その生み出し方を習得する。また、それらが日常の多様な場面で活用できることを理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	講義内でグループワークを行い、グループ毎にプレゼンテーションを行う。				
(1)テキスト	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。				
(2)参考文献	(2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 導入：アイデアとは？ 第 3 回 発想の準備 1：もっと楽しもう 第 4 回 発想の準備 2：自分を信じよう 第 5 回 発想の準備 3：「その気」になろう 第 6 回 発想の準備 4：子供に戻ろう 第 7 回 発想の準備 5：「知りたがり」になろう 第 8 回 発想の準備 6：笑われることを恐れるな 第 9 回 発想の準備 7：「考え方」のヒント 第 10 回 発想の準備 8：いろいろなものを組み合わせよう 第 11 回 発想のプロセス 1：質問を変えてみよう 第 12 回 発想のプロセス 2：情報をかき集めよう 第 13 回 発想のプロセス 3：いったん全部忘れてしまおう 第 14 回 発想のプロセス 4：ひらめいたら実践しよう 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	プレゼンテーション（60％） 提出課題（40％）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナー及びアーティストとして活動。				

授業科目	授業番号： 257			担当者	田野 耕平
	住生活学			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修（注）	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の修得 【概要】建築計画における基本的な検討要事項や計画手法を事例を交え解説しつつ、計画の背景にある要因を理解し、現代生活に対応した計画手法を修得する。 【到達目標】建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト	(1) 柳沢究他著『住居計画入門』学芸出版社				
(2)参考文献	(2) 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成第4版』丸善				
授業 スケジュール	第 1 回 建築をつくるということ 第 2 回 風土と建築 第 3 回 住まいが担う機能 第 4 回 寸法の計画 第 5 回 生活行為と単位空間 第 6 回 配置計画 第 7 回 平面計画 第 8 回 断面計画 第 9 回 家族と住まい 第 10 回 多様化する家族と住まい 第 11 回 集合住宅の計画と供給方式 第 12 回 高齢社会と福祉 第 13 回 住まいの維持と管理 第 14 回 災害とともにある住まい 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	レポート(70%) 小テスト (30%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

（注）教職必修、二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 258			担当者	坂上 ちえ子
	色彩学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。 【概要】「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。 【到達目標】基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	第 9 回から第 11 回で学習する色彩調和については、実際に色票（カラーカード）を切り取り、用紙に配置（糊貼り）する演習を通して、深く理解してもらう。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所 (2) 随時紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み 第 3 回 色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名 第 4 回 色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系 第 5 回 色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色 第 6 回 色の基礎知識 5：照明：演色性 第 7 回 色の基礎知識 6：色彩の心理① 色のかえの効果 第 8 回 色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ 第 9 回 色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式 第 10 回 色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法 第 11 回 色の基礎知識 10：色彩調和論 第 12 回 色の応用 1：色彩計画 第 13 回 色の応用 2：色と文化 第 14 回 色の応用 3：商品と色 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 259			担当者	浅海 真弓
	衣生活学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択（注）	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】衣服について様々な側面から多角的に学び、生活における衣服の役割について考える。 【概要】衣服の歴史や着用目的、衣服の機能、衣服素材の特性、衣服の管理方法などの内容を取り上げ、快適、安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。 【到達目標】衣服の役割を理解し、衣生活に関わる多様な知識を習得する。自らの衣生活の現状と問題点を把握し、解決に向けて行動するための思考力や判断力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	第 10 回は、実験室で実習を行う。 毎回講義の最後に、ワークシート（主にその日の講義内容について要約するもの）を提出してもらう。シートの文章を添削して返却するとともに、間違いの多かった部分を中心に、次の授業で補足説明を行う。シートに質問の記入がある場合も、同様に対応する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子、藤原康晴編著『ファッションと生活—現代衣生活論』放送大学教育振興会				
授業 スケジュール	第 1 回 衣服と人間 — あなたはなぜ服を着ますか？ 第 2 回 衣服と民族 — 気候風土と民族衣装の形態 第 3 回 衣服の変遷 1 — 西洋の服装の変遷 第 4 回 衣服の変遷 2 — 日本の服装の変遷 第 5 回 衣服の装いと心理 — 服装から受ける印象と引き起こされる感情 第 6 回 衣服の素材 1 — 繊維の種類と特徴 第 7 回 衣服の素材 2 — 糸・布の種類と特徴 第 8 回 衣服の管理 1 — 洗濯（家庭洗濯、洗剤の品質表示） 第 9 回 衣服の管理 2 — 漂白、柔軟仕上げ、糊付け、アイロン仕上げ、保管 第 10 回 衣服の管理 3 — 〈実習〉しみ抜き 第 11 回 衣服の品質と表示 — 組成表示、取扱い表示、サイズ表示 第 12 回 衣服の機能と快適性 1 — 衣服による体温調節（衣服内気候） 第 13 回 衣服の機能と快適性 2 — 動きやすさと拘束性（衣服圧） 第 14 回 衣服の設計 — 乳幼児・高齢者の衣服への配慮と工夫、ユニバーサルファッション 第 15 回 衣服の生産と流通／衣服と環境 — アパレル産業と既製服、衣服の廃棄とリサイクル				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）				
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（15%）				
実務経験について	なし				

（注）教職必修

授業科目	授業番号： 260			担当者	坂上 ちえ子
	ファッション造形基礎			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。 【概要】まず基礎縫いを行い、縫製用具や機器の正確な使用法を身につける。つぎに、基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに、編物、刺繍など手芸の基礎も学ぶ。 【到達目標】裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製、手芸技法を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	5種類の課題作品の製作を通して、学生が主体的に取り組む実習科目である。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 基礎縫い 1：手縫い① 用具の説明、並縫い 第 3 回 基礎縫い 2：手縫い② まつり縫い、他 第 4 回 基礎縫い 3：手縫い③ ボタン、スナップつけ 第 5 回 基礎縫い 4：ミシン縫製 ミシン、ロックミシン 第 6 回 上衣（チュニックブラウス）製作 1：人体計測と製図 第 7 回 上衣（チュニックブラウス）製作 2：裁断、しるしつけ 第 8 回 上衣（チュニックブラウス）製作 3：仮縫い、試着 第 9 回 上衣（チュニックブラウス）製作 4：本縫い① 第 10 回 上衣（チュニックブラウス）製作 5：本縫い② 第 11 回 上衣（チュニックブラウス）製作 6：仕上げ、着装評価 第 12 回 工芸 1：織り 第 13 回 工芸 2：毛糸かぎ針編み 第 14 回 工芸 3：フランス刺繍 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 261			担当者	坂上 ちえ子
	消費生活論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】私たちが「生活すること」は「消費すること」である。消費者問題とその背景を知り、課題と解決、関連する事項を学ぶ。 【概要】2004 年に改正消費者保護基本法「消費者基本法」が施行され、消費者の権利が明記された。その中に、「教育の機会の確保」があり、自ら学び、協働して課題を解決することが求められている。主体的に参画できるよう基礎知識を身に付ける。 【到達目標】保護されるべき消費者ではなく、生産企業や社会問題との関わりを見直し、真に自立した消費者となることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	第 15 回では、与えられた 2 つの課題を各自で調べて、解決策を考えさせる。その結果と内容は、定期試験（筆記試験）で小論文形式に文章化し、評価対象の一つとする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 随時紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 消費者問題 1：消費者問題とは 第 3 回 消費者問題 2：消費者教育 第 4 回 消費者問題 3：表示と消費者 第 5 回 消費者問題 4：消費者行政 第 6 回 消費者問題 5：特定商取引と契約トラブル① 第 7 回 消費者問題 6：特定商取引と契約トラブル② 第 8 回 消費者問題 7：消費者の安全 第 9 回 消費者問題 8：地球環境とエネルギー需給 第 10 回 関連基礎事項 1：企業と経営の基礎知識 第 11 回 関連基礎事項 2：経済と金融の基礎知識 第 12 回 関連基礎事項 3：生活経済と家計 第 13 回 関連基礎事項 4：社会保障制度の概要 第 14 回 関連基礎事項 5：衣・食・住生活における消費者問題 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	消費生活アドバイザー、消費生活相談員の有資格者				

授業科目	授業番号： 262			担当者	浅海 真弓
	被服材料学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】衣服を構成している繊維，糸，布それぞれの特徴を学び，これらが総合された被服材料の特性について考える。 【概要】繊維や糸，布の種類や構造などについて概説した後，被服材料の諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介，簡単な実験を取り入れながら，身近な衣服の素材に対する理解を深める。 【到達目標】被服の素材や構造，特性を理解する。被服材料の知識を被服の製作・購入，着用，洗濯，保管などの場面で活用するための思考力や判断力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	実験を2回実施する。 毎回講義の最後に，ワークシート（主にその日の講義内容について要約するもの）を提出してもらう。シートの文章を添削して返却するとともに，間違いの多かった部分を中心に，次回の授業で補足説明を行う。シートに質問の記入がある場合も，同様に対応する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学〔第3版〕』建帛社 日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社				
授業 スケジュール	第 1 回 繊維とは？－繊維の歴史 第 2 回 繊維の構造－繊維の分子，繊維の分類 第 3 回 天然繊維 1－植物繊維（綿，麻） 第 4 回 天然繊維 2－動物繊維（羊毛） 第 5 回 天然繊維 3－動物繊維（絹） 第 6 回 化学繊維 1－再生繊維（レーヨン，キュプラ） 第 7 回 化学繊維 2－半合成繊維（アセテート，トリアセテート） 第 8 回 化学繊維 3－合成繊維（ナイロン，ポリエステル，アクリル），繊維の性能比較 第 9 回 新しい繊維－繊維化技術の発展と高機能素材 第10回 糸の種類と構造 1－紡績糸・フィラメント糸の性質 第11回 糸の種類と構造 2－糸の太さにより 〈ミニ実験：糸の観察〉 第12回 布の種類と構造 1－織物の組織と性質 第13回 布の種類と構造 2－編物の組織と性質 第14回 布の種類と構造 3－不織布の性質，布の構造特性 〈ミニ実験：織物の観察〉 第15回 被服材料の性質－耐久性，外観特性，快適性				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）				
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業ごとに提出するワークシート（35%）＋課題（15%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 263			担当者	浅海 真弓
	生活化学実験			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	実験方式
テーマ及び概要	【テーマ】被服の素材や洗濯、染色についての知識を深め、科学的に考察する力を身につける。 【概要】被服材料学（繊維・糸・布の性質）、被服整理学（洗濯・漂白処理等の効果）および染色学（染色方法、染色堅ろう度）に関連する実験を行う。 【到達目標】被服に関わる各種試験や染色の技術を習得する。また、レポートの作成方法を習熟し、感覚的にではなく具体的根拠に基づいて論理的に考える力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	第2回以降は、2～4名の班で実験を行う。 提出したレポートは、添削して次の授業で返却するとともに、授業中に補足説明を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント（実験書配布） (2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学〔第3版〕』建帛社 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本規格協会編『JISハンドブック 31 繊維』日本規格協会				
授業 スケジュール	第 1 回 実験の説明 — 実験を行う上での注意点、レポートの作成方法 第 2 回 糸の太さ — 番手の測定 第 3 回 織物の構造 — 厚さ・目付・含気率・織り縮み率の測定 第 4 回 吸水性試験 — バイレック法および吸水率法 第 5 回 繊維の燃焼性 — 繊維の燃え方・におい・灰の観察 第 6 回 繊維の染色性 — 繊維と染料の相性 第 7 回 繊維の溶解性 — 混用率の測定 第 8 回 糊付け・柔軟仕上げの効果 — 剛軟度の測定 第 9 回 漂白・蛍光増白の効果 — 目視観察および機器による測定 第 10 回 洗浄試験 — 洗浄力の評価 第 11 回 合成染料による染色 — 直接染料・反応染料（染色堅ろう度試験用染色布の作成） 第 12 回 染色堅ろう度試験 1 — 洗濯堅ろう度 第 13 回 染色堅ろう度試験 2 — 摩擦堅ろう度 第 14 回 天然染料による染色 — 媒染した染色布の色彩比較 第 15 回 工芸染色 — 絞り染め				
授業外学習 (予習・復習)	事前に実験書を精読し、実験の目的や方法を理解しておくこと。実験後は結果を整理し、考察してレポートを作成すること。				
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート・課題（70%）＋ 実験への取り組み（30%）				
実務経験について	なし				

生活化学および被服材料学を履修しておくことが望ましい。

授業科目	授業番号： 264			担当者	古川 那由太
	食物と栄養			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食物に含まれている栄養成分と加工利用方法について学ぶ。 【概要】食物に含まれている水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン、その他成分を紹介し、食物の保存や調理中に生じる栄養成分の化学的な変化について理解を深める。 【到達目標】食物に含まれている種々の栄養成分やその働き、および加工利用方法について説明できる。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了質問のすべてに対して解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 太田英明・白土英樹・古庄律編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第 3 版』南江堂				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、人間と食物、食品加工 第 2 回 穀類の栄養 第 3 回 穀類の加工利用 第 4 回 いも類の栄養と加工利用 第 5 回 豆類の栄養と加工利用 第 6 回 野菜類の栄養 第 7 回 野菜類の加工利用 第 8 回 果実類の栄養 第 9 回 果実類の加工利用 第 10 回 きのこと、海藻類の栄養と加工利用 第 11 回 食肉類の栄養と加工利用 第 12 回 魚介類の栄養と加工利用 第 13 回 乳類の栄養と加工利用 第 14 回 卵類の栄養と加工利用 第 15 回 油脂、調味料の栄養と加工利用				
授業外学習 (予習・復習)	プリンの熟読、関連動画の閲覧				
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、小テスト (30%)				
実務経験について					

(注)教職必修

授業科目	授業番号： 265			担当者	立石 百合恵
	調理学			授業外対応	講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】調理を基礎的、系統的に理解し、調理科学に基づく操作を学ぶ 【概要】＊自然科学の手法による調理過程で生じる種々の諸現象を確認する。 ＊調理操作や、人におけるおいしさの物差しを理解し、日常の調理に活用できる能力を培う。 【到達目標】調理を体系的に学び、その知識を調理の基本操作に応用できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	1 5 回中、5 ～ 6 回程度、グループによる実験的な調理操作を実施して、調理理論の科学的確認を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編集部、『オールガイド食品成分表』 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明 第 2 回 調理科学理論：砂糖の温度（濃度）による変化について 第 3 回 調理の基本：調味料の働きと特徴について 第 4 回 調理の基本：調理器具と非加熱操作について 第 5 回 調理科学理論：卵の熱変性について 第 6 回 調理の基本：卵類・乳類・豆類の特徴について 第 7 回 調理科学理論：小麦粉の特徴（ソース濃度について） 第 8 回 調理の基本：穀類・芋類・でんぷんの特徴について 第 9 回 調理科学理論：乳化剤の働きについて 第 10 回 調理の基本：魚介の特徴とおろし方の操作を学ぶ 第 11 回 調理科学理論：ゲル化剤の特徴 第 12 回 調理の基本：海藻類・肉類・魚類について 第 13 回 調理の基本：野菜類・果物類・きのこ類の特徴について 第 14 回 調理の基本：嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品について 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	調理科学理論レポート 2 0 %、筆記試験 8 0 %				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 266			担当者	立石 百合恵
	調理実習			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】調理理論に基づく調理操作を学ぶ 【概要】＊和食・西洋料理・中国料理など、それぞれの料理の特徴を捉えながら調理技術の向上を目指す。 ＊食品・食具の安全な取り扱いを学ぶ。＊共同で行う調理実習において他者との関係性を認識する。 ＊調理の実技を通し、食育力を培う。 【到達目標】＊基本的な調理操作・技術の習得 ＊調理の段取りにおいて適切な行動について、自分自身で考えて判断し行動できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、4～5名程度のグループを作りグループで実習を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (1) 石原三妃その他共著『あすの健康と調理』 (2) プリント (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明と簡単な実習 第 2 回 日本料理：米のガス炊飯と煮魚、季節の汁物、日本茶 第 3 回 西洋料理：ひき肉料理と西洋のスープ、コーヒードリップ 第 4 回 日本料理：丼料理と潮汁、酢の物、菓子 第 5 回 中国料理：広東料理と四川料理、中国冷菓のデザート 第 6 回 非常時の料理：防災食 第 7 回 西洋料理：ソースの基本（ホワイトソースのアレンジについて） 第 8 回 圧力鍋を使った料理と粥料理 第 9 回 日本料理：揚げ物料理（天ぷらの作り方） 第 10 回 西洋料理：イギリス風カレー、サラダの基本、ゲル化剤のデザート 第 11 回 行事食：クリスマス料理 第 12 回 行事食：雑煮とお節料理 第 13 回 日本料理：うどんの調理 第 14 回 郷土料理：鶏飯、へちま料理、ゴーヤの料理、軽羹 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	出来上がりの料理評価 20%、実技試験 40%、筆記試験 40%				
実務経験について					

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 267			担当者	田邊 しずか
	服飾文化史			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】西洋と日本の服飾文化史、現代衣生活の成り立ち 【概要】西洋と日本に分けて古い時代からの変遷を辿り、形態的特徴だけでなく、社会的、文化的背景を踏まえて服飾の歴史を学ぶ。毎回の授業でのコメントペーパーでは指定されたテーマについて小さなレポートのように書くことで、論理的な文章を書く能力を伸ばす。授業は大きく分けて三部構成である。【第一部】西洋服飾史、【第二部】日本服飾史、【第三部】服飾文化史を捉える上で重要なテーマに関する西洋と日本の服飾 【到達目標】西洋と日本の服飾の歴史、形態的特徴とその背景を理解する。多様な文化、服飾観を学ぶことによって、現代衣生活や今後の可能性について考え、自分なりの見解を持つことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	提出されたすべてのコメントペーパーに対して、必要に応じて解説を含むコメントを記します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布，一部 Web でも公開 (2) 深井晃子（監修）『増補新装カラー版 世界服飾史』，美術出版社，2010. 増田美子（編）『日本服飾史』，東京堂出版，2013.				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、服飾文化史の資料（史料）、衣服の起源と機能 第 2 回 西洋服飾文化史 1：古代の地中海世界（エジプト、ギリシャ、ローマ） 第 3 回 西洋服飾文化史 2：中世 第 4 回 西洋服飾文化史 3：16 世紀 第 5 回 西洋服飾文化史 4：17 世紀前半（オランダ）、17 世紀後半（フランス） 第 6 回 西洋服飾文化史 5：18 世紀（フランス） 第 7 回 西洋服飾文化史 6：19 世紀、衣服に関する産業の発展 第 8 回 服飾文化史のテーマ 1：オートクチュールとプレタポルテ 第 9 回 服飾文化史のテーマ 2：異性装 第 10 回 服飾文化史のテーマ 3：異国趣味 第 11 回 日本服飾文化史 1：古代の衣服、服制の時代 第 12 回 日本服飾文化史 2：きものの基礎知識、きものの変遷 第 13 回 日本服飾文化史 3：染織、文様、明治以降のきもの 第 14 回 日本服飾文化史 4：洋装化 ― 明治、大正、昭和 第 15 回 西洋・日本：戦中・戦後、現代の服飾文化				
授業外学習 (予習・復習)	適宜提示（予習・復習のためのキーワードや参考文献を提示）				
成績評価の方法	授業毎のコメントペーパー（50%）、期末レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 268			担当者	金 娟鏡
	保育学			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】子どもの発達過程を理解するとともに、その発達を支える保育および子育て支援の様々な取り組みについて学ぶ。 【概要】本授業では、子どもにおける愛着や自己の発達、健康・生活習慣、表現や人間関係、言葉など保育内容の基礎を踏まえ、保育制度や子ども文化財の役割も取り上げる。さらに、家庭や地域を含めた子育て支援の視点から、子どもの育ちを総合的に捉える力を養うことを目指す。 【到達目標】保育および子育て支援の考え方を説明できるとともに、子どもの育ちを多面的に捉える視点を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	・毎回、授業のふり返しを通して、学んだ内容を自ら整理する。 ・第1回、第8回、第13回では、授業テーマに関連したグループワークを行い、意見交換を通して、多面的に捉える視点を深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 『新保育学（改訂5版）』 岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子・武田京子・吉川はる奈 著、南山堂、2011年				
授業 スケジュール	第1回 保育学における子ども観・保育観 第2回 子どもの身体発育の諸側面 第3回 子どもの疾病と適切な対応 第4回 愛着の発達 第5回 自己の発達 第6回 認知の発達 第7回 子どもと保育制度—幼稚園・保育園・認定こども園の役割 第8回 子どもの保育（1）健康・生活習慣 第9回 子どもの保育（2）表現・環境 第10回 子どもの保育（4）人間関係 第11回 子どもの保育（5）言葉 第12回 子ども文化財を介した豊かな遊び 第13回 廃材を使ったおもちゃ製作 第14回 廃材を使ったおもちゃ発表 第15回 子育て支援—親になること・親であること				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業内ふり返し（20％）、レポート（30％）、製作課題およびその発表（50％）を合わせて、総合的に評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 269			担当者	浅海 真弓
	卒業研究A			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	選択必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】被服材料学，被服整理学および染色加工学に関する課題について研究し，その成果をまとめる。 【概要】各自で研究テーマを設定し，課題を明らかにするための手法を検討して実験を行う。実験により得られたデータを図表にまとめて整理し，考察する。最終的に研究成果を論文にまとめ，卒業研究発表会で発表する。 【到達目標】自分で計画を立てて実験を遂行することにより，課題を解決していく力や科学的に考察する力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	研究テーマの設定，文献調査，実験の計画と実施，論文作成など，すべてにおいて各自で適切な方法を考えて研究を進める。提出した研究計画書や論文原稿について，適宜打ち合わせをし，助言や指導を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 日本規格協会編『JIS ハンドブック 31 繊維』日本規格協会 福地健太郎，園山隆輔著『図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方』翔泳社				
授業 スケジュール	第 1 回 第 1 回 オリエンテーション（研究の進め方） 第 2 回 第 2 回～第 4 回 先行研究・参考文献の資料収集 第 3 回 第 5 回 資料収集の報告発表，研究テーマの設定 第 4 回 第 6 回～第 10 回 予備実験 第 5 回 第 11 回 予備実験の報告発表，研究テーマの確定 第 6 回 第 12 回～第 22 回 本実験 第 7 回 第 23 回～第 26 回 論文作成，追加実験 第 8 回 第 27 回～第 29 回 研究発表の準備（要旨・スライドの作成） 第 9 回 第 30 回 まとめ（要旨・スライド・論文の最終確認） 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 （予習・復習）	報告発表や課題を適宜指示するため，授業外での予習・復習・発表準備（資料・スライドの作成）が必要である。				
成績評価の方法	卒業論文（50％）＋ 研究発表（20％）＋ 授業および課題への取り組み（30％）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 270			担当者	未定
	卒業研究 A			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 271			担当者	田邊 しずか
	ファッションデザイン論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ファッションデザインの基礎とその展開 【概要】前半はファッションデザインの基礎である、形態、色、素材、それらを組み合わせたコンポジション、ファッションイメージについて学ぶ。後半は、被服設計を行うとき重要な人体やパターンについて学びつつ、デザイン画に必要な 8 頭身モデルや着装された衣服を描く。最終課題では、ファッションデザイン画を含むミニポートフォリオを作成する。 【到達目標】ファッションデザインの考え方を理解し、設定されたコンセプトに沿ったファッションデザインを行い。他者に伝えるためのポートフォリオを作成することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	第 9 回では 4 名前後のグループでグループワークを行います。コメントペーパーに書かれたすべての意見に対して、必要に応じて解説を含むコメントを記します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布，一部 Web でも公開 (2) 文化服装学院編『文化ファッション大系 改訂版 服飾関連専門講座 (2) 服飾デザイン』，文化出版局，2021. ファッションクリエイション学科編『文化学園大学ファッションデザイン学講座 ファッション画』，文化出版局，2021.				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業概要と進め方、デザイン史概説 第 2 回 服飾デザインとは、20 世紀ファッション史、最新のコレクションを見る 第 3 回 ファッションデザイン基礎 1：形態 第 4 回 ファッションデザイン基礎 2：色彩、色彩のイメージ 第 5 回 ファッションデザイン基礎 3：素材 第 6 回 ファッションデザイン基礎 4：コンポジション、イメージ 第 7 回 流行、デザイナー、デザイン発想 第 8 回 最終課題に指定するテーマに関する講義（サステナビリティほか） 第 9 回 最終課題に指定するテーマに関するグループワーク 第 10 回 人体の構造と計測点、ファッションデザイン画の 8 頭身モデル 第 11 回 デザインとパターン 1：衿、袖／着装画の練習 第 12 回 デザインとパターン 2：スカート、パンツ／着装画の練習 第 13 回 ファッションデザイン実践 1：デザイン画の表現法／モデルへ着装 第 14 回 ファッションデザイン実践 2：デザイン画の着色法／モデルへ着装 第 15 回 アパレル動向、ファッションデザインのポートフォリオ、まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	期末課題提出（40％）＋授業内実践課題（30％）＋授業毎のコメントペーパー（30％） デザイン画を作成しますが絵が不得手でも構いません。理論の理解、課題への取り組みを評価します。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 272			担当者	坂上 ちえ子
	ファッション造形Ⅰ			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。 【概要】衣服を平面製図法で行う場合、基本となる型紙（原型）の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。 【到達目標】平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	1 種類の課題作品の製作を通して、学生が主体的に取り組む実習科目である。出来上がりは 1 種類だが、表スカートと裏スカートを製作する過程があるため、2 種類の課題製作と同等の労力が必要となる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座2 スカート・パンツ』文化出版局				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 下衣（スカート）製作1：スカートの製図 第 3 回 下衣（スカート）製作2：表布の裁断，印つけ 第 4 回 下衣（スカート）製作3：仮縫い 第 5 回 下衣（スカート）製作4：試着，補正 第 6 回 下衣（スカート）製作5：表布の縫製1 第 7 回 下衣（スカート）製作6：表布の縫製2 第 8 回 下衣（スカート）製作7：ファスナーつけ 第 9 回 下衣（スカート）製作8：裏布の裁断，印つけ 第10回 下衣（スカート）製作9：裏布の縫製 第11回 下衣（スカート）製作10：ベルトつけ 第12回 下衣（スカート）製作11：仕上げ，着装評価 第13回 上衣（原型）製作1：上半身衣の原型 第14回 上衣（原型）製作2：上半身衣のデザイン展開 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 273			担当者	坂上 ちえ子
	ファッション造形Ⅱ			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。 【概要】基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法，その過程を学ぶ。デザインについては，着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう，また，製作については，目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。 【到達目標】上，下半身衣のデザインと製図展開ができることと，迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	2 種類の課題作品の製作を通して，学生が主体的に取り組む実習科目である。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース』文化出版局				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 上衣（ブラウス）製作1：デザインと製図 第 3 回 上衣（ブラウス）製作2：裁断と印つけ 第 4 回 上衣（ブラウス）製作3：仮縫い 第 5 回 上衣（ブラウス）製作4：試着，補正 第 6 回 上衣（ブラウス）製作5：見頃の縫製 第 7 回 上衣（ブラウス）製作6：衿つくりと衿つけ 第 8 回 上衣（ブラウス）製作7：袖つくりと袖つけ 第 9 回 上衣（ブラウス）製作8：ボタンホール，ボタンつけ，仕上げ 第10回 下衣（パンツ）製作1：デザインと製図 第11回 下衣（パンツ）製作2：裁断と印つけ 第12回 下衣（パンツ）製作3：仮縫い，試着，補正 第13回 下衣（パンツ）製作4：縫製 第14回 下衣（パンツ）製作5：仕上げ 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 274			担当者	田邊 しずか
	ファッションアイテム演習			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ファッションアイテムの知識と工芸技法の習得 【概要】前半は、編物（編む）、刺繍（縫う）、組紐（組む）の工芸製作ならびに各技法に関する服飾品の歴史や造形を学ぶ。後半は手提げバッグを製作し、最終課題として前半に学んだ工芸を一部に取り入れた小物を製作する。加えて、副資材がアパレル小物にもたらず効果について学ぶ。 【到達目標】各工芸について理解し、技法を習得し作品を仕上げることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	手提げバッグの作成後、自身の作品についてのプレゼンテーションと意見交換を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布、一部 Web でも公開 (2) 石井照子（編著）『生活造形—結ぶ・編む・組む・織る・繡う—』，建帛社, 1995.				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 編む 1：編みの技法と実践 第 3 回 編む 2：レース編みの実践 第 4 回 編む 3：レースのモチーフ製作 第 5 回 組む 1：組紐の技法と実践 第 6 回 日本の伝統的な結び、刺繍 1：導入、道具の使い方、練習 第 7 回 刺繍 2：刺繍サンプラー練習 第 8 回 ファスナーの下準備、刺繍 3：刺繍サンプラー実践 第 9 回 刺繍 4：刺繍モチーフの製作（サテンステッチとビーズ刺繍） 第 10 回 副資材 1：ファスナーポーチ 第 11 回 副資材 2：手提げバッグの設計 第 12 回 副資材 3：手提げバッグの製作（裁断等） 第 13 回 副資材 4：手提げバッグの製作（縫製等） 第 14 回 副資材 5：手提げバッグの製作（仕上げ等） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋授業への取り組み（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 275			担当者	坂上 ちえ子
	ファッションビジネス			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。 【概要】衣服を大量生産、大量消費する時代は過ぎ、ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び、ファッション全体の背景や仕組みを捉える。 【到達目標】基礎知識を習得し、企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、講義後に本時の復習としてテーマを与える。次回までにそのテーマについて調べることでの知識の定着を図る。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』財団法人 日本ファッション教育振興会				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 ファッションビジネス知識 1：ファッションビジネスの特性 第 3 回 ファッションビジネス知識 2：ファッション生活・消費 第 4 回 ファッションビジネス知識 3：ファッション産業構造 第 5 回 ファッションビジネス知識 4：ファッションマーケティング 第 6 回 ファッションビジネス知識 5：ファッションマーチャンダイジング 第 7 回 ファッションビジネス知識 6：ファッション生産と物流、流通 第 8 回 ファッションビジネス知識 7：販売管理とプロモーション 第 9 回 ファッションビジネス知識 8：ビジネス基礎知識と計数管理 第 10 回 ファッション造形知識 1：ファッション文化・デザイン文化 第 11 回 ファッション造形知識 2：ファッションコーディネート 第 12 回 ファッション造形知識 3：ファッション商品知識－服種・アイテム 第 13 回 ファッション造形知識 4：ファッションデザイン 第 14 回 ファッション造形知識 5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 276			担当者	坂上 ちえ子
	卒業研究B			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	選択必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。 【概要】前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。 【到達目標】まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	前期は、各自で文献の要約と発表が主となる。要約する文献は、2 種類は与えられた文献であり、1 種類は自分で探した文献としている。後期は、自分の疑問や課題を研究する。その結果は、卒業研究発表会で報告した後、レポートにまとめて提出する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜配布 (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 第 2～10 回 卒業研究のための基礎知識 1：文献購読 第 3 回 第 11～12 回 卒業研究のための基礎知識 2：研究手法の検討・理解 第 4 回 第 13～15 回 卒業研究のための基礎知識 3：テーマ設定と文献・情報収集 第 5 回 第 16～23 回 卒業研究 1：各自の調査・研究・考察 第 6 回 第 24～27 回 卒業研究 2：論文作成 第 7 回 第 28～30 回 卒業研究 3：発表準備、練習 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	卒業研究成果 (60%) + 研究発表 (20%) + 授業での取り組み内容 (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 277			担当者	北 一浩
	ビジュアルデザイン基礎Ⅰ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。 【概要】 ビジュアルデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。 【到達目標】 今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組むにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	課題毎にプレゼンテーション・講評を行う。講評は教員だけでなく学生も参加する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 実践課題 1：幾何形態色彩構成 第 3 回 // 第 4 回 // 第 5 回 実践課題 2：ピクトグラム 第 6 回 // 第 7 回 // 第 8 回 実践課題 3：タイポグラフィ構成 第 9 回 // 第 10 回 // 第 11 回 応用課題：ポスターデザイン 第 12 回 // 第 13 回 // 第 14 回 // 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（60%） プレゼンテーション（40%）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナー及びアーティストとして活動。				

※本講座の受講生は「ビジュアルデザイン基礎Ⅱ」を必ず受講してください。

授業科目	授業番号： 278			担当者	上笹貫 鷹暁
	ビジュアルデザイン基礎Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 コンピュータを用いたビジュアルデザイン制作の基礎を学ぶ。 【概要】 ドローソフト「Adobe Illustrator」及び、画像編集ソフト「Adobe Photoshop」の基礎的な操作方法を学び、デザインワークに必要な表現技術と美的感覚を養う。 【到達目標】 デザインワークを行う上で必要十分な Adobe Illustrator／Adobe Photoshop の操作方法を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 Illustrator 基礎 1 オブジェクトの作成（オブジェクトツール など） 第 3 回 Illustrator 基礎 2 線と塗りの設定（カラーパネル など） 第 4 回 Illustrator 基礎 3 オブジェクトの編集（整列パネル など） 第 5 回 Illustrator 基礎 4 ペンツール（ペンツール／線パネル） 第 6 回 Illustrator 基礎 5 文字の編集（文字パネル／段落パネル など） 第 7 回 Illustrator 基礎 6 画像の配置と編集（クリッピングマスク など） 第 8 回 Illustrator 基礎 7 レイアウトの基本（近接・整列・反復・対比） 第 9 回 Photoshop 基礎 1 基本操作と写真補正 第 10 回 Photoshop 基礎 2 選択範囲とマスク 第 11 回 Photoshop 基礎 3 レタッチと加工 第 12 回 実践課題 1 ポスター 第 13 回 実践課題 2 名刺 第 14 回 実践課題 3 チラシ 1 第 15 回 実践課題 3 チラシ 2				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務				

授業科目	授業番号： 279			担当者	上笹貫 鷹暁
	ビジュアルデザイン論Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ビジュアルデザインと現代社会の関わりについて概観を得ることを通じて、地域の課題をデザインを用いて解決するための知識と思考力を身につける。 【概要】地域の課題に対しデザインを用いて解決しようとする取り組みが全国各地に多く存在する。前半ではビジュアルデザインの現代社会における役割と意義を学び、後半では事例を通じて地域の多面性とデザインの可能性について理解を深める。 【到達目標】現代のビジュアルデザインについて概観できる視野を身に付け、地域の課題を発見する力とデザインを用いて解決する力を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回、授業中にウェブフォームで回答してもらった内容に基づいた講義を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション デザインとは 第 2 回 レイアウトの法則（揃える／まとめる／強弱／余白／視線の流れ・配置） 第 3 回 カラーの法則（色相／明度／彩度／トーン／色のイメージ／配色ルール） 第 4 回 文字の法則（書体の種類／文字のイメージ／可読性／文字組） 第 5 回 パッケージデザイン（役割と機能／ブランドイメージ／社会・環境配慮） 第 6 回 ブランディングデザイン（ロゴ／VI／CI／ブランドコミュニケーション） 第 7 回 写真表現（写真の基礎／構図／ライティング／レタッチ／記録と表現） 第 8 回 映像表現（映像の基礎／カメラワーク／編集／カラー調整／ストーリーと表現） 第 9 回 広告コミュニケーション（コンセプト／メディアの種類と特性／デザインとコピー） 第 10 回 生成 AI とデザイン（生成 AI の基礎／デザインへの活用／人の役割と判断） 第 11 回 地域とデザイナー（地域課題の把握／デザイナーの専門性と役割／地域連携の事例） 第 12 回 リデザイン（既存資源の再評価／意味の再編集／事例分析） 第 13 回 コミュニティデザイン（関係性の設計／場の形成／参加型デザインの方法論） 第 14 回 アイデアの発想法（見つける／考える／形にする） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題（40%）＋期末課題（60%）				
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務				

授業科目	授業番号： 280			担当者	北 一浩・上笹貫 鷹暁
	ビジュアルデザインⅠ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。 【概要】 ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として、コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。 【到達目標】 これまで学習した技術や概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。				
学生の主体的・対話的な学び	課題毎にプレゼンテーション・講評を行う。講評は教員だけでなく学生も参加する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 ポスターデザイン：公共問題をテーマとしたポスター制作 第 3 回 // 第 4 回 // 第 5 回 パッケージデザイン：実際に使用されているパッケージのリデザイン 第 6 回 // 第 7 回 // 第 8 回 ブックカバーデザイン：本学大学案内の表紙のデザイン 第 9 回 // 第 10 回 // 第 11 回 ポートフォリオ制作：各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作 第 12 回 // 第 13 回 // 第 14 回 // 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（60%） プレゼンテーション（40%）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナー及びアーティストとして活動。				

※本講座は「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」の受講生を対象とします。

授業科目	授業番号： 281			担当者	北 一浩
	ビジュアルデザインⅡ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。 【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。 【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	プロジェクト課題に対しグループでデザインワークを行う				
(1)テキスト	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。				
(2)参考文献	(2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 プロジェクト課題：ブランディングデザイン 第 3 回 〃 第 4 回 〃 第 5 回 〃 第 6 回 〃 第 7 回 〃 第 8 回 〃 第 9 回 〃 第 10 回 自由課題：各自テーマを設定しデザインワークを行う 第 11 回 〃 第 12 回 〃 第 13 回 〃 第 14 回 〃 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（60％） プレゼンテーション（40％）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナー及びアーティストとして活動。				

※本講座は「ビジュアルデザインⅠ」の受講生を対象とします。

授業科目	授業番号： 282			担当者	北 一浩
	卒業研究C			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	選択必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ビジュアルデザインに関連した分野の研究。 【概要】 ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。 【到達目標】 研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。				
学生の主体的・対話的な学び	研究テーマの設定から進行スケジュール管理など全て自発的に行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 第 1-2 回 オリエンテーション 第 2 回 第 3-4 回 以降スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。 第 3 回 第 5-6 回 随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。 第 4 回 第 7-8 回 第 5 回 第 9-10 回 第 6 回 第 11-12 回 第 7 回 第 13-14 回 第 8 回 第 15-16 回 第 9 回 第 17-18 回 第 10 回 第 19-20 回 第 11 回 第 21-22 回 第 12 回 第 23-24 回 第 13 回 第 25-26 回 第 14 回 第 27-28 回 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研究成果 (50%) プレゼンテーション (25%) 研究態度 (25%)				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナー及びアーティストとして活動。				

授業科目	授業番号： 283			担当者	田野 耕平
	住居史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】人と暮らしの歴史や建築の潮流を学び、現代における建築の課題と展望を学ぶ 【概要】先史時代から現代に至るまでの住居の変遷をたどり、自然・社会・文化・技術の変化とともに形成された住宅の構成や空間的特徴を学ぶ。日本と世界の事例を通して、住宅がどのように生活様式や価値観を映してきたかを理解し、現代および未来の住まいを考える基盤となる視点を養う。 【到達目標】住居の歴史の変遷と社会背景を理解し、現代の建築の課題と可能性を考察する力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 柳沢究他著『住居計画入門』学芸出版社 (2) 佐々木誠 他著「住むための建築計画」彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：住居の起源 第 2 回 古代住居：生活様式と住居 第 3 回 中世の住居：高床住居、寝殿造、書院造 第 4 回 近世の住居 1：町屋の系譜 第 5 回 近世の住居 2：農家の系譜 第 6 回 近世の住居 3：屋敷の系譜 第 7 回 近代の住居 4：工業化住宅 第 8 回 現代の住居 1:住まいとコモンズ 第 9 回 現代の住居 2：住宅地の計画 第 10 回 現代の住居 3：日本の集合住宅 第 11 回 近代の住居 4：社会問題と住居 第 12 回 住居インテリア 第 13 回 これからの住居：発表・ディスカッション 第 14 回 これからの住居：発表・ディスカッション 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	レポート(70%) 小テスト (30%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 284			担当者	穴戸 克実
	住居・インテリア設計学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】住居および商業空間を題材とした建築・インテリア設計の基礎知識 【概要】住居や商業施設を題材として、建築・インテリア設計の基本的な考え方を学ぶ。住居の平面構成や間取りを通して、暮らしと空間の関係を理解し、平面図・立面図・断面図・透視図などの図面表現の基礎を理解する。あわせて商業施設の事例を取り上げ、空間構成や設計意図の読み取り方について理解を深める。 【到達目標】住居および商業空間の空間構成と図面表現の基本を理解し、設計の考え方を説明できる。				
学生の主体的・対話的な学び	5 回程度のグループワークを行い、住まい手の生活像を想定しながら住宅の間取りを検討する。意見交換を通して空間構成の考え方を深め、他者の視点や多様な発想に触れる機会とする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 本間至『小さな家の間取り解剖図鑑』エクスナレッジ (2) 建築家 31 会『間取りの模範回答』誠文堂新光社				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：建築とインテリアの基礎知識 第 2 回 住居の平面構成：暮らしと間取り 第 3 回 図面表現：平面図，立面図，断面図，透視図① 第 4 回 図面表現：透視図② 第 5 回 図面表現：透視図③ 第 6 回 多様な住空間：異文化の空間構成 第 7 回 間取りプランニング：所要室の配置と規模 第 8 回 間取りプランニング：集合住宅 第 9 回 間取りプランニング：戸建平屋 第 10 回 間取りプランニング：戸建複層 第 11 回 間取りプランニング：三世帯住宅 第 12 回 商業施設のデザイン：事例研究 第 13 回 商業施設のデザイン：発表・ディスカッション 第 14 回 商業施設のデザイン：発表・ディスカッション 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題・宿題 (30%)，小テスト (50%)，レポート (20%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理，都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目，教職必修

授業科目	授業番号： 285			担当者	穴戸 克実
	設計製図 I			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解し、建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う 【概要】簡易住宅を題材に模型と図面を製作し、設計製図の基礎を学ぶ。平行定規や製図道具の使用法を習得し、平面図・立面図・断面図の理解と作成を通じて縮尺や寸法の基礎を学ぶ。また、住宅を構成する空間についての理解を深め、課題を通じてエスキスやスタディ模型の制作、図面作成、模型写真撮影、最終的なプレゼンテーションを行うことで、設計力と表現力を養う。 【到達目標】平面図・立面図・断面図の作成を通じて設計製図の基礎を理解し、住宅設計における空間構成と表現力を身につける				
学生の主体的・対話的な学び	模型制作やエスキスを通じて、自身の考えを可視化し、教員や学生間の講評・意見交換を行うことで、空間理解を深めながら主体的に設計課題に取り組む。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 長沖充『見てすぐつくれる建築模型の本』彰国社 (2) 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：設計製図の基礎知識 第 2 回 基礎：模型で理解する平屋切妻住宅 第 3 回 基礎：模型で理解する家具・設備・階段の寸法 第 4 回 基礎：模型で理解する複層住宅 第 5 回 基礎製図：製図道具の使用法と線表現 第 6 回 基礎製図：住宅製図の基本（複層住宅） 第 7 回 住宅製図：平面図（平屋・戸建住宅） 第 8 回 住宅製図：断面図・立面図（平屋・戸建住宅） 第 9 回 住宅模型：建築模型（平屋・戸建住宅） 第 10 回 住宅模型：敷地・設備・家具模型 第 11 回 住宅設計課題：課題説明・条件・テーマ・手順 第 12 回 構想検討：平面計画・立体計画 第 13 回 模型制作：スタディ模型・設計案の立体化 第 14 回 図面・プレゼンボード作成：最終図面と表現整理 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理，都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 286			担当者	田野 耕平
	設計製図Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】居住空間の設計課題を通じて、建築的思考力と空間構成・表現技法を学ぶ。 【概要】設計課題に取り組み、敷地条件・機能要件・空間特性を整理しながら、建築的課題を的確に把握し設計意図を構築する能力を養う。個別指導やグループディスカッションを通して、発想を空間に具現化し、図面・模型・プレゼンテーションなど多様な手段による建築表現を修得する。＊設計製図Ⅰおよび空間デザイン論を履修すること 【到達目標】居住空間の設計を通じて、諸条件の分析と評価、空間構成手法を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成第4版』丸善 (2) 本杉省三他著『建築デザインの基礎 製図法から生活デザインまで』彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：課題出題、条件の整理と敷地及び周辺環境の把握 第 2 回 木造小住宅の設計 1：配置計画、諸機能の構成と動線計画 第 3 回 木造小住宅の設計 2：平面計画、断面計画 第 4 回 木造小住宅の設計 3：立面計画、外構計画 第 5 回 木造小住宅の設計 4：ダイアグラム、模型、プレゼンテーション 第 6 回 木造小住宅の設計 5：提出、評価 第 7 回 木造小住宅の設計 6：発表・講評、課題出題 第 8 回 集合住宅の設計：条件の整理と敷地及び周辺環境の把握、配置計画、諸機能の構成と動線計画 第 9 回 集合住宅の設計 2：平面計画、断面計画 第 10 回 集合住宅の設計 3：平面計画、断面計画 第 11 回 集合住宅の設計 4：平面計画、断面計画、立面計画、外構計画 第 12 回 集合住宅の設計 5：平面計画、断面計画、立面計画、外構計画 第 13 回 集合住宅の設計 6：模型提出、評価 第 14 回 集合住宅の設計 7：図面提出、評価 第 15 回 集合住宅の設計 8：発表・講評				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目 設計製図Ⅰおよび空間デザイン論を履修すること

授業科目	授業番号： 287			担当者	田島 康弘
	住居構造学 I			授業外対応	講義終了後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。 【概要】建物にはたらく力、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。 住居構造学 I，II の同時受講が条件 【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中，2 回程度 3，4 名のグループで模型作成などをおこないます。講義内で演習問題を解き、最終講義後に提出してもらい成績評価とします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造力学』、学芸出版社 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 構造設計という仕事 第 2 回 建物にかかる様々な荷重 第 3 回 木質構造 1 特徴と材料 第 4 回 木質構造 2 軸組構法（在来工法）と枠組壁構法（2×4 工法） 第 5 回 木質構造 3 現場見学 他 第 6 回 鉄骨構造 1 特徴と材料 第 7 回 鉄骨構造 2 建物ができるまで 第 8 回 鉄骨構造 3 現場見学 他 第 9 回 鉄筋コンクリート構造 1 特徴と材料 第 10 回 鉄筋コンクリート構造 2 建物ができるまで 第 11 回 鉄筋コンクリート構造 3 現場見学 他 第 12 回 基礎構造とその他の構造形式（プレストレストコンクリート構造 他） 第 13 回 主要構造部材（屋根、壁、床、天井、階段 他） 第 14 回 耐震設計（地震に強い建物） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業での発言・質問内容と講義後の感想文が 60%，演習問題が 40%				
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。				

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

住居構造学 I，II の同時受講が条件

授業科目	授業番号： 288			担当者	田島 康弘
	住居構造学Ⅱ			授業外対応	講義終了後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。 【概要】住居構造学Ⅱ では、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、構造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。 住居構造学Ⅰ，Ⅱの同時受講が条件 【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中，2 回程度 3，4 名のグループで模型作成などをおこないます。講義内で演習問題を解き、最終講義後に提出してもらい成績評価とします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 浅野清昭著、『やさしい建築構造力学 演習問題集』、学芸出版社 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 建物の模型を作ろう 1 第 2 回 建物の模型を作ろう 2 第 3 回 力のモーメント（模型による演習含む） 第 4 回 力のつりあい（模型による演習含む） 第 5 回 構造物の支点（ローラー・ピン・固定） 第 6 回 反力の求め方 第 7 回 片持ばりに生じる力 第 8 回 単純ばりに生じる力 第 9 回 門型ラーメンに生じる力 第 10 回 トラスに生じる力 第 11 回 断面の性質（断面 1 次モーメント、断面 2 次モーメント、他） 第 12 回 部材に生じる応力度 第 13 回 片持ばり、単純ばりの変形 第 14 回 建築物の設計への応用 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業での発言・質問内容と講義後の感想文が 60%，演習問題が 40%				
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。				

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

住居構造学Ⅰ，Ⅱの同時受講が条件

授業科目	授業番号： 289			担当者	曾我 和弘
	住居環境学			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画 【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境（光・熱・空気・音環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。 【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	授業中に演習を行います。また、演習時に質問を受け付け、理解を深めます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築 第 2 回 光環境計画 1：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図 第 3 回 光環境計画 2：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備 第 4 回 光環境計画 3：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算 第 5 回 光環境計画 4：光束法による照明計算、照明設備計画 第 6 回 熱環境計画 1：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射 第 7 回 熱環境計画 2：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算 第 8 回 熱環境計画 3：住まいと結露、結露判定の計算 第 9 回 熱環境計画 4：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画 第 10 回 空気環境計画 1：室内空気汚染、自然換気（温度差換気、風力換気）、機械換気 第 11 回 空気環境計画 2：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算 第 12 回 空気環境計画 3：機械換気設備、換気設備計画 第 13 回 音環境計画 1：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算 第 14 回 音環境計画 2：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料 第 15 回 音環境計画 3：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（80%）とレポート（20%）で評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	授業番号： 290			担当者	曾我 和弘
	住居環境学演習			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の計算と測定 【概要】居住環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の計算・測定を行い、これらの結果に基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。住居における物理環境の計算・測定・評価法を修得すると同時に、パソコンと表計算ソフトを活用して、データの分析方法を学ぶ。以上より、環境にやさしい住居に対する理解を深める。 【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な計算・測定・評価方法を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	居住環境の快適性を評価する実験に取り組めます。主体的に実験に取り組むとともに、質問に対応し、理解を深めます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査 第 2 回 日影図の作成と日照環境の評価 第 3 回 教室の照度分布測定と評価 第 4 回 教室の昼光率分布測定と評価 第 5 回 室内照明計算 第 6 回 定常伝熱計算（熱貫流率、伝熱量、表面温度） 第 7 回 定常伝熱計算（平均熱貫流率） 第 8 回 壁体の温度測定 第 9 回 壁体の結露判定計算 第 10 回 温熱環境の測定 第 11 回 温熱環境の分析と評価 第 12 回 必要換気量の計算 第 13 回 室内ガス濃度の測定 第 14 回 室内騒音の測定 第 15 回 室内騒音の分析と評価				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度，レポートの内容を総合的に評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 291			担当者	福永 知哉
	建築材料学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】住居を中心とした建築物を構成する材料の特質と使用方法を学ぶ 【概要】持続可能な社会を構築する質の高い建物を建設・管理するために建築材料の特性を知り、適材適所に材料を使用することが不可欠である。本講義では建築の歴史を含め、建築材料に関する基礎知識を概説する。 【到達目標】建築材料（構造材・仕上材）の種類および性能や科学的側面などの特性を習得すること目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社 (2) 建築学会篇 「建築材料用教材」 彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：建築材料と構造 第 2 回 建築材料の歴史：日本建築と木構造 第 3 回 建築材料 1：建築モジュールと規格 第 4 回 建築材料 2：木材の特性 第 5 回 建築材料 3：コンクリートの特性(1) 第 6 回 建築材料 4：コンクリートの特性(2) 第 7 回 建築材料 5：コンクリートの配合と強度 第 8 回 建築材料 6：鋼材の建築と歴史 第 9 回 建築材料 7：鋼材の特性(1) 第 10 回 建築材料 8：鋼材の特性(2) 第 11 回 建築材料 9：焼成品(タイル・れんが・瓦)の特性 第 12 回 建築材料 10：ガラス・石材の特性 第 13 回 建築材料 11：左官材・ボード類の特性 第 14 回 建築材料 12：リフォーム実例から学ぶ仕上げ材 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験				
実務経験について	なし				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 292			担当者	福永 知哉
	建築生産			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】各種建築の生産過程や施工技術・工程管理について学ぶ 【概要】住居を中心にした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する必要がある。本講義では建築の品質・施工管理や施工技術の観点から建築生産のプロセスを概説する。 【到達目標】建築生産の概要を理解し、建物の企画、設計、施工、維持管理等の生産工程を習得することを目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 大久保孝昭 『基礎から学ぶ建築生産』 学芸出版社 (2) 松村秀一、榎藤智之 『建築生産』 市ヶ谷出版社				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：建築生産論 第 2 回 プロセス 1：関係法令 第 3 回 プロセス 2：建築生産プロジェクト 第 4 回 施工計画 1：仮設工事・土工事の工程管理 第 5 回 施工計画 2：RC 造・S 造の工程管理 第 6 回 施工計画 3：木造建築の工程管理 第 7 回 施工計画 4：建築積算 第 8 回 まとめ 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験				
実務経験について	なし				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目，7.5 回授業

授業科目	授業番号： 293			担当者	未定
	建築法規			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】住宅をはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法等について学ぶ。 【概要】建築物は、人間の生活や社会活動の基盤であり、安全性や快適性等を確保するための最低基準を定めた建築基準法等を守らなければならない。建築物の安全・衛生を確保するための基準や市街地の安全・環境を確保するための基準を定めた建築基準法を中心に、建築法規について解説する。 【到達目標】住宅や店舗・事務所等の建築物を安全に建てる際に必要な建築法規の基礎を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 「いちばんやさしい 建築基準法 改訂 2 版」 発行所：株式会社 新星出版社 (2) 適宜関連資料を配付				
授業 スケジュール	第 1 回 建築基準法は何のために (建築基準法の目的と構成，法規を理解するための用語) 第 2 回 とともに地域で生活していくために (道路，用途制限，容積率，建蔽率，高さ制限，まちづくり制度) 第 3 回 火災や災害から人命や財産を守るために (防火規定) 第 4 回 火災や災害時に安全に避難するために (避難規定) 第 5 回 安全な構造を維持するために (構造安全規定) 第 6 回 よりよい住環境のために (一般構造規定：採光，換気，衛生，階段等) 第 7 回 法が守られるために (制度規定，建築関連法規) 第 8 回 まとめ (建築基準法等の改正動向等) 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) ミニテスト (30%)				
実務経験について					

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目，7 / 5 回授業

授業科目	授業番号： 294			担当者	穴戸 克実
	CAD設計			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】住宅設計を通して学ぶ建築 CAD (Vectorworks) による 2D 製図と図面表現 【概要】建築分野で用いられる CAD の基本操作を習得したうえで、住宅の平面図作成を中心に建築図面の描き方を学ぶ。前半では 2D 製図の基礎操作や図面管理の方法を扱い、後半では住宅平面図を段階的に作図することで、建築図面に必要な構成や表現を理解する。最終的には各自で設計した住宅を CAD で作図し、平面図・断面図・立面図をまとめて提示する力を養う。 【到達目標】CAD の基本操作を理解し、住宅の平面図・断面図・立面図を正確に作図し、図面を整理して表現できる。				
学生の主体的・対話的な学び	各自が設定した住宅を題材に作図を進めることで、主体的に課題へ取り組む。作業中は適宜、教員との質疑応答や図面確認を行い、理解の深化を図る。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 鳥谷部真『徹底解説 VECTORWORKS 2017-2018』エクスナレッジ				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：授業概要，CAD の位置づけ，課題説明 第 2 回 基本操作①：画面操作，基本図形，消去・選択，属性 第 3 回 基本操作②：図形編集，線編集，スナップ，レイヤ 第 4 回 基本操作③：文字，寸法，ハッチング，シンボル，シートレイヤ 第 5 回 住宅平面図①：課題建築，通り芯線 第 6 回 住宅平面図②：壁，ダブルライン，基本構成 第 7 回 住宅平面図③：階段，開口，サッシュ 第 8 回 住宅平面図④：内部建具，建具配置 第 9 回 住宅平面図⑤：造作線，注記，寸法 第 10 回 住宅平面図⑥：平面図仕上げ，出力確認 第 11 回 設計課題準備：住宅条件確認，作図準備 第 12 回 平面図作成：各自設計住宅の平面図 第 13 回 断面図作成：設計住宅の断面図 第 14 回 立面図作成：設計住宅の立面図 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題 (100%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理，都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	授業番号： 295			担当者	穴戸 克実
	建築史			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】世界と日本の建築史・都市史から公共空間の形成と都市文化の多様性を学ぶ 【概要】西洋および日本の建築史を古代から近代まで概観し、あわせて世界各地の都市史と公共空間の形成を学ぶ。市場、カフェ、広場、浴場、宗教施設などを通じ、都市と建築が社会・文化とどのように関わってきたかを理解する。途中で事例研究に基づく発表・ディスカッションを行い、歴史的視点から都市空間を読み解く力を養う。 【到達目標】建築史・都市史の基礎知識を踏まえ、都市や公共空間を歴史的・文化的文脈から説明できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	各自が関心のある都市や建築を対象として調査・発表を行い、意見交換を通じて都市と建築に対する理解を深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 深水浩『学びのポイント建築史』学芸出版社 (2) 芦川智『世界の水辺都市への旅』彰国社、芦川智『世界の広場への旅』彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：建築と都市の歴史 第 2 回 西洋建築史：古代建築 第 3 回 西洋建築史：中世建築 第 4 回 西洋建築史：近世建築 第 5 回 日本建築史：古代建築 第 6 回 日本建築史：中世建築 第 7 回 日本建築史：近世建築 第 8 回 発表・ディスカッション：事例研究：鹿児島の建築史的分析 第 9 回 西洋・日本建築史：近代建築 第 10 回 世界の都市の歴史：ヨーロッパ 第 11 回 世界の都市の歴史：日本、アジア 第 12 回 世界の都市の歴史：中東、アフリカ 第 13 回 発表・ディスカッション：事例研究：水辺都市の空間構成 第 14 回 世界の都市の公共空間：広場、市場、カフェ、商店街 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題 (30%)、小テスト (50%)、レポート (20%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理、都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を 1 年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	授業番号： 296			担当者	穴戸 克実
	CAD設計特講			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択(注)	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】立体と 2D を往復して理解する住宅設計のための CAD 応用 【概要】CAD 設計で習得した 2D 製図を基礎に、SketchUp による立体化と Vectorworks による 2D 図面作成を通して、住宅設計の空間理解と表現力を高める。前半では構想住宅を立体として段階的に構築し、後半では木造・鉄骨造・RC 造を題材に平面・立面・断面を整理する。立体と 2D を往復しながら、設計内容を的確に読み取り、表現する力を養う。 【到達目標】CAD とプレゼン技術を活用し、建築図面作成と地域分析に必要なスキルを実践的に習得する				
学生の主体的・対話的な学び	各自の住宅構想をもとに立体モデルや 2D 図面を作成し、途中経過を確認し合いながら、表現方法や理解を深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 阿部秀之『SketchUp パーフェクト』エクスナレッジ				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：授業概要・課題説明 第 2 回 SketchUp 基礎①：立体モデリングの基本操作 第 3 回 SketchUp 基礎②：立体構成の練習課題 第 4 回 SketchUp 応用①：構想住宅の立体化 第 5 回 SketchUp 応用②：構想住宅の立体化 第 6 回 SketchUp 応用③：構想住宅の立体化 第 7 回 SketchUp 応用④：構想住宅の立体化 第 8 回 Vectorworks 木造①：木造住宅の 2D 平面図作成 第 9 回 Vectorworks 木造②：2D 立面図・断面図作成 第 10 回 Vectorworks 鉄骨造：2D による平面・立面・断面 第 11 回 Vectorworks RC 造：2D による平面・立面・断面 第 12 回 Vectorworks 地図：2D 道路・区画トレース 第 13 回 Vectorworks 外構①：2D エクステリア平面表現 第 14 回 Vectorworks 外構②：2D ランドスケープ表現 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題 (100%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理、都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 免許登録時の要実務経験年数を 1 年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	授業番号： 297			担当者	穴戸 克実
	設計製図Ⅲ			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】木造住宅および小規模建築を中心とした設計製図課題に取り組み、構成検討から製図までの実践を通じて、設計力および作図力を養う 【概要】設計製図試験を見据え、木造を中心に鉄骨造・RC 造を含む設計製図演習を行う。与条件の整理、ゾーニング、空間構成の検討から、平面図・立面図・断面図・矩計図等の作成までを段階的に扱う。専用住宅、併用住宅、小規模公共施設を題材とし、建築計画と作図の基礎的能力を体系的に修得する。 【到達目標】与条件を踏まえた空間構成を立案し、木造を中心とした建築について平面図・断面図・立面図・矩計図を適切に作成できる設計製図力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	課題の読み取りから計画案の作成までを主体的に行い、途中段階での講評や意見交換を通して考えを修正・発展させながら学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 総合資格学院『令和 8 年度版 2 級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格 (2) 日建学院教材研究会『令和 8 年度版 2 級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：設計製図試験課題の構成理解および検討手法 第 2 回 木造課題：課題文の読解・与条件整理・ゾーニング検討 第 3 回 木造課題：専用住宅の空間構成および計画検討 第 4 回 木造課題：併用住宅の空間構成および計画検討 第 5 回 木造課題：小規模公共施設の空間構成および計画検討 第 6 回 鉄骨造課題：条件整理および構成検討 第 7 回 RC 造課題：条件整理および構成検討 第 8 回 木造課題：製図手順および作図用具の確認 第 9 回 木造課題：製図（平面図・敷地図） 第 10 回 木造課題：製図（断面図・立面図） 第 11 回 木造課題：製図（屋根伏図・床伏図） 第 12 回 木造課題：製図（矩計図） 第 13 回 鉄骨造課題：製図（平面図・断面図・立面図・矩計図） 第 14 回 RC 造課題：製図（平面図・断面図・立面図・矩計図） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理，都市コンサル企業で計画提案に従事				

（注）二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を 1 年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	授業番号： 298			担当者	穴戸 克実
	設計製図Ⅳ			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	選択必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】建築と外部空間の関係を理解し、図面と模型で空間構成を表現する設計製図実習 【概要】建築単体ではなく、敷地や周辺環境を含めた空間の構成を読み取り、図面と模型によって表現する設計製図演習である。前期では、外構や敷地計画を通じて建築と外部空間の関係を段階的に理解する。後期では、建築・都市条件の整理、事例分析、構成図作成を経て、平面・立面・断面および模型による総合的な空間表現を行い、設計意図を的確に伝える力を養う。 【到達目標】都市環境の中での建築と外部空間の関係を理解し、図面・模型・プレゼン資料によって一貫した設計表現ができるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	課題に基づき自ら構想・制作を進め、図面や模型を用いて検討する。発表や講評を通じて意見交換を行い、空間構成の理解と表現力を高める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 内藤英四郎『はじめてのランドスケープ製図』彰国社、鈴木 あるの『建築と造園をつなぐランドスケープデザイン入門』学芸出版社				
授業 スケジュール	第 1 回 【前期】 第 2 回 第 1 回～第 3 回：木造軸組：構成と図面表 第 3 回 第 4 回～第 6 回：木造軸組：模型による構成理解 第 4 回 第 7 回～第 9 回：外構：建築周辺空間の構成と図面表現 第 5 回 第 10 回～第 12 回：敷地計画：建築と外部空間の関係理解 第 6 回 第 13 回～第 15 回：まとめ：プレゼン・ディスカッション 第 7 回 【後期】 第 8 回 第 16 回～第 21 回：条件整理：建築・敷地・都市条件の把握 第 9 回 第 22 回～第 27 回：構成理解：建築・都市事例の構成把握と計画整理 第 10 回 第 28 回～第 33 回：構成図作成：建築構成図の作成 第 11 回 第 34 回～第 39 回：建築・都市図面：平面・立面・断面表現 第 12 回 第 40 回～第 45 回：模型制作：空間構成の立体的理解 第 13 回 第 46 回～第 51 回：プレゼン資料：図面・模型の整理 第 14 回 第 52 回～第 57 回：発表資料・プレゼンボードの作成 第 15 回 第 59 回～第 60 回：まとめ：レポート作成・ディスカッション				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	前期授業課題（40%），後期授業課題（60%）				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理，都市コンサル企業で計画提案に従事				

（注）二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を 1 年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	授業番号： 299			担当者	田野 耕平
	空間デザイン論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】空間デザインの事例分析を通して、建築の構成要素・設計手法・表現技法を学ぶ。 【概要】建築・インテリアの実例を示し、空間の主題を形づくる要素（光・素材・スケール・機能など）や、設計手法、コンセプトの表現方法を学びつつ、学生自身の課題製作へ応用する力を養う。 【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 本杉省三他著『建築デザインの基礎 製図法から生活デザインまで』彰国社 (2) 建築造形のスタディ：かたちの構成・操作・展開				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：空間デザインとは 第 2 回 空間の構成要素 1：部位（床・壁・天井）と空間 第 3 回 空間の構成要素 2：プロポーションとスケール 第 4 回 空間の構成要素 3：幾何学と立体 第 5 回 線と立体 1 第 6 回 線と立体 2 第 7 回 空間の表現 1：透視図 第 8 回 空間の操作 1：ダイアグラム 第 9 回 空間の操作 2：立体構成 1 第 10 回 空間の操作 3：立体構成 2 第 11 回 空間の表現 2：模型写真 第 12 回 空間の構成原理：シーケンス 第 13 回 空間の構成原理：面と立体 1 第 14 回 空間の構成原理：面と立体 2 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題（60%） レポート(40%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

設計製図Ⅱを履修すること

授業科目	授業番号： 300			担当者	田野 耕平
	空間デザイン I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】公共空間の設計課題を通じて、建築的思考力と空間構成・表現技法を学ぶ。 【概要】公共空間の設計課題に取り組み、テーマに対して各自が行う調査に基づいて空間を構想する力を養う。＊「卒業研究 D」の受講生のみを対象とします。 【到達目標】公共空間を構想する力を養うと共に、発想に根拠を持たせる力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト	(1) 適宜、プリントを配布する。				
(2)参考文献	(2) 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成第 4 版』丸善				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：課題出題、条件の整理と敷地及び周辺環境の把握 第 2 回 美術館の設計 1：事例研究、テーマ研究、敷地研究 第 3 回 美術館の設計 2：事例研究、テーマ研究、敷地研究 第 4 回 美術館の設計 3：事例研究、テーマ研究、敷地研究 第 5 回 美術館の設計 4：配置計画、諸機能の構成と動線計画 第 6 回 美術館の設計 5：平面計画、断面計画 第 7 回 美術館の設計 6：平面計画、断面計画 第 8 回 美術館の設計 7：平面計画、断面計画、立面計画、外構計画 第 9 回 美術館の設計 8：平面計画、断面計画、立面計画、外構計画 第 10 回 美術館の設計 9：模型提出 第 11 回 美術館の設計 10：図面提出 第 12 回 美術館の設計 11：発表・講評 第 13 回 美術館の設計 12：リ・プレゼンテーション 1 第 14 回 美術館の設計 13：リ・プレゼンテーション 2 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

原則、卒業研究 D の受講者のみを対象としますが、それ以外で受講を希望する場合は事前に相談すること

授業科目	授業番号： 301			担当者	田野 耕平
	空間デザインⅡ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】コンセプトを明快に伝えるプレゼンテーション力の強化を図る。 【概要】設計製図Ⅰ、Ⅱで制作した課題作品を、これまでに習得した表現を駆使し、ポートフォリオにまとめる。学生コンペに取り組むことで様々なフォーマットへの対応力を養う。 ＊「卒業研究D」の受講生のみを対象とします。 【到達目標】プレゼンテーション力の実践的総合化を達成する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、プリントを配布する。 (2) 本杉省三他著『建築デザインの基礎 製図法から生活デザインまで』彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：プレゼンテーションとは 第 2 回 ポートフォリオ製作1:フォーマットの作成 第 3 回 ポートフォリオ製作2:住宅課題のコンセプトとダイアグラム1 第 4 回 ポートフォリオ製作3:住宅課題のコンセプトとダイアグラム2 第 5 回 ポートフォリオ製作4:住宅課題の図面表現1 第 6 回 ポートフォリオ製作5:住宅課題の図面表現2 第 7 回 ポートフォリオ製作6:集合住宅課題のコンセプトとダイアグラム1 第 8 回 ポートフォリオ製作7:集合住宅課題のコンセプトとダイアグラム2 第 9 回 ポートフォリオ製作8:集合住宅課題の図面表現1 第10回 ポートフォリオ製作9:集合住宅課題の図面表現2 第11回 学生コンペ1：要綱確認、事例研究 第12回 学生コンペ2：プレゼンシートレイアウト1 第13回 学生コンペ3：プレゼンシートレイアウト2 第14回 学生コンペ4：プレゼンシートレイアウト3 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

原則、卒業研究Dの受講者のみを対象としますが、それ以外で受講を希望する場合は事前に相談すること

授業科目	授業番号： 302			担当者	田野 耕平
	卒業研究D			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	選択必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】建築や空間デザインに関連した分野について調査・考察を行い、自ら設定した問いを建築空間として表現する。 【概要】学生各自が関心を持つテーマについて、社会的背景や空間的課題を調査・考察し、教員との対話を通して問いを明確化する。文献・事例・現地調査をもとに構想を深め、設計条件を自ら設定した上で、図面や模型等により空間として表現する。完成度だけでなく、調査や考察の内容が、空間表現にどのようにつながっているかを重視する。 【到達目標】研究テーマに関する調査・考察を踏まえた設計を行い、展示およびプレゼンテーションにおいて内容を適切に表現できることを目標とする。あわせて、将来的に建築分野に取り組むための基本的な視点を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、プリントを配布する。 (2) 松本 裕『新版 卒業設計コンセプトメイキング：リサーチ・デザイン・プレゼンテーション』学芸出版社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：研究と作品制作の進め方 第 2 回 第 2～5 回 研究・設計のテーマの検討と設定 第 3 回 第 6 回～第 12 回 文献、資料収集及び考察、計画条件の設定 第 4 回 第 13 回～第 22 回 エスキス、設計 第 5 回 第 23 回～第 29 回 プレゼンテーションシートの作成 第 6 回 第 30 回 発表 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研究成果（60％） 研究発表（20％） 授業での取り組み内容（20％）				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

空間デザイン演習 1 および 2 を履修すること

授業科目	授業番号： 303			担当者	矢野 俊樹
	情報社会論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経営学まで包括した IT 知識を学び、IT パスポート試験の合格を目指す 【概要】国家資格である IT パスポート試験は IT リテラシーを証明する入門的な位置付けの試験である。 ストラテジ・マネジメント・テクノロジーと 3 つの分野で構成されており、本授業では 3 つの分野を満遍なく網羅し、実際の過去問題を題材として演習を繰り返し、実務家教員の経験に基づいた解説を実施する。 また、資格試験の学修方法についても指導を行い、自走できるようになることを目指す。 【到達目標】IT パスポート試験の合格レベル(総合 600 点/1000 点)を目指す。 少なくともストラテジ・マネジメント・テクノロジーの 3 分野において 300 点以上の得点を目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	自ら学修計画を作成し、進捗と理解度の管理を行う。 また、授業ごとに分かりにくかった点を挙げてもらうことでリレーションシップを図る。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『かんたん合格 IT パスポート過去問題集令和 8 年度春期 間久保 恭子』2024 年 11 月 21 日初版 株式会社インプレス (2) 適宜配布				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：試験の概要の説明、試験日の案内 第 2 回 ストラテジ系 31-60 問(経営戦略,システム戦略) 第 3 回 ストラテジ系 61-100 問(システム戦略) 第 4 回 マネジメント系 1 問-30 問(開発技術,プロジェクトマネジメント,サービスマネジメント) 第 5 回 マネジメント系 31-67 問(サービスマネジメント) 第 6 回 テクノロジ系 1-30 問(基礎理論,コンピュータシステム) 第 7 回 テクノロジ系 31-60 問(コンピュータシステム,技術要素) 第 8 回 テクノロジ系 61-90 問(技術要素) 第 9 回 テクノロジ系 91-138 問(技術要素) 第 10 回 新シラバス対応：新たに追加された範囲の学修① 第 11 回 新シラバス対応：新たに追加された範囲の学修② 第 12 回 試験概要のおさらいと対策 第 13 回 模擬試験の実施① 第 14 回 模擬試験の実施② 第 15 回 模擬試験のフィードバックとまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題の提出率及び内容 60%, 授業での態度と貢献度 20% , 授業中の小テストの結果 20%				
実務経験について	あり				

情報科学概論履修済みまたは同等の知識を有すると認められる者

授業科目	授業番号： 304			担当者	山口 祐司
	経済学			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。 【概要】経済とは、生産・流通・分配・消費・廃棄の社会的つながりのことです。現代社会においてはこのつながりは主として市場の仕組みによって媒介され、市場の仕組みがうまく機能しない場合に政府が補います。この授業では、個々の経済主体の目線から見た市場の機能の問題を扱うミクロ経済学と、「国」のような大きな社会的まとまりで経済の動きを分析するマクロ経済学という、経済学の基礎となる2つの考え方を学んでいきます。 【到達目標】経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業の最後に、その日の授業で学んだことや質問を200字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて、翌週解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) マンキュー、N・グレゴリー（2019）『マンキュー入門経済学〔第3版〕』東洋経済新報社 伊藤元重（2015）『入門 経済学〔第4版〕』日本評論社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 経済学の考え方 第 3 回 ミクロ経済学の基礎（1）需要と供給 第 4 回 ミクロ経済学の基礎（2）価格決定メカニズムと市場の機能 第 5 回 ミクロ経済学の基礎（3）競争的市場の効率性 第 6 回 ミクロ経済学の基礎（4）不完全市場 第 7 回 ミクロ経済学の基礎（5）ミクロ経済学のまとめ 第 8 回 マクロ経済学の基礎（1）経済規模、経済活動の成果の測定 第 9 回 マクロ経済学の基礎（2）マクロ経済と物価水準 第 10 回 マクロ経済学の基礎（3）経済成長 第 11 回 マクロ経済学の基礎（4）貯蓄、投資と金融システムの役割 第 12 回 マクロ経済学の基礎（5）短期的経済変動とマクロ経済政策 第 13 回 マクロ経済学の基礎（6）外国貿易 第 14 回 マクロ経済学の基礎（7）マクロ経済学のまとめ 第 15 回 全体のまとめ、テスト対策				
授業外学習 (予習・復習)	毎回の授業範囲の予習（テキスト）・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。				
成績評価の方法	筆記試験（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 305			担当者	石窪 奈穂美
	消費者問題			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】消費者問題を通して、消費者の在り方や役割について多角的に学ぶ 【概要】規制緩和やグローバル化等、私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し、自己責任社会を迎えています。また、消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら、消費者の権利と責任について理解し、消費者問題を幅広い視点から捉え、問題点や解決策を考えます。その上で、消費者のあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。 【到達目標】自己責任社会といわれるなか、消費者力を高めるため、生活者、消費者、社会人として、各自の価値システムの形成に向けて、消費者主権の主体的・合理的な選択、判断能力を養います。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回講義の感想ならびに質問等を記入し、次の授業でフィードバックを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布。 (2) 講義時に必要な際は紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 講義の目的と進め方、消費者の権利と責任 第 2 回 消費者問題と生活問題、現代の消費者問題の全体像 第 3 回 消費者問題の時代背景とその後への影響 第 4 回 悪質商法の現状、若者に多い商法 第 5 回 ネット時代の消費者トラブルとその付き合い方 第 6 回 消費者と契約、消費者法のしくみ 第 7 回 消費者契約法、特定商取引法等 第 8 回 クレジットの基礎知識と消費者トラブルの現状 第 9 回 食に関する安心・安全の動き、食品表示制度 第 10 回 食情報との付き合い方、見極め方 第 11 回 急増する製品事故と法改正 第 12 回 消費者安全と製造物責任法 第 13 回 環境・エネルギー問題の捉え方と消費行動 第 14 回 消費者市民社会の構築、消費者の責任と自覚 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示、復習を重視する				
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)、提出物(20%)、筆記試験(60%)による総合評価				
実務経験について	企業勤務ならびに企業のアドバイザーとして活動。				

授業科目	授業番号： 306			担当者	未定
	行政法			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 307			担当者	未定
	経済政策			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 308			担当者	未定
	金融論			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 309			担当者	近間 由幸
	社会政策			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】「日本的雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について 【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本的雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する非正規労働者、女性、若者、外国人などの格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。前半は労働政策を中心に扱い、後半は社会保障政策を中心に扱っていく。 【到達目標】国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解し、望ましい社会政策の方向性について考える思考力を身につけることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策〈第3版〉雇用と社会保障』ミネルヴァ書房				
授業 スケジュール	第 1 回 イントロダクションー日本社会の「しくみ」について 第 2 回 社会政策とはなにか 第 3 回 賃金と社会政策 第 4 回 企業と労働組合の関係 第 5 回 過労死と長時間労働 第 6 回 非正規雇用とは何か 第 7 回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策 第 8 回 日本的雇用システムと女性の働き方 第 9 回 子育てと雇用政策 第 10 回 高齢者の福祉と雇用 第 11 回 社会保険のなかの医療保険制度 第 12 回 社会保険と生活保護の溝 第 13 回 労働市場政策の国際比較ースウェーデンモデルを事例として 第 14 回 移民問題と外国人労働者 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)，筆記試験 (70%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 310			担当者	渡邊 碩
	社会思想			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】近代ヨーロッパを中心とした社会思想の歴史を学ぶ。 【概要】社会思想史とは、経済学、政治学、社会学などの社会科学が前提としている社会観や人間観について、その特徴や歴史的成り立ちを様々な角度から検証する学問です。本科目では特に、社会科学が先駆的に成立した近代ヨーロッパにおける社会思想を対象とします。毎回の講義の進め方としては、各思想家の時代背景と問題関心を紹介したのち、古典的著作を読みながら、思想家がそれぞれの問題にどのように回答を提示したか、というテキスト解釈を行っていきます。 【到達目標】歴史的な文脈や論点を踏まえながら、社会思想史における古典的文献を読みこなすことができる。また、様々な概念装置の成立過程に注目しながら、社会科学を修得するという手法を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	複数回の授業において、疑問点や感想をコメントペーパーに書いてもらい、それに応答する時間を設ける予定です。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 教科書は使用せず、プリントを配布します。 (2) 授業中に指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 履修ガイダンス：社会思想史とは何か？ 第 2 回 ホッブズの歴史意識：『リヴァイアサン』 第 3 回 ルソーの歴史意識：『社会契約論』 第 4 回 カントの歴史意識：『啓蒙とは何か』 第 5 回 ヘルダーの歴史意識：『人類歴史哲学考』 第 6 回 ヘーゲルの歴史意識：『歴史哲学講義』 第 7 回 マルクスの歴史意識：『共産党宣言』 第 8 回 ニーチェの歴史意識：『道徳の系譜』 第 9 回 フロイトの歴史意識：『モーセと一神教』 第 10 回 ヴェーバーの歴史意識 1：『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』 第 11 回 ヴェーバーの歴史意識 2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 第 12 回 ヴェーバーの歴史意識 3：『支配について』 第 13 回 ヴェーバーの歴史意識 4：『職業としての学問』 第 14 回 社会思想と現代 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予復習と並行して、講義で扱う古典的テキストについては、いくつかを自主的に読了してほしいと考えます。				
成績評価の方法	期末試験 70%。授業中の小レポート 30%。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 311			担当者	藤野 博行
	民法			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】民法に関する基本的な知識を学び、身の回りの課題についての解決策を考えます。 【概要】サービスを受ける、プレゼントを贈るなど、みなさんが日々何気なく行なっている活動を円滑に行うための基本ルールの多くは民法に定められています。本科目は、民法の基本的な知識について講義形式で学ぶとともに、グループで身近な法的トラブルに関する文献を読解し、解決策について考えます。 【到達目標】①民法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2～4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール (microsoft forms や slido) に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (資料を配付します) (2) 道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』日本経済新聞出版社 (2019 年) 5280 円 ISBN-13:978-4296114641				
授業 スケジュール	第 1 回 ①ガイダンス, ②民法の意義と体系, ③民法の基本原則 第 2 回 権利能力と行為能力 第 3 回 意思表示 (心裡留保, 通謀虚偽表示) 第 4 回 意思表示 (錯誤, 詐欺, 脅迫) 第 5 回 代理 (代理の基礎, 無権代理, 表見代理) 第 6 回 ①時効, ②前半のまとめ 第 7 回 ①中間テスト, ②物権の意義と内容 第 8 回 ①中間テストの講評, ②公信の原則と公示の原則 (悪意の第三者と背信的悪意者) 第 9 回 ①公信の原則と公示の原則 (即時取得) ②所有権の意義・内容 第 10 回 ①用益物権の意義, ②担保物権の意義, ③留置権・先取特権・質権の概要 第 11 回 ①抵当権, 根抵当権の概要, ②債権の意義と概要 第 12 回 ①契約の成立, ②売買契約の基本事項 第 13 回 ①売買契約 (消費者法) 第 14 回 ①賃貸借契約, ②事務管理, ③不当利得 第 15 回 ①不法行為, ②後半の復習とまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点), 期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 312			担当者	松田 忠大
	商法			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義
テーマ及び概要	【テーマ】商法の特質と会社の組織および活動に関する法を学ぶ 【概要】私たちは、多くの場合、企業から生活に必要な物資やサービスの提供を受けるとともに、企業に対して労働力を提供し、その対価としての賃金を得ている。現代では社会経済活動において、企業、とりわけ営利企業が重要な役割を果たしていることから、その一形態である会社に関する法制度を学ぶことは有意義である。そこで、本講義では、商法の領域における会社法に焦点をあて、特に株式会社の組織および運営に関する法制度を学習する。 【到達目標】商法の特質、会社の組織および運営に関する基礎的事項を理解するとともに、会社をめぐる法律問題を通して法的思考力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 神田秀樹『会社法』（第 26 版）（弘文堂） (2) 授業中に適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 商法の意義および特質 第 2 回 会社の意義と種類 第 3 回 株式会社の設立 第 4 回 株式①（株式の意義、株式の種類等） 第 5 回 株式②（株主の権利、株主平等原則など） 第 6 回 株式③（株式の自由譲渡、譲渡制限） 第 7 回 株式④（株式の併合、分割、無償割当等） 第 8 回 新株の発行 第 9 回 新株予約権 第 10 回 株式会社の機関①（総論・株主総会） 第 11 回 株式会社の機関②（株主総会） 第 12 回 株式会社の機関③（役員等の選解任、取締役・取締役会） 第 13 回 株式会社の機関④（代表取締役、監査役、監査役会、会計監査人） 第 14 回 株式会社の機関⑤（役員等の義務・責任） 第 15 回 会社の機関⑤（株主代表訴訟・差止請求権）				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に各回の講義内容について予習をすること、また、授業後は講義内容について復習すること				
成績評価の方法	期末試験 80%、レポート 10%、毎回の授業終了後に提出する授業に対するコメント 10%を総合して 100 点満点で評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 313			担当者	宗田 健一・岡村 雄輝・稲本 ちほみ・川畑 知裕・蜷川 賢治
	税法			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等で対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】税の仕組みや各税法に関する基礎を学ぶ 【概要】税や税制の基礎知識と税法の基本的な考え方について学びます。そのうえで，所得税法，法人税法，相続税法，消費税法，酒税法，地方税制，国際課税，租税手続，租税処罰法，租税救済法などについて学びを深めていきます。なお，税理士による講義，実習も行います。 【到達目標】税法の基本的な考え方を知る。様々な税に関する法律とその考え方について知る。				
学生の主体的・対話的な学び	4～6回程度，電卓，資料を用いて，税額計算を行ったり，税制に関するディスカッション・グループワークを行ってもらう予定です。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 三木義一監修・奥谷健編著『よくわかる税法入門』（第 20 版）ゆうひかく選書，2025 年。 (2) 講義中に指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 税の意義 第 2 回 租税法律主義，租税回避 第 3 回 応能負担原則，課税最低限 第 4 回 所得税法（所得概念，納税義務の範囲，課税単位） 第 5 回 所得税法（所得分類，給与所得課税，収入の帰属時期） 第 6 回 所得税法（所得控除と税額控除，所得税の計算） 第 7 回 法人税法（法人税の根拠，納税義務者） 第 8 回 法人税法（計算構造），租税手続法（確定手続） 第 9 回 租税処罰法，租税救済法（不服申立），税務訴訟 第 10 回 確定申告制度とその実務（青色申告，白色申告，確定申告実務），所得税（所得控除と税額控除，所得税の計算） 第 11 回 消費税法（消費税の基礎，多段階付加価値税・仕入税額控除，非課税・ゼロ課税・逆進性対策） 第 12 回 電子帳簿保存法とインボイス制度，税務調査，地方税制，国際課税 第 13 回 判例の読み方と活用，相続税法（課税の根拠，日本の課税方式と問題点） 第 14 回 税理士業務と IT 技術（会計ソフト，AI），税理士事務所・法人における会計・税務実務 第 15 回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	中間レポート 50%，期末レポート（50%）				
実務経験について	有り（税理士 3 名）				

会計学総論，簿記論，財務会計論を履修した者，履修中の者が望ましい。

授業科目	授業番号： 314			担当者	岡村 俊彦
	産業心理学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ 【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。身近で具体的な事象として「思考力」や「判断力」を養う。 【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる				
学生の主体的・対話的な学び	簡単な心理実験や心理テストを数回行い、主体的な学びを深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布，Web でも公開 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2 回 人間とシステムの関わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第 3 回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第 4 回 ヒューマンインターフェイス 1：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第 5 回 ヒューマンインターフェイス 2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第 6 回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第 7 回 仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第 8 回 人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係 第 9 回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例 第 10 回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第 11 回 購買心理：消費者の購買心理 第 12 回 販売，印象管理：セールステクニックと印章管理 第 13 回 ヒューマンのエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第 14 回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	通常のレポート 2 回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 315			担当者	宗田 健一
	会計学総論			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】会計学の全体像を知る。 【概要】この講義は，これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で，会計学の全体的な内容を理解することができます。 【到達目標】会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の講義で，講義に関連する質問，講義を受けてのリアクションシートを講義専用オンラインサイトから記入していただきます。なお，学生の皆さんのコメント，意見は，次週以降にフィードバック・解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小野正芳編著『スタートアップ会計学』（第3版）同文館出版。 (2) 桜井久勝『財務会計講義』（第26版以降のもの）中央経済社（予定），その他は講義中に指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス，会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要 第 2 回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割 第 3 回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要 第 4 回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要 第 5 回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要 第 6 回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要 第 7 回 会計情報はどうやって作られるの？ 簿記の概要 第 8 回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要 第 9 回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要 第 10 回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要 第 11 回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要 第 12 回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR 会計の概要 第 13 回 ボランティア活動にも儲けが必要な？ 非営利会計の概要 第 14 回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要 第 15 回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。				
成績評価の方法	期末レポート 100%				
実務経験について	なし				

講義中，企業経営者を招いてお話しいただく機会を設ける予定です。

授業科目	授業番号： 316			担当者	岡村 雄輝
	簿記論 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ 【概要】日商簿記 3 級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。 【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者同士で相互に教え合う問題演習の時間を設けています。また、毎回の講義において Google フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義 3 級 商業簿記』『簿記ワークブック 3 級』(令和 8 年版), 中央経済社。 (2) 田口聡志, 廣瀬喜貴, 澤井康毅, 木村太一, 澤田雄介 (共)『簿記論 15 講』, 新世社。				
授業 スケジュール	第 1 回 複式簿記とはなにか? : 意義と目的, 簿記の基礎, 貸借対照表 第 2 回 複式簿記とはなにか? 貸借対照表, 損益計算書, 両者の関係 第 3 回 仕訳と転記: 勘定, 取引の意義, 取引 8 要素と結合関係 第 4 回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記 第 5 回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記 第 6 回 決算 (1): 決算の意義と手続、試算表の作成 第 7 回 決算 (2): 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表の作成 第 8 回 決算 (3): 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表の作成 第 9 回 現金と預金: 現金勘定と現金出納帳, 現金過不足, 当座預金と当座借越 第 10 回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金 第 11 回 繰越商品・仕入・売上: 3 分法, 諸掛と返品 第 12 回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳 第 13 回 公認会計士が語る簿記会計を学ぶ意義: 複式簿記の実践についての講話 第 14 回 総合問題: 問題演習と解説 第 15 回 総合問題: 問題演習と解説				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 317			担当者	竹中 啓之
	経営学総論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。 【概要】この講義では、初めて経営学を学ぶ際に必要と思われる知識や考え方について説明する。経営学が取り扱う様々なテーマを幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、経営学が持つ特徴的な考え方も説明し、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。 【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回の中で数回、数人のグループで授業内容に関連する事柄について、意見交換する場合があります。また、毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第 3 回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第 4 回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第 5 回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第 6 回 企業における 4 つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。 第 7 回 企業における 4 つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。 第 8 回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定） 第 9 回 企業における 4 つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。 第 10 回 企業における 4 つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。 第 11 回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第 12 回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第 13 回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。 第 14 回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は 1 回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 318			担当者	矢野 俊樹
	情報科学概論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】情報の基礎を体系的に学ぶ 【概要】コンピュータやネットワーク、データベースなど情報科学の基礎を学ぶ。 現在社会において情報情報リテラシーは非常に重要な身につけるべき能力である。本授業ではその情報科学の基礎を実務家教員が実務経験に基づき体系的に分かりやすく学ぶ。 【到達目標】情報リテラシーの基礎を身につけ、①PC のスペック表を見て性能を把握することができる。②セキュリティに関する知識を修得し、安全な ICT 運用の助言ができることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	授業ごとに振り返りレポートを作成することで、自ら理解度の管理を行う。また、章ごとにその内容に関する疑問等を挙げてもらうことで、「自分ごと」としての知識を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『身につく！合格！IT パスポート 有馬一也,谷藤 修栄』 2019 年初版発行 (株) インフォテックサーブ (2) 適宜配布				
授業 スケジュール	第 1 回 ハードウェア：コンピュータの種類 第 2 回 ハードウェア：コンピュータの種類、五大装置 第 3 回 ハードウェア：基数変換・論理演算 第 4 回 ハードウェア：稼働率 第 5 回 ソフトウェアと情報メディア：OS、ファイルシステム、バックアップ 第 6 回 ソフトウェアと情報メディア：ソフトウェア、マルチメディア 第 7 回 データベース：RDB と正規化 第 8 回 ネットワーク：ネットワークの基本とインターネット 第 9 回 情報セキュリティ：情報セキュリティの脅威① 第 10 回 情報セキュリティ：情報セキュリティの脅威② 第 11 回 情報セキュリティ：暗号化、デジタル署名 第 12 回 アルゴリズムとプログラミング：アルゴリズム、プログラム言語 第 13 回 システム開発技術：システム開発プロセス 第 14 回 システム戦略：情報システム戦略、システム企画 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題の提出率及び内容 60%, 授業での態度と貢献度 20% 、授業中の小テストの結果 20%				
実務経験について	あり				

授業科目	授業番号： 319			担当者	永仮 ゆかり
	文書作成実習			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得 【概要】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。 *後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする。 【到達目標】実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 日本商工会議所 IT 活用能力検定研究会編著『よくわかるマスター 改訂 2 版 日商 PC 検定試験 文書作成・データ活用・プレゼン資料作成 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版、プリント (2) 授業にて紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 前期の復習：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第 2 回 検定対策（3 級）：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野） 第 3 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 1、知識問題（共通分野） 第 4 回 検定対策（3 級）：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野） 第 5 回 検定対策（3 級）：通知状の作成、図形の補足、知識問題（共通分野） 第 6 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野） 第 7 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 2、知識問題（共通分野） 第 8 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定サンプル問題演習、知識問題（共通分野） 第 9 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習 第 10 回 Excel データの利用：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み 第 11 回 いろいろな応用機能：スタイル、文書の挿入、SmartArt など） 第 12 回 稟議書の作成：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など） 第 13 回 実践問題：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用など） 第 14 回 議事録の作成：議事録の作成（テンプレートの利用、セクション区切りなど） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

（注）経営情報専攻

授業科目	授業番号： 320			担当者	倉重 賢治
	統計学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ 【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。 【到達目標】・ 基本的なデータ処理を行う ・ 相関関係について理解する ・ 検定について理解する				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 序論：統計学とは 第 2 回 データの基本処理：平均値，度数分布 第 3 回 データの基本処理：標準正規分布 第 4 回 データの基本処理：正規分布 第 5 回 データの基本処理：正規分布と偏差値 第 6 回 データの基本処理：確率分布 第 7 回 統計解析：相関係数 第 8 回 統計解析：回帰直線 第 9 回 統計解析：カイ 2 乗検定 第 10 回 統計解析：平均値の推定 第 11 回 統計解析：平均値の検定 第 12 回 統計解析：比率の推定と検定 第 13 回 統計解析：ベイズ統計学 第 14 回 統計解析：検定について 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題（20%）＋期末試験（80%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 321			担当者	岡村 俊彦
	応用文書処理			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ 【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。 【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	PC の実習なので、基本的に主体的な学びになる。いずれの課題とも統一的なものではなく、学生がそれぞれ課題設定をおこない、工夫していくことが求められる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Web で公開 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2 回 自己紹介文書作成 1：ワープロソフトを使ったベース文書の作成 第 3 回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4 回 自己紹介文書作成 3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5 回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6 回 ホームページ作成 1：HTML の復習 第 7 回 ホームページ作成 2：課題設定とネット上のルール、マナー 第 8 回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成 第 9 回 ホームページ作成 4：ウェブサイト公開 第 10 回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索 第 11 回 提案書作成 2：表計算ソフトによる自動計算書 第 12 回 提案書作成 3：資料用 PDF ファイルの操作 第 13 回 提案書作成 4：プレゼン資料作成 第 14 回 提案書作成 5：ビジネスメールのマナーとプレゼン 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート（3 つの課題を総合的に評価）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 322			担当者	口脇 淳子
	P C データ活用			授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部 30 時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認 第 2 回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認 第 3 回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第 4 回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第 5 回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第 6 回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第 7 回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など） 第 8 回 各関数を利用した実習問題（小テスト） 第 9 回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第 10 回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第 11 回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第 12 回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13 回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか） 第 14 回 データの集計（ピボットテーブル） 第 15 回 前期のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。				
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋出席授業のプリント提出状況（10%）				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	授業番号： 323			担当者	口脇 淳子
	P C データ活用実習			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得 【概要】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。 *後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする。 【到達目標】実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 日本商工会議所 IT 活用能力検定研究会編著『よくわかるマスター 改訂 2 版 日商 PC 検定試験 文書作成・データ活用・プレゼン資料作成 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版、プリント (2) 授業にて紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 前期の復習：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第 2 回 検定対策（3 級）：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野） 第 3 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 1、知識問題（共通分野） 第 4 回 検定対策（3 級）：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野） 第 5 回 検定対策（3 級）：通知状の作成、図形の補足、知識問題（共通分野） 第 6 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野） 第 7 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 2、知識問題（共通分野） 第 8 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定サンプル問題演習、知識問題（共通分野） 第 9 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習 第 10 回 Excel データの利用：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み 第 11 回 いろいろな応用機能：スタイル、文書の挿入、SmartArt など 第 12 回 稟議書の作成：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など） 第 13 回 実践問題：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用など） 第 14 回 議事録の作成：議事録の作成（テンプレートの利用、セクション区切りなど） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

(注) 経済専攻

授業科目	授業番号： 324			担当者	刈屋 美枝子
	P Cアプリケーション実習			授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなす 【概要】本実習は前期の情報リテラシーⅡ（E）（F）の応用となるので、基本的に前期のPC経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーⅡで扱えなかった各種アプリケーション（プレゼンテーション、PDF ファイル、OCR、動画編集、HP 作成など）の基本的な使い方を学習する。また、スマートフォンアプリと連携したパソコンの使い方を強化する。 【到達目標】各種アプリケーション・ソフトウェアの使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。さらに、クラウドを活用してパソコンとスマートフォンアプリを連携させて使いこなす。				
学生の主体的・対話的な学び	動画の撮影・編集に関しては、単独作業でも構わないが、グループでの協力作業も可。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 随時、資料ファイルを配信				
授業 スケジュール	第 1 回 前期授業の復習 プレゼンテーションアプリ PowerPoint (1) 第 2 回 プレゼンテーションアプリ PowerPoint (2) 第 1 回課題 第 3 回 動画編集アプリ Google Vids 又は Clipchamp (1) 基本 第 4 回 動画編集アプリ (2) 撮影と編集 第 2 回課題 第 5 回 動画編集アプリ (3) 編集 第 6 回 中間アンケート（授業への要望及び取り組みたいアプリの希望など）とここまでの復習 第 7 回 PDF ファイルの扱い方 (1) スキャナーと OCR の利用：画像文書からテキストへ 第 8 回 PDF ファイルの扱い方 (2) Adobe Acrobat の基本的使い方 第 9 回 PDF ファイルの扱い方 (3) Adobe Acrobat の応用（ファイル結合） 第 10 回 Windows パソコンの便利機能 トラブルシューティング 第 11 回 ホームページの構造 第 12 回 ホームページの作成 (1) 第 13 回 ホームページの作成 (2) 第 3 回課題 第 14 回 アンケートで学生が希望したアプリケーション・ソフトウェアへの対応 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	3 回の課題は基本的に宿題だが、自宅にパソコンがない又は対応アプリがない場合に備えて、授業内で随時課題作成時間を設ける。				
成績評価の方法	3 回の課題（70%）と実技試験（30%）の総合評価				
実務経験について	本学パソコン講師 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上、鹿児島商工会議所会員、第二種情報処理技術者				

授業科目	授業番号： 325			担当者	船津 潤
	日本経済論			授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること 【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について特に産業政策、そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、グローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら授業を進めます。 【到達目標】日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになる 海外とのつながりを踏まえて日本経済の現状と課題について自分の見解が述べられるようになる				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらう機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし 適宜資料を配付 (2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2 回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3 回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第 4 回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950 年代前半の産業政策等 第 5 回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6 回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等 第 7 回 行政指導：勸告操短、企業の反発等 第 8 回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第 9 回 1970 年代の日本経済：2 度の石油危機、知識集約化・高付加価値化への動き等 第 10 回 1980 年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第 11 回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等 第 12 回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等 第 13 回 構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14 回 構造改革と現在の政策：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、近年の政策との比較等 第 15 回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等				
授業外学習 (予習・復習)	授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等で調べ、検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 326			担当者	船津 潤
	財政学			授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論、日本の基礎的な制度の内容、実態、特徴、課題に対する理解を深めること 【概要】テーマを踏まえて、基礎的な制度について、財政民主主義という財政制度の根幹、公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、グローバル化の影響を強く意識しながら授業を進めます。この講義で、マクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのか、また、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても理解してもらえそうです。 【到達目標】財政制度を理解した上で、政府活動に関する自分の評価を述べられるようになる 理論がどのように活用されているのか理解する 財政の影響を踏まえて経済・社会の動向を把握できるようになる				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらい機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし 適宜資料を配付 (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005 年) 神野直彦著『財政学 第3版』有斐閣(2021 年) 渡邊和紀編著『図説 日本の財政 各年度版』財経詳報社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2 回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等 第 3 回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4 回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割分担、予算原則等 第 5 回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋蔵金」、改革の方向等 第 6 回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等 第 7 回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 8 回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 9 回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 10 回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等 第 11 回 財政投融资：財投債と財政投融资、2001 年度の改革、批判と今後の展望等 第 12 回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 13 回 財政の国際化：国際公共財、国際的な ODA 改革の動向等 第 14 回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 15 回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等				
授業外学習 (予習・復習)	授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 327			担当者	前田 千春
	農業経済論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。 【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。 【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中 2 回程度、講義内にグループで話し合う時間を設けます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房（2018 年） 八木宏典監修『最新版 図解 知識ゼロからの現代農業入門』家の光協会（2019 年）				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識 第 2 回 日本の農産物需給と食料事情 第 3 回 食の安全に向けた取り組み 第 4 回 日本農業の展開過程 第 5 回 農業協同組合 第 6 回 稲作 第 7 回 園芸作物 第 8 回 工芸作物 第 9 回 畜産 第 10 回 日本の農業・農村の現状と課題 第 11 回 日本農業の新たな取り組み 第 12 回 世界の農産物需給と食料事情 第 13 回 諸外国の農業と農業政策 第 14 回 途上国経済と農業 第 15 回 まとめ：これからの日本農業				
授業外学習 (予習・復習)	講義ノートおよび参考文献を活用して講義レポートに取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート（60%）、期末レポート（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 328			担当者	未定
	ファイナンス論			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 329			担当者	カムチャイ・ライサミ
	経済学史			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。 【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17 世紀頃）から現代経済学（20 世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。 【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。 (2) 必要に応じてその都度指示する。				
授業 スケジュール	第 1 回 経済学史の方法と範囲 第 2 回 重商主義の経済思想：マリーンズ、ミッセルデン、マン、スチュアート 第 3 回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー 第 4 回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム 第 5 回 古典学派の生成：スミス 第 6 回 古典学派の発展：マルサス、リカード 第 7 回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル 第 8 回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシャー、ヒルデブラント、クニース 第 9 回 マルクス学派：マルクス 第 10 回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ 第 11 回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ 第 12 回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク 第 13 回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート 第 14 回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー 第 15 回 ケインズ革命：ケインズ				
授業外学習 (予習・復習)	授業前後に必ず合計で 4 時間程度の予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 330			担当者	小野 祥子
	経済学特講 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】金融商品取引の基本と関連法規を理解し、適切な判断と説明ができる力を身につける 【概要】金融商品取引法および自主規制の基本を軸に、株式・債券・投資信託など主要な金融商品の仕組みを体系的に学ぶ。 金融機関の実務や資格試験を想定した内容を扱いながら、金融取引におけるルールやリスクを理解し、将来、金融業界で働く場合だけでなく、一般の投資判断においても適切な判断と説明ができる基礎力を養うことを目的とする。 【到達目標】・金融商品取引法および自主規制の基本を理解する ・株式・債券・投資信託の仕組みを説明できる ・証券外務員二種試験に合格できる基礎力を身につける ・実務上の不適切行為を判断できる				
学生の主体的・対話的な学び	各回の講義では、知識の解説に加え、金融実務や試験問題を想定した事例を提示する。学生は問いに対して個人で考えた後、意見交換や小テストを通じて理解を確認する。これにより、受動的な知識習得にとどまらず、自ら判断し説明する力を養う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト □『うかる！証券外務員二種 最速テキスト』（日本経済新聞出版） □『うかる！証券外務員二種 最速問題集』（日本経済新聞出版） □プリント配布 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション・証券外務員制度全体像 第 2 回 金融商品取引法①（目的・用語・登録制度） 第 3 回 金融商品取引法②（行為規制・禁止行為） 第 4 回 金融商品取引法③（広告・書面・罰則） 第 5 回 協会定款・諸規則①（全体像） 第 6 回 協会定款・諸規則②（行為規制・顧客対応） 第 7 回 株式①（基礎知識） 第 8 回 株式②（取引・指標・計算） 第 9 回 債券①（基礎知識） 第 10 回 債券②（利回り・価格変動） 第 11 回 投資信託①（仕組み・分類） 第 12 回 投資信託②（コスト・基準価額・分配） 第 13 回 デリバティブ・外貨建商品（概要理解） 第 14 回 税金・相続・NISA 第 15 回 まとめ □全範囲横断整理				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	各回（出席・感想・質問提出）50%、筆記試験 50%				
実務経験について	□保険代理店・金融機関勤務経験あり □ライフプラン講師（一般社会人・企業研修） □マネー・キャリア講師（小学校～大学） □FP2・3級資格取得講座講師 □証券外務員二種講師				

授業科目	授業番号： 331			担当者	山口 祐司
	経済学特講Ⅱ			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。 【概要】第二次世界大戦後の世界は、「パクス・アメリカナ」と呼ばれ、アメリカが国際経済、国際政治の枠組みをリードしてきました。しかし冷戦が終結して 30 年以上経った現在、米中対立に見られるように、アメリカの圧倒的な優位は失われつつあるように見えます。この授業では、アメリカの超大国としての経済的発展とその限界について、アメリカ国内および国際経済の歴史という観点から学んでいきます。 【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業の最後に、その日の授業で学んだことや質問を 200 字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて、翌週解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第 2 回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第 3 回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第 4 回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の 1920 年代 第 5 回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第 6 回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第 7 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第 8 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第 9 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第 10 回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第 11 回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第 12 回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第 13 回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第 14 回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。				
成績評価の方法	レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 332			担当者	藤野 博行
	法学特講			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】特に公務員試験に必要な、行政の仕組みに関する基本知識、手続。救済について学びます。また、地方自治法の要点も学びます。 【概要】行政は道路や橋をつくる、税金を集める、支援金等を給付するなど、生活に直結する仕事をしています。本講義では「行政がどのような根拠を用いてこれらの行為をするのか」、「行政の判断に納得できないときに、どのような救済手段が用意されているのか」について、条文の読み方から順番に学びます。また、損害が発生した場合の賠償や補償の考え方も扱います。最後に地方自治法も扱い、自治体の組織や運営について整理します。講義全体を通して、公務員試験の基礎力を固めるとともに、条文をもとに考える力を養います。 【到達目標】行政法に関する基本用語とその意味を理解し、他者に説明できる。地方自治のしくみを理解し、地域課題を自分事として考える基礎力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2～4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール (microsoft forms や slido) に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (資料を配付します) (2) 必要に応じて提示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 行政法の全体像—公務員の仕事と市民の関係、授業の進め方を確認 第 2 回 法律・条例・規則の違いと、条文の読み方の型を練習 第 3 回 行政の「処分」とは何か。許可・免許・取消などを例に、行政の決定の形を整理 第 4 回 申請→審査→許可の流れ、審査基準と判断の見方を学ぶ 第 5 回 不利益処分の手続。理由提示・弁明・聴聞の役割と、手続違反の効果を確認 第 6 回 行政指導 (お願い)。強制できない理由、断り方、やり過ぎを防ぐ視点を押さえる 第 7 回 行政契約。民間契約との違い、入札・委託の基本、透明性と公平性を理解する 第 8 回 行政裁量 (自由の幅)。裁量が出る場面と、基準・平等原則でのチェック方法 第 9 回 処分の効力。公定力・確定力などを整理し、無効と取消の区別を確実にする 第 10 回 取消・撤回と義務履行確保。代執行・強制徴収など「守らせる」ための手段を学ぶ 第 11 回 国家賠償と損失補償。行政のミスの賠償と、適法でも補償する場面を整理 第 12 回 権利侵害に対する救済。不服申立てと行政訴訟の流れ、期限、執行停止 (仮の救済) 第 13 回 地方自治の原理。住民自治・団体自治、国と自治体の関係、自治体の種類を確認 第 14 回 自治体の組織。首長・議会・委員会の役割分担、権限のチェックの仕組みを学ぶ 第 15 回 条例制定、予算、監査請求などの論点を整理				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点)、期末試験 (51 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 333			担当者	岡村 雄輝
	簿記論Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ 【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学習を前提とした講義になります。 【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者同士で相互に教え合う問題演習の時間を設けています。また、毎回の講義においてGoogle フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘，片山寛，北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』（令和8年版），中央経済社。 (2) 田口聡志，廣瀬喜貴，澤井康毅，木村太一，澤田雄介（共）『簿記論15講』，新世社。				
授業 スケジュール	第 1 回 簿記一巡の手続きとは？：仕訳・転記・決算 第 2 回 売掛金と買掛金：人名勘定，売掛金と元帳と買掛金元帳，売掛金明細表と買掛金明細表，クレジット売掛金，前払金と前受金 第 3 回 その他の債権と債務：貸付金と借入金，未収入金と未払金，立替金と預り金，仮払金と仮受金，受取商品券，差入保証金 第 4 回 受取手形と支払手形：手形の意義と補助簿，手形貸付金と手形借入金，電子記録債権と債務 第 5 回 有形固定資産：有形固定資産の取得，減価償却，有形固定資産の売却 第 6 回 有形固定資産：固定資産台帳，年次決算と月次決算 第 7 回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れと貸倒損失，貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本：株式会社の設立と株主期の発行，繰越利益剰余金，配当 第 8 回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い，消耗品と貯蔵品，諸会費 第 9 回 税金：租税公課，法人税，住民税及び事業税，消費税 第10回 伝票：仕訳帳と伝票，3伝票制，伝票から帳簿への記入 第11回 伝票：伝票の集計 第12回 財務諸表：試算表の作成，決算整理 第13回 財務諸表：精算表の作成，財務諸表の作成 第14回 総合問題：問題演習と解説 第15回 総合問題：問題演習と解説				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 334			担当者	大重 康雄
	外国貿易論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 グローバル経済下の日本という視点でとらえた貿易取引とその課題について考える 【概要】 貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し，変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を最新の報道資料やシンクタンク・公的機関等のデータを使い考える。 【到達目標】 貿易取引や外国為替の基本的仕組み理解し，国際経済の動静に対し自分の見解が持てる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) グローバル・エコノミー第3版 （有斐閣アルマ） (2) 講師作成プリント 毎回配付				
授業 スケジュール	第 1 回 開講 貿易と私たちの暮らし 第 2 回 自由貿易のもたらす利益 第 3 回 新古典派貿易理論を学ぶ 第 4 回 世界貿易機関（WTO）と 自由貿易の歩み 第 5 回 国際収支からみた日本の貿易 第 6 回 外国為替市場と為替レート 第 7 回 トランプ関税と貿易摩擦 第 8 回 貿易決済と国際金融 第 9 回 国際貿易の論点 中間まとめ（自由討論） 第 10 回 世界の地域貿易協定（FTA/EPA）の現状 第 11 回 東アジア経済の発展と 日本貿易 第 12 回 鹿児島県の貿易取引の現状 第 13 回 グローバル・バリューチェーン（GVC）の変容と日本貿易 第 14 回 カーボンニュートラル 開発と環境を考える 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	シラバスに沿って予習・復習し、質問すべきことをまとめておくこと。				
成績評価の方法	筆記試験（80％）＋授業への取り組み及び質問・発言内容（20％）				
実務経験について	地域金融機関行員としての実務経験（外貨資金取引・貿易投資相談業務など）、AIBA 認定貿易アドバイザー（#018）				

授業科目	授業番号： 335			担当者	福田 忠弘
	国際関係論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに与えられた質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 適宜、紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7 回 国際関係のなりたち 4：核兵器について 第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12 回 国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題 第 13 回 国際社会における諸問題 4：保守化する世界 第 14 回 国際社会における諸問題 5：コロナ、ウクライナ後の社会 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 336			担当者	福田 忠弘
	アジア事情			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。 【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化，現代においては脱植民地化，国民国家建設，リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また，最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し，分析する。 【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了された質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 適宜、紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2 回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット 第 3 回 アジアの巨大遺跡：バガン 第 4 回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第 5 回 東南アジアの基本情報：地理や気候 第 6 回 海域アジア：海を通した結びつき（1） 第 7 回 海域アジア：海を通した結びつき（2） 第 8 回 海域アジア：海を通した結びつき（3） 第 9 回 歴史的形成 1：植民地の様子 第 10 回 歴史的形成 2：植民地からの独立（1） 第 11 回 歴史的形成 3：植民地からの独立（2） 第 12 回 東南アジア 1：インドシナ 3 国 第 13 回 東南アジア 2：タイ、ミャンマー、マレーシア 第 14 回 アジアにおける協力体制：ASEAN を中心とする協力 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 337			担当者	村田 秀博
	国際経済特講 I			授業外対応	授業終了後 E メールにて
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出、それに伴う貿易取引 県内中小企業も多く海外業務を行っている。 【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。 【到達目標】地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた個々の解決方法を見出す。県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) レジュメ・プリント資料 (2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材） 第 2 回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状 第 3 回 進出国の情勢比較（中国） 第 4 回 進出国の情勢比較（中国） 第 5 回 海外知的財産権の保護（悪意の商標登録など） 第 6 回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致 第 7 回 貿易実務（各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPA ほか） 第 8 回 進出国の情勢比較（台湾・香港・タイ） 第 9 回 進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール） 第 10 回 進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシアほか） 第 11 回 進出国の情勢比較（ベトナム・外国人人材受け入れ） 第 12 回 貿易実務（外国為替・為替相場・先物予約） 第 13 回 貿易実務（外貨預金・外貨貸付） 第 14 回 貿易実務（輸出・輸入） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）					
成績評価の方法	筆記試験 80%＋レポート 20%				
実務経験について	金融機関にて国際業務に 23 年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー 100 回以上企画催行。タイ王国赴任経験あり。お勧めの海外旅行精通。				

授業科目	授業番号： 338			担当者	前田 千春
	地域経済論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。 【概要】人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。 【到達目標】日本の地域経済の構造とその実態を理解できる。地域経済を分析し、発展に向けた考察ができるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、2 回のグループワーク、1 回のグループ発表を行います。授業後にフォームで質問を募り、次回の授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 松原宏編著『地域経済論入門 改訂版』古今書院（2022 年）				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：「地域」とは何か 第 2 回 地域経済の基礎理論 第 3 回 地域経済循環 第 4 回 地域経済の実態 第 5 回 地域経済に関する統計 第 6 回 グループワーク①：地域経済統計の活用 第 7 回 大都市と地方都市 第 8 回 工業都市 第 9 回 農業地域 第 10 回 山村地域 第 11 回 地場産業地域 第 12 回 第三次産業地域 第 13 回 地域経済の成長理論 第 14 回 グループワーク②：地域経済政策を考える 第 15 回 グループ発表、まとめ：地域経済の発展に向けて				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート（40%）、グループ発表（10%）、期末レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 339			担当者	前田 千春
	地域産業政策			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。 【概要】地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。 【到達目標】地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、2 回のグループワーク、1 回のグループ発表を行います。授業後にフォームで質問を募り、次回の授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 白須正・細川孝 編『地域産業政策の新展開 京都市を中心とした歴史研究と比較研究を踏まえて』文理閣（2023 年）				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状 第 2 回 人口移動と地域間格差 第 3 回 地域産業政策の変遷 第 4 回 地域産業政策の事例①：製造業・工業 第 5 回 地域産業政策の事例②：農業 第 6 回 地域産業政策の事例③：林業 第 7 回 地域産業政策の事例④：観光業 第 8 回 地域産業政策の事例⑤：離島 第 9 回 鹿児島県の地域産業 第 10 回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える 第 11 回 地方創生にかかる制度・仕組み 第 12 回 海外の地域産業政策① 第 13 回 海外の地域産業政策② 第 14 回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表 第 15 回 グループ発表、まとめ：これからの地域産業政策の在り方				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート（40%）、グループ発表（10%）、期末レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 340			担当者	船津 潤
	地方財政論			授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること 【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、地方財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の制度について講義します。そこでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤、地方財政が改革を求められるグローバル化などの背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら授業を進めます。 【到達目標】日本の制度について理解を深め、説明できるようになる 地方財政について考察し、自分の見解を述べられるようになる 地域の課題を見出し、解決策を提案できるようになるための基礎力を身につける				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらう機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし 適宜資料を配付 (2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷 金澤史男編著『現代の公共事業 国際経験と日本』日本経済評論社(2002 年)				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2 回 地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等 第 3 回 地方自治(2)：グローバル化の影響、水道の民活等 第 4 回 地方予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 5 回 地方予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等 第 6 回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 7 回 地方の経費：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 8 回 地方の事務：機関委任事務、自治事務、法定受託事務等 第 9 回 国庫支出金(1)：定義、求められる役割、配慮すべき原則、三位一体の改革等 第 10 回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11 回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度の内容等 第 12 回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13 回 地方債：定義、適債事業、2006 年度からの変化等 第 14 回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について 第 15 回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等				
授業外学習 (予習・復習)	授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、講義の前後に総務省や自治体のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 341			担当者	丸田 真悟
	非営利組織論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会における非営利組織の役割と課題そして可能性について多角的に学ぶ 【概要】非営利組織（NPO）は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方で NPO を巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義では NPO の概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会における NPO の役割と課題、これからの可能性について考えます。 【到達目標】NPO に関する基本的な知識を習得し、現代社会における NPO の役割と課題、可能性を考える基盤を養います。				
学生の主体的・対話的な学び	後半の 3 回は、5 名前後のグループで具体的に自分たちの NPO を立ち上げるグループワークをおこないます。また、前週までに出了質問は授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 宮垣元『NPO とは何か』中公新書（2024）、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣（2017）ほか随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 非営利組織（NPO）とは何か：「非営利」の意味、NPO の定義について考えます。 第 2 回 NPO とボランティア：NPO を支える理念について考えます。 第 3 回 NPO の存在理由：現代社会の中で存在感を増している理由を考えます。 第 4 回 NPO の世界 1:様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。 第 5 回 NPO の世界 2:様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。 第 6 回 NPO にかかわる制度と政策 1：様々な非営利組織に関する制度について考えます。 第 7 回 NPO にかかわる制度と政策 2：NPO 法を中心に運営や税に関する制度について考えます。 第 8 回 行政、企業と NPO：行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。 第 9 回 NPO のマネジメント 1：NPO の経営管理について考えます。 第 10 回 NPO のマネジメント 2：NPO の経営戦略について考えます。 第 11 回 NPO のマネジメント 3：NPO の資金調達と評価手法について考えます。 第 12 回 〈WS〉NPO をつくる 1：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。 第 13 回 〈WS〉NPO をつくる 2：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。 第 14 回 〈WS〉NPO をつくる 3：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。 第 15 回 まとめ：NPO の可能性について考えます。				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート（70%）＋授業ごとに実施する小論文（30%）				
実務経験について	認定 NPO 法人理事長（～2025.9）				

授業科目	授業番号： 342			担当者	藤野 博行
	労働法			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。 【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方が良い基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。 【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2～4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール（microsoft forms や slido）に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし（資料を配付します） (2) 必要に応じて提示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ①ガイダンス、②アイスブレイク 第 2 回 労働法とは（労働基準法・労働契約法） 第 3 回 ①就業規則、②労働契約法の権利義務、 第 4 回 ①就職活動と労働法（内々定・内定・内定取消、試用期間） 第 5 回 ①労働条件の変更、②転配・出講・転籍 第 6 回 ①労働時間とはなにか？、②様々な労働形態 第 7 回 ①時間外労働、②前半のまとめ 第 8 回 ①中間テスト、②みなし労働時間 第 9 回 ①中間テストの講評、②割増賃金、③年次有給休暇 第 10 回 ①産前産後休業、②育児・介護休業 第 11 回 ①雇用における差別の歴史、②セクシャルハラスメント 第 12 回 ①マタニティハラスメント、②パワーハラスメント 第 13 回 労働災害と労災保険制度 第 14 回 ①懲戒処分と自由と種類、②解雇と辞職 第 15 回 後半の復習とまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点)、期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 343			担当者	福田 忠弘
	地域研究特講			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。 【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。 【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了された質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際 NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008 年）				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2 回 世界の現状 1：キーワードから見る国際社会（1） 第 3 回 世界の現状 2：キーワードから見る国際社会（2） 第 4 回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について 第 5 回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容 第 6 回 国際社会の変容（3）：グローバリゼーション、コロナ、経済安全保障 第 7 回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？ 第 8 回 社会開発への視点（1）：NGO の活躍（1） 第 9 回 社会開発への視点（2）：NGO の活躍（2） 第 10 回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1） 第 11 回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2） 第 12 回 社会開発への視点（5）：国連と SDGs(1) 第 13 回 社会開発への視点（6）：国連と SDGs(2) 第 14 回 社会開発への視点（7）：地方自治体と SDGs 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 344			担当者	未定
	地方自治法			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 345			担当者	商経学科教員
	第一部・基礎演習			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習（ゼミナール）の基本的なあり方（運営・議論の仕方など）について学び、学生として必要な作法を身につける。 【概要】社会科学系の大学教育の要となるのは「ゼミナール」です。ゼミナールとは司会・報告・問題提起・議論といった対話型の授業であり、学生によって自発的に運営されます。基礎演習はゼミナールに参加する学生に求められる学問的な作法を身につける場です。具体的には、文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方等を学び、演習Ⅰから始まる専門的なゼミナールの予行演習ともいえます。また、学びの作法だけでなく、大学の歩き方（報告・連絡・相談の仕方、様々な窓口・施設での諸手続の仕方等）も身につけます。 【到達目標】基本的なゼミナールの運営について理解し、積極的に参加する姿勢を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(2)参考文献	(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習（予習・復習）	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 346			担当者	商経学科教員
	第一部・演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】報告・議論・レポート執筆等を通して、担当教員の専門性を活かしたテーマについて、参加メンバーと一緒に学ぶ。 【概要】基礎演習と同様に本演習も、学生が主体的に参加する対話型の授業であり、それぞれのゼミナールの専門的な基礎知識・基礎概念について、通常の講義よりもさらに一歩進んで理解を深める場です。必要に応じて、工場見学等の企業調査や研究のための合宿などの課外活動を実施することもあります。なお、演習 I・演習 II・卒業研究は同じゼミナールに継続して参加することになります。 【到達目標】ゼミナールのテーマに関する基礎知識・概念について正しく理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。 (2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 347			担当者	商経学科教員
	第一部・演習Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	2 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習Ⅰから引き続き担当教員の専門性を活かしたテーマについて学びながら、本学での学びの総まとめとなる卒業論文の準備をする。 【概要】演習Ⅱは、演習Ⅰの内容・講義形式を継続し、特定の専門分野についてさらに学びを進めます。テキストの読解やフィールドで見聞きした事象について表面的に理解するだけでなく、他の講義・実習科目などで学んだことも総動員しながら、事象の本質に迫るような学習が求められる場でもあります。そのような学習を通して、ゼミナールのテーマについての検討すべき問題点を整理し、卒業論文の執筆準備も進めていきます。 【到達目標】ゼミナールのテーマについての学習を通して、検討すべき問題を設定することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(2)参考文献	(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 348			担当者	商経学科教員
	第一部・卒業研究			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習Ⅰ，Ⅱを通して学んだテーマを踏まえて，各自で設定した問題について報告・議論を通して考察を深め，卒業論文を執筆する。 【概要】卒業研究は商経学科における学びの総決算です。演習Ⅰから継続して学んできたテーマにしたがって卒業論文を執筆します。卒業論文は短期間に一気に書き上げられるほど簡単なものではありません。演習Ⅰから継続してきた専門分野の学習を土台にして，設定した問題に関する文献を渉猟し，必要に応じてフィールドに出て調査することもあります。ゼミナールはその経過を報告し，相互に意見を交わしながら自分なりの答えを見つけ，論文にまとめる場です。 【到達目標】自ら設定した問題について，関連文献を渉猟し，調査・考察を重ねて，解答に迫ることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。 (2) ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため，担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため，担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが，個人の報告や出席状況，グループの中での役割や卒業論文などによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 349			担当者	担当教員
	社会活動			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	通年	2～4 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は、地域の非営利組織を中心とした研修先における社会的活動体験を通し、企画・運営能力を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。 【概要】地域の公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。地域の活動を主体的におこなう力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 350			担当者	担当教員
	企業研修			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	通年	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】インターンシップである「企業研修」は、地元民間企業を中心とした研修先において、就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、地域で働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年 4 月末から 6 月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つ。				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 351			担当者	岡村 雄輝
	簿記論Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ 【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学習を前提とした講義になります。 【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者同士で相互に教え合う問題演習の時間を設けています。また、毎回の講義においてGoogle フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘，片山寛，北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』（令和8年版），中央経済社。 (2) 田口聡志，廣瀬喜貴，澤井康毅，木村太一，澤田雄介（共）『簿記論15講』，新世社。				
授業 スケジュール	第 1 回 簿記一巡の手続きとは？：仕訳・転記・決算 第 2 回 売掛金と買掛金：人名勘定，売掛金と元帳と買掛金元帳，売掛金明細表と買掛金明細表，クレジット売掛金，前払金と前受金 第 3 回 その他の債権と債務：貸付金と借入金，未収入金と未払金，立替金と預り金，仮払金と仮受金，受取商品券，差入保証金 第 4 回 受取手形と支払手形：手形の意義と補助簿，手形貸付金と手形借入金，電子記録債権と債務 第 5 回 有形固定資産：有形固定資産の取得，減価償却，有形固定資産の売却 第 6 回 有形固定資産：固定資産台帳，年次決算と月次決算 第 7 回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れと貸倒損失，貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本：株式会社の設立と株主期の発行，繰越利益剰余金，配当 第 8 回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い，消耗品と貯蔵品，諸会費 第 9 回 税金：租税公課，法人税，住民税及び事業税，消費税 第10回 伝票：仕訳帳と伝票，3伝票制，伝票から帳簿への記入 第11回 伝票：伝票の集計 第12回 財務諸表：試算表の作成，決算整理 第13回 財務諸表：精算表の作成，財務諸表の作成 第14回 総合問題：問題演習と解説 第15回 総合問題：問題演習と解説				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 352			担当者	竹中 啓之
	経営管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】管理はすべての集団・組織において存在する職能です。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することと定義できます。従って経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能となります。またこの活動を行うのは経営者の役割です。この講義では、経営者が、効率的な組織運営のための工夫や、組織内部の関係者や組織外部の状況に効果的に対処する方法について講義していきます。 【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次回の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第 3 回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。 第 4 回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。 第 5 回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。 第 6 回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。 第 7 回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。 第 8 回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。 第 9 回 人的資源管理（2）：採用管理について説明する。 第 10 回 人的資源管理（3）：人事異動（初任配置・配置転換・昇進など）について説明する。 第 11 回 人的資源管理（4）：人材育成の基礎について説明する。 第 12 回 人的資源管理（5）：人材育成の「熟練」について考えていく。 第 13 回 人的資源管理（6）：人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。 第 14 回 リーダーの役割とは何か：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを考える。 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 353			担当者	近間 由幸
	労務管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について 【概要】 授業では、日本的雇用システムの下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。 【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、現代の企業に望ましい労働環境を考える思考力を身につけることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第7版）』有斐閣アルマ				
授業 スケジュール	第 1 回 イン트로ダクションー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について 第 2 回 労務管理とはなにか 第 3 回 雇用管理制度のしくみ 第 4 回 組織構造と職務内容 第 5 回 キャリア開発のしくみ 第 6 回 賃金管理制度のしくみ（1）一年功賃金とはなにか 第 7 回 賃金管理制度のしくみ（2）一職能給と職務給 第 8 回 人事評価制度のしくみ 第 9 回 福利厚生制度のしくみ 第 10 回 労働時間管理のしくみ 第 11 回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理 第 12 回 ダイバーシティ・マネジメント 第 13 回 労務管理と労働組合 第 14 回 労務管理の国際比較 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%）、筆記試験（70%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 354			担当者	根本 萌希
	管理会計論			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】管理会計の基礎 【概要】管理会計論は経営学と会計学を結ぶ実学的な学問領域です。本講義では、管理職に求められる意思決定への理解を深めることを目的としています。そのため、管理職を志向する学生に役立つ内容を管理会計論で学習していきます。 【到達目標】管理会計の基礎的な知識や技法を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	アクティブラーニングについては、協調学習、反転授業などを履修者の状況に併せて取り入れる予定です。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) レジューメ配布 James Jiambalvo (2022)『管理会計のエッセンス (原著第 7 版)』同文館出版 (2) 岡本清・尾畑裕・廣本敏郎・挽文子 (2008)『管理会計第 2 版』中央経済社 櫻井通晴 (2019)『管理会計第 7 版』同文館出版				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンスおよび管理会計の概観 第 2 回 CVP 分析 (1) 第 3 回 CVP 分析 (2) 第 4 回 活動基準原価計算 第 5 回 業務的意思決定 (1) 第 6 回 業務的意思決定 (2) 第 7 回 これまでのまとめおよび中間試験 第 8 回 中間試験フィードバックおよび顧客収益性分析 第 9 回 貨幣の時間価値 (1) 第 10 回 貨幣の時間価値 (2) 第 11 回 長期意思決定 (1) 第 12 回 長期意思決定 (2) 第 13 回 予算編成および予算管理 第 14 回 分権化および業績評価 第 15 回 講義のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習が必要				
成績評価の方法	中間試験 40%および期末試験 60%				
実務経験について	該当なし				

計算問題のある回では電卓が必要です。休講による補講や風水害等の場合は、オンライン授業をおこなう場合があります。

授業科目	授業番号： 355			担当者	劉 美玲
	原価計算			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】原価計算の基礎について学ぶ 【概要】原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。 【到達目標】原価計算の基礎的知識と技術の習得				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中 13 回程度、受講生が練習問題を解く時間を設けております。練習時間中、随時質問に解答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高橋賢『テキスト原価会計』（最新版）中央経済社 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識 第 2 回 原価の費目別計算 第 3 回 製造間接費の配賦 第 4 回 単純個別原価計算 第 5 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 1 第 6 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 2 第 7 回 中間テスト 第 8 回 単純総合原価計算 第 9 回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理 第 10 回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算 第 11 回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算 第 12 回 標準原価計算 1 第 13 回 標準原価計算 2 第 14 回 直接原価計算 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)				
実務経験について	なし				

会計学総論、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、管理会計論を受講済み、もしくは日商簿記３級を学習済みであることが望ましい。
 受講生の会計系履修済み科目の状況や学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	授業番号： 356			担当者	田原 武志
	経営学特講 I			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経営学を「生きる力」に変える：組織・家庭・人生をマネジメントし、豊かに生きる指針を学ぶ 【概要】本講義では、経営を「会社」という枠組みを超え、部活動、地域、家庭、そして「自らの人生」をより良く動かすための普遍的なマネジメント手法と定義します。実務経験に基づき、複雑な課題に対して「情報を収集し、論理を組み立て、自らの意志で決断する」プロセスを徹底的に伝授します。毎回の講義では、思考の限界に挑む達成感と成長を実感できる場を提供します。卒業後、困難に直面した際に必ず支えとなる、大学生活で最も記憶に残る講義となることを約束します。 【到達目標】社会のあらゆる場面で直面する課題に対し、マネジメント手法を活用して具体的な解決策を導き出し、周囲と協力して成果を出すための「思考力」と「判断力」を習得する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎週、講義内容に関連したレポート作成と発表、それに対する双方向のフィードバックを行います。徹底したアウトプットの繰り返しにより、編入試験や就職活動でも通用する高度な論理展開力と記述能力を磨きます。事実、例年の4年制大学編入合格者の多くが本講義でこの「思考の訓練」を積み、成果を出しています。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 前年度と同じ 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習が必要、毎週レポート提出あり。				
成績評価の方法	レポート発表 (60%) + 試験 (40%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 357			担当者	瀬口 毅士
	経営学特講Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会における多国籍企業の動向を知る 【概要】本講義では、新聞記事などの各種資料を使用しながら、現代社会における企業の動向について考察することが目的です。特に、われわれの経済・社会に多大な影響を与えている多国籍企業と、その市場戦略に焦点を合わせていきます。授業では、リアクションペーパーや各種ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。 【到達目標】多国籍企業の現代的特徴を理解する。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などの企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	新聞記事など資料の読み解きを講義の中核とすることで、学生さんが主体的に学ぶ機会を作ります。また、リアクションペーパーを活用することで双方向の授業を目指します。さらに、個人でのワークまたはグループワークによって自分の考えをまとめたり発信できことを目的とします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。 第 3 回 現代企業の動向（1）：各種資料の読み解きを通じて、現代企業の実例を知る。 第 4 回 現代企業の動向（2）：各種資料の読み解きを通じて、現代企業の実例を知る。 第 5 回 多国籍企業の活動（1）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。 第 6 回 多国籍企業の活動（2）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。 第 7 回 市場戦略の現代的特徴：現代企業における市場戦略の重要性とその特徴を講義する。 第 8 回 企業の市場戦略（1）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。 第 9 回 企業の市場戦略（2）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。 第 10 回 多国籍企業の市場戦略（1）：各種資料を用いて、多国籍企業の市場戦略について理解する。 第 11 回 多国籍企業の市場戦略（2）：各種資料を用いて、多国籍企業の市場戦略について理解する。 第 12 回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。 第 13 回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について解説する。 第 14 回 現代社会と多国籍企業：各種資料によって、社会と多国籍企業との結びつきを検討する。 第 15 回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（60%）＋資料の読み解きなどのワーク（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 358			担当者	竹中 啓之
	情報管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。 【概要】この授業では、情報とはそもそもどのようなものなのかについて考える。そのため、情報の特性、情報が重要である意味、情報を理解する際の注意点など、「情報の扱い方・読み解き方」について講義する。情報機器を扱う技能やスキル等を取り上げることとはしないが、情報を扱う際に重要だと思われる概念や考え方について、社会科学的な視点から捉えられるような知識や手法を説明し、現在の情報社会のあり方についても考える。 【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーの考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次回の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。 第 3 回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。 第 4 回 情報社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。 第 5 回 情報リテラシーについて（1）：情報リテラシーの概要について説明する。 第 6 回 情報リテラシーについて（2）：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。 第 7 回 情報リテラシーについて（3）：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。 第 8 回 メディアの歴史について（1）：各種メディアについて理解を深める（新聞～テレビ）。 第 9 回 メディアの歴史について（2）：各種メディアについて理解を深める（テレビ～ネット）。 第 10 回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。 第 11 回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。 第 12 回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。 第 13 回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。 第 14 回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 359			担当者	宗田 健一
	会計情報論			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等で対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】会計情報の作成方法，伝達方法，利用方法を知る 【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について，その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。各種分析手法（成長性，収益性，安全性）について学習し，個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際，『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。 【到達目標】会計情報の作成，伝達，利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	各自で，興味関心のある上場会社について調べていただきます。講義中に実施した財務諸表分析の結果を用いて，他の学生とディスカッションしていただきます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 随時紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：履修登録確認，講義計画に関する説明 第 2 回 会計情報の利用者：利害関係者，会計情報の入手方法（EDINET の使い方，アニュアルレポートの入手等） 第 3 回 有価証券報告書：全体像，記載内容の確認，分析対象企業の絞り込み 第 4 回 会計学と財務情報・非財務情報について 第 5 回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA，ROE など） 第 6 回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など） 第 7 回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など） 第 8 回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など） 第 9 回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点，長期的視点など） 第 10 回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①） 第 11 回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②） 第 12 回 時系列分析（2社以上） 第 13 回 同業他社比較分析（2社以上） 第 14 回 学生による分析報告とディスカッション 第 15 回 まとめ：レポート試験の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。毎回，宿題を課します。				
成績評価の方法	中間レポート 40%，期末レポート 60%				
実務経験について	なし				

会計学総論，簿記論，財務会計論を履修した者，履修中の者が望ましい。

授業科目	授業番号： 360			担当者	瀬口 毅士
	経営戦略論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する 【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、企業の具体例を適宜紹介することで、内容に関する理解を深めるとともに、現代社会における経営戦略に関する思考力や判断力を涵養します。 【到達目標】経営戦略論の基本概念やそれらの関係性について知る。講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報を理解できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回のリアクション・ペーパーによって、学んだ内容をまとめたり、分からないところを質問する機会を設けます。また、優れた感想や寄せられた質問を皆の前で取り上げ、具体例を挙げながらフィードバックすることで、質問をしていない学生さんも一緒に考えられる機会を設けます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第 3 回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。 第 4 回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例に基づき規模の経済と範囲の経済を説明する。 第 5 回 垂直統合と水平統合、垂直分業と水平分業：統合と分業について解説する。 第 6 回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に講義する。 第 7 回 M&A と戦略的提携（1）：実例を紹介しながら、M&A について解説する。 第 8 回 M&A と戦略的提携（2）：実例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。 第 9 回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。 第 10 回 PPM（1）：全社的視点から、経営資源の配分について考える。 第 11 回 PPM（2）：PPM のメリットとデメリットについて知る。 第 12 回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要と 2 つのアプローチを紹介する。 第 13 回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に講義する。 第 14 回 資源ベース・アプローチ：資源ベース・アプローチの各学説について説明する。 第 15 回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。				
授業外学習 （予習・復習）	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（90%）＋リアクション・ペーパーや授業に臨む姿勢など（10%）				
実務経験について	なし				

個人のワークにするかグループワークにするかについては、受講人数や受講者の希望に応じて決定します。

授業科目	授業番号： 361			担当者	岡村 雄輝
	財務会計論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】財務会計のルールと基礎概念を理解する 【概要】簿記論では技術的な学習が中心でしたが、本科目は企業が営む主要な活動に焦点を当てて、その結果が財務諸表へと集約される過程を説明し、現代社会のなかで複式簿記を基礎とする会計という計算制度の果たしている役割を学習します。さらに一歩進んで、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行う方法についても解説します。※簿記論の学修を前提とした講義になります。 【到達目標】各企業の採用している会計方法の違いが財務諸表にいかなる影響を与えるか、さらには、そうした会計方法を採用した理由・背景などにも関心を向けて欲しい。				
学生の主体的・対話的な学び	グループワーク、プレゼンテーションの時間を設けています。また、毎回の講義において Google フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（第 19 版）、有斐閣 桜井久勝『財務会計講義』（第 27 版）、中央経済社。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：会計のイメージと実像 第 2 回 会計の種類と役割：財務会計の社会的位置づけ 第 3 回 財務会計のシステムと基本原則：損益計算と資産評価のルール 第 4 回 企業の設立と資金調達：必要な資金をどう調達するか 第 5 回 仕入と生産活動：営業活動のスタートは仕入と生産 第 6 回 販売活動：売上の測定と代金回収 第 7 回 設備投資と研究開発①：有形固定資産 第 8 回 設備投資と研究開発②：研究開発と無形固定資産 第 9 回 資金の管理と運用：本業をサポートする資金運用活動 第 10 回 国際活動：外貨表示額を日本円に換算する 第 11 回 税金と配当：確定決算主義と余剰金の配当 第 12 回 財務諸表の作成と公開：会計情報の内容と意味 第 13 回 企業集団の財務報告：グループ全体を統合した情報 第 14 回 財務諸表による経営分析：会計情報の利用法 第 15 回 まとめ：あらためて会計とはなにか？				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。				
成績評価の方法	中間レポート 30%＋期末レポート 70%				
実務経験について	なし				

簿記論Ⅰ，Ⅱを受講済み、あるいは同等の学習歴がなければ十全な理解には至らない。

授業科目	授業番号： 362			担当者	瀬口 毅士
	マーケティング論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ 【概要】マーケティングとは、モノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。また、グループ・ワークを取り入れることで、思考力や判断力を深めていきます。 【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得することで、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、2～3 回のグループワークを通じて、具体的な商品について、マーケティング論で学んだ観点からの分析、他の学生との議論とそのまとめ、皆の前での発表などの主体的な学びを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 イン트로ダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3 回 グループ・ワーク（1）：身近な商品について考えてみよう。 第 4 回 標的市場の選択：STP について解説する。 第 5 回 消費者行動分析：消費者の購買行動について理解を深める。 第 6 回 競争分析：企業間競争の構造分析の方法を知る。 第 7 回 グループ・ワーク（2）－1：STP についてグループで話し合う。 第 8 回 グループ・ワーク（2）－2：前回の議論をまとめ、皆の前で発表する。 第 9 回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。 第 10 回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第 11 回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。 第 12 回 流通戦略（2）：チャネル管理と SCM について解説する。 第 13 回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを講義する。 第 14 回 ブランド戦略：ブランド構築やブランド管理について考える。 第 15 回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 363			担当者	近間 由幸
	流通論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える 【概要】授業では、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、日本の小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われた現代の流通における課題について検討する。 【到達目標】現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身に付け、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられる思考力を身につけることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 矢作敏行『コマースの興亡史 商業倫理・流通革命・デジタル破壊』日本経済新聞出版				
授業 スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨナー流通を取り巻く経済環境 第 2 回 流通とはなにか 第 3 回 日本の欧米化と百貨店の誕生 第 4 回 高度経済成長と総合スーパー 第 5 回 食品スーパーの革新性 第 6 回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア（CVS） 第 7 回 ディスカウント・ストアの低価格戦略 第 8 回 専門量販店の台頭 第 9 回 ショッピングセンターの商業集積 第 10 回 インターネット技術と電子商取引（EC） 第 11 回 流通構造の変化と小売業態 第 12 回 小売・流通における労働問題（1）一物流危機とトラックドライバー 第 13 回 小売・流通における労働問題（2）一接客販売業の働き方 第 14 回 現代流通と消費行動の変化 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%）、期末レポート（70%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 364			担当者	倉重 賢治
	経営工学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】企業などにおける運營業務の科学化 【概要】現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。 【到達目標】企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 序論：経営工学とは 第 2 回 生産スケジュールリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか 第 3 回 生産スケジュールリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか 第 4 回 工程編成：均等に作業を割り当てるには 第 5 回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第 6 回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第 7 回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第 8 回 モデルの定式化：各種問題を数式で表現する 第 9 回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値 第 10 回 投資計画 2：プロジェクトの価値 第 11 回 在庫問題：在庫コストを少なくする 第 12 回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第 13 回 最短経路：一番近い道を探す 第 14 回 配送計画：配達順序を決める 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 365			担当者	倉重 賢治
	応用データ活用			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理 【概要】この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。 【到達目標】・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 広野忠敏,『Access 基本&活用マスターブック』株式会社インプレス (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：テーブルの作成 第 4 回 Access の操作：クエリの作成 第 5 回 Access の操作：フォームの作成 第 6 回 Access の操作：レポートの作成 第 7 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 8 回 Access の操作：クエリによる複雑な条件設定 第 9 回 Access の操作：まとめ 第 10 回 Excel による統計処理：基本統計量 第 11 回 Excel による統計処理：正規分布 第 12 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 13 回 Excel による統計処理：カイ 2 乗検定 第 14 回 Excel による統計処理：比率の推定と差の検定 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 366			担当者	倉重 賢治
	プログラミング			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】VBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラミング 【概要】プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。 【到達目標】・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) たてばやし淳,『ExcelVBA 塾』マイナビ出版 (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：マクロについて 第 3 回 VBA の利用：セルの操作 第 4 回 VBA の利用：演算と変数 第 5 回 VBA の利用：繰り返し（1） 第 6 回 VBA の利用：繰り返し（2） 第 7 回 VBA の利用：最終行の取得 第 8 回 VBA の利用：条件分岐（1） 第 9 回 VBA の利用：条件分岐（2） 第 10 回 VBA の利用：関数の利用 第 11 回 VBA の利用：データ抽出 第 12 回 VBA の利用：シートの操作 第 13 回 VBA の利用：ファイルの操作 第 14 回 VBA の利用：実用マクロ 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題（50%）＋期末試験（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 367			担当者	成宮 広理
	簿記論Ⅲ			授業外対応	授業終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 日商簿記検定 2 級合格を目標とした商業簿記の基礎力養成 【概要】 日本商工会議所主催簿記検定（日商簿記検定）2 級は、商業簿記と工業簿記の 2 つの受験科目から構成されている。この講義では、そのうちの商業簿記を中心に学習する。 講義の方法としては、教科書を中心に商業簿記に対する理解を深め、その後、問題演習を行い実践的な力を養成する。その際、事前学習（予習）と事後学習（復習）を行い、講義に参加することが重要となる。 【到達目標】 企業の取引を正確に記録・整理する能力を身につけ、財務諸表を通じて企業活動の全体像を把握する。また、会計情報が経営判断にどのように活用されるかを理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	小テストや問題演習を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 滝澤ななみ 『みんなが欲しかった！簿記の教科書 日商 2 級商業簿記 第 14 版』TAC 出版 1,650 円（税込） 滝澤ななみ 『みんなが欲しかった！簿記の問題集 日商 2 級商業簿記 第 14 版』TAC 出版 1,650 円（税込） 最新の版を使用します。 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 簿記一巡の手續と財務諸表 第 2 回 現金預金と債権の譲渡、手形 第 3 回 有価証券、その他の債権・債務 第 4 回 商品売買 第 5 回 固定資産 第 6 回 引当金、収益と費用 第 7 回 株式会社の純資産（資本） 第 8 回 税金、税効果会計 第 9 回 決算：決算整理，帳簿決算手續 第 10 回 決算：製造業における決算 第 11 回 決算：財務諸表の作成 第 12 回 決算：精算表 第 13 回 まとめ確認テストと解説 第 14 回 リース会計，外貨建取引 第 15 回 本支店会計，連結会計				
授業外学習 (予習・復習)	【事前学習】 講義の該当箇所を教科書で確認し、不明点を明らかにすること。 【事後学習】 講義で勉強した内容について練習問題を解くこと。その際、理解できているのか確認し、理解できないところは次回の講義時に質問すること。				
成績評価の方法	「授業ごとに実施する小テスト等（50 点）＋定期試験（50 点）」				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 368			担当者	岡村 俊彦
	情報論特講			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。 【概要】ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト（エクセル）などを用いての実用的なデータ解析手法の学習を行う。 【到達目標】実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	前半は PC の分解・組み立てを各自でおこない、主体的な学びとする。後半はネットワークの設定、PC の実習を中心に自ら考えて実践的な学びをおこなう。また学生からの ICT に関わる質問に対する解説をおこない、対話的な学びにつなげる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」およびプリント (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2 回 ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア、ソフトウェアの解説 第 3 回 コンピュータの内部部品 1：CPU とメモリの解説 第 4 回 コンピュータの内部部品 2：ストレージと光学ドライブの解説 第 5 回 コンピュータの内部部品 3：ノート PC の内部 第 6 回 インターネットとネットワーク 1：TCP/IP の設定 第 7 回 インターネットとネットワーク 2：ルーターの役割と設定 第 8 回 表計算ソフトの活用 1：差し込み印刷 第 9 回 表計算ソフトの活用 2：ウェブクエリ 第 10 回 表計算ソフトの活用 3：並べ替えとフィルター 第 11 回 表計算ソフトの活用 4：ピボットテーブル 第 12 回 表計算ソフトの活用 5：関数の活用 1 第 13 回 表計算ソフトの活用 6：関数の活用 2 第 14 回 表計算ソフトの活用 7：関数の活用 3 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポートと授業中のおこなう課題を総合的に評価				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 369			担当者	商経学科教員
	第一部・基礎演習			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習（ゼミナール）の基本的なあり方（運営・議論の仕方など）について学び、学生として必要な作法を身につける。 【概要】社会科学系の大学教育の要となるのは「ゼミナール」です。ゼミナールとは司会・報告・問題提起・議論といった対話型の授業であり、学生によって自発的に運営されます。基礎演習はゼミナールに参加する学生に求められる学問的な作法を身につける場です。具体的には、文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方等を学び、演習Ⅰから始まる専門的なゼミナールの予行演習ともいえます。また、学びの作法だけでなく、大学の歩き方（報告・連絡・相談の仕方、様々な窓口・施設での諸手続の仕方等）も身につけます。 【到達目標】基本的なゼミナールの運営について理解し、積極的に参加する姿勢を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(2)参考文献	(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習（予習・復習）	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 370			担当者	商経学科教員
	第一部・演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】報告・議論・レポート執筆等を通して、担当教員の専門性を活かしたテーマについて、参加メンバーと一緒に学ぶ。 【概要】基礎演習と同様に本演習も、学生が主体的に参加する対話型の授業であり、それぞれのゼミナールの専門的な基礎知識・基礎概念について、通常の講義よりもさらに一歩進んで理解を深める場です。必要に応じて、工場見学等の企業調査や研究のための合宿などの課外活動を実施することもあります。なお、演習 I・演習 II・卒業研究は同じゼミナールに継続して参加することになります。 【到達目標】ゼミナールのテーマに関する基礎知識・概念について正しく理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。 (2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 371			担当者	商経学科教員
	第一部・演習Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	2 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習Ⅰから引き続き担当教員の専門性を活かしたテーマについて学びながら、本学での学びの総まとめとなる卒業論文の準備をする。 【概要】演習Ⅱは、演習Ⅰの内容・講義形式を継続し、特定の専門分野についてさらに学びを進めます。テキストの読解やフィールドで見聞きした事象について表面的に理解するだけでなく、他の講義・実習科目などで学んだことも総動員しながら、事象の本質に迫るような学習が求められる場でもあります。そのような学習を通して、ゼミナールのテーマについての検討すべき問題点を整理し、卒業論文の執筆準備も進めていきます。 【到達目標】ゼミナールのテーマについての学習を通して、検討すべき問題を設定することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(2)参考文献	(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 372			担当者	商経学科教員
	第一部・卒業研究			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習Ⅰ，Ⅱを通して学んだテーマを踏まえて，各自で設定した問題について報告・議論を通して考察を深め，卒業論文を執筆する。 【概要】卒業研究は商経学科における学びの総決算です。演習Ⅰから継続して学んできたテーマにしたがって卒業論文を執筆します。卒業論文は短期間に一気に書き上げられるほど簡単なものではありません。演習Ⅰから継続してきた専門分野の学習を土台にして，設定した問題に関する文献を渉猟し，必要に応じてフィールドに出て調査することもあります。ゼミナールはその経過を報告し，相互に意見を交わしながら自分なりの答えを見つけ，論文にまとめる場です。 【到達目標】自ら設定した問題について，関連文献を渉猟し，調査・考察を重ねて，解答に迫ることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。 (2) ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため，担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため，担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが，個人の報告や出席状況，グループの中での役割や卒業論文などによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 373			担当者	担当教員
	社会活動			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	通年	2～4 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は、地域の非営利組織を中心とした研修先における社会的活動体験を通して、企画・運営能力を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。 【概要】地域の公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。地域の活動を主体的におこなう力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 374			担当者	担当教員
	企業研修			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	通年	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】インターンシップである「企業研修」は、地元民間企業を中心とした研修先において、就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、地域で働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年 4 月末から 6 月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つ。				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 375			担当者	福田忠弘 他
	人間と文化			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	夏期集中	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会・自然諸科学の多岐にわたる分野から考察する。 【概要】県立短期大学3学科の教員7名が、それぞれの専門分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を異なる角度から考察する。7日間の集中した期間に多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待する。 県内大学等のコーディネート科目であり、他大学等の学生も受講する。 【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント資料配布 (2) 必要に応じて授業で指示				
授業 スケジュール	第 1 回 書くという行為：記憶の共有化と客観化 (岡村(雄)) 第 2 回 計算という行為：論証から説得へ (岡村(雄)) 第 3 回 世界の森林と木材利用 (前田) 第 4 回 日本の森林・林業の現状 (前田) 第 5 回 小さな起業で生きていく (矢野) 第 6 回 「デザイン経営」を知る (矢野) 第 7 回 住空間と文化(1) 近世と現代 (田野) 第 8 回 住空間と文化(2) 近代と現代 (田野) 第 9 回 体育・スポーツ・健康と文化(1) スポーツとは (浜田) 第10回 体育・スポーツ・健康と文化(2) 健康とは (浜田) 第11回 日本の「唱歌」 その歴史と表現 (竹本) 第12回 日本の「童謡」 その歴史と表現 (竹本) 第13回 異文化コミュニケーション入門—文化摩擦はなぜ起こるのか (石井) 第14回 異文化コミュニケーション実践—グローバル時代の文化適応 (石井) 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート2つ(85%) と毎回の授業受講状況 (15%)				
実務経験について					

授業の日程は変更となる場合があります。

授業科目	授業番号： 376			担当者	永山 修一
	日本の歴史			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2,3 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】原始～中世前期の「日本の歴史」 【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島に生活した人々の姿を、急速な研究の深化が見られる考古～中世の範囲で、なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。 【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ、歴史的な思考力について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	講義毎に、興味関心を持った内容について、感想や質問事項を記し（ミニレポート）、それに対して次時に講師が回答することで、興味関心をより深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業時に配布（プリント） (2) 『鹿児島県の歴史』（山川出版社，1999 年）原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一				
授業 スケジュール	第 1 回 歴史の見方 第 2 回 資料と史料（文献） 第 3 回 資料と史料（遺物） 第 4 回 資料と史料（遺構） 第 5 回 旧石器時代・縄文時代 第 6 回 弥生時代 第 7 回 古墳時代 第 8 回 神話と伝承 第 9 回 隼人と律令制度(1) 第 10 回 隼人と律令制度(2) 第 11 回 平安時代の薩摩・大隅（1） 第 12 回 平安時代の薩摩・大隅（2） 第 13 回 奄美諸島の歴史(1) 第 14 回 奄美諸島の歴史(2) 第 15 回 鹿児島の芸能とまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	特にはなし				
成績評価の方法	授業時毎の小レポート（60%） レポート（40%）				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 377			担当者	竹本 寛秋
	日本文学・近代			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2,3 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本近代文学を多様な角度から考える 【概要】日本近代の小説・詩などの文学テキストを、様々な観点から読み解きます。様々な観点から文学テキストを読むことで、小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、現代に生きる私達自身の問題として考える能力を身につけます。 ※対象とする小説作品は変更の可能性がある。 【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。 現代の社会や文化について、相対的に考え、自己の考えを形成する。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回リアクションペーパーに記入してもらい、その内容に毎回教員がコメントをつけて応答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 梶井基次郎「檸檬」 第 3 回 結核の時代と文学 第 4 回 芥川龍之介「蜜柑」 第 5 回 科学技術と文学 第 6 回 中島敦「マリヤン」 第 7 回 日本の国境と日本文学 第 8 回 前半のまとめ 第 9 回 萩原朔太郎「猫町」 第 10 回 心理学と文学 第 11 回 宮澤賢治「猫の事務所」 第 12 回 原稿、草稿と文学 第 13 回 太宰治「葉桜と魔笛」 第 14 回 「語り」からテキストを読み解く 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	対象テキストの精読と検討。				
成績評価の方法	毎回のミニレポート（40%）、レポート（60%）				
実務経験について	なし				

（注）隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 378			担当者	未定
	こころの科学			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 379			担当者	陳 躍
	比較文化			授業外対応	メー ル 対 応 (chenyue0205@yahoo.co.jp)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！） 【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。 会話パターンの日中相違、接し方の日中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、 【到達目標】1 中国社会を知る。2 中国人を知る。3 日本人と中国人との相違を知る。4 「日本人」に関して再度認識する				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布 (2) 陳 躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）				
授業 スケジュール	第 1 回 空気を読まない中国人と空気を読む日本人 第 2 回 初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人 第 3 回 店員が神様である中国と客が神様である日本 第 4 回 イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人 第 5 回 家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人 第 6 回 向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人 第 7 回 なれなれしい中国人とよそよそしい日本人 第 8 回 中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」 第 9 回 「かまわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人 第 10 回 無責任なことをかかると言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人 第 11 回 その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人 第 12 回 喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人 第 13 回 核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人 第 14 回 傍若無人な中国人と人の目ばかり気にする日本人 第 15 回 相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人				
授業外学習 (予習・復習)	プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。				
成績評価の方法	授業への参加態度（60%）、レポート（40%）。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 380			担当者	カムチャイ・ライサミ
	アジア文化論			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2,3 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】アジア文化のダイナミクス アジア文化は多様性に富んでいる。文化とは何か。アジア文化の起源、変容、比較を明らかにする。 【概要】アジア文化は世界文化の一大拠点を成している。アジアの自然や宗教などがどのようにアジア文化を育み、現代の政治・経済・社会にどのように影響を与えるか、実例を交えながら講義する。 【到達目標】アジアの自然と主要宗教を展望し、アジア文化の多様性が理解できること。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。 (2) 必要に応じてその都度指示する。				
授業 スケジュール	第 1 回 アジア文化の多様性 第 2 回 文化と自然・風土 第 3 回 文化と生活 第 4 回 文化と経済 第 5 回 文化と政治・情報 第 6 回 儒教・道教の文化 第 7 回 仏教文化 第 8 回 イスラム教文化 第 9 回 インドの宗教文化 第 10 回 アジア比較文化Ⅰ：日本と韓国 第 11 回 アジア比較文化Ⅱ：中国とベトナム 第 12 回 アジア比較文化Ⅲ：タイとミャンマー 第 13 回 アジア比較文化Ⅳ：フィリピンとシンガポール 第 14 回 アジア比較文化Ⅴ：マレーシアとインドネシア 第 15 回 アジア比較文化Ⅵ：インドとサウジアラビア				
授業外学習 (予習・復習)	授業前後に必ず合計で 4 時間程度の予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法	期末筆記試験（100％）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 381			担当者	田口 康明
	日本国憲法			授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的人権を中心とした日本国憲法に理解。 【概要】 教員、公務員、会社員その他の職業に就くにせよ社会制度の多くは法によって定められている。その根本はいうまでもなく憲法である。どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、人権を主にとりあげそれらの歴史的、社会的背景をもとりあげることとする。 【到達目標】 憲法が存在する意義について理解できる。 日本国憲法の構造（人権）について理解できる。 現実の問題について自分なりの見解をまとめることができる。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 特に定めない (2) 授業内で随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方 第 2 回 憲法とは何か 立憲主義を考える。 第 3 回 日本国憲法の誕生 憲法の制定過程について学ぶ。 第 4 回 国民主権と象徴天皇制 国民主権の意義や象徴天皇制を考える。 第 5 回 憲法 9 条と平和主義（その 1） 憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。 第 6 回 憲法 9 条と平和主義（その 2） 憲法 9 条をめぐる裁判等を検討する。 第 7 回 基本的人権（基本的人権とは） 憲法で基本的人権が保障されている意義を考える。 第 8 回 基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界） 自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。 第 9 回 基本的人権（包括的基本権） 憲法 13 条の幸福追求権について考える。 第 10 回 基本的人権（自由権 その 1） 内面の自由について考える。 第 11 回 基本的人権（自由権 その 2） 人身の自由と経済的自由権について考える。 第 12 回 基本的人権（社会権 その 1） 生存権について考える。 第 13 回 基本的人権（社会権 その 2） 教育を受ける権利、勤労の権利について考える。 第 14 回 基本的人権（参政権）、国民の義務 選挙権などの参政権と、国民の義務について考える。 第 15 回 これまでのまとめと補足				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	原則、最終試験（公務員試験レベルの択一問題）によって評価するが、小レポートを課した場合、それも評価に加える。評価割合は、授業内にて示す。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 382			担当者	担当教員
	キャリアデザイン			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	1 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】2 年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。 【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。 【到達目標】8 回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。				
学生の主体的・対話的な学び	適宜紹介				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ◆5月14日（水）（特設時間を利用） 第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは ◆6月11日（水）（特設時間を利用） 第2回 自己分析 志望動機 ◆7月9日（水）（特設時間を利用） 第3回 企業研究の必要性和そのやり方 ◆9月17日（木）3限 第4回 企業が求める人材 1 ◆9月17日（木）4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月15日（水）（特設時間を利用） 第6回 働いて「困った」への対応方法 ◆11月6日（水）（特設時間を利用） 第7回 これから働くあなたへのメッセージ (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出（100%）				
授業外学習 （予習・復習）					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 383			担当者	小野 祥子
	ライフプランニング			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】将来の生活を見据え、仕事・お金・人生の選択を主体的に考える 【概要】今後の生活を見据え、仕事・収入・支出・資産形成などについて総合的に考える。公的機関が作成した教材をメインに用いて基礎的な仕組みを理解し、身近な事例や演習を通して将来の選択肢を整理し、自分なりのライフプランを描く力を養う。 専門的な数式や理論には立ち入らず、今後の生活に活かせる基礎的な考え方の習得を目的とする。 【到達目標】将来の仕事・生活・お金に関する基本的な仕組みを理解し、自身のライフプランを論理的に整理できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	身近な事例やワークを通して学生自身が考え、意見を整理する機会を各回 1 回程度設ける。個人での記述や少人数での意見交換を取り入れ、他者の考えに触れながら、自らの将来や生活について主体的に考える力を養う。 各回でいただいた質問は、次回の授業で解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト □金融経済教育推進機構 (J-FLEC) 『大学生のための人生とお金の知恵』(メインテキスト) □日本 FP 協会 『学生生活マネー&キャリア』(ワーク用) □プリント配布 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：人生とお金を考える□「大学生が人生とお金を考える意義」 第 2 回 人生は選択の連続□「人生の選択とライフイベント」 第 3 回 働くこととキャリアの考え方□「働くことの意味」「キャリアと収入の関係」 第 4 回 収入の仕組みと将来の見通し□「収入の種類」「学生から社会人への変化」 第 5 回 給料から引かれるお金□「税金の基本」「社会保険の役割」 第 6 回 生活費と家計管理□「家計管理の基本」「支出の内訳」 第 7 回 貯蓄とお金の管理□「貯蓄の目的と考え方」 第 8 回 お金の価値と経済環境□「金利」「物価」「お金の価値」 第 9 回 はじめての資産形成□「資産形成の基本」「長期的な視点」 第 10 回 お金のトラブルと判断ミス□「金融トラブル」「契約時の注意点」 第 11 回 リスクと保険の考え方□「リスクへの備え」「保険の基本的な役割」 第 12 回 結婚・家族とお金□「家族構成と家計」「ライフイベント別の支出」 第 13 回 住まいと生活設計□「住まいにかかるお金」「住宅費の考え方」 第 14 回 長い人生と将来への備え□「老後の生活」「年金の考え方」 第 15 回 まとめ□全体の振り返り□学びの整理				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	各回 (出席・感想・質問提出) 50%、筆記試験 50%				
実務経験について	□保険代理店・金融機関勤務経験あり □ライフプラン講師 (一般社会人・企業研修) □マネー・キャリア講師 (小学校～大学) □FP 2・3 級資格取得講座講師 □証券外務員二種講師				

授業科目	授業番号： 384			担当者	井村 隆介, 渡辺 俊介, 浅海 真弓 岡村 雄輝
	環境問題			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を異なる視角から考える 【概要】自然史（井村），森林科学（渡部），生活科学（浅海），経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える。 【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 國部克彦（編集），神戸 CSR 研究会（編集）『CSR の基礎』，中央経済社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等 第 2 回 鹿児島県の自然史（1）鹿児島と気候変動 第 3 回 鹿児島県の自然史（2）鹿児島の地震と火山 第 4 回 鹿児島県の自然史（3）鹿児島の植生史 第 5 回 鹿児島県の自然史（4）鹿児島の自然と人 第 6 回 森林の科学（1）：植物の定義 第 7 回 森林の科学（2）：陸上生態系の構造と機能 第 8 回 森林の科学（3）：生物種間の競争と多種共存 第 9 回 生活科学（1）：衣生活と環境問題（衣服廃棄・リサイクルの現状と課題） 第 10 回 生活科学（2）：食生活と環境問題（食品ロスの現状と課題） 第 11 回 生活科学（3）：環境に配慮した生活（私たちの生活の中でできる取り組み） 第 12 回 経済社会（1）：企業と公害 第 13 回 経済社会（2）：企業と公害 第 14 回 経済社会（3）：企業と地球環境 第 15 回 経済社会（4）：企業と地球環境				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	各教員の課題（20～30 点満点）×4＝100 点とする				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 385			担当者	野田 ゆり子
	英語 I (A)			授業外対応	授業前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】身近なテーマで学ぶアカデミック・イングリッシュ 【概要】本授業では、ニュースでよく取り上げられているテーマの平易な英文を読み、内容を理解した上で、こうしたテーマについて自分で考え、発信する力を養うことを目標としています。主としてリーディングを中心としますが、ディスカッションやプレゼンテーションなども行い、自分自身がどう思うか、なぜそう思うかを英語で説明できるようにします。 【到達目標】平易な英文を読んで理解し、扱うテーマに基づいてグループ・プレゼンテーションを行うことで、読解力と発信力を向上させる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回グループワークを行い、授業後半ではグループ・プレゼンテーションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Clive Langham. Steps to Academic English: Basic. Asahi Press. (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Unit1: The Most Livable Cities in the World (前半) 第 2 回 Unit1: The Most Livable Cities in the World (後半) 第 3 回 Unit2: Which Is the Happiest Country in the World? (前半) 第 4 回 Unit2: Which Is the Happiest Country in the World? (後半) 第 5 回 Unit3: Zero Waste (前半) 第 6 回 Unit3: Zero Waste (後半) 第 7 回 Unit4: How Do Fashion Choices Affect the Environment? (前半) 第 8 回 Unit4: How Do Fashion Choices Affect the Environment? (後半) 第 9 回 Unit7: How to Boost Your Wellbeing (前半) 第 10 回 Unit7: How to Boost Your Wellbeing (後半) 第 11 回 Unit13: Overtourism (前半) 第 12 回 Unit13: Overtourism (後半) 第 13 回 Presentation Preparation1 第 14 回 Presentation Preparation2 第 15 回 Group Presentation				
授業外学習 (予習・復習)	予習：テキストに出てくる単語を調べておく、小テスト勉強 復習：小テストで間違った部分を見直しておく その他：プレゼンテーション準備				
成績評価の方法	授業参加（授業での発言内容）が 30%、小テストが 40%、プレゼンテーションが 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 386			担当者	ジェイムズ・マレー
	英語 I (B)			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course to practice basic English skills. 基本的な英語スキルを練習するためのコースです。 【概要】 This course covers basic English skills such as Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension. This everyday English is useful for work, shopping, travel, etc. リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、理解力といった基本的な英語スキルを学びます。この日常的な英語は、仕事、買い物、旅行などに役立ちます。 【到達目標】 To reinforce basic English and communicate confidently. 基礎的な英語力を強化し、自信を持ってコミュニケーションをとる目的です。				
学生の主体的・対話的な学び	Students do group conversations, pair activities, and dialogue roleplay to memorize what they learn. 学生たちはグループでの会話、ペアでの活動、そして対話のロールプレイを行い、学んだ内容を記憶します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English Firsthand 1 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction 概要説明, Conversation Practice 簡単な会話 第 2 回 Unit 1: Meeting People; Personal Information 個人情報; sensitive 敏感 第 3 回 Unit 1: Using Simple Present; Hobbies and Interests 趣味; (Least) Favorite 一番好き・きらい 第 4 回 Unit 2: Describing People; Talking about Family 家族; a pain めんどくさい 第 5 回 Unit 2: Using Simple Present (Be vs. Have); Appearance Adjectives 形容詞; a pleasure 喜び 第 6 回 Unit 3: Describing Routines and Schedules 日常の習慣, Picky 好き嫌が多い 第 7 回 Unit 3: Using Adverbs of Frequency: Always, Often, Sometimes, Hardly, Never 頻度 第 8 回 Test (1) 試験 第 9 回 Unit 4: Talking about Locations 場所の説明; ~hard 一生懸命～ 第 10 回 Unit 4: Using Prepositions 前置詞; prefer ～の方が好き 第 11 回 Unit 5: Giving Directions 道案内; rather ～の方がしたい 第 12 回 Unit 5: Using To, At, From, On, In; Using Imperative Verbs 動詞と前置詞を合わせる 第 13 回 Unit 6: Talking about Past Events 前の経験; Thanks for 感謝する 第 14 回 Unit 6: Using Past Tense; Using Irregular Verb 不規則動詞; Thanks to ～のおかげ 第 15 回 Review まとめ; Quiz クイズ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Test 試験 50%, Quiz クイズ 25%, Homework 宿題 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 387			担当者	野田 ゆり子
	英語Ⅱ（A）			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 388			担当者	ジェイムズ・マレー
	英語Ⅱ（B）			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course to practice basic English skills. 基本的な英語スキルを練習するためのコースです。 【概要】 This course covers basic English skills such as Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension. This everyday English is useful for work, shopping, travel, etc. リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、理解力といった基本的な英語スキルを学びます。この日常的な英語は、仕事、買い物、旅行などに役立ちます。 【到達目標】 To reinforce basic English and communicate confidently. 基礎的な英語力を強化し、自信を持ってコミュニケーションをとる目的です。				
学生の主体的・対話的な学び	Students do group conversations, pair activities, and dialogue roleplay to memorize what they learn. 学生たちはグループでの会話、ペアでの活動、そして対話のロールプレイを行い、学んだ内容を記憶します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English Firsthand 1 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 Introduction 概要説明, Conversation Practice 簡単な会話 第 2 回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 仕事; 第 3 回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 上手・得意 第 4 回 Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions 招待とおすすめ 第 5 回 Unit 8: Using different verb patterns 動詞のパターン; For the first time はじめて 第 6 回 Discussion グループで相談する; For the first time in a long time 久しぶりに 第 7 回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities 将来・未来の話; For the first and last time 最初で最後 第 8 回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions 未来系; Sick / Tired of 飽きた 第 9 回 Test 試験 第 10 回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 身の回り品; For good 永遠に 第 11 回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 比較; For now とりあえず 第 12 回 Unit 11: Giving instructions 英語で説明する; So far 今のところ 第 13 回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives 命令形; Thankful for ありがたい 第 14 回 Unit 12: Expressing opinions 自分の意見; Discussing music 音楽 第 15 回 Review まとめ; Quiz クイズ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Test 試験 50%, Quiz クイズ 25%, Homework 宿題 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 389			担当者	英語担当教員全員
	異文化コミュニケーション (英語)			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	通年	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。 【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2024 年度の実績 日程：9 月 1 0 日～9 月 2 5 日 参加者：1 0 名 研修費用：約 4 7 万円※1 ドルが 145 円～160 円の場合（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の朝・昼食費等） 【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく，ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に 3～4 回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。 海外研修： 9 月を予定（約 2 週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC 学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。 事後指導：帰国後に総括。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 390			担当者	中国語担当教員全員
	異文化コミュニケーション (中国語)			授業外対応	ガイダンスで指示
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	通年	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 生きた中国語の運用能力を高める。 【概要】 県立短大と交流協定を結んでいる南京農業大学国際教育学院で研修を行います。この科目は中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在中、基礎的な実用中国語を学びながら南京農業大学の学生とも交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。 ※2019 年度中国研修の実績 ・ 日程：9 月 7 日（土）～21 日（土）[15 日間] ・ 参加者：11 名（日文 3，英文 4，経済 1，経情 2，二部 1） ・ 費用：約 19 万円（ビザ，往復航空券，授業料，宿泊費，南京市内・市外の見学費用など） 【到達目標】 中国語運用能力を高めるだけでなく，中国の文化を学び，「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	中国滞在中，現地での授業，課外活動，学生間交流のような体験型研修をします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学の担当教員が指示 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：受講希望者に 3～5 回行います。[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明，[2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明，[3] 課題（レポート作成）の指示などです。 第 2 回 海外研修：9 月の夏期休業期間に約 2 週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて，中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。 第 3 回 事後指導：帰国後に総括します。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%），および中国での学習成果（50%）をもとに成績を算出します。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 391			担当者	陳 躍
	中国語Ⅰ（A）			授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは講義中に告知）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ① 関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳－日中往来』陳躍著 南日本新聞社				
授業 スケジュール	第 1 回 我是上海人 第 2 回 我叫王平 第 3 回 这里是南京路 第 4 回 现在几点了？ 第 5 回 今天是星期几？ 第 6 回 你家有几口人？ 第 7 回 没关系（映画） 第 8 回 香港的夏天热吗？（映画） 第 9 回 四川菜很好吃 （中間テスト） 第 10 回 我经常散步 第 11 回 牌价是多少？ 第 12 回 汉语难不难？ 第 13 回 我没吃蒜 第 14 回 我想去超市 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	評価割合を定期試験 5 0 %にする。 残り 5 0 %の評価は小テストとレポートにする				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 392			担当者	楊 虹
	中国語 I (B)			授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語に親しむ 【概要】この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回グループで会話練習をします。また、クラスメート全員に声をかけて会話をする練習も2, 3回あります。テーマを各自で設定し、中国の社会や文化について調べ学習をし、発表する活動を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語 13 課』同学社 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習 第 2 回 発音（1）：単母音と声調の導入，練習 第 3 回 発音（2）：複母音の導入，練習 第 4 回 発音（3）：子音の導入，練習 第 5 回 発音（4）：子音の練習，発音のまとめ 第 6 回 動詞是の使い方 第 7 回 姓の言い方，尋ね方。フルネームの言い方，尋ね方 第 8 回 これまでの復習 第 9 回 動詞文の導入と練習 第 10 回 動詞文の練習，疑問文の練習 第 11 回 二つ以上の動詞からなる連動文 第 12 回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入，練習 第 13 回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回 全体の復習 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度，小テスト：50%， 期末試験：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 393			担当者	陳 躍
	中国語Ⅱ（A）			授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは講義中に告知）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試 H S K 筆記 1 級程度。前期はその前半部分の学習に当てる				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ① 関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳－日中往来』陳躍著 南日本新聞社				
授業 スケジュール	第 1 回 来我家玩吧 第 2 回 我打算去旅行 第 3 回 没看过，听过 第 4 回 我能参加 第 5 回 我记一下 第 6 回 我们边走边谈 第 7 回 好像借给小李了（中間テスト） 第 8 回 我不会打日文（映画） 第 9 回 你知道号码吗？（映画） 第 10 回 什么都可以 第 11 回 被谁偷走了呢？ 第 12 回 让你久等了 第 13 回 有没有单间？ 第 14 回 我说得不好 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	評価割合を定期試験 5 0 %にする。 残り 5 0 %の評価は小テストとレポートにする				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 394			担当者	楊 虹
	中国語Ⅱ（B）			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】中国語によるコミュニケーションに慣れる 【概要】この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。 【到達目標】学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回グループで会話練習をします。また、クラスメート全員に声をかけて会話をする練習も2, 3回あります。テーマを各自で設定し、中国の社会や文化について調べ学習をし、発表する活動を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語13課』同学社 (2) 授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習 第 2 回 動詞「有」の導入，練習 第 3 回 動詞「在」の導入，練習 第 4 回 「有」と「在」の応用練習 第 5 回 年月日，曜日の言い方の練習 第 6 回 助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習 第 7 回 助動詞を使った文の応用練習 第 8 回 復習（1）これまでの内容の復習 第 9 回 形容詞述語文の導入，練習 第10回 時刻の言い方の導入，練習 第11回 形容詞述語文の応用練習 第12回 お金の言い方の導入，練習 第13回 量詞の導入，練習 第14回 復習（2）：全体の復習 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度，小テスト：50%， 口頭試験：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 395			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（A）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

授業科目	授業番号： 396			担当者	浜田 幸史
	生涯スポーツ実習（B）			授業外対応	随時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。 【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜、授業資料を配付する。 (2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト① 第 2 回 体づくり運動、球技ゴール型① 第 3 回 体づくり運動、球技ゴール型② 第 4 回 体づくり運動、球技ゴール型③ 第 5 回 体づくり運動、球技ゴール型④ 第 6 回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会① 第 7 回 体づくり運動、球技ネット型① 第 8 回 体づくり運動、球技ネット型② 第 9 回 体づくり運動、球技ネット型③ 第 10 回 体づくり運動、球技ネット型④ 第 11 回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会② 第 12 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型① 第 13 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型② 第 14 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③ 第 15 回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

授業科目	授業番号： 397			担当者	永仮 ゆかり
	情報リテラシー I (A)			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。 【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) プリント				
授業 スケジュール	第 1 回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作 第 2 回 文字の入力：キータッチ練習、Word の画面構成、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3 回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力、IME パッドの利用 第 4 回 文書の作成 1：ページ設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存 第 5 回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷 第 6 回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について 第 7 回 表の作成：表の作成、選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について 第 8 回 表の編集：セルの結合・分割、配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル 第 9 回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成 第 10 回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ 第 11 回 表現力をアップする機能：ワードアート・画像の挿入、図形の作成、図解について 第 12 回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について 第 13 回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存 第 14 回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

授業科目	授業番号： 398			担当者	永仮 ゆかり
	情報リテラシー I (B)			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。 【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版 (2) プリント				
授業 スケジュール	第 1 回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作 第 2 回 文字の入力：キータッチ練習、Word の画面構成、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3 回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力、IME パッドの利用 第 4 回 文書の作成 1：ページ設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存 第 5 回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷 第 6 回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について 第 7 回 表の作成：表の作成、選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について 第 8 回 表の編集：セルの結合・分割、配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル 第 9 回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成 第 10 回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ 第 11 回 表現力をアップする機能：ワードアート・画像の挿入、図形の作成、図解について 第 12 回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について 第 13 回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存 第 14 回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

授業科目	授業番号： 399			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ（A）			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学校生活に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学校生活で必要不可欠なタイピングスキル、メールの送受信、ファイル操作、Web 検索、PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 10 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう、課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では、著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。2 回目と 3 回目の課題は、自分でテーマを考えて作成し、授業内で公開する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。 【到達目標】他の授業の課題やレポートを作成し、メールで提出できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、電子メール（Web メール、スマホと連携）の設定 確認テスト 1 第 2 回 電子メール（Web メール）の練習、USB メモリの使い方、ファイル操作の練習 確認テスト 2 第 3 回 ファイルの整理（ファイルの概念、フォルダの概念）及びファイルの検索 確認テスト 3 第 4 回 ファイルの操作の練習（圧縮と解凍）、電子メール（Thunderbird）の設定 確認テスト 4 第 5 回 ファイルの操作の練習、電子メール（Thunderbird）の練習 確認テスト 5 第 6 回 USB カメラの操作、動画編集体験 確認テスト 6 第 7 回 Web による情報検索 確認テスト 7 第 8 回 Web による情報検索（2） 確認テスト 8 第 9 回 Web による情報検索 第 1 回課題 第 10 回 Web による情報検索（画像検索）、画像の編集 確認テスト 9 第 11 回 Web による情報検索（画像検索） 第 2 回課題 第 12 回 PowerPoint（概要、起動と終了、画面構成、作成） 確認テスト 10 第 13 回 PowerPoint（作成、スライドショーの実行、原稿作り） 第 3 回課題 第 14 回 PowerPoint（原稿作り、発表、鑑賞） 第 15 回 PowerPoint（発表、鑑賞）				
授業外学習 （予習・復習）	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	10 回の確認テスト（20%）と 3 回の課題（40%）、期末レポート（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

授業科目	授業番号： 400			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ（B）			授業外対応	講義終了時、適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学校生活に必要な情報活用技術を学ぶ 【概要】学校生活で必要不可欠なタイピングスキル、メールの送受信、ファイル操作、Web 検索、PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 10 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう、課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では、著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。2 回目と 3 回目の課題は、自分でテーマを考えて作成し、授業内で公開する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。 【到達目標】他の授業の課題やレポートを作成し、メールで提出できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、電子メール（Web メール、スマホと連携）の設定 確認テスト 1 第 2 回 電子メール（Web メール）の練習、USB メモリの使い方、ファイル操作の練習 確認テスト 2 第 3 回 ファイルの整理（ファイルの概念、フォルダの概念）及びファイルの検索 確認テスト 3 第 4 回 ファイルの操作の練習（圧縮と解凍）、電子メール（Thunderbird）の設定 確認テスト 4 第 5 回 ファイルの操作の練習、電子メール（Thunderbird）の練習 確認テスト 5 第 6 回 USB カメラの操作、動画編集体験 確認テスト 6 第 7 回 Web による情報検索 確認テスト 7 第 8 回 Web による情報検索（2） 確認テスト 8 第 9 回 Web による情報検索 第 1 回課題 第 10 回 Web による情報検索（画像検索）、画像の編集 確認テスト 9 第 11 回 Web による情報検索（画像検索） 第 2 回課題 第 12 回 PowerPoint（概要、起動と終了、画面構成、作成） 確認テスト 10 第 13 回 PowerPoint（作成、スライドショーの実行、原稿作り） 第 3 回課題 第 14 回 PowerPoint（原稿作り、発表、鑑賞） 第 15 回 PowerPoint（発表、鑑賞）				
授業外学習 （予習・復習）	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	10 回の確認テスト（20%）と 3 回の課題（40%）、期末レポート（40%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

授業科目	授業番号： 401			担当者	矢野 俊樹
	情報社会論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経営学まで包括した IT 知識を学び、IT パスポート試験の合格を目指す 【概要】国家資格である IT パスポート試験は IT リテラシーを証明する入門的な位置付けの試験である。 ストラテジ・マネジメント・テクノロジーと 3 つの分野で構成されており、情報分野のみならず経営学やオペレーションまで包括的に学修する必要がある。 本授業では 3 つの分野を満遍なく網羅し、実際の過去問題を題材として演習を繰り返し、実務家教員の経験に基づいた解説を実施する。 【到達目標】IT パスポート試験の合格レベル(総合 600 点/1000 点)を目指す。 少なくともストラテジ・マネジメント・テクノロジーの 3 分野において 300 点以上の得点を目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	自ら学修計画を作成し、進捗と理解度の管理を行う。 また、授業ごとに分かりにくかった点を挙げてもらうことでリレーションシップを図る。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『かんたん合格 IT パスポート過去問題集令和 8 年度春期 間久保 恭子』2024 年 11 月 21 日初版 株式会社インプレス (2) 適宜配布				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：試験の概要の説明、試験日の案内 第 2 回 ストラテジ系 31-60 問(経営戦略,システム戦略) 第 3 回 ストラテジ系 61-100 問(システム戦略) 第 4 回 マネジメント系 1 問-30 問(開発技術,プロジェクトマネジメント,サービスマネジメント) 第 5 回 マネジメント系 31-67 問(サービスマネジメント) 第 6 回 テクノロジ系 1-30 問(基礎理論,コンピュータシステム) 第 7 回 テクノロジ系 31-60 問(コンピュータシステム,技術要素) 第 8 回 テクノロジ系 61-90 問(技術要素) 第 9 回 テクノロジ系 91-138 問(技術要素) 第 10 回 新シラバス対応：新たに追加された範囲の学修① 第 11 回 新シラバス対応：新たに追加された範囲の学修② 第 12 回 試験概要のおさらいと対策 第 13 回 模擬試験の実施① 第 14 回 模擬試験の実施② 第 15 回 模擬試験のフィードバックとまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題の提出率及び内容 60%, 授業での態度と貢献度 20% , 授業中の小テストの結果 20%				
実務経験について	あり				

情報科学概論履修済みまたは同等の知識を有すると認められる者

授業科目	授業番号： 402			担当者	山口 祐司
	現代社会論			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会を特徴づける「分断」の問題を、資本主義の発展史という視座から考えていきます。 【概要】この授業は、現代社会の特徴を「分断」というキーワードでとらえます。その背景を理解するための概念が、主として1970年代以降の資本主義世界で進んだ、「グローバリゼーション」と「新自由主義」です。講義の前半でこれらの概念を詳細に検討し、後半において分断の問題事例をテーマに分けて検討します。これらを踏まえて最後に、こうした問題を打開する取り組みについてみていきます。 【到達目標】現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業の最後に、その日の授業で学んだことや質問を200字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて、翌週解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 グローバリゼーション（1）グローバリゼーションとは何か 第 3 回 グローバリゼーション（2）グローバリゼーションと企業 第 4 回 グローバリゼーション（3）グローバリゼーションと国・地域 第 5 回 新自由主義（1）自由とは何か 第 6 回 新自由主義（2）自由主義からケインズ主義へ（1930年代まで） 第 7 回 新自由主義（3）新自由主義の台頭 第 8 回 新自由主義（4）新自由主義の帰結 第 9 回 中間まとめ 第10回 現代社会の諸問題（1）雇用・労働問題 第11回 現代社会の諸問題（2）富裕層の実態と格差問題 第12回 現代社会の諸問題（3）地域格差と人口問題 第13回 現代社会の諸問題（4）外国人労働者と差別の問題 第14回 行き詰まりを打開するために 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	事前に予習用の参考文献を提示することがあります。授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。				
成績評価の方法	レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 403			担当者	山口 祐司
	経済学			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。 【概要】経済とは、生産・流通・分配・消費・廃棄の社会的つながりのことです。現代社会においてはこのつながりは主として市場の仕組みによって媒介され、市場の仕組みがうまく機能しない場合に政府が補います。この授業では、個々の経済主体の目線から見た市場の機能の問題を扱うミクロ経済学と、「国」のような大きな社会的まとまりで経済の動きを分析するマクロ経済学という、経済学の基礎となる2つの考え方を学んでいきます。 【到達目標】経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業の最後に、その日の授業で学んだことや質問を200字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて、翌週解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) マンキュー, N・グレゴリー (2019)『マンキュー入門経済学 [第3版]』東洋経済新報社 伊藤元重 (2015)『入門 経済学 [第4版]』日本評論社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 経済学の考え方 第 3 回 ミクロ経済学の基礎 (1) 需要と供給 第 4 回 ミクロ経済学の基礎 (2) 価格決定メカニズムと市場の機能 第 5 回 ミクロ経済学の基礎 (3) 競争的市場の効率性 第 6 回 ミクロ経済学の基礎 (4) 不完全市場 第 7 回 ミクロ経済学の基礎 (5) ミクロ経済学のまとめ 第 8 回 マクロ経済学の基礎 (1) 経済規模, 経済活動の成果の測定 第 9 回 マクロ経済学の基礎 (2) マクロ経済と物価水準 第 10 回 マクロ経済学の基礎 (3) 経済成長 第 11 回 マクロ経済学の基礎 (4) 貯蓄, 投資と金融システムの役割 第 12 回 マクロ経済学の基礎 (5) 短期的経済変動とマクロ経済政策 第 13 回 マクロ経済学の基礎 (6) 外国貿易 第 14 回 マクロ経済学の基礎 (7) マクロ経済学のまとめ 第 15 回 全体のまとめ, テスト対策				
授業外学習 (予習・復習)	毎回の授業範囲の予習 (テキスト)・復習のほか, 新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。				
成績評価の方法	筆記試験 (60%), 毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 404			担当者	中嶋 晋平
	社会学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】社会学の基本的な考え方を理解するとともに、社会の視点から現代社会を理解する。 【概要】社会学は、私たちにとって当たり前の存在である「社会」を冠した学問である。複雑さを増す現代社会の解決に社会学が貢献できる余地は多い。ところが日本では、大学・短大などの高等教育機関以外で社会学を学ぶ機会がないため、どのような学問であるかを理解している者は少ない。本講義では社会学の基本的な考え方やものの見方を学ぶとともに、社会学の視点から現代社会が抱える課題をとらえ直す能力を身につけることを目的とする。 【到達目標】社会学とはどのような学問か、その基本的な考え方を理解する。社会学の視点を通して現代社会の課題を理解する力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 間淵領吾・酒井千絵・古川誠編（2022）『基礎社会学 新訂第5版』世界思想社 配布資料は web で公開 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 社会学の歴史① 第 3 回 社会学の歴史② 第 4 回 社会学の発想 第 5 回 社会調査とデータ 第 6 回 社会学の基本概念① 第 7 回 社会学の基本概念② 第 8 回 都市という空間① 第 9 回 都市という空間② 第 10 回 社会と環境① 第 11 回 社会と環境② 第 12 回 社会の病理 第 13 回 学歴と社会 第 14 回 差別と社会① 第 15 回 差別と社会②				
授業外学習 (予習・復習)	振り返り小テストに備えて、教科書・配布資料を読み返し復習すること				
成績評価の方法	毎回の振り返り小テスト（100%）				
実務経験について	なし				

資料配布、振り返り小テストは「Google classroom」で行います。大学のアカウントでのログインが必要になります。

授業科目	授業番号： 405			担当者	田口 康明
	文化と社会			授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】文化と社会の関連について、教育的な側面から検討する。手がかりとして、ひとりの子どもがどのように社会的文化的にその社会の成員になっていくのかについて検討する。 【概要】本科目は、専門基礎科目に位置づけられているが、一定の文化を保持する社会と人間の関わりを子どもの成長という側面からとらえるものである。今日、「幼児」の世界は、「大人」の側からの強大な圧力にさらされ、「幼児」を「幼児」たらしめている「幼児期」が軽視されている。こうした今日の「幼児」と「幼児期」をどのようにとらえるのかについて、テキストをとおして検討する。 【到達目標】 1) テキストを熟読する。 2) 幼児期の特徴について深く理解する。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 岡本夏木『幼児期』岩波新書、2005年 (2) 授業内で随時紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方 第 2 回 「しつけ」 1 しつけとは／自己実現 第 3 回 「しつけ」 2 「問題解決」としつけ／大人の非合理性 第 4 回 「あそび」 1 発達と身体／象徴あそび 第 5 回 「あそび」 2 ルール／思考と文化 第 6 回 「表現」 1 生活と表現 第 7 回 「表現」 2 独自性と共同性 第 8 回 「ことば」 1 ことばの世界と身体 第 9 回 「ことば」 2 ことばのない世界 第 10 回 「ことば」 3 身体と心的世界の結合 第 11 回 「ことば」 4 ことばの世界の前 第 12 回 「ことば」 5 ことばの成り立ちと私の世界 第 13 回 「ことば」 6 関係性とことば 第 14 回 「幼児期」 1 存在と時間 第 15 回 「幼児期」 2 自分にとっての幼児期 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業内にて指示（テキストの指示した範囲を必ず読むこと）				
成績評価の方法	授業中の発表（各自分担する）70％，ファイナルレポート30％				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 406			担当者	未定
	行政法			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 407			担当者	未定
	金融論			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 408			担当者	近間 由幸
	社会政策			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】「日本的雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について 【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本的雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する非正規労働者、女性、若者、外国人などの格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。前半は労働政策を中心に扱い、後半は社会保障政策を中心に扱っていく。 【到達目標】国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解し、望ましい社会政策の方向性について考える思考力を身につけることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策〈第3版〉雇用と社会保障』ミネルヴァ書房				
授業 スケジュール	第 1 回 イントロダクションー日本社会の「しくみ」について 第 2 回 社会政策とはなにか 第 3 回 賃金と社会政策 第 4 回 企業と労働組合の関係 第 5 回 過労死と長時間労働 第 6 回 非正規雇用とは何か 第 7 回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策 第 8 回 日本的雇用システムと女性の働き方 第 9 回 子育てと雇用政策 第 10 回 高齢者の福祉と雇用 第 11 回 社会保険のなかの医療保険制度 第 12 回 社会保険と生活保護の溝 第 13 回 労働市場政策の国際比較ースウェーデンモデルを事例として 第 14 回 移民問題と外国人労働者 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%）、筆記試験（70%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 409			担当者	渡邊 碩
	社会思想			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】近代ヨーロッパを中心とした社会思想の歴史を学ぶ。 【概要】社会思想史とは、経済学、政治学、社会学などの社会科学が前提としている社会観や人間観について、その特徴や歴史的成り立ちを様々な角度から検証する学問です。本科目では特に、社会科学が先駆的に成立した近代ヨーロッパにおける社会思想を対象とします。毎回の講義の進め方としては、各思想家の時代背景と問題関心を紹介したのち、古典的著作を読みながら、思想家がそれぞれの問題にどのように回答を提示したか、というテキスト解釈を行っていきます。 【到達目標】歴史的な文脈や論点を踏まえながら、社会思想史における古典的文献を読みこなすことができる。また、様々な概念装置の成立過程に注目しながら、社会科学を修得するという手法を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	複数回の授業において、疑問点や感想をコメントペーパーに書いてもらい、それに応答する時間を設ける予定です。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 教科書は使用せず、プリントを配布します。 (2) 授業中に指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 履修ガイダンス：社会思想史とは何か？ 第 2 回 ホッブズの歴史意識：『リヴァイアサン』 第 3 回 ルソーの歴史意識：『社会契約論』 第 4 回 カントの歴史意識：『啓蒙とは何か』 第 5 回 ヘルダーの歴史意識：『人類歴史哲学考』 第 6 回 ヘーゲルの歴史意識：『歴史哲学講義』 第 7 回 マルクスの歴史意識：『共産党宣言』 第 8 回 ニーチェの歴史意識：『道徳の系譜』 第 9 回 フロイトの歴史意識：『モーセと一神教』 第10回 ヴェーバーの歴史意識1：『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』 第11回 ヴェーバーの歴史意識2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 第12回 ヴェーバーの歴史意識3：『支配について』 第13回 ヴェーバーの歴史意識4：『職業としての学問』 第14回 社会思想と現代 第15回 全体のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予復習と並行して、講義で扱う古典的テキストについては、いくつかを自主的に読了してほしいと考えます。				
成績評価の方法	期末試験 70%。授業中の小レポート 30%。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 410			担当者	藤野 博行
	民法			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】民法に関する基本的な知識を学び、身の回りの課題についての解決策を考えます。 【概要】サービスを受ける、プレゼントを贈るなど、みなさんが日々何気なく行なっている活動を円滑に行うための基本ルールの多くは民法に定められています。本科目は、民法の基本的な知識について講義形式で学ぶとともに、グループで身近な法的トラブルに関する文献を読解し、解決策について考えます。 【到達目標】①民法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2～4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール (microsoft forms や slido) に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (資料を配付します) (2) 道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』日本経済新聞出版社 (2019 年) 5280 円 ISBN-13:978-4296114641				
授業 スケジュール	第 1 回 ①ガイダンス, ②民法の意義と体系, ③民法の基本原則 第 2 回 権利能力と行為能力 第 3 回 意思表示 (心裡留保, 通謀虚偽表示) 第 4 回 意思表示 (錯誤, 詐欺, 脅迫) 第 5 回 代理 (代理の基礎, 無権代理, 表見代理) 第 6 回 ①時効, ②前半のまとめ 第 7 回 ①中間テスト, ②物権の意義と内容 第 8 回 ①中間テストの講評, 公信の原則と公示の原則 (悪意の第三者と背信的悪意者) 第 9 回 ①公信の原則と公示の原則 (即時取得) ②所有権の意義・内容 第 10 回 ①用益物権の意義, ②担保物権の意義, ③留置権・先取特権・質権の概要 第 11 回 ①抵当権, 根抵当権の概要, ②債権の意義と概要 第 12 回 ①契約の成立, ②売買契約の基本事項 第 13 回 ①売買契約 (消費者法) 第 14 回 ①賃貸借契約, ②事務管理, ③不当利得 第 15 回 ①不法行為, ②後半の復まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点), 期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 411			担当者	松田 忠大
	商法			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2,3 年	前期	2 単位	選択	講義
テーマ及び概要	【テーマ】商法の特質と会社の組織および活動に関する法を学ぶ 【概要】私たちは、多くの場合、企業から生活に必要な物資やサービスの提供を受けるとともに、企業に対して労働力を提供し、その対価としての賃金を得ている。現代では社会経済活動において、企業、とりわけ営利企業が重要な役割を果たしていることから、その一形態である会社に関する法制度を学ぶことは有意義である。そこで、本講義では、商法の領域における会社法に焦点をあて、特に株式会社の組織および運営に関する法制度を学習する。 【到達目標】商法の特質、会社の組織および運営に関する基礎的事項を理解するとともに、会社をめぐる法律問題を通して法的思考力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 神田秀樹『会社法』（第 26 版）（弘文堂） (2) 授業中に適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 商法の意義および特質 第 2 回 会社の意義と種類 第 3 回 株式会社の設立 第 4 回 株式①（株式の意義、株式の種類等） 第 5 回 株式②（株主の権利、株主平等原則など） 第 6 回 株式③（株式の自由譲渡、譲渡制限） 第 7 回 株式④（株式の併合、分割、無償割当等） 第 8 回 新株の発行 第 9 回 新株予約権 第 10 回 株式会社の機関①（総論・株主総会） 第 11 回 株式会社の機関②（株主総会） 第 12 回 株式会社の機関③（役員等の選解任、取締役・取締役会） 第 13 回 株式会社の機関④（代表取締役、監査役、監査役会、会計監査人） 第 14 回 株式会社の機関⑤（役員等の義務・責任） 第 15 回 会社の機関⑤（株主代表訴訟・差止請求権）				
授業外学習 (予習・復習)	授業前に各回の講義内容について予習をすること、また、授業後は講義内容について復習すること				
成績評価の方法	期末試験 80%、レポート 10%、毎回の授業終了後に提出する授業に対するコメント 10%を総合して 100 点満点で評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 412			担当者	宗田 健一・岡村 雄輝・川畑 知裕・蜷川 賢治・山之内 達明
	税法			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等で対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2,3 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】税の仕組みや各税法に関する基礎を学ぶ 【概要】税や税制の基礎知識と税法の基本的な考え方について学びます。そのうえで，所得税法，法人税法，相続税法，消費税法，酒税法，地方税制，国際課税，租税手続，租税処罰法，租税救済法などについて学びを深めていきます。なお，税理士による講義，実習も行います。 【到達目標】税法の基本的な考え方を知る。様々な税に関する法律とその考え方について知る。				
学生の主体的・対話的な学び	4～6回程度，電卓，資料を用いて，税額計算を行ったり，税制に関するディスカッション・グループワークを行ってもらう予定です。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 税の意義 第 2 回 租税法律主義，租税回避 第 3 回 応能負担原則，課税最低限 第 4 回 所得税法（所得概念，納税義務の範囲，課税単位） 第 5 回 所得税法（所得分類，給与所得課税，収入の帰属時期） 第 6 回 所得税法（所得控除と税額控除，所得税の計算） 第 7 回 法人税法（法人税の根拠，納税義務者） 第 8 回 法人税法（計算構造），租税手続法（確定手続） 第 9 回 租税処罰法，租税救済法（不服申立），税務訴訟 第 10 回 確定申告制度とその実務（青色申告，白色申告，確定申告実務），所得税（所得控除と税額控除，所得税の計算） 第 11 回 消費税法（消費税の基礎，多段階付加価値税・仕入税額控除，非課税・ゼロ課税・逆進性対策） 第 12 回 電子帳簿保存法とインボイス制度，税務調査，地方税制，国際課税 第 13 回 判例の読み方と活用，相続税法（課税の根拠，日本の課税方式と問題点） 第 14 回 税理士業務と IT 技術（会計ソフト，AI），税理士事務所・法人における会計・税務実務 第 15 回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	中間レポート 50%，期末レポート（50%）				
実務経験について	有り（税理士 3 名）				

授業科目	授業番号： 413			担当者	岡村 俊彦
	産業心理学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ 【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。身近で具体的な事象として「思考力」や「判断力」を養う。 【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる				
学生の主体的・対話的な学び	簡単な心理実験や心理テストを数回行い、主体的な学びを深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布，Web でも公開 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2 回 人間とシステムの関わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェースの概念と精神作業の種類と性質 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第 3 回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第 4 回 ヒューマンインターフェース 1：ヒューマンインターフェースの基本原則 第 5 回 ヒューマンインターフェース 2：ヒューマンインターフェースの事例紹介 第 6 回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第 7 回 仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第 8 回 人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係 第 9 回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例 第 10 回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第 11 回 購買心理：消費者の購買心理 第 12 回 販売，印象管理：セールステクニックと印章管理 第 13 回 ヒューマンのエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第 14 回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	通常のレポート 2 回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 414			担当者	宗田 健一
	会計学総論			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等に対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 会計学の全体像を知る。 【概要】 この講義は，これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で，会計学の全体的な内容を理解することができます。 【到達目標】 会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の講義で，講義に関連する質問，講義を受けてのリアクションシートを講義専用オンラインサイトから記入していただきます。なお，学生の皆さんのコメント，意見は，次週以降にフィードバック・解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小野正芳編著『スタートアップ会計学』（第3版）同文館出版。 (2) 桜井久勝『財務会計講義』（第26版以降のもの）中央経済社（予定），その他は講義中に指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス，会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要 第 2 回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割 第 3 回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要 第 4 回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要 第 5 回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要 第 6 回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要 第 7 回 会計情報はどうやって作られるの？ 簿記の概要 第 8 回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要 第 9 回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要 第 10 回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要 第 11 回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要 第 12 回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR 会計の概要 第 13 回 ボランティア活動にも儲けが必要な？ 非営利会計の概要 第 14 回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要 第 15 回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。				
成績評価の方法	期末レポート 100%				
実務経験について	なし				

講義中，企業経営者を招いてお話しいただく機会を設ける予定です。

授業科目	授業番号： 415			担当者	岡村 雄輝
	簿記論 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ 【概要】日商簿記 3 級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。 【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者同士で相互に教え合う問題演習の時間を設けています。また、毎回の講義において Google フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義 3 級 商業簿記』『簿記ワークブック 3 級』(令和 8 年版), 中央経済社。 (2) 田口聡志, 廣瀬喜貴, 澤井康毅, 木村太一, 澤田雄介 (共)『簿記論 15 講』, 新世社。				
授業 スケジュール	第 1 回 複式簿記とはなにか? : 意義と目的, 簿記の基礎, 貸借対照表 第 2 回 複式簿記とはなにか? 貸借対照表, 損益計算書, 両者の関係 第 3 回 仕訳と転記: 勘定, 取引の意義, 取引 8 要素と結合関係 第 4 回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記 第 5 回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記 第 6 回 決算 (1): 決算の意義と手続、試算表の作成 第 7 回 決算 (2): 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表の作成 第 8 回 決算 (3): 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表の作成 第 9 回 現金と預金: 現金勘定と現金出納帳, 現金過不足, 当座預金と当座借越 第 10 回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金 第 11 回 繰越商品・仕入・売上: 3 分法, 諸掛と返品 第 12 回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳 第 13 回 公認会計士が語る簿記会計を学ぶ意義: 複式簿記の実践についての講話 第 14 回 総合問題: 問題演習と解説 第 15 回 総合問題: 問題演習と解説				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 416			担当者	竹中 啓之
	経営学総論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。 【概要】この講義では、初めて経営学を学ぶ際に必要と思われる知識や考え方について説明する。経営学が取り扱う様々なテーマを幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、経営学が持つ特徴的な考え方も説明し、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。 【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第 3 回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第 4 回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第 5 回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第 6 回 企業における 4 つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。 第 7 回 企業における 4 つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。 第 8 回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定） 第 9 回 企業における 4 つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。 第 10 回 企業における 4 つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。 第 11 回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第 12 回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第 13 回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。 第 14 回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は 1 回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 417			担当者	矢野 俊樹
	情報科学概論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】情報の基礎を体系的に学ぶ 【概要】コンピュータやネットワーク、データベースなど情報科学の基礎を学ぶ。 現在社会において情報情報リテラシーは非常に重要な身につけるべき能力である。本授業ではその情報科学の基礎を実務家教員が実務経験に基づき体系的に分かりやすく学ぶ。 【到達目標】情報リテラシーの基礎を身につけ、①PC のスペック表を見て性能を把握することができる。②セキュリティに関する知識を修得し、安全な ICT 運用の助言ができることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	授業ごとに振り返りレポートを作成することで、自ら理解度の管理を行う。また、章ごとにその内容に関する疑問等を挙げてもらうことで、「自分ごと」としての知識を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『身につく！合格！IT パスポート 有馬一也,谷藤 修栄』 2019 年初版発行 (株) インフォテックサーブ (2) 適宜配布				
授業 スケジュール	第 1 回 ハードウェア：コンピュータの種類 第 2 回 ハードウェア：コンピュータの種類、五大装置 第 3 回 ハードウェア：基数変換・論理演算 第 4 回 ハードウェア：稼働率 第 5 回 ソフトウェアと情報メディア：OS、ファイルシステム、バックアップ 第 6 回 ソフトウェアと情報メディア：ソフトウェア、マルチメディア 第 7 回 データベース：RDB と正規化 第 8 回 ネットワーク：ネットワークの基本とインターネット 第 9 回 情報セキュリティ：情報セキュリティの脅威① 第 10 回 情報セキュリティ：情報セキュリティの脅威② 第 11 回 情報セキュリティ：暗号化、デジタル署名 第 12 回 アルゴリズムとプログラミング：アルゴリズム、プログラム言語 第 13 回 システム開発技術：システム開発プロセス 第 14 回 システム戦略：情報システム戦略、システム企画 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題の提出率及び内容 60%, 授業での態度と貢献度 20%, 授業中の小テストの結果 20%				
実務経験について	あり				

授業科目	授業番号： 418			担当者	永仮 ゆかり
	文書作成実習			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得 【概要】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。 *後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする。 【到達目標】実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 日本商工会議所 IT 活用能力検定研究会編著『よくわかるマスター 改訂 2 版 日商 PC 検定試験 文書作成・データ活用・プレゼン資料作成 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版、プリント (2) 授業にて紹介する				
授業 スケジュール	第 1 回 前期の復習：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第 2 回 検定対策（3 級）：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野） 第 3 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 1、知識問題（共通分野） 第 4 回 検定対策（3 級）：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野） 第 5 回 検定対策（3 級）：通知状の作成、図形の補足、知識問題（共通分野） 第 6 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野） 第 7 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 2、知識問題（共通分野） 第 8 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定サンプル問題演習、知識問題（共通分野） 第 9 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習 第 10 回 Excel データの利用：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み 第 11 回 いろいろな応用機能：スタイル、文書の挿入、SmartArt など） 第 12 回 稟議書の作成：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など） 第 13 回 実践問題：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用など） 第 14 回 議事録の作成：議事録の作成（テンプレートの利用、セクション区切りなど） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

授業科目	授業番号： 419			担当者	倉重 賢治
	統計学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ 【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。 【到達目標】・ 基本的なデータ処理を行う ・ 相関関係について理解する ・ 検定について理解する				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 序論：統計学とは 第 2 回 データの基本処理：平均値，度数分布 第 3 回 データの基本処理：標準正規分布 第 4 回 データの基本処理：正規分布 第 5 回 データの基本処理：正規分布と偏差値 第 6 回 データの基本処理：確率分布 第 7 回 統計解析：相関係数 第 8 回 統計解析：回帰直線 第 9 回 統計解析：カイ 2 乗検定 第 10 回 統計解析：平均値の推定 第 11 回 統計解析：平均値の検定 第 12 回 統計解析：比率の推定と検定 第 13 回 統計解析：ベイズ統計学 第 14 回 統計解析：検定について 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 420			担当者	岡村 俊彦
	応用文書処理			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2,3 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ 【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。 【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	PC の実習なので、基本的に主体的な学びになる。いずれの課題とも統一的なものではなく、学生がそれぞれ課題設定をおこない、工夫していくことが求められる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Web で公開 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2 回 自己紹介文書作成 1：ワープロソフトを使ったベース文書の作成 第 3 回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4 回 自己紹介文書作成 3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5 回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6 回 ホームページ作成 1：HTML の復習 第 7 回 ホームページ作成 2：課題設定とネット上のルール、マナー 第 8 回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成 第 9 回 ホームページ作成 4：ウェブサイト公開 第 10 回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索 第 11 回 提案書作成 2：表計算ソフトによる自動計算書 第 12 回 提案書作成 3：資料用 PDF ファイルの操作 第 13 回 提案書作成 4：プレゼン資料作成 第 14 回 提案書作成 5：ビジネスメールのマナーとプレゼン 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート（3 つの課題を総合的に評価）				
実務経験について	なし				

ワード、エクセルがある程度できる中級者向けの授業です。初級者の受講はできません。

授業科目	授業番号： 421			担当者	口脇 淳子
	P C データ活用			授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部 30 時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認 第 2 回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認 第 3 回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第 4 回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第 5 回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第 6 回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第 7 回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など） 第 8 回 各関数を利用した実習問題（小テスト） 第 9 回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第 10 回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第 11 回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第 12 回 データベース入門：データベース作成上の各機能 第 13 回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか） 第 14 回 データの集計（ピボットテーブル） 第 15 回 前期のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。				
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋出席授業のプリント提出状況（10%）				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	授業番号： 422			担当者	口脇 淳子
	P C データ活用実習			授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【概要】Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【到達目標】前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 実教出版編修部 30 時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社 (2) プリント				
授業 スケジュール	第 1 回 前期授業の復習 第 2 回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題 第 3 回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題 第 4 回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題 第 5 回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題 第 6 回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題 第 7 回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題 第 8 回 検定対策問題：グラフの軸を指定する問題 知識科目問題 第 9 回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題 第 10 回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題 第 11 回 検定対策問題：アンケートデータの集計 知識科目問題 第 12 回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題 第 13 回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題 第 14 回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題 第 15 回 後期のまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	授業後、同じ問題を時間を計って解いてみる				
成績評価の方法	期末試験（80％）＋出席授業のプリント提出状況（20％）				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	授業番号： 423			担当者	上野 祐子
	P Cアプリケーション実習 (A)			授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう 【概要】事務系の職に就いても，プログラミングやPDF 編集，データベースの仕事をする機会が増えてきている。また，様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが，その習得には非常に時間がかかる。そこで，この授業では，学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお，ホームページ作成については，その仕組みを理解して欲しいため，専用のソフトではなくメモ帳を使用する。 【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。				
学生の主体的・対話的な学び	第7回～9回は，1～3名のグループで自由にテーマを決めて，動画作成をしてもらう。作成した動画は授業内で公開する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション，ホームページ作成（HTML：見出し，画像，箇条書き，ハイパーリンク，表） 第 2 回 ホームページ作成 2（HTML：段落，水平線，地図，動画） 第 3 回 ホームページ作成 3（CSS：Web ページのデザイン設定，鑑賞会） 第 1 回課題 第 4 回 プログラミング（Scratch） 第 5 回 プログラミング 2（Scratch） 第 6 回 プログラミング 3（言語は受講者の希望により決定する） 第 2 回課題 第 7 回 動画編集（動画編集ソフトの使用法：起動，トリミング，画面切り替え，クリップの速度，音楽，オーバーレイ，タイトルなど） 第 8 回 動画編集 2（グループワーク） 第 9 回 動画編集 3（グループワーク） 第 3 回課題 第 10 回 データベース（Excel のデータベース機能） 第 11 回 データベース 2（Microsoft Access：テーブル，クエリ） 第 12 回 データベース 3（Microsoft Access：テーブル，クエリ，フォーム） 第 4 回課題 第 13 回 PDF 編集（Adobe Acrobat Reader：PDF の作成と閲覧） 第 14 回 PDF 編集 2（Adobe Acrobat Pro：しおり付き PDF の作成，フォームの作成，ファイルの統合，透かし文字の設定，セキュリティ設定） 第 15 回 PDF 編集 3（Adobe Acrobat Pro：図形や文字の入力，電子印鑑） 第 5 回課題				
授業外学習 (予習・復習)	興味を持って予習し，授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	5 回の課題（80%）と期末レポート（20%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア，中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

授業科目	授業番号： 424			担当者	上野 祐子
	P Cアプリケーション実習 (B)			授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう 【概要】事務系の職に就いても，プログラミングやPDF 編集，データベースの仕事をする機会が増えてきている。また，様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが，その習得には非常に時間がかかる。そこで，この授業では，学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお，ホームページ作成については，その仕組みを理解して欲しいため，専用のソフトではなくメモ帳を使用する。 【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。				
学生の主体的・対話的な学び	第7回～9回は，1～3名のグループで自由にテーマを決めて，動画作成をしてもらう。作成した動画は授業内で公開する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション，ホームページ作成（HTML：見出し，画像，箇条書き，ハイパーリンク，表） 第 2 回 ホームページ作成 2（HTML：段落，水平線，地図，動画） 第 3 回 ホームページ作成 3（CSS：Web ページのデザイン設定，鑑賞会） 第 1 回課題 第 4 回 プログラミング（Scratch） 第 5 回 プログラミング 2（Scratch） 第 6 回 プログラミング 3（言語は受講者の希望により決定する） 第 2 回課題 第 7 回 動画編集（動画編集ソフトの使用法：起動，トリミング，画面切り替え，クリップの速度，音楽，オーバーレイ，タイトルなど） 第 8 回 動画編集 2（グループワーク） 第 9 回 動画編集 3（グループワーク） 第 3 回課題 第 10 回 データベース（Excel のデータベース機能） 第 11 回 データベース 2（Microsoft Access：テーブル，クエリ） 第 12 回 データベース 3（Microsoft Access：テーブル，クエリ，フォーム） 第 4 回課題 第 13 回 PDF 編集（Adobe Acrobat Reader：PDF の作成と閲覧） 第 14 回 PDF 編集 2（Adobe Acrobat Pro：しおり付き PDF の作成，フォームの作成，ファイルの統合，透かし文字の設定，セキュリティ設定） 第 15 回 PDF 編集 3（Adobe Acrobat Pro：図形や文字の入力，電子印鑑） 第 5 回課題				
授業外学習 (予習・復習)	興味を持って予習し，授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	5 回の課題（80%）と期末レポート（20%）の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア，中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座（パソコン講座）講師。				

授業科目	授業番号： 425			担当者	船津 潤
	日本経済論			授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること 【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について特に産業政策、そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、グローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら授業を進めます。 【到達目標】日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになる 海外とのつながりを踏まえて日本経済の現状と課題について自分の見解が述べられるようになる				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらう機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし 適宜資料を配付 (2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第4版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2 回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3 回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第 4 回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950 年代前半の産業政策等 第 5 回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6 回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等 第 7 回 行政指導：勸告操短、企業の反発等 第 8 回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第 9 回 1970 年代の日本経済：2 度の石油危機、知識集約化・高付加価値化への動き等 第 10 回 1980 年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第 11 回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等 第 12 回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等 第 13 回 構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14 回 構造改革と現在の政策：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、近年の政策との比較等 第 15 回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等				
授業外学習 (予習・復習)	授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等で調べ、検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 426			担当者	船津 潤
	財政学			授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論、日本の基礎的な制度の内容、実態、特徴、課題に対する理解を深めること 【概要】テーマを踏まえて、基礎的な制度について、財政民主主義という財政制度の根幹、公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、グローバル化の影響を強く意識しながら授業を進めます。この講義で、マクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのか、また、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても理解してもらえそうです。 【到達目標】財政制度を理解した上で、政府活動に関する自分の評価を述べられるようになる 理論がどのように活用されているのか理解する 財政の影響を踏まえて経済・社会の動向を把握できるようになる				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらい機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし 適宜資料を配付 (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005 年) 神野直彦著『財政学 第3 版』有斐閣(2022 年) 渡邊和紀編著『図説 日本の財政 各年度版』財経詳報社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2 回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等 第 3 回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4 回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割分担、予算原則等 第 5 回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋蔵金」、改革の方向等 第 6 回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等 第 7 回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 8 回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 9 回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 10 回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等 第 11 回 財政投融资：財投債と財政投融资、2001 年度の改革、批判と今後の展望等 第 12 回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 13 回 財政の国際化：国際公共財、国際的な ODA 改革の動向等 第 14 回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 15 回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等				
授業外学習 (予習・復習)	授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 427			担当者	前田 千春
	農業経済論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。 【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。 【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	15回中2回程度、講義内にグループで話し合う時間を設けます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房（2018年） 八木宏典監修『最新版 図解 知識ゼロからの現代農業入門』家の光協会（2019年）				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識 第 2 回 日本の農産物需給と食料事情 第 3 回 食の安全に向けた取り組み 第 4 回 日本農業の展開過程 第 5 回 農業協同組合 第 6 回 稲作 第 7 回 園芸作物 第 8 回 工芸作物 第 9 回 畜産 第 10 回 日本の農業・農村の現状と課題 第 11 回 日本農業の新たな取り組み 第 12 回 世界の農産物需給と食料事情 第 13 回 諸外国の農業と農業政策 第 14 回 途上国経済と農業 第 15 回 まとめ：これからの日本農業				
授業外学習 (予習・復習)	講義ノートおよび参考文献を活用して講義レポートに取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート（60%）、期末レポート（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 428			担当者	未定
	ファイナンス論			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 429			担当者	カムチャイ・ライサミ
	経済学史			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。 【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。 【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。 (2) 必要に応じてその都度指示する。				
授業 スケジュール	第 1 回 経済学史の方法と範囲 第 2 回 重商主義の経済思想：マリーンズ、ミッセルデン、マン、スチュアート 第 3 回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー 第 4 回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム 第 5 回 古典学派の生成：スミス 第 6 回 古典学派の発展：マルサス、リカード 第 7 回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル 第 8 回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシャー、ヒルデブラン、クニース 第 9 回 マルクス学派：マルクス 第10回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ 第11回 限界革命：クールノー、ジェヴォンズ 第12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク 第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート 第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー 第15回 ケインズ革命：ケインズ				
授業外学習 (予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 430			担当者	山口 祐司
	経済学特講			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。 【概要】第二次世界大戦後の世界は、「パクス・アメリカナ」と呼ばれ、アメリカが国際経済、国際政治の枠組みをリードしてきました。しかし冷戦が終結して 30 年以上経った現在、米中対立に見られるように、アメリカの圧倒的な優位は失われつつあるように見えます。この授業では、アメリカの超大国としての経済的発展とその限界について、アメリカ国内および国際経済の歴史という観点から学んでいきます。 【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業の最後に、その日の授業で学んだことや質問を 200 字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて、翌週解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第 2 回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第 3 回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第 4 回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の 1920 年代 第 5 回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第 6 回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第 7 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第 8 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第 9 回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第 10 回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第 11 回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第 12 回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第 13 回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第 14 回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。				
成績評価の方法	レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）				
実務経験について	なし。				

授業科目	授業番号： 431			担当者	西原 誠司
	国際経済論			授業外対応	メール・Line で連絡。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】Love & Peace の経済学——国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える 【概要】ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、600万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの原因を、グローバル化した経済に求め、9. 11以後多発するテロをなくす条件を考える。 【到達目標】グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 西原誠司『グローバリゼーションと民族・国家を超える共同体』（文理閣、2022年） (2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年）西原誠司『グローバリゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに——アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために 第 2 回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争——19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い 第 3 回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化 第 4 回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場 第 5 回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理 第 6 回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合 第 7 回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機 第 8 回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして 第 9 回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合 第10回 最後の帝国主義アメリカ ①——ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立 第11回 最後の帝国主義アメリカ ②——多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北 第12回 最後の帝国主義アメリカ ③——米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」 第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界——モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割 第15回 おわりに——杉原千畝・チャプリン・中村哲の生き方に学ぶ				
授業外学習 (予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。				
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 432			担当者	未定
	国際立地論			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 433			担当者	山本 一哉																																													
	アジア経済論			授業外対応	講義終了時（メールでは随時）																																													
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕																																													
	1,2,3 年	前期	2 単位	選択	講義方式																																													
テーマ及び概要	【テーマ】【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ 【概要】【概要】本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。 【到達目標】【到達目標】アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。																																																	
学生の主体的・対話的な学び	授業中に質問を募り、授業で解説を行う。																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント（使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する）。 (2) レジュメに記載する。																																																	
授業 スケジュール	<table><tr><td>第 1 回</td><td>ガイダンス</td><td>本講義の概要と進め方について</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>日本の経済発展</td><td>戦後の高度経済成長</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>東アジア諸国の経済発展と課題①</td><td>韓国と台湾</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>東アジア諸国の経済発展と課題②</td><td>香港とシンガポール</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>東南アジア諸国の成長戦略と構造変化①</td><td>タイ・マレーシア</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>東南アジア諸国の成長戦略と構造変化②</td><td>フィリピン・インドネシア</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>東南アジア諸国の成長戦略と構造変化③</td><td>ベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>国際的な資本移動とアジア通貨危機</td><td>東南アジア・韓国</td></tr><tr><td>第 9 回</td><td>中国の「改革開放」戦略と経済発展 外開放</td><td>制度改革、経済の自由化・市場化、対</td></tr><tr><td>第 10 回</td><td>中国の経済発展と経済格差の拡大</td><td>地域発展戦略の転換と産業集積</td></tr><tr><td>第 11 回</td><td>中国における人民元改革 国際化・資本取引の自由化</td><td>為替レート制度改革・人民元</td></tr><tr><td>第 12 回</td><td>中国の貿易・直接投資の拡大</td><td>一帯一路戦略・米国との通商摩擦</td></tr><tr><td>第 13 回</td><td>南アジア諸国の経済発展</td><td>インド、パキスタン、バングラデシュ</td></tr><tr><td>第 14 回</td><td>日本とアジア諸国の貿易と投資</td><td>域内分業と相互依存の進展</td></tr><tr><td>第 15 回</td><td>アジア諸国の抱える諸問題</td><td>少子高齢化・環境問題・格差問題</td></tr></table>					第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と進め方について	第 2 回	日本の経済発展	戦後の高度経済成長	第 3 回	東アジア諸国の経済発展と課題①	韓国と台湾	第 4 回	東アジア諸国の経済発展と課題②	香港とシンガポール	第 5 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化①	タイ・マレーシア	第 6 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化②	フィリピン・インドネシア	第 7 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化③	ベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展	第 8 回	国際的な資本移動とアジア通貨危機	東南アジア・韓国	第 9 回	中国の「改革開放」戦略と経済発展 外開放	制度改革、経済の自由化・市場化、対	第 10 回	中国の経済発展と経済格差の拡大	地域発展戦略の転換と産業集積	第 11 回	中国における人民元改革 国際化・資本取引の自由化	為替レート制度改革・人民元	第 12 回	中国の貿易・直接投資の拡大	一帯一路戦略・米国との通商摩擦	第 13 回	南アジア諸国の経済発展	インド、パキスタン、バングラデシュ	第 14 回	日本とアジア諸国の貿易と投資	域内分業と相互依存の進展	第 15 回	アジア諸国の抱える諸問題	少子高齢化・環境問題・格差問題
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と進め方について																																																
第 2 回	日本の経済発展	戦後の高度経済成長																																																
第 3 回	東アジア諸国の経済発展と課題①	韓国と台湾																																																
第 4 回	東アジア諸国の経済発展と課題②	香港とシンガポール																																																
第 5 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化①	タイ・マレーシア																																																
第 6 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化②	フィリピン・インドネシア																																																
第 7 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化③	ベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展																																																
第 8 回	国際的な資本移動とアジア通貨危機	東南アジア・韓国																																																
第 9 回	中国の「改革開放」戦略と経済発展 外開放	制度改革、経済の自由化・市場化、対																																																
第 10 回	中国の経済発展と経済格差の拡大	地域発展戦略の転換と産業集積																																																
第 11 回	中国における人民元改革 国際化・資本取引の自由化	為替レート制度改革・人民元																																																
第 12 回	中国の貿易・直接投資の拡大	一帯一路戦略・米国との通商摩擦																																																
第 13 回	南アジア諸国の経済発展	インド、パキスタン、バングラデシュ																																																
第 14 回	日本とアジア諸国の貿易と投資	域内分業と相互依存の進展																																																
第 15 回	アジア諸国の抱える諸問題	少子高齢化・環境問題・格差問題																																																
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示																																																	
成績評価の方法	筆記試験（100％）																																																	
実務経験について	なし																																																	

授業科目	授業番号： 434			担当者	大重 康雄
	外国貿易論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 グローバル経済下の日本という視点でとらえた貿易取引とその課題について考える 【概要】 貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し，変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を最新の報道資料やシンクタンク・公的機関等のデータを使い考える。 【到達目標】 貿易取引や外国為替の基本的仕組み理解し，国際経済の動静に対し自分の見解が持てる。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) グローバル・エコノミー第3版 （有斐閣アルマ） (2) 講師作成プリント 毎回配付				
授業 スケジュール	第 1 回 開講 貿易と私たちの暮らし 第 2 回 自由貿易のもたらす利益 第 3 回 新古典派貿易理論を学ぶ 第 4 回 世界貿易機関（WTO）と 自由貿易の歩み 第 5 回 国際収支からみた日本の貿易 第 6 回 外国為替市場と為替レート 第 7 回 トランプ関税と貿易摩擦 第 8 回 貿易決済と国際金融 第 9 回 国際貿易の論点 中間まとめ（自由討論） 第 10 回 世界の地域貿易協定（FTA/EPA）の現状 第 11 回 東アジア経済の発展と 日本貿易 第 12 回 鹿児島県の貿易取引の現状 第 13 回 グローバル・バリューチェーン（GVC）の変容と日本貿易 第 14 回 カーボンニュートラル 開発と環境を考える 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	シラバスに沿って予習・復習し、質問すべきことをまとめておくこと。				
成績評価の方法	筆記試験（80％）＋授業への取り組み及び質問・発言内容（20％）				
実務経験について	地域金融機関行員としての実務経験（外貨資金取引・貿易投資相談業務など）、AIBA 認定貿易アドバイザー（#018）				

授業科目	授業番号： 435			担当者	福田 忠弘
	国際関係論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。 【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに与えられた質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 適宜、紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的、方法 第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7 回 国際関係のなりたち 4：核兵器について 第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12 回 国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題 第 13 回 国際社会における諸問題 4：保守化する世界 第 14 回 国際社会における諸問題 5：コロナ、ウクライナ後の社会 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 436			担当者	福田 忠弘
	アジア事情			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。 【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化，現代においては脱植民地化，国民国家建設，リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また，最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し，分析する。 【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了された質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 適宜、紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2 回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット 第 3 回 アジアの巨大遺跡：バガン 第 4 回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第 5 回 東南アジアの基本情報：地理や気候 第 6 回 海域アジア：海を通した結びつき（1） 第 7 回 海域アジア：海を通した結びつき（2） 第 8 回 海域アジア：海を通した結びつき（3） 第 9 回 歴史的形成 1：植民地の様子 第 10 回 歴史的形成 2：植民地からの独立（1） 第 11 回 歴史的形成 3：植民地からの独立（2） 第 12 回 東南アジア 1：インドシナ 3 国 第 13 回 東南アジア 2：タイ、ミャンマー、マレーシア 第 14 回 アジアにおける協力体制：ASEAN を中心とする協力 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 437			担当者	前田 千春
	地域経済論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。 【概要】人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。 【到達目標】日本の地域経済の構造とその実態を理解できる。地域経済を分析し、発展に向けた考察ができるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、2 回のグループワーク、1 回のグループ発表を行います。授業後にフォームで質問を募り、次回の授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 松原宏編著『地域経済論入門 改訂版』古今書院（2022 年）				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：「地域」とは何か 第 2 回 地域経済の基礎理論 第 3 回 地域経済循環 第 4 回 地域経済の実態 第 5 回 地域経済に関する統計 第 6 回 グループワーク①：地域経済統計の活用 第 7 回 大都市と地方都市 第 8 回 工業都市 第 9 回 農業地域 第 10 回 山村地域 第 11 回 地場産業地域 第 12 回 第三次産業地域 第 13 回 地域経済の成長理論 第 14 回 グループワーク②：地域経済政策を考える 第 15 回 グループ発表、まとめ：地域経済の発展に向けて				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート（40%）、グループ発表（10%）、期末レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 438			担当者	前田 千春
	地域産業政策			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。 【概要】地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。 【到達目標】地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、2 回のグループワーク、1 回のグループ発表を行います。授業後にフォームで質問を募り、次回の授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 白須正・細川孝 編『地域産業政策の新展開 京都市を中心とした歴史研究と比較研究を踏まえて』文理閣（2023 年）				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状 第 2 回 人口移動と地域間格差 第 3 回 地域産業政策の変遷 第 4 回 地域産業政策の事例①：製造業・工業 第 5 回 地域産業政策の事例②：農業 第 6 回 地域産業政策の事例③：林業 第 7 回 地域産業政策の事例④：観光業 第 8 回 地域産業政策の事例⑤：離島 第 9 回 鹿児島県の地域産業 第 10 回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える 第 11 回 地方創生にかかる制度・仕組み 第 12 回 海外の地域産業政策① 第 13 回 海外の地域産業政策② 第 14 回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表 第 15 回 グループ発表、まとめ：これからの地域産業政策の在り方				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート（40%）、グループ発表（10%）、期末レポート（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 439			担当者	船津 潤
	地方財政論			授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること 【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、地方財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の制度について講義します。そこでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤、地方財政が改革を求められるグローバル化などの背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら授業を進めます。 【到達目標】日本の制度について理解を深め、説明できるようになる 地方財政について考察し、自分の見解を述べられるようになる 地域の課題を見出し、解決策を提案できるようになるための基礎力を身につける				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらう機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし 適宜資料を配付 (2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷 金澤史男編著『現代の公共事業 国際経験と日本』日本経済評論社(2003年)				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2 回 地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等 第 3 回 地方自治(2)：グローバル化の影響、水道の民活等 第 4 回 地方予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 5 回 地方予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等 第 6 回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 7 回 地方の経費：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 8 回 地方の事務：機関委任事務、自治事務、法定受託事務等 第 9 回 国庫支出金(1)：定義、求められる役割、配慮すべき原則、三位一体の改革等 第 10 回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11 回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度の内容等 第 12 回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13 回 地方債：定義、適債事業、2006 年度からの変化等 第 14 回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について 第 15 回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等				
授業外学習 (予習・復習)	授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、講義の前後に総務省や自治体のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。				
成績評価の方法	筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 440			担当者	丸田 真悟
	非営利組織論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1.2.3 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会における非営利組織の役割と課題そして可能性について多角的に学ぶ 【概要】非営利組織（NPO）は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方で NPO を巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義では NPO の概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会における NPO の役割と課題、これからの可能性について考えます。 【到達目標】NPO に関する基本的な知識を習得し、現代社会における NPO の役割と課題、可能性を考える基盤を養います。				
学生の主体的・対話的な学び	後半の 3 回は、5 名前後のグループで具体的に自分たちの NPO を立ち上げるグループワークをおこないます。また、前週までに出了質問は授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 宮垣元『NPO とは何か』中公新書（2024）、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣（2017）ほか随時紹介します				
授業 スケジュール	第 1 回 非営利組織（NPO）とは何か：「非営利」の意味、NPO の定義について考えます。 第 2 回 NPO とボランティア：NPO を支える理念について考えます。 第 3 回 NPO の存在理由：現代社会の中で存在感を増している理由を考えます。 第 4 回 NPO の世界 1:様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。 第 5 回 NPO の世界 2:様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。 第 6 回 NPO にかかわる制度と政策 1：様々な非営利組織に関する制度について考えます。 第 7 回 NPO にかかわる制度と政策 2：NPO 法を中心に運営や税に関する制度について考えます。 第 8 回 行政、企業と NPO：行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。 第 9 回 NPO のマネジメント 1：NPO の経営管理について考えます。 第 10 回 NPO のマネジメント 2：NPO の経営戦略について考えます。 第 11 回 NPO のマネジメント 3：NPO の資金調達と評価手法について考えます。 第 12 回 〈WS〉NPO をつくる 1：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。 第 13 回 〈WS〉NPO をつくる 2：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。 第 14 回 〈WS〉NPO をつくる 3：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。 第 15 回 まとめ：NPO の可能性について考えます。				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート（70%）＋授業ごとに実施する小論文（30%）				
実務経験について	認定 NPO 法人理事長（～2025.9）				

授業科目	授業番号： 441			担当者	藤野 博行
	労働法			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。 【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方が良い基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。 【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる				
学生の主体的・対話的な学び	ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2～4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール（microsoft forms や slido）に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし（資料を配付します） (2) 必要に応じて提示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ①ガイダンス、②アイスブレイク 第 2 回 労働法とは（労働基準法・労働契約法） 第 3 回 ①就業規則、②労働契約法の権利義務、 第 4 回 ①就職活動と労働法（内々定・内定・内定取消、試用期間） 第 5 回 ①労働条件の変更、②転配・出講・転籍 第 6 回 ①労働時間とはなにか？、②様々な労働形態 第 7 回 ①時間外労働、②前半のまとめ 第 8 回 ①中間テスト、②みなし労働時間 第 9 回 ①中間テストの講評、②割増賃金、③年次有給休暇 第 10 回 ①産前産後休業、②育児・介護休業 第 11 回 ①雇用における差別の歴史、②セクシャルハラスメント 第 12 回 ①マタニティハラスメント、②パワーハラスメント 第 13 回 労働災害と労災保険制度 第 14 回 ①懲戒処分と自由と種類、②解雇と辞職 第 15 回 後半の復習とまとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点)、期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 442			担当者	福田 忠弘
	地域研究特講			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。 【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。 【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出了された質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際 NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008 年）				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2 回 世界の現状 1：キーワードから見る国際社会（1） 第 3 回 世界の現状 2：キーワードから見る国際社会（2） 第 4 回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について 第 5 回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容 第 6 回 国際社会の変容（3）：グローバリゼーション、コロナ、経済安全保障 第 7 回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？ 第 8 回 社会開発への視点（1）：NGO の活躍（1） 第 9 回 社会開発への視点（2）：NGO の活躍（2） 第 10 回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1） 第 11 回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2） 第 12 回 社会開発への視点（5）：国連と SDGs(1) 第 13 回 社会開発への視点（6）：国連と SDGs(2) 第 14 回 社会開発への視点（7）：地方自治体と SDGs 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 443			担当者	未定
	地方自治法			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 444			担当者	岡村 雄輝
	簿記論Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ 【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学習を前提とした講義になります。 【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	受講者同士で相互に教え合う問題演習の時間を設けています。また、毎回の講義においてGoogle フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘，片山寛，北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』（令和8年版），中央経済社。 (2) 田口聡志，廣瀬喜貴，澤井康毅，木村太一，澤田雄介（共）『簿記論15講』，新世社。				
授業 スケジュール	第 1 回 簿記一巡の手続きとは？：仕訳・転記・決算 第 2 回 売掛金と買掛金：人名勘定，売掛金と元帳と買掛金元帳，売掛金明細表と買掛金明細表，クレジット売掛金，前払金と前受金 第 3 回 その他の債権と債務：貸付金と借入金，未収入金と未払金，立替金と預り金，仮払金と仮受金，受取商品券，差入保証金 第 4 回 受取手形と支払手形：手形の意義と補助簿，手形貸付金と手形借入金，電子記録債権と債務 第 5 回 有形固定資産：有形固定資産の取得，減価償却，有形固定資産の売却 第 6 回 有形固定資産：固定資産台帳，年次決算と月次決算 第 7 回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れと貸倒損失，貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本：株式会社の設立と株主期の発行，繰越利益剰余金，配当 第 8 回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い，消耗品と貯蔵品，諸会費 第 9 回 税金：租税公課，法人税，住民税及び事業税，消費税 第10回 伝票：仕訳帳と伝票，3伝票制，伝票から帳簿への記入 第11回 伝票：伝票の集計 第12回 財務諸表：試算表の作成，決算整理 第13回 財務諸表：精算表の作成，財務諸表の作成 第14回 総合問題：問題演習と解説 第15回 総合問題：問題演習と解説				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 445			担当者	竹中 啓之
	経営管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】管理はすべての集団・組織において存在する職能です。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することと定義できます。従って経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能となります。またこの活動を行うのは経営者の役割です。この講義では、経営者が、効率的な組織運営のための工夫や、組織内部の関係者や組織外部の状況に効果的に対処する方法について講義していきます。 【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次回の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第 3 回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。 第 4 回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。 第 5 回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。 第 6 回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。 第 7 回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。 第 8 回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。 第 9 回 人的資源管理（2）：採用管理について説明する。 第10回 人的資源管理（3）：人事異動（初任配置・配置転換・昇進など）について説明する。 第11回 人的資源管理（4）：人材育成の基礎について説明する。 第12回 人的資源管理（5）：人材育成の「熟練」について考えていく。 第13回 人的資源管理（6）：人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。 第14回 リーダーの役割とは何か：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを考える。 第15回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 446			担当者	近間 由幸
	労務管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について 【概要】 授業では、日本的雇用システムの下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。 【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、現代の企業に望ましい労働環境を考える思考力を身につけることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第7版）』有斐閣アルマ				
授業 スケジュール	第 1 回 イン트로ダクションー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について 第 2 回 労務管理とはなにか 第 3 回 雇用管理制度のしくみ 第 4 回 組織構造と職務内容 第 5 回 キャリア開発のしくみ 第 6 回 賃金管理制度のしくみ（1）一年功賃金とはなにか 第 7 回 賃金管理制度のしくみ（2）一職能給と職務給 第 8 回 人事評価制度のしくみ 第 9 回 福利厚生制度のしくみ 第 10 回 労働時間管理のしくみ 第 11 回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理 第 12 回 ダイバーシティ・マネジメント 第 13 回 労務管理と労働組合 第 14 回 労務管理の国際比較 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%）、筆記試験（70%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 447			担当者	劉 美玲
	原価計算			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1.2.3 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】原価計算の基礎について学ぶ 【概要】原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。 【到達目標】原価計算の基礎的知識と技術の習得				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中 13 回程度、受講生が練習問題を解く時間を設けております。練習時間中、随時質問に解答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 高橋賢『テキスト原価会計』（最新版）中央経済社 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識 第 2 回 原価の費目別計算 第 3 回 製造間接費の配賦 第 4 回 単純個別原価計算 第 5 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 1 第 6 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 2 第 7 回 中間テスト 第 8 回 単純総合原価計算 第 9 回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理 第 10 回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算 第 11 回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算 第 12 回 標準原価計算 1 第 13 回 標準原価計算 2 第 14 回 直接原価計算 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)				
実務経験について	なし				

会計学総論、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、管理会計論を受講済み、もしくは日商簿記３級を学習済みであることが望ましい。
 受講生の会計系履修済み科目の状況や学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	授業番号： 448			担当者	瀬口 毅士
	経営学特講			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会における多国籍企業の動向を知る 【概要】本講義では、新聞記事などの各種資料を使用しながら、現代社会における企業の動向について考察することが目的です。特に、われわれの経済・社会に多大な影響を与えている多国籍企業と、その市場戦略に焦点を合わせていきます。授業では、リアクションペーパーや各種ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。 【到達目標】多国籍企業の現代的特徴を理解する。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などの企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を身に付ける。				
学生の主体的・対話的な学び	新聞記事など資料の読み解きを講義の中核とすることで、学生さんが主体的に学ぶ機会を作ります。また、リアクションペーパーを活用することで双方向の授業を目指します。さらに、個人でのワークまたはグループワークによって自分の考えをまとめたり発信できことを目的とします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 イン트로ダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。 第 3 回 現代企業の動向（1）：各種資料の読み解きを通じて、現代企業の実例を知る。 第 4 回 現代企業の動向（2）：各種資料の読み解きを通じて、現代企業の実例を知る。 第 5 回 多国籍企業の活動（1）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。 第 6 回 多国籍企業の活動（2）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。 第 7 回 市場戦略の現代的特徴：現代企業における市場戦略の重要性とその特徴を講義する。 第 8 回 企業の市場戦略（1）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。 第 9 回 企業の市場戦略（2）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。 第 10 回 多国籍企業の市場戦略（1）：各種資料を用いて、多国籍企業の市場戦略について理解する。 第 11 回 多国籍企業の市場戦略（2）：各種資料を用いて、多国籍企業の市場戦略について理解する。 第 12 回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。 第 13 回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について解説する。 第 14 回 現代社会と多国籍企業：各種資料によって、社会と多国籍企業との結びつきを検討する。 第 15 回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。				
授業外学習 （予習・復習）	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（60%）＋資料の読み解きなどのワーク（40%）				
実務経験について	なし				

個人のワークにするかグループワークにするかについては、受講人数や受講者の希望に応じて決定します。

授業科目	授業番号： 449			担当者	竹中 啓之
	情報管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。 【概要】この授業では、情報とはそもそもどのようなものなのかについて考える。そのため、情報の特性、情報が重要である意味、情報を理解する際の注意点など、「情報の扱い方・読み解き方」について講義する。情報機器を扱う技能やスキル等を取り上げることとはしないが、情報を扱う際に重要だと思われる概念や考え方について、社会科学적인視点から捉えられるような知識や手法を説明し、現在の情報社会のあり方についても考える。 【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーの考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次回の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。 第 3 回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。 第 4 回 情報社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。 第 5 回 情報リテラシーについて（1）：情報リテラシーの概要について説明する。 第 6 回 情報リテラシーについて（2）：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。 第 7 回 情報リテラシーについて（3）：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。 第 8 回 メディアの歴史について（1）：各種メディアについて理解を深める（新聞～テレビ）。 第 9 回 メディアの歴史について（2）：各種メディアについて理解を深める（テレビ～ネット）。 第 10 回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。 第 11 回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。 第 12 回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。 第 13 回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。 第 14 回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 450			担当者	宗田 健一
	会計情報論			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等で対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2,3 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】会計情報の作成方法，伝達方法，利用方法を知る 【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について，その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。各種分析手法（成長性，収益性，安全性）について学習し，個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際，『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。 【到達目標】会計情報の作成，伝達，利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	各自で，興味関心のある上場会社について調べていただきます。講義中に実施した財務諸表分析の結果を用いて，他の学生とディスカッションしていただきます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 随時紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：履修登録確認，講義計画に関する説明 第 2 回 会計情報の利用者：利害関係者，会計情報の入手方法（EDINET の使い方，アニュアルレポートの入手等） 第 3 回 有価証券報告書：全体像，記載内容の確認，分析対象企業の絞り込み 第 4 回 会計学と財務情報・非財務情報について 第 5 回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA，ROE など） 第 6 回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など） 第 7 回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など） 第 8 回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など） 第 9 回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点，長期的視点など） 第 10 回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①） 第 11 回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②） 第 12 回 時系列分析（2 社以上） 第 13 回 同業他社比較分析（2 社以上） 第 14 回 学生による分析報告とディスカッション 第 15 回 まとめ：レポート試験の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。毎回，宿題を課します。				
成績評価の方法	中間レポート 40%，期末レポート 60%				
実務経験について	なし				

会計学総論，簿記論，財務会計論を履修した者，履修中の者が望ましい。

授業科目	授業番号： 451			担当者	瀬口 毅士
	経営戦略論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する 【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、企業の具体例を適宜紹介することで、内容に関する理解を深めるとともに、現代社会における経営戦略に関する思考力や判断力を涵養します。 【到達目標】経営戦略論の基本概念やそれらの関係性について知る。講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報を理解できるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回のリアクション・ペーパーによって、学んだ内容をまとめたり、分からないところを質問する機会を設けます。また、優れた感想や寄せられた質問を皆の前で取り上げ、具体例を挙げながらフィードバックすることで、質問をしていない学生さんも一緒に考えられる機会を設けます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第 3 回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。 第 4 回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例に基づき規模の経済と範囲の経済を説明する。 第 5 回 垂直統合と水平統合、垂直分業と水平分業：統合と分業について解説する。 第 6 回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に講義する。 第 7 回 M&A と戦略的提携（1）：実例を紹介しながら、M&A について解説する。 第 8 回 M&A と戦略的提携（2）：実例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。 第 9 回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。 第 10 回 PPM（1）：全社的視点から、経営資源の配分について考える。 第 11 回 PPM（2）：PPM のメリットとデメリットについて知る。 第 12 回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要と 2 つのアプローチを紹介する。 第 13 回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に講義する。 第 14 回 資源ベース・アプローチ：資源ベース・アプローチの各学説について説明する。 第 15 回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（90%）＋リアクション・ペーパーや授業に臨む姿勢など（10%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 452			担当者	倉重 賢治
	応用データ活用			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理 【概要】この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。 【到達目標】・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 広野忠敏,『Access 基本&活用マスターブック』株式会社インプレス (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：テーブルの作成 第 4 回 Access の操作：クエリの作成 第 5 回 Access の操作：フォームの作成 第 6 回 Access の操作：レポートの作成 第 7 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 8 回 Access の操作：クエリによる複雑な条件設定 第 9 回 Access の操作：まとめ 第 10 回 Excel による統計処理：基本統計量 第 11 回 Excel による統計処理：正規分布 第 12 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 13 回 Excel による統計処理：カイ 2 乗検定 第 14 回 Excel による統計処理：比率の推定と差の検定 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 453			担当者	倉重 賢治
	プログラミング			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】VBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラミング 【概要】プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。 【到達目標】・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) たてばやし淳,『ExcelVBA 塾』マイナビ出版 (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：マクロについて 第 3 回 VBA の利用：セルの操作 第 4 回 VBA の利用：演算と変数 第 5 回 VBA の利用：繰り返し（1） 第 6 回 VBA の利用：繰り返し（2） 第 7 回 VBA の利用：最終行の取得 第 8 回 VBA の利用：条件分岐（1） 第 9 回 VBA の利用：条件分岐（2） 第 10 回 VBA の利用：関数の利用 第 11 回 VBA の利用：データ抽出 第 12 回 VBA の利用：シートの操作 第 13 回 VBA の利用：ファイルの操作 第 14 回 VBA の利用：実用マクロ 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題（50%）＋期末試験（50%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 454			担当者	岡村 雄輝
	財務会計論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】財務会計のルールと基礎概念を理解する 【概要】簿記論では技術的な学習が中心でしたが、本科目は企業が営む主要な活動に焦点を当てて、その結果が財務諸表へと集約される過程を説明し、現代社会のなかで複式簿記を基礎とする会計という計算制度の果たしている役割を学習します。さらに一歩進んで、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行う方法についても解説します。※簿記論の学修を前提とした講義になります。 【到達目標】各企業の採用している会計方法の違いが財務諸表にいかなる影響を与えるか、さらには、そうした会計方法を採用した理由・背景などにも関心を向けるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	グループワーク、プレゼンテーションの時間を設けています。また、毎回の講義において Google フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（第 19 版）、有斐閣 桜井久勝『財務会計講義』（第 27 版）、中央経済社。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：会計のイメージと実像 第 2 回 会計の種類と役割：財務会計の社会的位置づけ 第 3 回 財務会計のシステムと基本原則：損益計算と資産評価のルール 第 4 回 企業の設立と資金調達：必要な資金をどう調達するか 第 5 回 仕入と生産活動：営業活動のスタートは仕入と生産 第 6 回 販売活動：売上の測定と代金回収 第 7 回 設備投資と研究開発①：有形固定資産 第 8 回 設備投資と研究開発②：研究開発と無形固定資産 第 9 回 資金の管理と運用：本業をサポートする資金運用活動 第 10 回 国際活動：外貨表示額を日本円に換算する 第 11 回 税金と配当：確定決算主義と余剰金の配当 第 12 回 財務諸表の作成と公開：会計情報の内容と意味 第 13 回 企業集団の財務報告：グループ全体を統合した情報 第 14 回 財務諸表による経営分析：会計情報の利用法 第 15 回 まとめ：あらためて会計とはなにか？				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。				
成績評価の方法	中間レポート 30%＋期末レポート 70%				
実務経験について	なし				

簿記論Ⅰ，Ⅱを受講済み、あるいは同等の学習歴がなければ十全な理解には至らない。

授業科目	授業番号： 455			担当者	岡村 俊彦
	情報論特講			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2,3 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ICT（情報通信技術）について実用的、応用的な学習をおこなう。 【概要】ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといった ICT を学び、日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト（エクセル）などを用いての実用的なデータ解析手法の学習を行う。 【到達目標】実社会において、自ら ICT 業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようになる。				
学生の主体的・対話的な学び	前半は PC の分解・組み立てを各自でおこない、主体的な学びとする。後半はネットワークの設定、PC の実習を中心に自ら考えて実践的な学びをおこなう。また学生からの ICT に関わる質問に対する解説をおこない、対話的な学びにつなげる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」およびプリント (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2 回 ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア、ソフトウェアの解説 第 3 回 コンピュータの内部部品 1：CPU とメモリの解説 第 4 回 コンピュータの内部部品 2：ストレージと光学ドライブの解説 第 5 回 コンピュータの内部部品 3：ノート PC の内部 第 6 回 インターネットとネットワーク 1：TCP/IP の設定 第 7 回 インターネットとネットワーク 2：ルーターの役割と設定 第 8 回 表計算ソフトの活用 1：差し込み印刷 第 9 回 表計算ソフトの活用 2：ウェブクエリ 第 10 回 表計算ソフトの活用 3：並べ替えとフィルター 第 11 回 表計算ソフトの活用 4：ピボットテーブル 第 12 回 表計算ソフトの活用 5：関数の活用 1 第 13 回 表計算ソフトの活用 6：関数の活用 2 第 14 回 表計算ソフトの活用 7：関数の活用 3 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポートと授業中のおこなう課題を総合的に評価				
実務経験について	なし				

エクセルがある程度できる中級者向けの授業です。初級者の受講はできません。

授業科目	授業番号： 456			担当者	瀬口 毅士
	マーケティング論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ 【概要】マーケティングとは、モノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。また、グループ・ワークを取り入れることで、思考力や判断力を深めていきます。 【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得することで、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、2～3 回のグループワークを通じて、具体的な商品について、マーケティング論で学んだ観点からの分析、他の学生との議論とそのまとめ、皆の前での発表などの主体的な学びを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 イン트로ダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3 回 グループ・ワーク（1）：身近な商品について考えてみよう。 第 4 回 標的市場の選択：STP について解説する。 第 5 回 消費者行動分析：消費者の購買行動について理解を深める。 第 6 回 競争分析：企業間競争の構造分析の方法を知る。 第 7 回 グループ・ワーク（2）－1：STP についてグループで話し合う。 第 8 回 グループ・ワーク（2）－2：前回の議論をまとめ、皆の前で発表する。 第 9 回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。 第 10 回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第 11 回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。 第 12 回 流通戦略（2）：チャネル管理と SCM について解説する。 第 13 回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを講義する。 第 14 回 ブランド戦略：ブランド構築やブランド管理について考える。 第 15 回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 457			担当者	近間 由幸
	流通論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える 【概要】授業では、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、日本の小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われた現代の流通における課題について検討する。 【到達目標】現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身に付け、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられる思考力を身につけることを目指す。				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 矢作敏行『コマースの興亡史 商業倫理・流通革命・デジタル破壊』日本経済新聞出版				
授業 スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨナー流通を取り巻く経済環境 第 2 回 流通とはなにか 第 3 回 日本の欧米化と百貨店の誕生 第 4 回 高度経済成長と総合スーパー 第 5 回 食品スーパーの革新性 第 6 回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア（CVS） 第 7 回 ディスカウント・ストアの低価格戦略 第 8 回 専門量販店の台頭 第 9 回 ショッピングセンターの商業集積 第 10 回 インターネット技術と電子商取引（EC） 第 11 回 流通構造の変化と小売業態 第 12 回 小売・流通における労働問題（1）一物流危機とトラックドライバー 第 13 回 小売・流通における労働問題（2）一接客販売業の働き方 第 14 回 現代流通と消費行動の変化 第 15 回 全体のまとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%）、期末レポート（70%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 458			担当者	商経学科教員
	第二部・基礎演習			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習（ゼミナール）の基本的なあり方（運営・議論の仕方など）について学び、学生として必要な作法を身につける。 【概要】社会科学系の大学教育の要となるのは「ゼミナール」です。ゼミナールとは司会・報告・問題提起・議論といった対話型の授業であり、学生によって自発的に運営されます。基礎演習はゼミナールに参加する学生に求められる学問的な作法を身につける場です。具体的には、文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方等を学び、演習Ⅰから始まる専門的なゼミナールの予行演習ともいえます。また、学びの作法だけでなく、大学の歩き方（報告・連絡・相談の仕方、様々な窓口・施設での諸手続の仕方等）も身につけます。 【到達目標】基本的なゼミナールの運営について理解し、積極的に参加する姿勢を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(2)参考文献	(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習（予習・復習）	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 459			担当者	商経学科教員
	第二部・演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】報告・議論・レポート執筆等を通して、担当教員の専門性を活かしたテーマについて、参加メンバーと一緒に学ぶ。 【概要】基礎演習と同様に本演習も、学生が主体的に参加する対話型の授業であり、それぞれのゼミナールの専門的な基礎知識・基礎概念について、通常の講義よりもさらに一歩進んで理解を深める場です。必要に応じて、工場見学等の企業調査や研究のための合宿などの課外活動を実施することもあります。なお、演習 I・演習 II・卒業研究は同じゼミナールに継続して参加することになります。 【到達目標】ゼミナールのテーマに関する基礎知識・概念について正しく理解する。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。 (2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 460			担当者	商経学科教員
	第二部・演習Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	3 年	前期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習Ⅰから引き続き担当教員の専門性を活かしたテーマについて学びながら、本学での学びの総まとめとなる卒業論文の準備をする。 【概要】演習Ⅱは、演習Ⅰの内容・講義形式を継続し、特定の専門分野についてさらに学びを進めます。テキストの読解やフィールドで見聞きした事象について表面的に理解するだけでなく、他の講義・実習科目などで学んだことも総動員しながら、事象の本質に迫るような学習が求められる場でもあります。そのような学習を通して、ゼミナールのテーマについての検討すべき問題点を整理し、卒業論文の執筆準備も進めていきます。 【到達目標】ゼミナールのテーマについての学習を通して、検討すべき問題を設定することができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。 (2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 461			担当者	商経学科教員
	第二部・卒業研究			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	3 年	後期	2 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】演習Ⅰ，Ⅱを通して学んだテーマを踏まえて，各自で設定した問題について報告・議論を通して考察を深め，卒業論文を執筆する。 【概要】卒業研究は商経学科における学びの総決算です。演習Ⅰから継続して学んできたテーマにしたがって卒業論文を執筆します。卒業論文は短期間に一気に書き上げられるほど簡単なものではありません。演習Ⅰから継続してきた専門分野の学習を土台にして，設定した問題に関する文献を渉猟し，必要に応じてフィールドに出て調査することもあります。ゼミナールはその経過を報告し，相互に意見を交わしながら自分なりの答えを見つけ，論文にまとめる場です。 【到達目標】自ら設定した問題について，関連文献を渉猟し，調査・考察を重ねて，解答に迫ることができる。				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。 (2) ゼミナールごとに異なるため，担当教員が指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ゼミナールごとに異なるため，担当教員が説明します。 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため，担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが，個人の報告や出席状況，グループの中での役割や卒業論文などによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 462			担当者	担当教員
	社会活動			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	指定なし	通年	2～4 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は、地域の非営利組織を中心とした研修先における社会的活動体験を通して、企画・運営能力を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。 【概要】地域の公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。地域の活動を主体的におこなう力を身につける。				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 463			担当者	担当教員
	企業研修			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】インターンシップである「企業研修」は、地元民間企業を中心とした研修先において、就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、地域で働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年 4 月末から 6 月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つ。				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2 回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3 回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					

授業科目名： 教職入門		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員名：田口 康明 担当形態：単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める科目区分 又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】日本における今日の学校教育や教職の社会的意義。戦前戦後、諸外国の教職観の変遷を踏まえ、専門職としての教員に求められる役割や資質能力。変化の激しい社会において学校に求められる役割を果たすための多様な職員・専門家の連携・分担。 【到達目標】教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等、学校における少数職種について理解する。また、進路選択に資する教職の在り方を理解する。							
授業の概要 今日の教育現場の現実と向きあって教育とは何かを問い、教科指導だけではない具体的な教師の仕事を紹介する。また、「教職」は教員（教諭）だけで担われるわけでないことを理解し、学校にいる「少数職種」といわれる職について理解をすすめる。また、地域にある教職的な諸職業についても理解を深める。							
授業計画 第1回：進路選択の対象としての教員 第2回：教育の理念と思想①大正自由教育期の教員像 第3回： 同上 ②「授業名人」といわれた人たち 第4回：教職観の変遷①古代ギリシャからルネサンス期 第5回： 同上 ②明治期と戦後の教員像 第6回： 同上 ③現代日本の学校と教員 第7回：教員の職務内容と服務①学校内外の職務と研修 第8回： 同上 ②教員の服務上・身分上の義務と身分保障 第9回：チーム学校への対応① 中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の理解 第10回： 同上 ②校内の多様な専門職（少数職種の意義と役割） 第11回：諸外国の教職員 第12回：教育方法と教員の役割①ITCと教員 第13回： 同上 ②アクティブ・ラーニングへの対応 第14回：中学生と教職員の諸関係 第15回：まとめ 定期試験							
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。							
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社							
学生に対する評価：3 回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）							

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育の本質、教育の目的、教育の実際の理解 【到達目標】教育学の基本概念、教育の歴史に関する基礎、代表的な教育思想の理解、学校・家庭・地域の協働関係。これらの理解。			
授業の概要 「教育」については、誰もが何らかの形で経験するものである。必ずしも専門家である教職員のみが関与するわけではない。また受講生自らも経験してきている。こうした「固定」概念を相対化し、「教育とは何か」について問い続けていくために必要な原理的知識を、思想や歴史、社会的な諸関係について多角的な観点から講義する。			
授業計画 第1回：教育学の諸概念① 日本の近代以前と近代以降の教育概念 第2回： 同上 ② 諸外国の教育概念 第3回：日本における教育的諸関係①子どもと保護者の関係論 第4回： 同上 ②地域における教育と教育的関係 第5回：教育に関する歴史①近代以前の教育と教育思想（ギリシャ・ローマなど） 第6回： 同上 ②近代の教育と教育思想（近世・啓蒙期） 第7回： 同上 ③コメニウス・ロック・ルソーの教育思想 第8回： 同上 ④日本の明治期以降の教育思想 第9回： 同上 ⑤戦後日本の教育の変遷 第10回：近代公教育の原理 第11回：世界の教育改革 第12回：学力の要素と学力政策 第13回：幼児期の教育 第14回：思春期の教育 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 思春期の子どもと向き合うために 文部科学省著 ぎょうせい			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育心理学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員名：未定 担当形態：単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
授業の到達目標及びテーマ 【到達目標】教育心理学的なものの見方・考え方を養い，教員としての基礎的な教養を身につけることを目指す。具体的には，以下のことを目標とする。 ・人の発達，学習の仕組みに関わる理論や関連する要因について理解し説明することができる・児童生徒の心身の発達や学習の成立について学問的に理解し，教育実践への活用を考えることができる。 ・生徒と適切に関わるために必要となる教育心理学の基本的な知識を獲得するとともに，教育活動について考えることができる。 ・学校現場において，学級ならびに生徒の諸問題に対してとるべき対応について，諸理論を参考に考えることができる。 【テーマ】乳幼児，児童及び生徒の心身の発達，学習過程，個性についての理解のもとに，適切な教育・指導方法について考える。							
授業の概要 本講義では，発達心理学，学習心理学，認知心理学，人格心理学等の基本的な理論について概説するとともに，学校教育実践における諸問題について考えていく。具体的には，以下のトピックスを扱う。 ・学習の過程や概念を説明する代表的理論 ・乳幼児期，児童期，青年期にかけての発達 ・動機づけ ・学級集団づくりと集団指導 ・問題行動と生徒理解 ・教育評価の方法							
授業計画 第1回 学習の心理(1)：学習の理論 条件づけ 基礎と応用 第2回 学習の心理(2)：記憶のメカニズム 短期記憶と長期記憶 第3回 学習の心理(3)：知識の学習 学習方略 第4回 学習の心理(4)：動機づけの理論 第5回 発達の心理(1)：遺伝と環境 第6回 発達の心理(2)：乳児期～幼児期 第7回 発達の心理(3)：児童期～青年期 第8回 発達の心理(4)：自分らしさの発達と青年期の自己同一性 第9回 学級集団の理解(1)：学級風土 教室の中の人間関係 第10回 学級集団の理解(2)：学級づくり 教師のリーダーシップ 第11回 問題行動の理解と関わり：不登校 いじめ 非行 第12回 人格と適応(1)：人格と適応の理論 第13回 人格と適応(2)：人格に関わる心理検査 第14回 教育評価(1)：評価の目的と基準 第15回 教育評価(2)：評価の不確定性							
テキスト 鎌原雅彦・竹綱誠一郎(2019)．『やさしい教育心理学 第5版』有斐閣							
参考書・参考資料等 桜井茂男(2017)．『改訂版 たのしく学べる最新教育心理学：教職に関わるすべての人に』図書文化							
学生に対する評価 定期試験（50 パーセント）と授業内課題（50 パーセント）により総合的に評価する。							

（注）生活科学専攻のみ卒業要件単位に算入できる。

授業科目名： 特別支援教育概論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名：田口 康明 担当形態：単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解					
授業の到達目標及びテーマ							
【到達目標】							
・ 特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。							
・ 特別支援教育対象の幼児児童生徒の障害特性と発達の特徴を理解し，組織的な対応や支援の方法について理解する。							
・ 個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒の把握や支援方法について理解する。							
【テーマ】							
特別な支援あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒に対して組織的に対応するために必要な基礎知識と支援方法について理解する。							
授業の概要							
平成19年の学校教育法の改正により特別支援教育が本格的に開始され，従来の視覚障害や聴覚障害，知的障害といった従来の特殊教育の対象に加え，通常学級に在籍している発達障害や個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒もその支援対象に含まれるようになった。本講義ではこうした特別な支援を必要とする，あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒を支援するために，特別支援教育の制度や仕組み，各障害の特性と個別の教育的ニーズへの理解，さらには組織的な対応のための支援や関係機関との連携方法について学ぶ。							
授業計画							
第1回：インクルーシブ教育，特別支援の理念，関連する制度							
第2回：「通級による指導」及び「自立活動」							
第3回：指導計画及び教育支援計画の作成							
第4回：障害のある児童生徒（視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱等）の理解							
第5回：学習障害，注意欠陥多動性障害，高機能自閉症等の発達障害の特性と理解							
第6回：発達障害，軽度知的害児への支援							
第7回：貧困世帯、被虐待児等の特別な教育的ニーズの理解と組織的支援のあり方							
第8回：特別支援コーディネーターや専門家，保護者など学内外の関係者・関係機関との連携と支援体制の構築							
定期試験							
テキスト							
全国特別支援学校長会全国特別支援教育推進連盟編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』 ジアース教育新社，2020年 毎時プリントによる資料を配布する。							
参考書・参考資料等							
石橋裕子・林幸範編著『特別支援教育(よくわかる!教職エクササイズ)』ミネルヴァ書房，2019年 柘植雅義・渡部匡隆『はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版』有斐閣，2014年							
学生に対する評価							
定期試験（100％）							

授業科目名： 教育行政学概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育行政及び教育行政学の基本的事項について扱い、学校経営のしくみ、「社会に開かれた教育課 程」、学校と地域との連携、安全教育及び学校安全への対応について扱う。 【到達目標】現代の学校教育に関する制度及び学校経営について基本的な知識を身に付けるとともに、それら に関連する課題を理解する。さらに、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校と地域との連携に関 する理解。また安全教育を含めた学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。				
授業の概要 教育行政は公教育（公権力によって管理運営される教育）を支える重要な執行機関であり、広義には教育法 規や教育裁判も含む。他方で、学校内部のマネジメントである学校経営も含まれる。さらには、学校の存立基 盤である地域社会との連携も今日急速に進んでいる。またここでは近年の「防災」意識の高まりから「学校安 全」についても扱う。				
授業計画 第1回：公教育の原理及び理念 第2回：現代日本の教育法規と教育行政のしくみ 第3回：現代日本の教育制度と教育改革 第4回：学校経営①校務分掌と各部署の役割 第5回： 同上 ②学級経営のしくみ 第6回：学校と地域の連携①学校と地域の関係 第7回： 同上 ②社会に開かれた教育課程と開かれた学校づくり 第8回：学校安全への対応				
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。				
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社				
学生に対する評価：3 回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）				

授業科目名： 教育課程論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名：森田 司郎 担当形態：単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
授業の到達目標及びテーマ							
【テーマ】 これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、各学校が創意工夫をして魅力ある教育課程を編成することが必須である。この授業では、学習指導要領を基準として編成される教育課程の意義と役割、学習指導要領の変遷と社会的背景、各学校の実情に応じて教育課程を編成するための基本原理、具体的な授業における指導計画の作成に必要な視点、そしてカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの考え方について学修する。この授業は、魅力的な教育課程を編成するために教員にとって必要となる諸資質を育成することを主なねらいとする。 【到達目標】 (1) 社会における学校教育と教育課程の意義と役割について理解する。(2) 学習指導要領の内容および改訂の変遷について、その社会的背景とともに理解する。(3) 各学校の実情に即して教育課程を編成する際の基本原理について理解する。(4) 開かれた教育課程を実現するためにカリキュラム・マネジメントが果たす役割と意義、そしてその方法について理解する							
授業の概要：この授業は主に講義形式で行われる。前半では主に教育課程に関する基本原理について、日本の学校教育制度と学習指導要領の内容について検討しながら理解していく。後半では実際の教育現場においてどのような手続きで教育課程が編成されているのか、教科・領域を横断した教育課程や教科外活動の教育課程の編成事例等を検討しながら理解していく。最後に、これからの学校教育に必須となるカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの意義と役割、そしてその実施に必要な視点について学んでいく。							
授業計画							
第1回 オリエンテーション：概要：学校とは何を学ぶためのところか？ 社会における学校教育と教育課程の意義と役割							
第2回 日本の学校教育と教育課程：概要：諸外国と比較して日本の学校教育にはどのような特徴があるのか？ 教育制度・教育内容・教育方法・教員養成の比較を通して検討する。							
第3回 教育課程の基本原理(1)：概要：学校で教える内容(教育課程)はどのようにして決定されるのか？ カリキュラムと教育課程の概念整理							
第4回 教育課程の基本原理(2)：概要：教育課程はどのようにして編成され実施されるのか？ 法令、教科書・教材・学習環境							
第5回 教育課程の基本原理(3)：概要：学習指導要領とは何か？学習指導要領の意義と役割、改訂の仕組み							
第6回 教育課程の基本原理(4)：概要：戦後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(戦後～1968年版の内容と社会的背景)							
第7回 教育課程の基本原理(5)：概要：高度経済成長期後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(1977年～1989年版の内容と社会的背景)							
第8回 教育課程の基本原理(6)：概要：近年の日本の学校ではどのような教育が行われてきたのか？ 学習指導要領の変遷(1998年～2008年版の内容と社会的背景)							
第9回 教育課程の基本原理(7)：概要：今後の日本の学校ではどのような教育が行われていくのか？ 現行学習指導要領の内容と今後の改革の方向性							
第10回 教育課程編成の基本原理(1)：概要：学校での教育内容はどのようにして決められているのか？ 各学校における教育課程編成の仕組みと方法、カリキュラム・マネジメントの意義と方法							
第11回 教育課程編成の基本原理(2)：概要：実際の授業の内容はどのようにして決められているのか？ 各教科における教育課程編成の仕組みと方法、教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法							
第12回 教育課程編成の基本原理(3)：概要：教科外活動の内容はどのようにして決められているのか？ 開かれた教育課程の意義と編成方法							
第13回 カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント：概要：子どもたちが身につけた資質・能力をどのように確認すればよいのか？ カリキュラム評価の意義と方法、PDCAサイクルの実際							
第14回 今後の教育課程の在り方：概要：現代社会の課題に対応して生きる力を育成するためにはどのような教育課程が必要となるのか？ 主体的・対話的で深い学びを実現する教育課程編成の事例、開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの事例							
第15回 授業内テストまたは授業内レポートとまとめ：授業全体の要点整理と理解の確認							
テキスト：テキストは特に定めず、授業内で適宜、資料等を配布する							
参考文献 小学校学習指導要領（2017）、中学校学習指導要領（2017）、高等学校学習指導要領（2018）							
学生に対する評価							
授業内テストまたは授業内レポートの結果と、小レポート、そして授業への貢献度を総合的に評価して判断する。（授業内テストまたは授業内レポート 60%、小レポート 20%。授業への貢献度 20%）							
小レポート：それぞれの項目ごとの授業内容の理解度を評価する。							
授業内テストまたは授業内レポート：授業全体を通した授業内容の理解度を評価する。							

授業科目名： 国語科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。 中学校国語科教育の意義を説明できる。学習指導案を作成することができる。 模擬授業の振り返りを通して、客観的な観点から授業研究ができる。			
授業の概要：中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス：中学校国語科の目標と内容 第2回：中学校学習指導要領について 第3回：「知識及び技能」に関する事項について 第4回：「思考力、判断力、表現力」に関する事項について 第5回：教材研究の方法（1）：教材研究の観点 第6回：教材研究の方法（2）：事例研究 第7回：学習指導案の作成（1）：教材観、生徒観、指導観 第8回：学習指導案の作成（2）：目標の設定、授業内容の設定、評価の観点 第9回：模擬授業の意義 第10回：模擬授業（1）：文学的文章 第11回：模擬授業（2）：説明的文章 第12回：模擬授業（3）：古典 第13回：模擬授業の振り返り：方法と実践 第14回：教育実習について 第15回：まとめ			
テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』，古田尚行『国語の授業の作り方はじめての授業マニュアル』文学通信，プリント。			
参考書・参考資料等：授業中、適宜紹介する。			
学生に対する評価： 学習指導案の作成（50％），模擬授業についてのレポート（50％）			

授業科目名： 国語科教育法Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。国語科教育を取り巻く現状について理解し、情報機器を活用した授業、様々な指導理論を踏まえた授業を行う能力を身につける。 国語科教育の現状、様々な指導理論・方法を理解し説明できる。多様な機器，方法を利用した授業を計画・実践できる。				
授業の概要 国語教育の現状，様々な学習指導理論・方法について理解する。様々な指導理論を踏まえた指導を踏まえた学習指導計画を立て，実践する能力を身につける。情報機器やネットワーク，学習支援ソフトウェアなどを活用した学習指導計画を立て，実践する能力を身につける。国語科教育の課題と展望を理解し，新たな教育理論・実践を授業に取り入れる方法を理解する。				
第1回：ガイダンス：国語科教育の現状 第2回：様々な学習指導理論と国語科教育の方法 第3回：アクティブラーニングによる国語科の授業（1）：読みの場の創造 第4回：アクティブラーニングによる国語科の授業（2）：対話の場の創造 第5回：ICT を利用した授業（1）：電子黒板，タブレット端末 第6回：ICT を利用した授業（2）：ネットワークの活用，学習支援ソフトウェアの活用 第7回：これからの国語科教育の展望と課題 第8回：まとめ				
テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』，古田尚行『国語の授業の作り方はじめての授業マニュアル』文学通信，プリント。				
参考書・参考資料等 授業中，適宜紹介する。				
学生に対する評価 授業での課題（50％），期末レポート（50％）				

授業科目名： 英語科教育法Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：石井 英里子 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ							
【到達目標】							
(1) 外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導、および、学習評価の基礎を身につける。							
(2) 教える指導観から児童生徒の心に寄り添う指導観へとシフトさせることができる。							
(3) 各自の英語教師像や英語の授業イメージを形成することができる。							
【テーマ】							
英語の授業イメージと教師像の形成、英語教育の本質を探索							
授業の概要							
この授業では、様々なワークや体験活動を通して、受講者自身の「授業のイメージ」や「教師像」を育てていきます。 授業の内容としては、前半は、特に学習指導要領の内容の理解に主眼を置いたワークに取り組みながら、「授業に対するイメージ」や「教師像」を形成していきます。後半は、「生徒の資質・能力を高める指導」と「授業づくり」を中心に、授業観察、授業体験、マイクロ・ティーチングを行いながら実践的に学んでいきます。 授業方法としては、受講者がグループになり、「授業をつくる」というひとつの目的に向かって学んでいきます。他者と学びを共有することで、視点を広げたり、自分のあたりまえに気づいたり、協働的な学びから、英語を学ぶこと／教えることの本質を探ります。このような他の受講生と協力しながら授業作りに取り組む体験を通して、同僚性についても考えていきます。							
授業計画							
第1回：オリエンテーション（学びにおける主体的な実践→リフレクション（省察）→概念化の重要性）、言語教師ポートフォリオの作成（①過去の英語学習経験の省察／②この授業への期待／③教育実習に臨む前の期待と不安／④教師の資質・能力）							
第2回：モデル授業体験、ファシリテーター／プロデューサーとしての教師の役割							
第3回：カリキュラム／シラバスのデザイン（学習指導要領、教科用図書、目標設定・指導計画、小中連携）、学習と指導法への第二言語習得理論の応用							
第4回：生徒の資質・能力と高める指導：何が良い学び方・教え方かは、学習者によって異なる（ATIのパラダイムと英語科という教科の特質を考える）							
第5回：授業づくり①（学習到達目標に基づく授業の組み立て、学習指導案の作成）							
第6回：授業づくり②（教材研究、ICT機器等の活用）							
第7回：マイクロ・ティーチング（聞くこと・話すこと（やりとり・発表）、音声の指導）							
第8回：マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成							
第9回：マイクロ・ティーチング（読むこと・書くこと、文字指導）							
第10回：マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成							
第11回：マイクロ・ティーチング（領域統合型の言語活動の指導）							
第12回：マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成							
第13回：マイクロ・ティーチング（文法・語彙・表現の指導）							
第14回：マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成							
第15回：マイクロ・ティーチング（異文化理解）							
テキスト							
『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』『中学校学習指導要領解説外国語編』 『New Horizon 1』『New Horizon 2』『New Horizon 3』『New Horizon Elementary 5』『New Horizon Elementary 6』『New Horizon Elementary Picture Dictionary』（東京書籍）							
参考書・参考資料等 適宜紹介します。							
学生に対する評価							
リアクションペーパー（40％） 学習指導案作成課題（60％）を総合的に評価します。							

授業科目名： 英語科教育法Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：石井 英里子 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業の到達目標及びテーマ 【到達目標】 (1) 教育実習に備えて、教材研究や学習指導案の作成、授業が行える。 (2) 外国語教育と外国語学習の原理を自分自身の教育実践に応用できる。 (3) 外国語の学習タスクと教育実践を批判的に分析できる。 【テーマ】 リフレクティブ・ティーチング（reflective teaching）、個に応じた指導力、授業研究（lesson study）、協働学習							
授業の概要 この授業では、英語教育法Ⅰでの学修を基盤に、抽象的なアイデアを具体的な教育実践に応用することに焦点を当てます。 授業内容は、マイクロ・ティーチングの演習を中心に、主に小中学校における英語指導に役立つ実践的な知識と技術を身につけていきます。 授業方法は、他の受講者との協働をベースにデザインされています。英語授業の 体験 → 計画 → 実践 → 省察 というプロセスを2回繰り返すことで、経験を通じた納得解を導き出していきます。最終的には、学んだ知識と経験を結びつけ、実際に、もう一度やってみることを通して、学びの深まりを体感することができるでしょう。 このように本授業では、協働を通して、実践・省察・概念化を繰り返し、1回目の経験を2回目に活かしていくことで多角的に知識を捉えていきます。その上で、各受講者は、「自分なりの指導の型」を見つけていきます。							
授業計画（内容は英語科教育法Ⅰより継続している） 第1回：マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成 第2回：マイクロ・ティーチング（文法事項導入）1回目 第3回：授業の振り返りと改善案作成 第4回：マイクロ・ティーチング（文法事項導入）2回目 第5回：授業の振り返りと改善案作成 第6回：マイクロ・ティーチング（文法事項定着のための言語活動）1回目 第7回：授業の振り返りと改善案作成 第8回：マイクロ・ティーチング（文法事項定着のための言語活動）2回目 第9回：授業の振り返りと改善案作成 第10回：マイクロ・ティーチング（教科書本文の導入）1回目 第11回：授業の振り返りと改善案作成 第12回：マイクロ・ティーチング（教科書本文の導入）2回目 第13回：授業の振り返りと改善案作成 第14回：日本の英語教育の展望と課題 第15回：言語教師ポートフォリオの作成とまとめ							
テキスト 『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』『中学校学習指導要領解説外国語編』 『New Horizon 1』『New Horizon 2』『New Horizon 3』『New Horizon Elementary 5』『New Horizon Elementary 6』『New Horizon Elementary Picture Dictionary』（東京書籍）							
参考書・参考資料等 適宜紹介します。							
学生に対する評価 リアクションペーパー（40%） 言語教師ポートフォリオ(60%)を総合的に評価します。							

授業科目名： 家庭科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：未定 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】 ・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解し、授業計画及び学習指導案の作成ができる。 ・学家庭科教育の意義を理解でき、適切な教材研究に基づいた授業計画及び学習指導案の作成ができる。 ・立案した学習指導案の考察をとおして、具体的かつ適切な評価の考え方を理解できる。 【テーマ】 家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。			
【授業の概要】 ・中学校家庭科教育について理解し、学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案を作成する能力の習得を目指す。			
授業計画			
第1回：「家庭科教育法」受講にあたって／ 家庭科教育のあゆみと現行学習指導要領について 第2回：家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力 第3回：家庭科教育への理解と今日的課題 第4回：教科教育としての家庭科教育の理念と特徴 第5回：家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題 第6回：小・中・高等学校の指導目標と内容1 第7回：小・中・高等学校の指導目標と内容2 第8回：家庭科教育の学習指導 第9回：家庭科教育の学習指導計画 第10回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容 第11回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導及び目標と評価 第12回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の年間指導計画と学習指導案 第13回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と教材研究 第14回：模擬授業実施に向けた中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案（本時案）の作成 第15回：まとめ			
テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版			
参考書・参考資料等			
文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」，「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」			
学生に対する評価：筆記試験（80％）と提出物（学習指導案20％）で評価する。			

授業科目名： 家庭科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：未定 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】・「家庭科教育法Ⅰ」で立案した学習指導案の検証をとおり学習指導要領への理解を深める・立案した学習指導案による教材研究の実践と考察をとおり様々な教材研究法授業の実践と相互の授業観察をとおり適の習得をめざす			
・立案した学習指導案による模擬切な授業設計の考え方を理解する。			
【テーマ】「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた指導案作成及び模擬授業等の演習をとおり、家庭科教育に携わる教育実践力を確実にし、家庭科教師として求められる望ましい資質・能力を身に付ける。			
授業の概要			
「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえ、情報機器等を利用した効果的な指導法の模索を試みる等、教材研究演習や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。			
授業計画			
第1回：学習指導案の読み合わせと確認			
第2回：学習指導案による授業展開の実際について 1（板書計画，提供資料，学習形態等）			
第3回：学習指導案による授業展開の実際について 2（教材研究の方法）			
第4回：学習指導案による授業展開の実際について 3（実物提示及び視聴覚教材の種類と活用法） （鹿児島県総合教育センター提供の指導資料（教材研究，実践事例等）の収集と活用）			
第5回：学習指導案による授業展開の実際について 4（パワーポイント等情報活用教材作成の実際）			
第6回：模擬授業1（指導案と実際の授業展開の検証）			
第7回：模擬授業2（目標達成度の確認と評価方法）			
第8回：まとめ			
テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版			
参考書・参考資料等：文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」			
学生に対する評価：筆記試験（50％）と提出物（学習指導案等50％）で評価する。			

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。「特別の教科 道徳」の特性を踏まえた授業過程の理解（指導案の作成、学習評価規準の設定を含む）の理解。 【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。実際の授業過程の理解と模擬授業の実施とピア評価の実施。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらを授業実践の場に応用できるように、知識・技術の習得に努める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：各学校段階の道徳教育の目標と内容 第3回：中学校における道徳教育の指導計画 第4回：「特別の教科 道徳」の指導法①教科の特質の理解 第5回： 同上 ②授業設計における留意事項 第6回： 同上 ③指導案の作成 第7回：模擬授業とピア評価①第1班 第8回：模擬授業とピア評価②第2班			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編			
思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：模擬授業の評価（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。 【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらについての理解を深める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：道徳教育の歴史①戦前の修身科 第3回： 同上 ①戦後の道徳教育 第4回：小学校と中学校の道徳教育の特質 第5回：幼稚園と高等学校における道徳教育の特質 第6回：小学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第7回：中学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領／小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／高等学校学習指導要領 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：松崎 康弘 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 中学校の「総合的な学習の時間」の目標・内容・方法・評価等について、小学校や高等学校 も交えた実践事例を踏まえて学び、将来の自分の実践を構想する。			
授業の概要 前半（第1日）はテキストの読み込みや事例の提示を通して、総合的な学習の時間の目標・ 内容・方法・実践事例について紹介する。後半（第2日）は評価の観点も踏まえて指導計画の 作成について学び、将来自分が行う実践を考える。			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間の目標と意義～カリキュラム・マネジメントを踏まえ～ 第2回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（1）（横断的・総合的な課題） 第3回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（2）（地域や学校の特色に応じた課題） 第4回：総合的な学習の時間の授業方法～体験活動や思考ツール・ICT活用を事例に～ 第5回：総合的な学習の時間における評価～探究的な学習の過程を踏まえ～ 第6回：総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の事例 第7回：今後の総合的な学習の時間に求められるもの～「令和の日本型学校教育」等踏まえ～ 第8回：まとめ・最終試験			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（東山書 房、2019年）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 予習：テキスト（特に第2章・第3章を中心に）を読んでおくこと。 復習：第1～4回（集中講義初日）の内容を復習し、最終試験に向けて、自分ならどのよう な実践を行いたいのか構想すること。			
学生に対する評価： 最終試験（70％）、小レポート（30％）			

授業科目名： 特別活動指導論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名：田口 康明 担当形態：単独	
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める科目区分 又は事項等		特別活動の指導法					
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。							
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。							
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動の指導計画①年間計画と地域の関係 第7回： 同上 ②学活の指導案 第8回：まとめ							
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。							
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別活動」編／学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東京書籍							
学生に対する評価：指導案の作成（30％）・定期試験（70％）							

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、食育の指導に関する指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。			
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動と食に関する指導①食に関する指導と学級活動 第7回： 同上 ②給食の時間の活用 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／小学校学習指導要領解説「特別活動」編／文科省HP「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育（平成29年3月）」			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育方法学概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：元井 一郎 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 教授理論の史的な展開を把握できる。現在議論されている新たな教授方法の理論的な基礎を説明できる。 教育方法（論）に関する史的な展開をふまえ、現代的な教授方法についての理解を深める。				
授業の概要 教育方法史に関する概括的な整理を行い、現代の学校教育において注目されている教育方法の理論的な視角および特徴を確認し、理解する。				
授業計画 第1回 教育方法の史的構成－1 ヨーロッパ近代と教授論の成立 第2回 教育方法の史的構成－2 近代社会の展開と新教育運動の成立 第3回 教育方法の史的構成－3 現代教授論の展開－教育の現代化を中心に 第4回 教育方法の史的構成－4 日本近代と教授法の導入 第5回 教育方法の史的構成－5 教授法の受容と変容 第6回 教育方法の史的構成－6 現代日本の教授法とその構成 第7回 現代教育方法論の特徴(1) 学習理論の発展と教授法の論理 第8回 現代教育方法論の特徴(2) 学習理論とその現在 第9回 授業研究とその展開 1（授業研究の歴史） 第10回 授業研究とその展開 2（授業研究の理論） 第11回 授業研究の課題 第12回 教育方法論と教育評価 第13回 教育方法論と学校改革 第14回 教育方法論の論理と構成 第15回 教育方法論の現代的課題 講義のまとめ				
テキスト： 特に指定しない。				
参考書・参考資料等：講義中に基本文献等の紹介を行う。 ：集中講義であるため、手校するプリントの内容は必ず復習すること。				
学生に対する評価： 講義テーマ終了ごとの確認テスト（計 4 回）および授業終了後の提出を求めるレポート課題。				

授業科目名： 学校教育におけるICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校教諭）	単位数： 1単位	担当教員名：田口康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 【テーマ】 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 【到達目標】 （１）教員として必要な情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する技能を身につける。 （２）情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。			
授業の概要 GIGAスクール構想が実現されつつある中、中学校において生徒１人１台端末の環境において、教員としてICT活用・指導力を身につけることが求められている。そこで、現在の推奨されているICT活用の向上に向けて、教員が持つべきとされるICTの教育利用に関する基本的な考え方と基礎技能を形成することを目標に講義や一部、演習を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 日本の政策について確認 第2回：ICT 教育利用に関する基本的な考え方（１）コンピュータとは何か、ネットワークとは何か 第3回：ICT 教育利用に関する基本的な考え方（２）ICTがもたらす学校と社会の変化 第4回：ICT 教育利用の基本技能（１）ICT を利用した学習環境のデザイン 第5回：ICT 教育利用の基本技能（２）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業例の検討 第6回：ICT 教育利用の基本技能（３）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業の作成 第7回：ICT 教育利用の基本技能（４）グループによる模擬授業 第8回：ICT教育に利用に関する総括的なグループ討議と試験			
テキスト 「教育の情報化に関する手引」（令和元年12月・文部科学省）データと紙で配布			
参考書・参考資料等 授業中に示す			
学生に対する評価 模擬授業50%、試験50%			

授業科目名： 生徒指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：未定 担当形態：単独
科 目		道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ				
【到達目標】 ・学校教育における生徒指導の意義と原理について理解できる。 ・児童生徒理解の必要性和その方法について理解できる。 ・児童生徒への全体的な指導方法と個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について理解できる。				
【テーマ】 学校教育における生徒指導の意義と原理, 生徒理解のための理論と知識を習得するとともに，組織的な生徒指導を進めるための基礎知識と指導のあり方について学ぶ。				
授業の概要 本講義では，生徒指導の意義と目的・方法，生徒が抱える問題等について学習する。現代における生徒の実態や社会環境の変化を踏まえて，学校生活への適応と自己実現を指導・支援するための生徒指導のあり方について考えを深め，多様な視点をもって生徒指導を行うための知識と技能を学んでいく。また実際の実践例や事例などについてディスカッションを行い，具体的で実践的な生徒指導・教育支援のあり方についても考えていく。				
授業計画 第1回：生徒指導の基本：定義，教育課程における位置づけ 第2回：生徒指導の体制 第3回：生徒理解(1)：青年期の心理的特徴 第4回：生徒理解(2)：教師と生徒の人間関係 第5回：生徒理解(3)：教師のリーダーシップ 教師期待効果 第6回：自立を促す生徒指導の手法 第7回：実践例と事例(1)：不登校 引きこもり 第8回：実践例と事例(2)：非行 第9回：実践例と事例(3)：いじめ 暴力行為 第10回：実践例と事例(4)：虐待 ヤングケアラー 第11回：実践例と事例(5)：校則 懲戒 体罰 第12回：実践例と事例(6)：インターネット等の今日的課題 第13回：地域や関係機関との連携 第14回：危機管理 第15回：まとめ				
テキスト 文部科学省(2023)．『生徒指導提要』東洋館出版社				
参考書・参考資料等 片山紀子(2023)．『五訂版 入門生徒指導「生徒指導提要（改訂版）」を踏まえて』学事出版 嶋崎政男(2024)．『こんなときどうする？生徒指導 少年非行・性非行』学事出版 小西悦子(2024)．『こんなときどうする？生徒指導 インターネット・携帯電話・虐待・ヤングケアラー』学事出版 梅澤秀監(2024)．『こんなときどうする？生徒指導 校則・懲戒・体罰・指導死』学事出版 出張吉訓(2024)．『こんなときどうする？生徒指導 いじめ・暴力行為・自殺』学事出版 木内隆生(2024)．『こんなときどうする？生徒指導 不登校・中退・引きこもり』学事出版				
学生に対する評価 定期試験（50 パーセント）と授業内課題（50 パーセント）により総合的に評価する。				

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の堆進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 【テーマ】中学校生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程が進路指導であり、さらそれを包含し、,学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育むことを目的とする教育活動をキャリア教育とよぶ。本講義ではその内容について扱う。			
授業の概要 進路指導・キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じた活動であるので、まず教育課程上の位置づけについて理解する。その際、とりわけ特別活動や道徳、総合的な活動の時間との関連について理解する。また職場体験活動について理解を深め、その意義を理解する。そのために必要なカウンセリングのあり方について理解する。			
授業計画 第1回<イントロダクション> 授業計画と基本概念の理解 第2回<進路指導からキャリア教育> キャリア教育の成立過程の概説 第3回<日本における職業指導と進路指導> 戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史 第4回<進路指導改革としてのキャリア教育>1990年代前半の進路指導改革の動き 第5回<学校におけるキャリア教育①>職場体験・インターンシップなど特別活動との関連 第6回<学校におけるキャリア教育②>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間との関連 第7回<学校におけるキャリア教育③>教育行政・学校経営との関連 第8回<まとめ>			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等： 古橋和夫編『改訂教職入門』萌文書林／中学校学習指導要領／中学校キャリア教育の手引き（2011） 文部科学省			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：未定
教育相談	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】教育相談の概念，教育相談の基礎となる理論および相談技法を理解し，教育相談を進める上での姿勢や具体的な方法を学んでいく。問題の背景にある生徒の行動や発達課題，人間関係について理解を深め，問題解決に向けた支援方法を理解し実践する基礎的技能を身につけることを目指す。 ・学校において，教師の立場から生徒に対してどのような相談活動，支援ができるのかを見極め，具体的ななかかわり方についての理解を深める。 ・キャリア関連の諸理論・アプローチについて学ぶことを通し，人の生き方や自己実現を遂げる上での問題・課題に対して多様な視点から考え，生徒にアプローチしていく力を身につける。 【テーマ】教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。			
授業の概要			
本講義では，教育心理学的知識をベースとした上で学校心理学とカウンセリング理論を学び，教員になるために必要な知識と技能を得ることを目指す。生徒は変化・成長のふり幅が著しく，個人差も大きい発達段階にある。学校において，教師という立場から支援できることを模索し，一人ひとりのニーズに応じた支援をどのように見極めていくのか，自分なりの考えを深めることを目的とする。また，生徒のキャリア相談・支援に関わるための理論，アプローチ，スキルについても学んでいく。理論についての学習のみならず，カウンセリングの技法や実際についての体験を得ることを重視し，ロールプレイやVTR視聴等を通して理解を深めていく。			
授業計画			
第1回：教育相談とは(1) 教育相談の意義と目的 第2回：教育相談とは(2) 学校における一次・二次・三次的援助サービス 第3回：生徒の問題の理解(1) 不適応・問題行動の捉え方 第4回：生徒の問題の理解(2) 欲求と葛藤 防衛機制 第5回：生徒の問題の理解(3) 子ども理解のためのツールと行動観察 第6回：教育相談の技法(1) ロジャース理論とカウンセリングマインド 第7回：教育相談の技法(2) カウンセリングの技法 第8回：教育相談の技法(3) カウンセリング技法の演習 第9回：教育相談の技法(4) 行動療法 認知行動療法 その他の技法 第10回：教育相談の進め方(1) いじめ 不登校 虐待 第11回：教育相談の進め方(2) 予防開発的教育相談1 （ソーシャルスキルトレーニング 構成的グループエンカウンター） 第12回：教育相談の進め方(3) 予防開発的教育相談2 （ピア・サポート ストレスマネジメント教育 その他） 第13回：キャリアに関わる相談の意義と目的 第14回：キャリア・カウンセリングの理論と実践 第15回：キャリアに関わるカウンセリング技法の演習			
テキスト			
桜井美加・齊藤ユリ・森平直子(2019).『(改訂版)教育相談ワークブック ー子どもを育む人になるためにー』北樹出版			
参考書・参考資料等			
向後礼子・山本智子(2019).『ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック：子どもの育ちを支える』ミネルヴァ書房 小野田正利・藤川信夫(監) 大前玲子編『体験型ワークで学ぶ教育相談』(2015). 大阪大学出版会 原田眞理(2015).『教育相談の理論と方法 中学校・高校編』玉川大学出版部			
学生に対する評価：定期試験（50 パーセント）と授業内課題（50 パーセント）により総合的に評価する。			

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む。）	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 5 [必修/選択] 必修 [授業形態] 実習・講義		
テーマ及び概要	【テーマ】中学校における教育実習 【概要】教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。 【到達目標】事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2) 学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。 第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性 第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実例を学ぶ。 第3回 模擬授業（1） 第4回 模擬授業（2） 第5回 模擬授業（3） 第6回 教育実習に関わる実務について 第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて 教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

授業科目	栄養教育実習	担当者	中西 智美
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期集中 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 実習	授業外対応	適宜対応（要予約）
テーマ及び概要	【テーマ】 栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。 【概要】 栄養に係る教育に関して得た知識を指導の場に臨んで生かせる技術を習得する。 【到達目標】 教育実習に参加する基本的な心構えや技能及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』 (2) 文部科学省：小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』（平成28年2月） 文部科学省『食に関する指導の手引き―第二次改訂版―』（平成31年3月）		
授業スケジュール	*各施設により異なる 1 指導教諭等からの説明 ・ 学校経営、校務分掌の理解、服務等 2 児童及び生徒への個別的相談、指導の実習 ・ 指導、相談の場の参観、補助等 3 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 ・ 学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助 ・ 教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助 ・ 給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観、補助 ・ 児童生徒会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観、補助 ・ 指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等 食に関する指導の連携・調整の実習 ・ 校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、校内研修等）の参観、補助 ・ 家庭・地域との連携・調整の参観、補助等 4 食に関する指導と学校給食の管理を一体的に担う方法 5		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実習先評価（60%）＋実習ノート・実習への取組態度（40%）により評価する。		
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。		

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導		担当者	中西 智美
	〔履修年次〕 2年		授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 必修	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。 【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を、指導の場に臨んで生かせる技術を得るために、栄養教育実習の教育的効果を高め実践的指導力の充実を図ることを目的とし、実習の事前事後の指導を行う。 【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』 (2) 文部科学省：小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』（平成28年2月） 文部科学省『食に関する指導の手引き―第二次改訂版―』（平成31年3月）			
授業スケジュール	第1回 栄養教育実習のオリエンテーション（意義、目的、心構えなど） 第2回 実習の評価の方法、実習後の提出物（実習ノート、学習指導案など）、実習中の短大との連絡方法等 第3回 指導計画案、学習指導案の立案作成、教材研究 第4回 模擬授業の実施（1） 第5回 模擬授業の実施（2） 第6回 栄養教育実習の報告・発表（1） 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第7回 栄養教育実習の報告・発表（2） 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第8回 相互評価、実習の反省、問題点の整理、今後の課題			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表・提出物（80％）＋取組態度（20％）により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

※7.5 回

授業科目	教職実践演習（中）	担当者	田口康明, 未定, 竹本寛秋, 石井英里子, 坂上ちえ子
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。 【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。 【概要】：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用説明を行う。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)] 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回：[グループ討論（1）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論（2）]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。）教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論（3）]学校見学についての省察 第11回：[模擬授業（1）] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第12回：[模擬授業（2）] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第13回：[模擬授業（3）] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例：文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第14回：[人権学習] 「人権教育」に関する講演会（県人権同和対策課派遣講師） 第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	田口 康明・未定・中西 智美
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】教職課程の授業科目の履修や、教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、有機的に統合し定着させる。 【概要】短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、栄養教育実習などで獲得した食育指導の実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る 【到達目標】教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身につける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』、文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2)適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第5回：[グループ討論（1）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論（2）]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論（3）]学校見学についての省察を行う。 第11回：[模擬授業（1）]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。 第12回：[模擬授業（2）] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第13回：[模擬授業（3）] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第14回：[人権学習] 「人権教育」に関する講演会（県人権同和対策課派遣講師） 第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	授業番号： 491			担当者	岩下 雅子
	学校経営と学校図書館			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】変化し続ける新しい学校図書館について理解する 【概要】多くの学校図書館の事例を校種別に学ぶと同時に、学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察する 【到達目標】学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ				
学生の主体的・対話的な学び	参加型の授業を目指し、2, 3 名のグループ討議や発表をおこないます。授業の初めに前回の授業のフィードバックと解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 学校図書館の理念と教育的意義について学ぶ 第 2 回 学校図書館法等について学ぶ（読書バリアフリー法、著作権） 第 3 回 世界・日本の学校図書館の変革（ルソー/マン/デューイ/沢柳政太郎） 第 4 回 鹿児島県の読書活動（子ども読書活動推進運動等） 第 5 回 学校経営の中の学校図書館（校務分掌等） 第 6 回 学校経営の中の学校図書館（学校内外の連携、協力体制づくり） 第 7 回 学校図書館の運営①小学校 第 8 回 学校図書館の運営②中学校 第 9 回 学校図書館の運営③高等学校 第 10 回 学校図書館の運営④特別支援学校 第 11 回 学校図書館広報活動（HP 等）① 第 12 回 学校図書館広報活動（HP 等）② 第 13 回 読書感想文・読書感想画の取組み 第 14 回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割/意義について学ぶ① 第 15 回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割/意義について学ぶ②				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 50%、出席・授業中のショートレポート 30%、発表 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 492			担当者	岩下 雅子
	学校図書館メディアの構成			授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】学校図書館が扱う情報メディア資料について学ぶ 【概要】学校図書館メディア構築のために適切な情報・資料の収集・整理・提供・保存について考察する 【到達目標】学校図書館メディアの組織化と司書教諭の果たす役割を学ぶ				
学生の主体的・対話的な学び	参加型の授業を目指し、2, 3 名のグループ討議や発表をおこないます。授業の初めに前回の授業のフィードバックと解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1 回 概要説明 第 2 回 学校図書館メディアの構成とその種類 第 3 回 学校図書館メディアとその活用 第 4 回 分類と選定基準①総記～哲学 第 5 回 分類と選定基準②歴史～社会科学 第 6 回 分類と選定基準③自然科学～工学 第 7 回 分類と選定基準④産業～芸術 第 8 回 分類と選定基準⑤言語～文学 第 9 回 学校図書館をデザインする①書架、分類、配架 第 10 回 学校図書館をデザインする②横断的分类（選書） 第 11 回 学校図書館をデザインする③テーマ展示に見る分類 第 12 回 特別支援学校と学校図書館メディア 第 13 回 学校図書館情報メディアと図書館基準等 第 14 回 図書館オリエンテーションで役立つ学校図書館メディアの活用 第 15 回 授業に役立つ学校図書館情報メディアの活用				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 50%、出席・授業中のショートレポート 30%、発表 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 493			担当者	木戸 裕子
	読書と豊かな人間性			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。 【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。 【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考える。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。 様々な読書活動の方法を知る。大勢の前でプレゼンテーションを行う。				
学生の主体的・対話的な学び	15 回の講義の中で、グループディスカッションと発表の時間が 1 回、ブックトークの準備のグループワークが 2, 3 回ある。最後の回でプレゼンテーションを行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社 (2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院, 小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会, 渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会,				
授業 スケジュール	第 1 回 読書教育とは何か：発達に応じた読書 第 2 回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々 第 3 回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館 第 4 回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携 第 5 回 読書教育の方法 1：就学前・学校全体 第 6 回 読書教育の方法 2：教科と読書教育 第 7 回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ 第 8 回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合 第 9 回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション 第 10 回 発達を支える読書：特別支援教育との関係 第 11 回 読書活動 1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト 第 12 回 読書活動 2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング 第 13 回 読書活動 3：パネルシアター、紙芝居 第 14 回 実演 1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど 第 15 回 実演 2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど				
授業外学習 (予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。				
成績評価の方法	課題提出 (50%) と、授業第 14 回、15 回での実演 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 494			担当者	竹本 寛秋
	情報メディアの活用			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。 【概要】テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。 【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。				
学生の主体的・対話的な学び	毎回リアクションペーパーに記入してもらい、その内容に毎回教員がコメントをつけて応答します。新聞報道などをグループでまとめ、発表してディスカッションを行う機会が1回あります。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 情報社会の系譜 第 2 回 情報検索の手法 第 3 回 インターネットの系譜 第 4 回 情報社会の進展と学習観の変遷 第 5 回 学校情報化の変遷と現状 第 6 回 情報社会と著作権 1：著作権の理解 第 7 回 情報社会と著作権 2：著作権の制限 第 8 回 情報社会と著作権 3：デジタル化の進行と著作権 第 9 回 情報セキュリティ 第 10 回 インターネットと情報検索、情報探索の技法 第 11 回 情報探索の実践 第 12 回 ICT を活用した授業 第 13 回 ネットワーク運用 第 14 回 演習 1：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション 第 15 回 演習 2：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。				
成績評価の方法	授業での課題（60%）、期末試験（40%）				
実務経験について	なし				